

## 第2節 出土遺物

### (1) 瓦類

#### 1) 上野国分尼寺瓦研究略史

上野国分尼寺跡(以下「尼寺」)出土の瓦についての研究は、上野国分寺跡(以下「僧寺」、尼寺と僧寺の区別なく言うときには「二寺」とする。)出土の瓦に比べてまだ浅いものがある。このことは、いくつかの要因が考えられる。一つは明治以降多くの先人によって軒先瓦、文字瓦の蒐集、研究がなされたがその多くが僧寺を中心としたものであったことによる。これは、かつては国指定史跡山王庵寺跡(前橋市總社町 註1、第86・87図)を尼寺跡、現在の二寺を一つの寺院跡(瓦が散布し、礎石が残っている)、すなわち僧寺跡ととらえていたことも影響しているのかもしれない(註2)。さらに、僧寺跡は大正15年(1925)に国指定史跡となり注目を得たことによる影響も少なくはなかったと考えられる。もう一つは、発掘調査が実施されたのは尼寺のほうが早く昭和44・45年(1969・1970)であったものの、その成果は概報(註3)として公刊されただけで詳細な報告は平成5年(1993 註4)までまたなければならなかったことである。この尼寺跡の発掘調査から報告書刊行までの間、昭和55年(1980)から僧寺跡では保存整備事業にともなう発掘調査(第1期調査)が開始され、その成果が平成元年(1989)にまとめられている(註5)。この報告書ではそれまでの軒先瓦の文様(拓本)をもとに整理検討されてきた成果の域を超えた、科学的すなわち考古学的手法による詳細な観察と多くの分析・分類が行われ、二寺創建以降の上野国における古代瓦の生産と供給を考えるうえでの基本的な資料が提供されたことになる。なお、僧寺跡においては平成24年～平成28年(2012～2016)にかけ第2期調査が実施され、新たな文様の軒先瓦のほか仰藍構造などでも多くの新知見を得ている(註6)。一方、僧寺跡の第1期調査が始められた翌年に群馬県立歴史博物館において、当時、収集・検討されていた瓦と寺院に関する企画展が開催され(註7)、群馬県内における古代寺院等に関して初めて網羅的に知る機会ができた。さらに昭和48年(1973)からは関越自動車道、上越新幹線などの大規模開発事業にともなう数多くの遺跡の発掘調査が行われ、それらの調査でも古代瓦が出土するなど寺院と瓦に関する様々な情報が整理され現在に至っている。

#### 2) 古代寺院と瓦(第86図及び第87図)

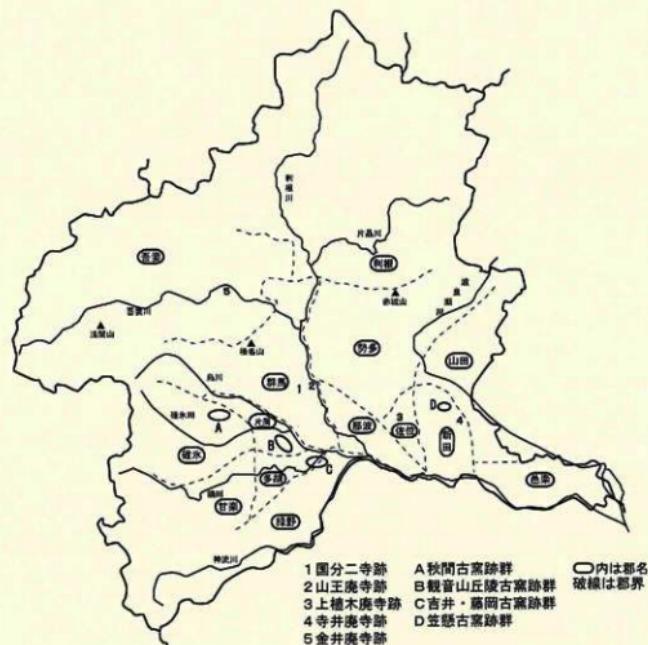
二寺の建立は、それ以前の上野国内の寺院で使用されていた瓦の文様の系譜からはたどれない統一の意匠(註8)を生み出こととなった。二寺の建立は国家的大事業であり、地域の生産活動とその後の寺院に用いられた軒先瓦の文様意匠に大きな影響を与えた。そのため、古代上野国における寺院と瓦については二寺の創建以前と創建期、さらにそれ以降の3時期に分けて検討することができる。

6世紀末に蘇我氏により建立された我が国最初の本格的伽藍をもった飛鳥寺(法興寺、奈良県高市郡明日香村)の主要堂宇の屋根は瓦で葺かれていた。崇峻元年(588)に百濟から寺工・露盤博士・画工とともに4人の瓦博士が我が国に献じられており(註9)、寺院建築の一部として瓦生産技術が伝わったことによる。飛鳥地方において始まった本格的伽藍をもつ寺院建築と瓦生産は、その後間もなく畿内周辺に、さらには遠方の地域にまで広まっていった。上野国では7世紀後半の飛鳥時代の後期(いわゆる白鳳期)に山王庵寺跡(前橋市總社町 註10)、上植木庵寺跡(伊勢崎市本關町ほか 註11)、寺井庵寺跡(太田市天良町ほか 註12)といった群馬県南東部の平野部のほか、吾妻川右岸の榛名山の北麓に金井庵寺跡(吾妻郡東吾妻町 註13)などが創建され、仏教の受容と屋根に瓦を載せた本格的な寺院が建築されている。これらは天平13年(741)に二寺建立の勅(註14)が発布される以前に、すでに在地の有力者等によって創建された寺院である。このほか高崎市域においても馬庭東遺跡(吉井町馬庭 註15)、田端庵寺跡(阿久津町 註16)、新保遺跡(新保町 註17)、奥原庵寺跡(本郷町 註18)など二寺創建よりも

古く7世紀末以降に創建された寺院跡が確認されている。そして寺院跡ではないが、僧寺の創建年代を検証するにあたって重要な指標となる複弁六葉軒丸瓦(第88図-1)を出土した多胡郡正倉跡(吉井町池 註19)が調査報告されたほか、隣接する藤岡市牛田では僧寺七重塔で用いられた蟹爪状蓮華文八葉軒丸瓦(第88図-2 註20)と同一文様で直径の小さい軒丸瓦を出土した牛田廃寺跡(註21)が調査されている。この牛田廃寺跡からは前述の複弁六葉軒丸瓦と極めて似た文様の軒丸瓦も出土しているが、中房内の蓮子がはっきり残っていることから多胡郡正倉跡、僧寺跡出土のものに先行するものであることが指摘されている。

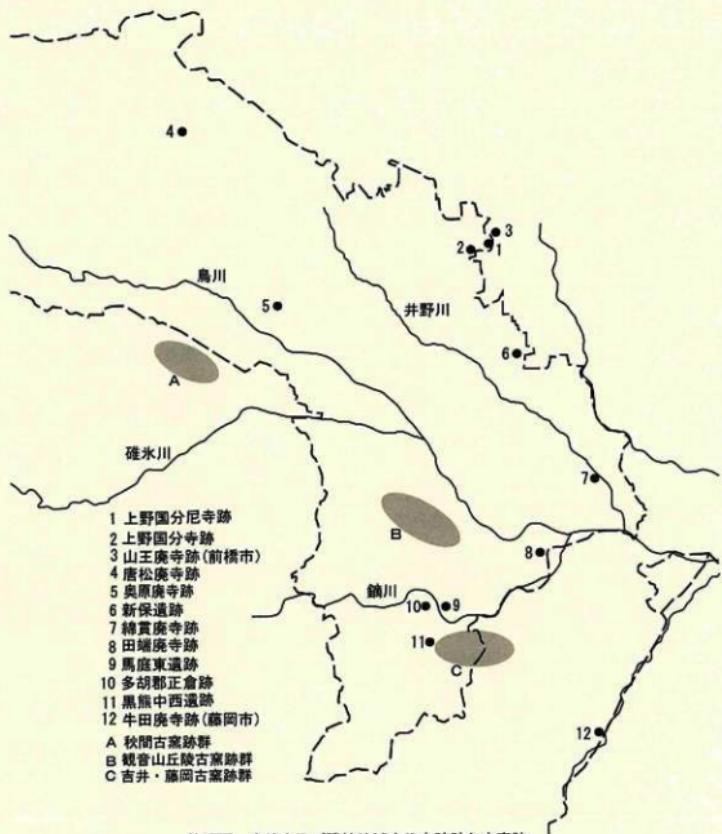
二寺創建以降の高崎市内においては綿貫町の綿貫廃寺跡(註22)、吉井町黒熊の黒熊中西遺跡(註23)などの寺院跡が発掘調査され、さらには筍郷町中野の唐松廃寺跡(註24)では採集瓦の報告がなされている。

このように上野国内では二寺創建以前の7世紀後半の飛鳥時代後期から多くの地域において寺院が建立され、創建以降も伽藍規模の大小はあるものの複数の寺院が建立されたことが知られている。そして、それらの寺院等で用いられた瓦を生産した古窯跡については、次のことがこれまでに検討、報告されている。



註 郡界は川原秀夫「古代上野の国府及び郡郷に関する基礎的研究」『ぐんま史料研究』第23号を基に作成

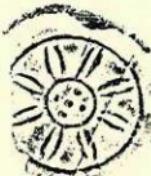
第86図 飛鳥時代後期寺院・郡界図



第87図 高崎市及び隣接地域古代寺院跡と古窯跡



1 複弁六葉軒瓦（註19より転載）



2 蟹爪状蓮華文八葉軒瓦（註20より転載）

第88図 多胡郡正倉跡・牛田庵寺跡出土軒瓦（縮尺任意）

### 3) 上野国における主な古窯跡

古代上野国内における瓦の生産地(瓦窯跡)は、10か所以上(註25)が判明しており、その中で二寺及び上記寺院跡と強い関連のある古窯跡群は次のとおりである。

#### ①笠懸古窯跡群(みどり市笠懸 註26)

この窯跡群の鹿ノ川支群(第89図A 註27)・山際支群(第89図B)では二寺創建時の瓦を焼造したことがわかっている。そして鹿ノ川窯生産の瓦は二寺だけではなく、本窯跡のある新田郡内の寺井廃寺・台之原廃寺(太田市藪塚町 註28)・源六堆遺跡・釣堂遺跡(註29)などにも供給され、山際窯生産の瓦は隣接する佐位郡に所在した上植木廃寺のほか、寺院跡の可能性が指摘されている十三宝塚遺跡(伊勢崎市境伊与久 註30)、勢多郡の上西原遺跡など郡境を越えて広範囲に供給されていたことがわかっている(註31)。

#### ②吉井・藤岡古窯跡群(高崎市吉井町多比良及び藤岡市金井ほか 註32)

從来から吉井古窯跡群、藤岡古窯跡群と別々に呼称されている窯跡群である。多胡郡正倉跡の発掘調査では吉井古窯跡群生産の瓦が出土しているほか、二寺跡や綿貫廃寺跡など多くの寺院跡からも大量に出土している。藤岡古窯跡群では金山1号窯・2号窯(第90図)の発掘調査(註33)から僧寺所用瓦が出土しており、国分寺創建にあたって笠懸古窯跡群とともに2大供給地となっていたことがわかる。

#### ③秋間古窯跡群(安中市下秋間～東上秋間 註34)

7世紀初頭には須恵器生産が始まったと考えられ、その後に瓦の生産も始まり、八重巻支群・刈稻(かんね)支群では瓦窯跡が調査されている。この古窯跡の瓦は山王廃寺に継続的に供給されたほか、奥原廃寺などにも供給されている。さらに創建後の二寺のほか綿貫廃寺・唐松廃寺などにも供給され、広範囲にしかも長期間にわたって古代上野国内における瓦の主要生産地であったことがわかる。

#### ④中之条古窯跡群(中之条町大字伊勢町天代 註35)

一部の発掘調査が行われ、8世紀前半から中頃にかけての瓦専業の窯跡と考えられ、金井廃寺のほか渋川市有馬廃寺などにも供給されている。

#### ⑤雷電山古窯跡群(桐生市新里町)

7世紀中頃には瓦生産が始まり、上植木廃寺の創建時から8世紀頃まで生産されたと考えられている。上植木廃寺では伽藍地のすぐ西脇の瓦窯跡で創建初期の瓦を生産したが(註36)、その後間野谷瓦窯(伊勢崎市赤堀間野谷)を経て雷電山瓦窯に生産の中心が移り、さらに二寺が創建されると笠懸古窯跡群生産の瓦も供給されている。

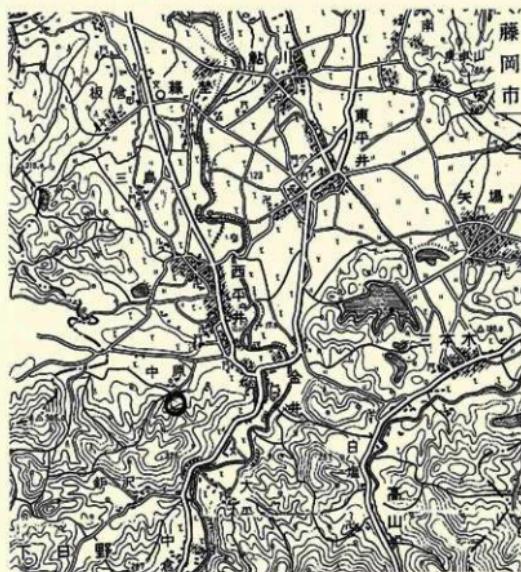
#### ⑥觀音山丘陵古窯跡群(高崎市寺尾町～吉井町南陽台 註37)

かつては本窯跡群の所在する觀音山丘陵(岩野谷丘陵の南端)の小地域の名称を付け乗附古窯跡群とされていたが、古窯跡が広範囲に点在することから今では大きな範囲を表す名称が使用されている。二寺創建以前の寺院があった田端遺跡では、本窯跡群特有の胎土をもつ須恵器が竪穴建物跡から出土している。山名町のでえせじ支群では7世紀末、寺尾町の小塚支群では8～10世紀初頃まで瓦が須恵器と共に生産されている。田端廃寺跡で出土した瓦は主体が本古窯跡群の中でのえせじ支群で、他の瓦も本古窯跡群であるとの報告がなされている。小塚支群の瓦の凹面には布目痕ではなく英産目痕が残るものがあることが特徴的である。

以上が上野国内の主な瓦生産古窯跡であるが、古窯跡群と寺院についてはそれぞれ密接な関係が認められている。なかでも創建が最も古い山王廃寺は秋間古窯跡群と、上植木廃寺は雷電山古窯跡との結びつきが強いことがこれまでの研究で明らかにされており、前者の系統に属する瓦を山王・秋間系、



第89図 笠懸古窯跡群位置図  
(註8 d より転載改変)



第90図 金山古窯跡位置図(団の○部分)  
(註33より転載改変)

後者を上榎木・雷電山系として把握し、この二つの造瓦組織が上野国内の瓦生産と供給の流れの中心的存在であったことが指摘されている（註38）。そして、国分寺創建にあたってこの流れとは異なる笠懸古窯跡群と吉井・藤岡古窯跡群から、従前までとは異なる文様意匠の軒先瓦が考案され二寺に供給が始まることになる。

#### 4) 出土した瓦

今回の調査では、昭和期の調査により既にいくつかの主要建物が明らかとなっていたことから、建物別に使用された瓦に何らかの傾向や特徴があるのかといった点に留意した。このためAs-B混土（以下「表土」）中から出土した瓦も含めて極力3メートル四方のグリッドで出土位置の把握に努めた。また、表土よりも下層（造構埋土として捉えた）のものについては小破片を除いて出土レベルと層位、出土位置の記録を行った。整理にあたっては、建物ごとの傾向のほか僧寺との比較が行えるよう軒平瓦・軒丸瓦の文様の把握に努めたほか、平瓦・丸瓦についてもその成形、整形技法や胎土の特徴などの把握を行った。

5次にわたる調査では、表土中から出土したものも含む合計で約27,200点・約3,020kg（いずれも接合前）の瓦が出土し、そのうち嘉承3（天仁元）年（1108）のAs-B降下以前に尼寺跡を覆っていた埋土及び地業の版築内からは、平瓦（軒平瓦を含む）約14,870点・約1,610kg、丸瓦（軒丸瓦を含む）が約3,950点・約577kgが出土した。殆どが割れた状態で出土し、全形を復元できたものは整理作業により接合したものである。完形の瓦が殆どないこと、平瓦・丸瓦が重層的に整然と出土していないこと、さらに金堂・回廊・尼坊などの基壇上部が削平されていることから、基壇上の建物が健全な状態にあるときに屋根から滑落したものではなく、廃材整理にともない基壇下周辺に集積されたものと考えられる。

前記のとおり瓦は造構埋土中から大量に出土しているが、各造構における地業の状況を確認するために設けた基壇断ち割りのためのサブトレーンチ内からも瓦が出土している。これらの瓦は掘り込み地業に伴う版築を行う際、屋根に葺く前に割れてしまった瓦を補強材として使用したものと考えられる。なお、断ち割り箇所の偶然性によるのか、版築土の土質等に基づく工法の違いによるのか今回の調査では判明しなかったが、尼坊跡の掘り込み地業内から瓦は出土していない。

出土した瓦の概要は次のとおりである。平瓦の凸面には縄目・格子目・平行条目が残るもの、さらにそれらをナデ消したもののが、その痕跡を見つけることができない素文、掌で押圧した不定形の浅い凹みが残るものもある。凹面には粘土塊から一枚の粘土板を切り出したときの糸切り痕、粘土板を巻き付けた模骨桶の側板圧痕が残るもの、粘土を巻く前に模骨桶や木型に巻き付けた布目が残るもの、それをナデ消したものなどがある。一方、丸瓦の凸面には格子目痕は見られず、平行条目と縄目が認められ、平瓦と同じくナデ消しにより痕跡のみを留めるものが多い。丸瓦凹面は平瓦同様に糸切り痕・布目痕・ナデが見られ、側板圧痕を確認できたものはわずかであった。

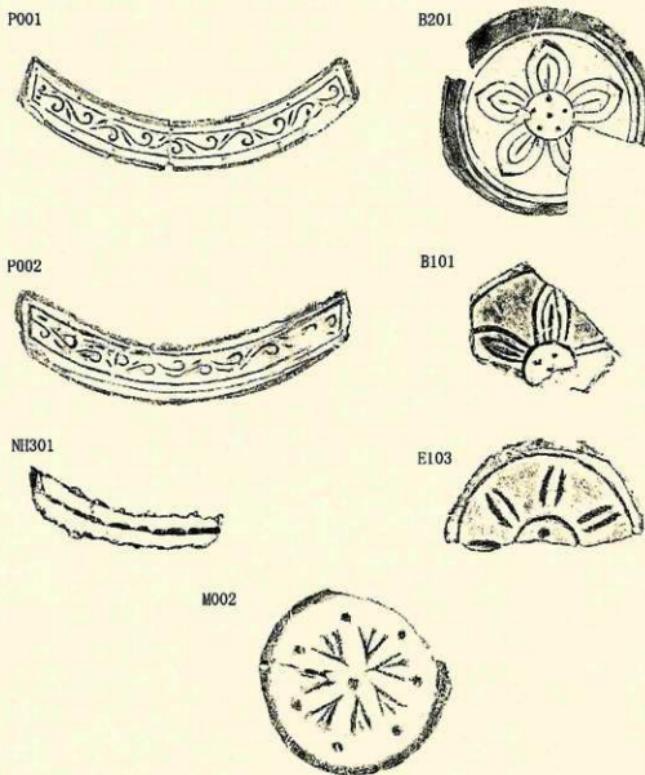
胎土は平瓦・丸瓦とも夾雜物が多いものと少ないもの、割れ口の目が詰んだ綺麗なものや粒状に見える粗いものなど様々である。そして色調も須恵器に似た褐色のもの、土師器に似た橙色のほか黒褐色のものなど多岐に及んでいる。

このように瓦の胎土、焼成や調整方法の違いがそれぞれ多数あることから、尼寺に瓦を供給した古窯跡群が複数あつただけではなく、各古窯跡群内における生産量も多数あったことが想像できる。

軒平瓦・軒丸瓦で瓦当面が完全な形で残っていたものは極めて少なかったため、僧寺跡の文様分類に準じて観察を行ったが完全には把握できていない。僧寺跡では軒平瓦87種、軒丸瓦78種と他の国分寺で類を見ないほど多くの範種が確認されている。その中でも主なものの出土数（使用されていた枚数を反映していると考えられる）は次のようにあった。軒平瓦では笠懸古窯跡群産のP001

が366片、P002が178片、吉井・藤岡古窯跡群産と思われるNH301が323片出土している。また、軒丸瓦でも笠懸古窯跡群産のB201が347片、B101が111片、吉井・藤岡古窯跡群産E103が235片出土しており、僧寺創建期と一致する軒先瓦が多いことがわかる(第91図)。一方、尼寺跡の調査においては軒平P001が39片(昭和期の調査を含めると45片、以下同じ)、P002が19片(23片)出土し、他の軒平瓦より多く出土しているが、三重弧文・三重廓文は合計で10片に満たないことから重弧文・重廓文は少数であったと考えられる。軒丸瓦はB201が22片(22片)で他の文様のものより多い。さらに秋間古窯跡群産で僧寺の修造期に用いられた鳥趾状蓮華文七葉軒丸瓦M002(註39)が36片(37片)出土しており、僧寺跡では19片のみであったことに比してM002は尼寺に多量に供給された可能性を示唆している。また、僧寺跡では確認されていない文様の軒平瓦、軒丸瓦がそれぞれ数点出土したことも注意を引く。

\*僧寺跡の範囲別出土数は註5・註6から算出した。



第91図 尼寺創建と補修に係る軒平瓦・軒丸瓦(縮尺任意)

## 5) 瓦の分類及び観察

①瓦の名称 瓦の名称は研究者により科学的名称と歴史的名称とが用いられているが、本書では科学的名称を用いている。従って本書での平瓦は女瓦、丸瓦は男瓦、軒丸瓦は鎧瓦、軒平瓦は宇瓦のことである。また、丸瓦の狭端部に丸瓦より一回り小さな玉縁が付いているものを有段式(玉縁式)、無いものを無段式(行基式)と区分したが、有段式ではないものや狭端部がなくはっきりしないものは無段式を含め単に丸瓦とした。

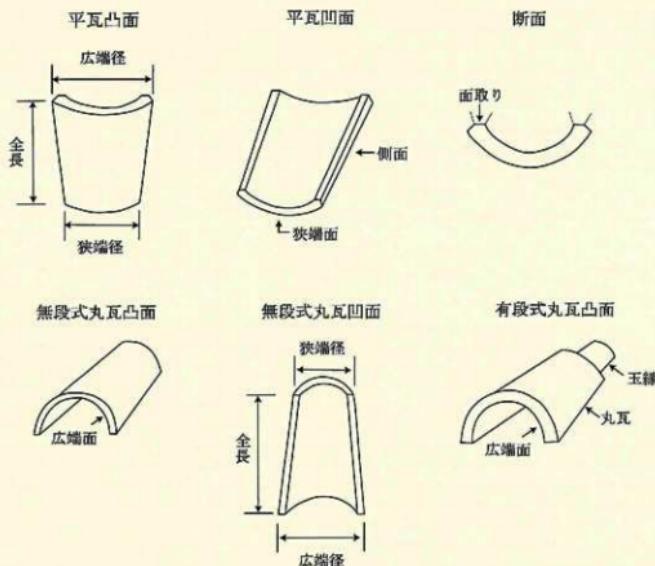
②瓦の部位と名称 各部位の名称は第92・93図のとおりとした。その際、平瓦は広端を上方、狭端を下方とし、丸瓦はその反対である。

③瓦の成形 瓦の成形にあたっては、製作時に桶状または丸太状の芯型を用いるか否か、粘土を板状にするか糸状にするかによりいくつかの方法に分類できるが、その概要は次のとおりである(第94図)。

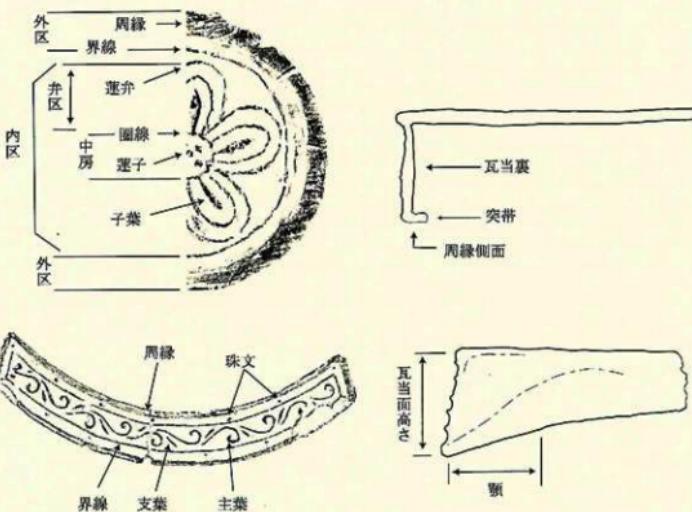
ア. 「桶巻作り技法」 模骨桶(上部の径が下部より小さい截頭円錐形をした桶状の器具)の周囲に布袋をかけ、その上に粘土塊から糸状のものを用いて1枚ずつ切り出した粘土板、あるいは細長い粘土紐を幾段も巻き付けて円筒状となったものを2ないし4枚に分割する方法(註40)。ただし、丸瓦については桶ではなく木型を芯にしたと思われ、本遺跡出土瓦には側板圧痕が残る丸瓦はわずかである。

イ. 「一枚作り技法」 瓦1枚分の台型に布を敷いてその上に粘土板を押し当てて作る方法。平瓦側面に凹面から連続する布目痕がある場合には一枚作り技法によることがわかる。

ウ. 「泥状盤築技法」 内型となる模骨桶や木型を使わずに、粘土紐を積み重ねるか巻き上げるかして作る方法。凹面には布目痕や側板圧痕がなく粘土接合痕や凹凸が残るものがある(註41)。



第92図 瓦の部位名称



第93図 軒平瓦・軒丸瓦の部位名称



第94図 瓦の製作技法

④瓦の凸面 成形時に粘土中の空気を抜くため、模骨桶や木型に巻き付けた粘土を板などの道具を使用して外側から叩き締めている。その時の道具痕が凸面に残っているものがあり、道具の種類によって以下のとおりに分けられる。

ア. 「格子目」 板に格子状の刻線を彫りそれで叩き締めた痕跡。格子目の形状から正方形・長方形・平行四辺形・ひし形・不定形に分けられる。

イ. 「平行条目」 板に平行の溝を彫りそれで叩き締めた痕跡。この平行条目は從来「平行叩き」と表現されているが、叩きの向きとしての「平行」と使われた道具に平行な溝が彫られたこととの混乱を避けるため平行条目とした(註42)。

ウ. 「縄目」 板に無節の縄を巻き付けそれで叩き締めるか押圧した痕跡。格子目と比べるとナデ等により縄目が消されていることが多い。

エ. 「素文」 格子目や縄目が無く、特段の加工のない板または掌で叩き締めた痕跡。ただし、小破片の場合には素文に見えることもあるため記載していないものもある。特段の加工がない板の場合、板の木理が極めて微かな隆線として細い筋状に残っている場合があるが、溝と隆線の形状が弱々しいため平行条目とは明らかに異なる(註43)。

⑤瓦の凹面 桶巻作り技法・一枚作り技法いずれの場合も、成形道具と粘土板などの間に布袋や布切れを挟んで作り、その布の目の痕が凹面に残っている。ただし、凹面調整時に布目をナデにより消しているもののが多数ある。

⑥瓦分割時の側面痕跡 円筒状に作られた瓦は、乾燥時に2分割あるいは4分割される。通常はその「分割截面」(註44)が瓦の側面になる。分割の際に円筒状の瓦に分割補助のため刃を入れている('分割截線')。通常は破面に残るバリなどの凹凸も調整され綺麗な側面となるが、処理が不十分であったり未処理のときの割れ口('分割破面')の状態がわかるものがある。

⑦有段式丸瓦 有段式丸瓦は上部に肩があり、玉縁側の径が小さくなる瓶形をした木型で丸瓦部と玉縁部を一体で作り、肩の部分に外から粘土を貼って段を作つて成形している。

丸瓦部から玉縁部へのくびれにあたる内側(凹面)に段の形状に違いが認められ、これは芯となる木型の違いによるものである(第94図)。

⑧文字瓦 瓦の凹面または凸面に文字または記号と思われるものが残っている場合があり、総称して文字瓦とした。ヘラ先等が偶然に瓦にあたった傷と思われるものは除いた。

文字瓦の分類は、文字を瓦に記した方法により大きく2分類した。文字・記号を手で直接瓦に記した手書きによるものと、叩き板などに文字を彫ってその板などを瓦に押し当てて文字を映したものがあり、方法と道具の違いによって5分類した。

ア. 「ヘラ書き型」 ヘラ状工具の先端で彫りつけたもので、細い釘状の先端によるいわゆる「針書き」も含めた。「一」・「二」・「織縫」など。

イ. 「墨書き型」 今回の出土は1例だが、筆と墨を用いて書いたもの。

ウ. 「指頭書き型」 指頭または頂部が丸みを持ったヘラ状工具によるもの。今回確実な資料はなかった。

エ. 「刻印型」 格子はなく文字のみあるいは文字を枠で囲んだ印鑑状の道具によるもの。

「佐」、匂いの中に「當」など。「當」は刻字が鮮明であることから金属印であるとみられている。

オ. 「格子一体型」 文字が格子の一部に組み込まれて彫られているもの、格子のすぐ脇に一体となっているもの。「雀」・「渕」など。

ア・イ・ウは手で直接瓦に書いた直接法によるもので、エ・オは文字を道具に彫ってそれを瓦に映した間接法によるものである。

⑨胎土 胎土の観察にあたっては、夾雜物の粒径と量のほか割れ口面の表情に着目した。

- 註1 推定上野国府跡から北に約1km、尼寺跡から牛池川を挟んで東北約0.8kmの前橋市總社町に位置し、7世紀後半の創建とされる。塔心礎の根巻石、石製鶴尾、礎石などが残る。国指定特別史跡「山上碑」(高崎市山名町)の碑文にある「放光寺」に比定されている。前橋市教育委員会により1974年から継続して発掘調査が実施されており一連の報告書が公刊されている。
- 註2 a 上野國分寺跡出土の軒先瓦と文字瓦に関して複数の報告・研究が主に『上毛及上毛人』に掲載されている。詳細は註5を参照。  
b 僧寺跡が所在する高崎市東国分町に居住していた住谷 修は『上野瓦集 西毛編』(私家版 1982)として軒先瓦を中心拓影をまとめており、この拓本集が果たした役割は極めて大きいものがある。また住谷修・住禹親子が長年にわたり蒐集した膨大な量の瓦類が平成25年(2013)に高崎市に寄贈された。  
この収集、寄贈された資料が『住谷コレクション』と呼ばれている。『上野國分寺 瓦にこめられた祈り』かみつけの里博物館 2013
- 註3 a 『上野國分尼寺跡発掘調査報告書』群馬県教育委員会 1970  
b 『上野國分尼寺跡発掘調査報告書』群馬県教育委員会 1971
- 註4 『上野國分尼寺跡 上野國分二寺中間地域』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993
- 註5 『史跡上野國分寺跡 発掘調査報告書』群馬県教育委員会 1989
- 註6 『史跡上野國分寺跡 第2期発掘調査報告書』群馬県教育委員会 2018
- 註7 第8回企画展『群馬の古代寺院と古瓦』群馬県立歴史博物館 1981
- 註8 a 須田 茂「群馬県における古代軒瓦の変遷」『入谷遺跡』新田町教育委員会 1981  
b 大江正行・川原嘉久治「天代瓦窯跡存在の意義をめぐって」『天代瓦窯跡』中之条町教育委員会 1982  
c 大江正行「瓦類」『有馬鹿寺跡』渋川市教育委員会 1988  
d 木津博明・綿貫邦男「新田郡笠懸町山際窯跡探査遺物」『研究紀要 8』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991 なお、本註及び註26 bでは「鹿の川窯跡」としているが、本報告書では註25 bにならない「鹿ノ川窯跡」とする。  
e 出浦 崇「上野國分寺の瓦窯」『古代東国の国分寺瓦窯』高志書院 2019
- 註9 『日本書紀』卷第二十一
- 註10 a 註1に同じ  
b 以下の寺院跡、瓦窯跡については大江正行『第3回 関東古瓦研究会 研究資料No.3』関東古瓦研究会群馬部会 1982 が網羅的であり参考となる。
- 註11 1982年から継続調査が行われている一連の『上植木廃寺』の調査報告書 伊勢崎市 伊勢崎市教育委員会
- 註12 須田 茂「上野國新田郡における古代寺院について」『研究紀要 7』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
- 註13 『金井廃寺遺跡』吾妻町教育委員会 1979
- 註14 『頬察三代格』、『続日本紀』なお、両者で勅の発布の日付が異なっている。
- 註15 川原嘉久治「西上野における古瓦散布地の様相」『研究紀要 10』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- 註16 『田畠遺跡』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 東日本旅客鉄道株式会社 1988
- 註17 『新保遺跡III 経沢遺跡』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988
- 註18 a 「本郷奥原遺跡」「棲名町誌」資料編 I 原始古代 棲名町誌刊行委員会 2010  
b 近年、道路建設に伴い奥原廃寺の中核部分の発掘調査が実施されている。  
c 註15に同じ
- 註19 『多胡郡正倉跡』高崎市教育委員会 2019
- 註20 花弁の形態が特徴的で類例がないことからその特徴を捉え「( )形の蓮弁」等と表現されてきたが、同一意匠のものが複数あること、説明の容易さを考慮して抽象化されているが「蟹爪状蓮華文」とした。
- 註21 『牛田廃寺跡』藤岡市教育委員会 群馬県西部農業事務所 2020
- 註22 『綿貫遺跡』高崎市教育委員会 1985
- 註23 『黒熊中西遺跡』(I)群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 日本道路公团 1992

- 註24 a 註15に同じ  
b 川原嘉久治「榛名山麓の古代寺院II—唐松庵寺—」『研究紀要 11』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993
- 註25 a 相京建史「群馬県の古窯跡群の概観」註8のbに同じ  
b 大江正行「窯業」『群馬県史』通史編2 原始古代2 群馬県 1991  
以下の各古窯跡について特に断らないが本註を参照のこと
- 註26 a 岩澤正作「笠懸村古代瓦の窯跡発見始末」『上毛及び上毛人64』 1921  
b 井上唯雄・若月省吾「笠懸村の原始・古代」『笠懸村誌別巻』笠懸村 1983  
c 註8のdに同じ
- 註27 僧寺の軒先瓦について註5において詳細な文様分類を高井佐弘が行っており、尼寺跡出土の瓦との比較を容易に行うためその分類番号を以下でも用いる。
- 註28 『台之原庭寺跡 II』藤岡本町教育委員会 1986
- 註29 註12に同じ
- 註30 『史跡十三宝塚遺跡』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992
- 註31 a 註8のcに同じ  
b 須田 広「上野国分寺の軒瓦」『群馬文化 177』 1979  
c 『上西原遺跡』群馬県教育委員会 1999
- 註32 この窯跡群は吉井古窯跡群と藤岡古窯跡群の二つを連結しての呼称である。高崎市吉井町から藤岡市金井地区までの同一丘陵北面と南面に広がる窯跡群で丘陵南東部では接していること、胎土の類似性から本稿では吉井・藤岡古窯跡群とする。
- 註33 坂詮秀一『上野・金山瓦窯跡』ニュー・サイエンス社 1966
- 註34 a 『安中市史』第四巻 原始古代中世資料編 安中市 2001  
b 註15に同じ
- 註35 註8のb  
註36 『上植木廃寺 上植木廃寺瓦窯』伊勢崎市教育委員会 2002
- 註37 註25のbに同じ
- 註38 註8のcに同じ
- 註39 烏の足跡のような花弁の形態が特徴的で類例がないことからその特徴を捉え「烏の足状」等と表現されてきたが、同範のものが多数あること、説明の容易さを考慮して簡略化・抽象化されているが「鳥趾状蓮華文」とした。なお、尼寺南大門推定地すぐ南側の元總社蒼海遺跡群(20)では同範の軒丸瓦について「鳥足状蓮華文」としている。『元總社蒼海遺跡群(20)』前橋市埋蔵文化財調査団 2009  
今回の瓦の整理にあたり尼寺跡を始めとして群馬県内の多くの遺跡で古代瓦の調査研究を重ねてきた大江正行、木津博明両氏に幾度となく教示を受けた。前掲註20の「蟹爪状蓮華文」と「鳥趾状蓮華文」の名称は、その際にこれら軒丸瓦を「蟹爪文」、「鳥趾文」と3人の間で呼び始めたものを元にしている。
- 註40 佐原 真「平瓦桶巻作り」『考古学雑誌』第58巻第2号 日本考古学会 1972
- 註41 a 註40に同じ  
b 大船 淑「丸瓦の製作技術」『研究論集IX』奈良国立文化財研究所学報第49冊 奈良国立文化財研究所 1991
- 註42 a 註40の「刻線が平行」のもの。この特徴がわかる瓦は親音山丘陵古窯跡群でのえせえじ支群、田端魔寺跡、吉井・藤岡古窯跡群産である多胡郡正倉跡や黒熊中西遺跡などから出土している。  
b 栗原和彦の「平行線紋」と同じ。『山王廃寺 平成22年度調査報告別冊』2012 前橋市教育委員会
- 註43 大江正行・木津博明 第4章第2節「瓦」『国分境遺跡』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990
- 註44 a 註40に同じ  
b 遠本正志「平瓦桶巻作りにおける一考察 一粘土円筒分割のための指標の種類について一」『考古学雑誌』第69巻第2号 日本考古学会 1983  
c 註41bに同じ

**補** 上記本文中の註は個々の遺跡等の報告、論文があるものに限っており、上記以外にも『群馬県史』資料編原始古代2に個々の寺院跡、窯跡の報告がなされており参照していただきたい。なお、群馬県内の古代寺院及び古窯跡群については『群馬県史』通史編2第1章第四節で松田 猛「寺院の建立とその背景」に論じられており群馬県内の全容を知ることができる。他に松田 猛・右島和夫「上毛野地域における古瓦の検討－正満コレクションの基礎調査－」(『群馬県立歴史博物館紀要第24号』2003)も群馬県内出土の古瓦を知るための重要な手掛かりとなる。

近年の発掘調査報告書の中に「観音山丘陵古窯跡群」のことを「乗附観音山古窯跡群」と表現したものがあるが、本報告では小地域の呼称をやめ複数の地域を含んだ名称としての「観音山丘陵古窯跡群」とし、『群馬県史』に倣っている。

## 瓦図凡例

**縮尺**・・軒平瓦・軒丸瓦は4分の1、平瓦・丸瓦は5分の1とし、各図版の上段に5分の1、下段に4分の1の目盛りで示した。ただし、必要に応じ変更した場合は図中にその旨を記した。

**文字瓦**・・左文字(鏡文字)は軒に統けて「左」と記し、「刻印型」と「格子一体型」は僧寺の例によって分類記号を図中及び観察表中に記した。

実測図、拓本で使用した線種・記号等は次のとおり。

太実線・・外形及び外形復元 中太実線・・外形補助 細実線・・割れ口 破線・・推定線

一点鎖線・・粘土巻合せ目・貼り合せ及び軒平瓦・軒丸瓦瓦当断面の粘土の流れ(土練り不足によるかたたらにおける重ね合わせ目)のか判然としないが粘土板の単位がある場合も記入した)

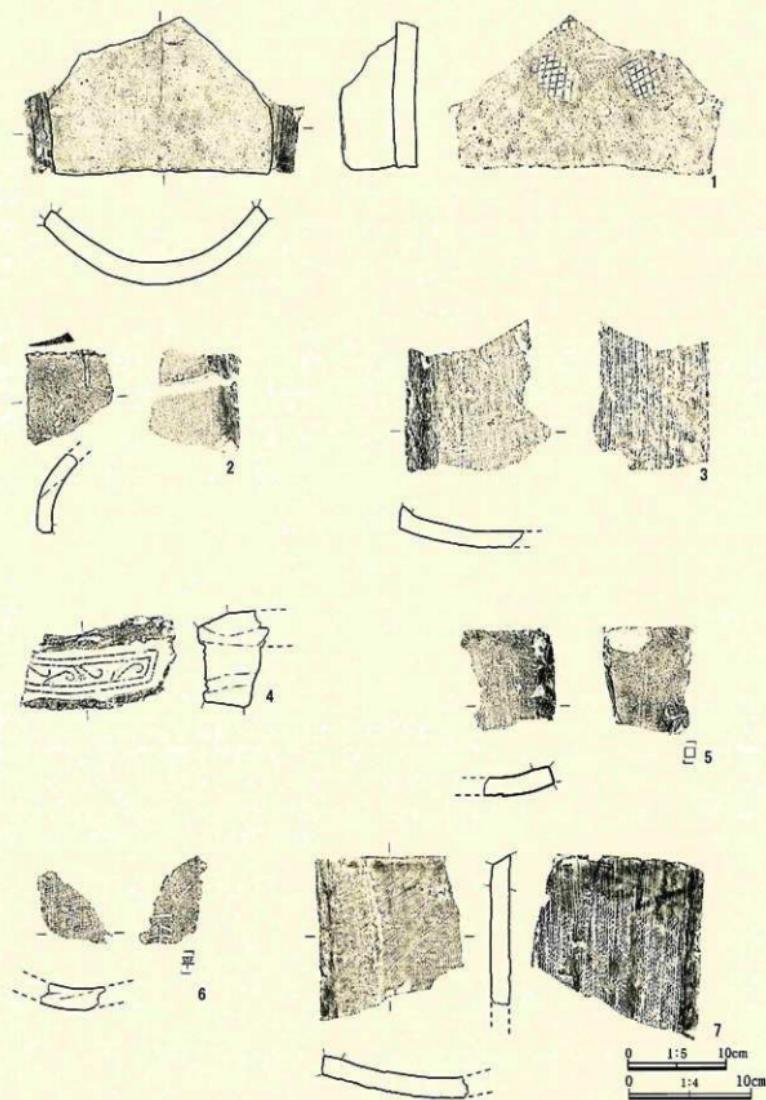
点線・・粘土紐単位 ケバ・・瓦側面、端面の面取り範囲 網掛け・・付着した他の瓦・窓体

➤・・粘土の合わせ目 →・・拓本採取位置

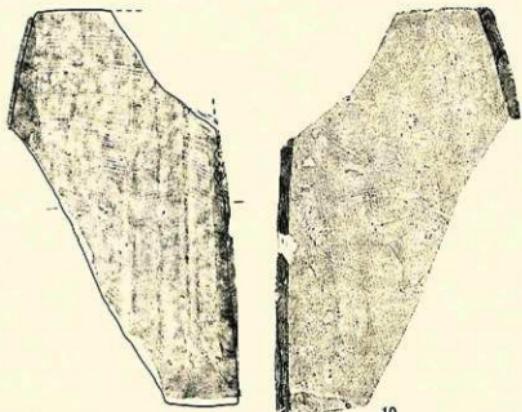
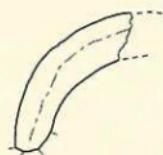
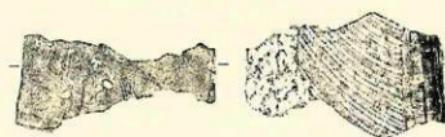
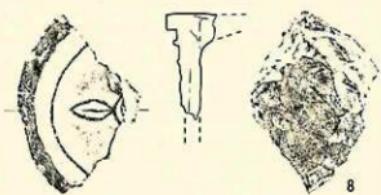
このほか必要に応じて図、拓本脇に記入した。

6) 瓦類実測図及び拓本

金堂

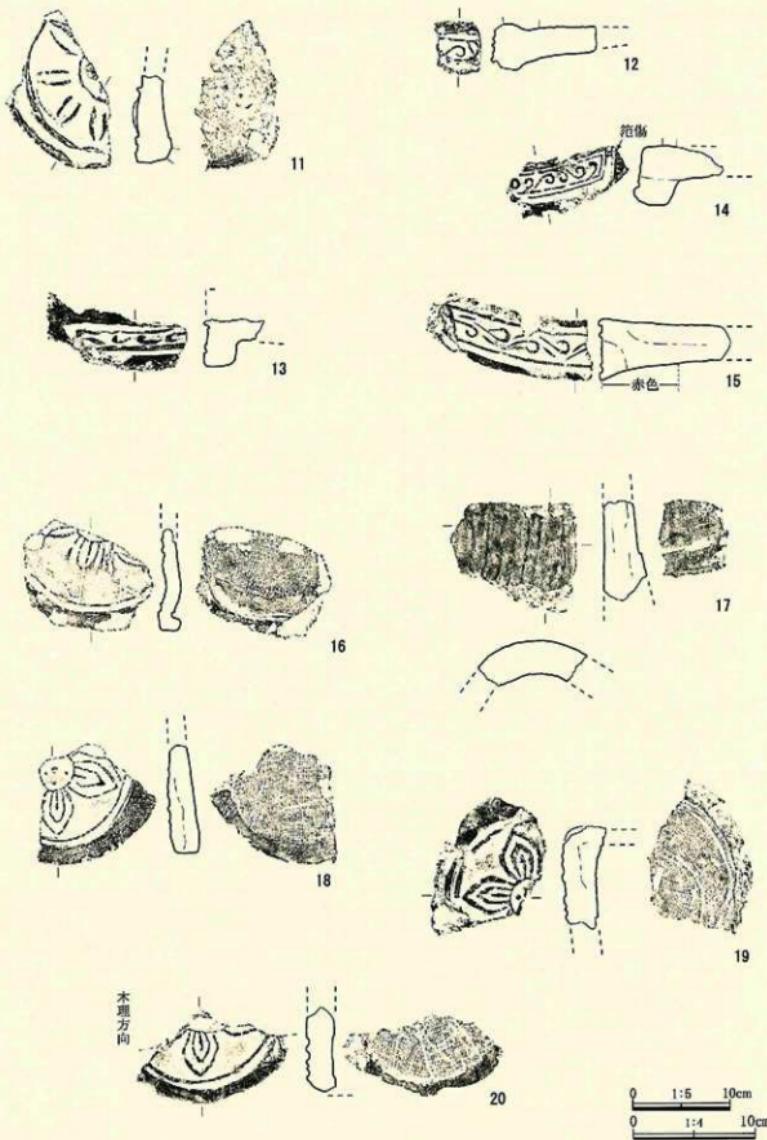


第95図 瓦1 金堂(I)

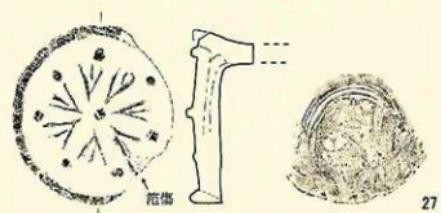
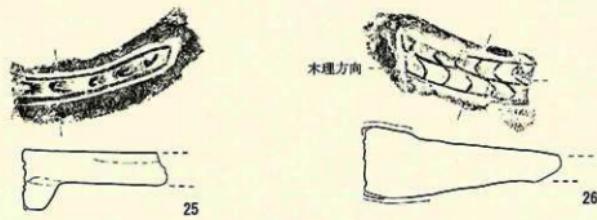
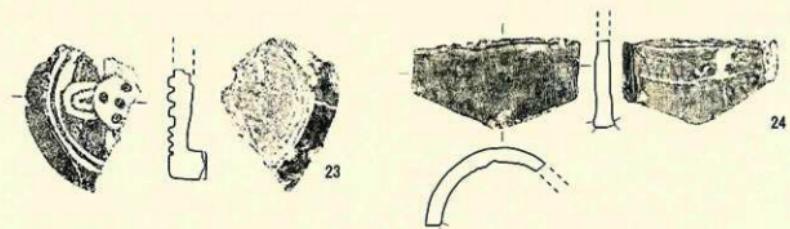
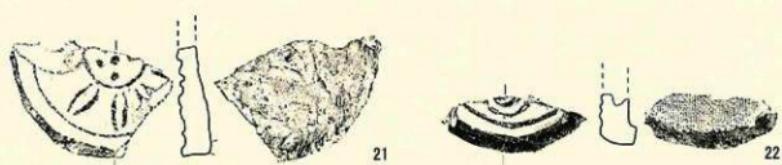


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第96図 瓦2 金堂(2)

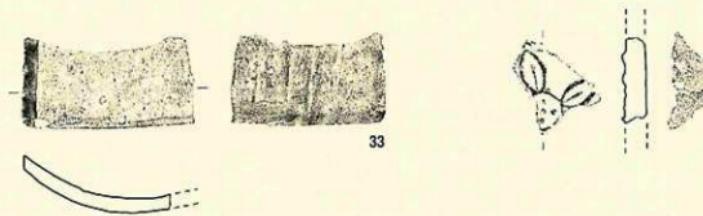
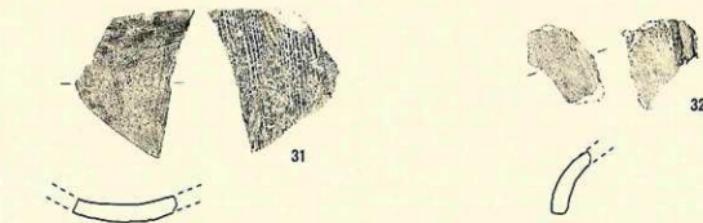
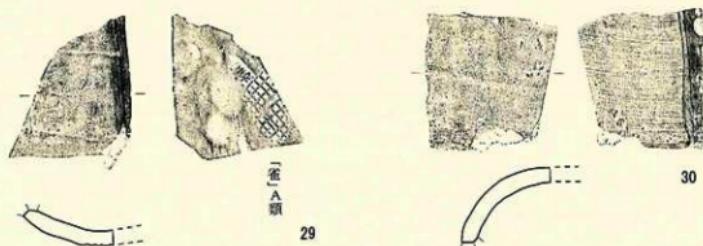
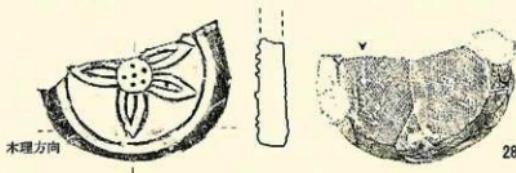


第97図 瓦3 金堂(3)



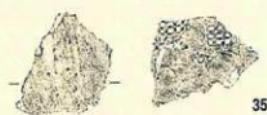
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第98図 瓦4 金堂(4)

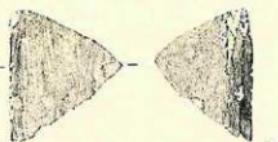


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

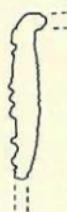
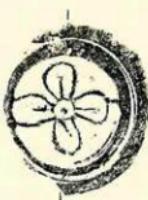
第99図 瓦5 金堂(5)



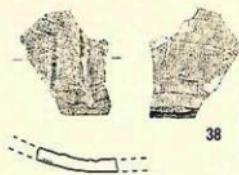
35



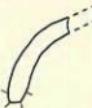
36



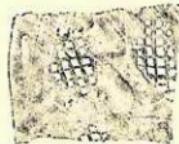
37



38



39



40

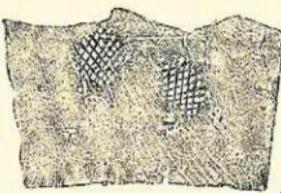
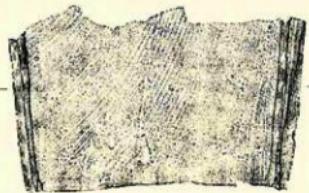


41

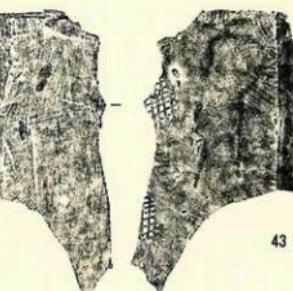


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

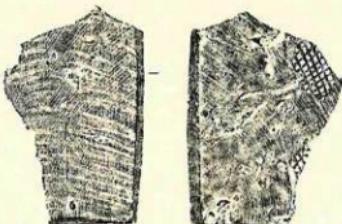
第100図 瓦6 金堂(6)



42



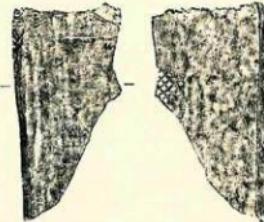
43



44



45

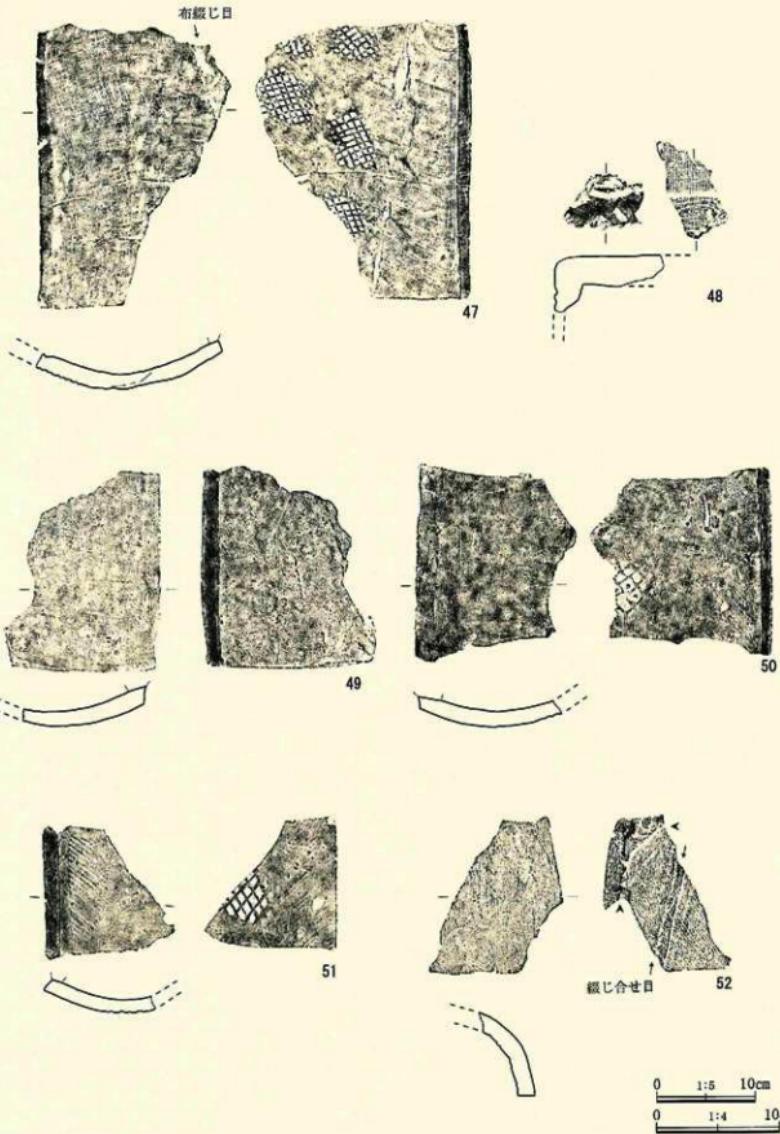


46

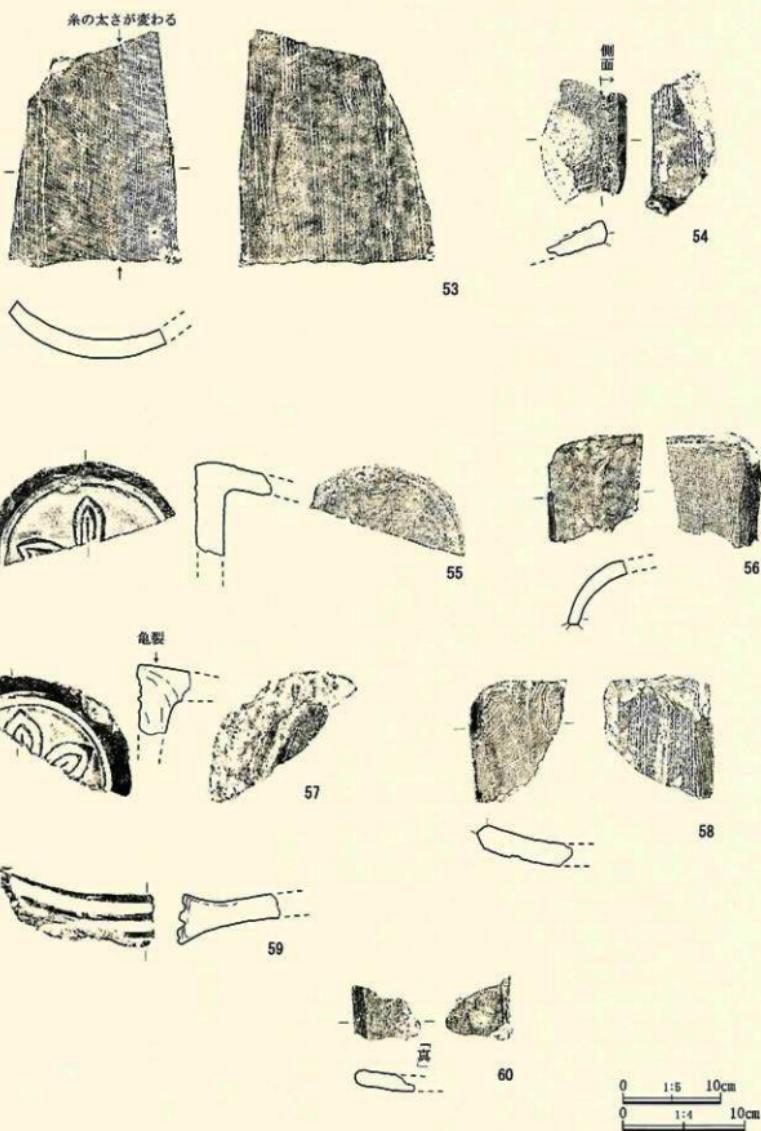


0 1:5 10cm

第101図 瓦7 金堂(7)



第102図 瓦8 金堂(8)



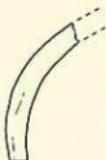
第103図 瓦9 金堂(9)



61



62



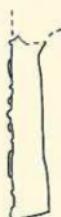
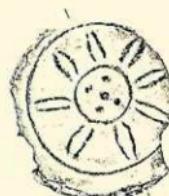
63



64



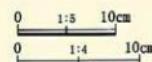
65



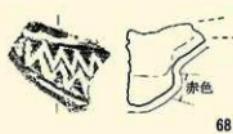
67



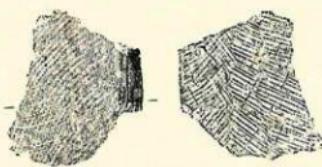
66



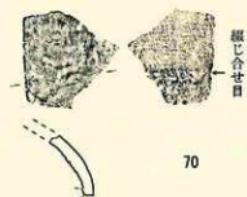
第104図 瓦10 金堂(10)



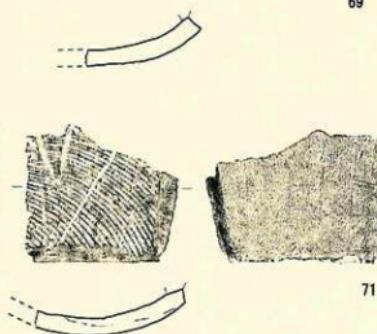
68



69



70

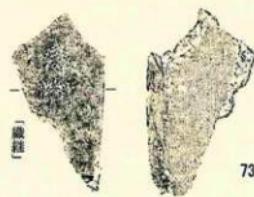


71

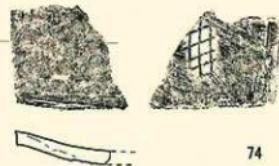
南面回廊



72



73

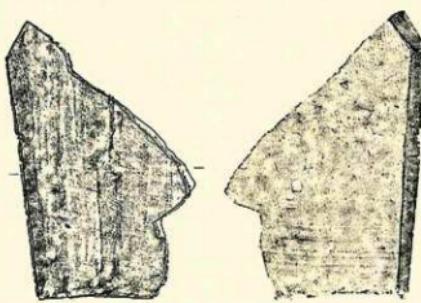


74

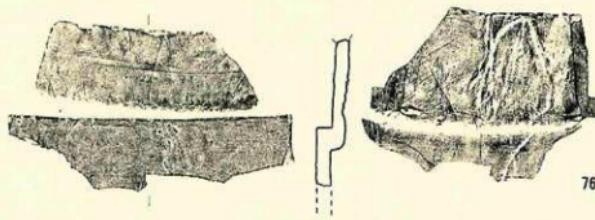


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

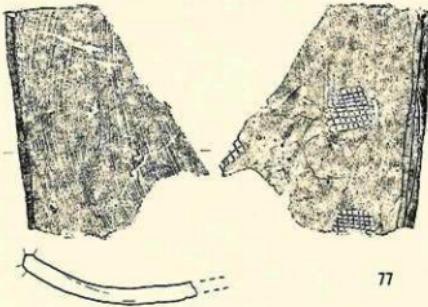
第105図 瓦11 金堂(11)・南面回廊(1)



75



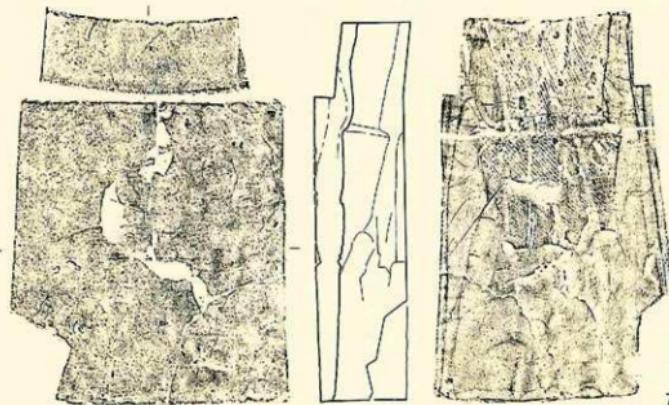
76



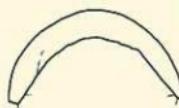
77

0 1:5 10cm

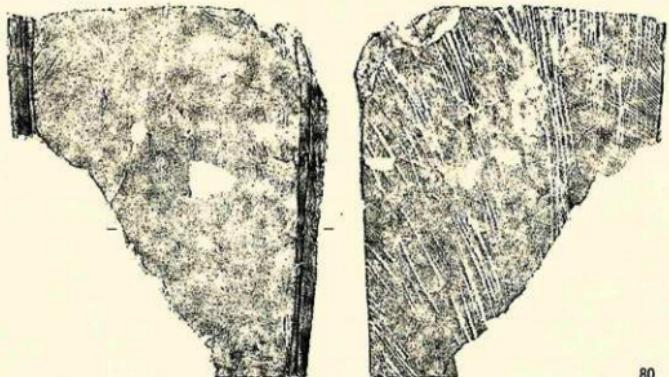
第106図 瓦12 南面回廊(2)



78



79

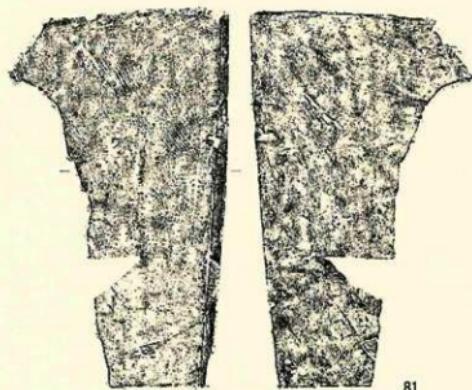


80

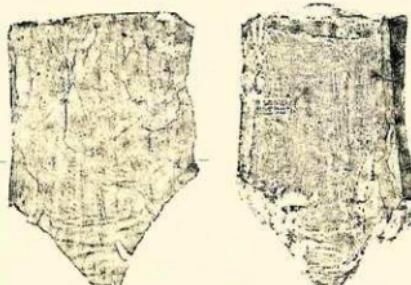


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

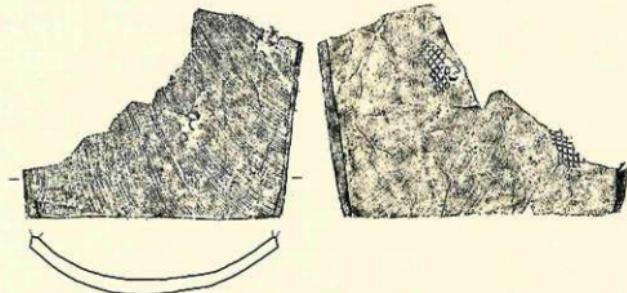
第107図 瓦13 南面回廊(3)



81



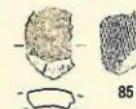
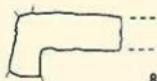
82



83

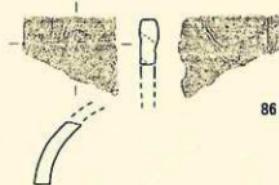
0 1:5 10cm

第108圖 瓦14 南面回廊(4)

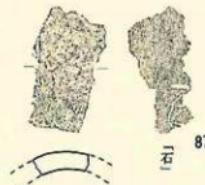


84

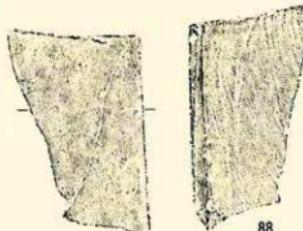
85



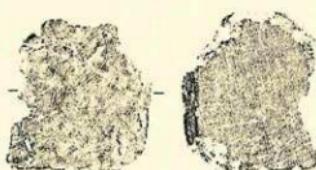
86



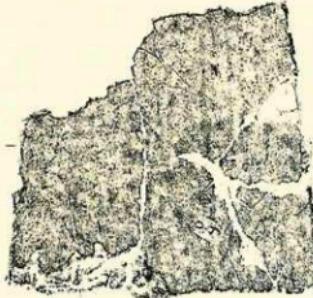
87



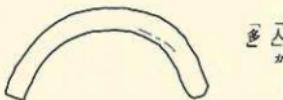
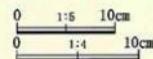
88



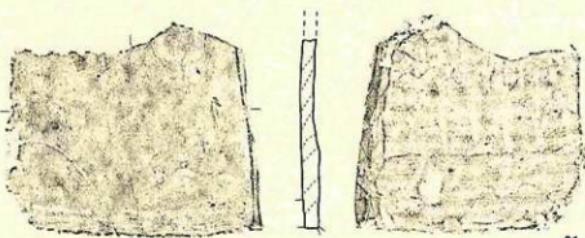
89



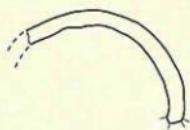
90

多  
△  
少

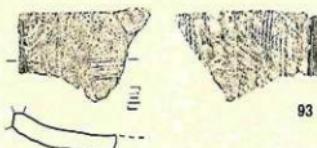
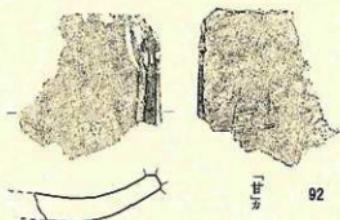
第109図 瓦15 南面回廊(5)



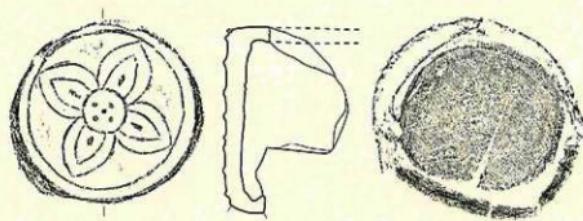
91



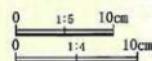
92



93



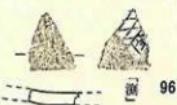
94



第110図 瓦16 南面回廊(6)



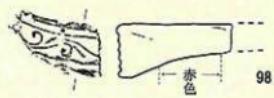
95



96



97



98



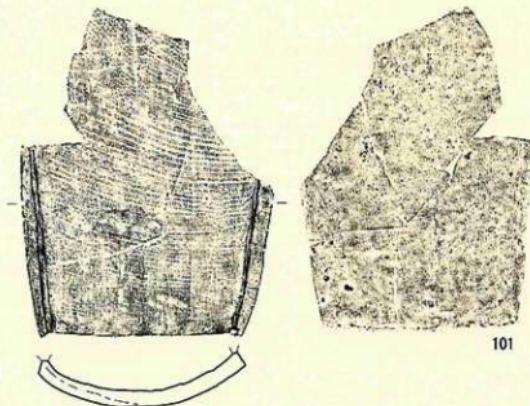
99



100



S=1:3

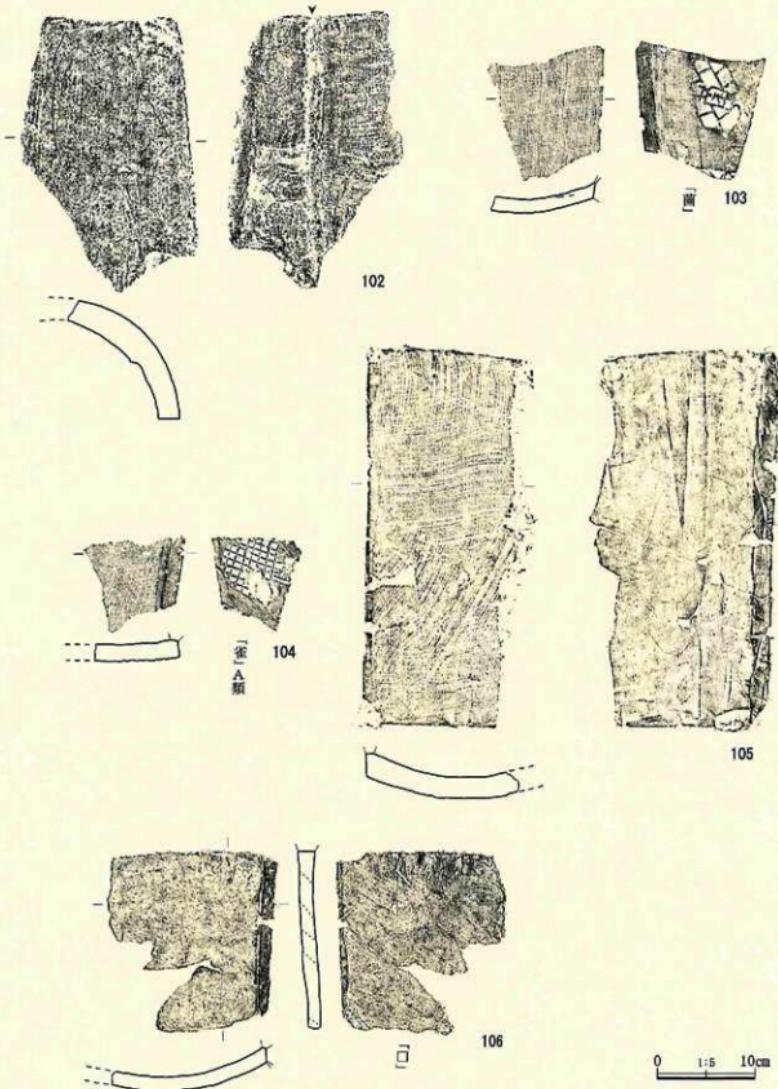


101

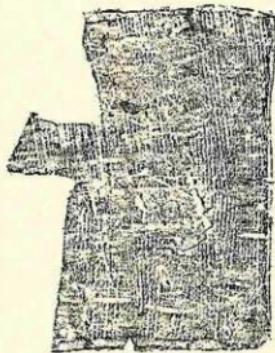
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第111図 瓦17 南面回廊(7)

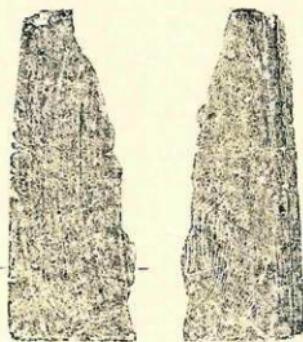
回廊南東隅



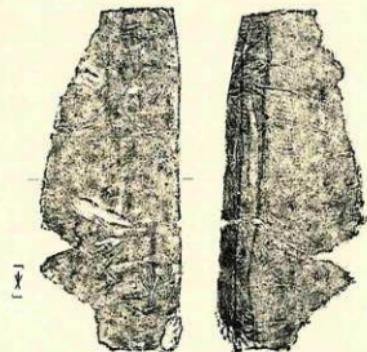
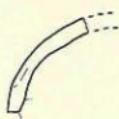
第112図 瓦18 回廊南東隅(1)



107



108  
「九」カ

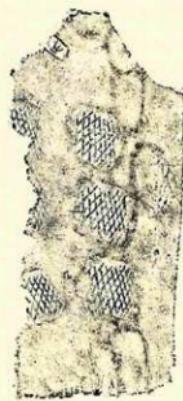
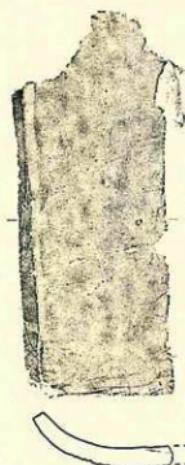


109

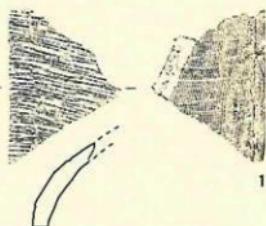


0 1:5 10cm

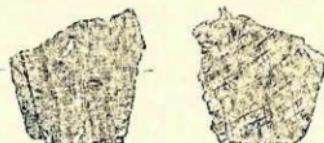
第113図 瓦19 回廊南東隅(2)



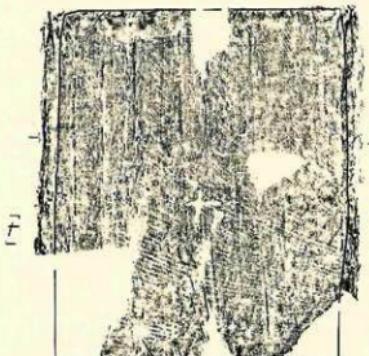
110  
佐日類



111



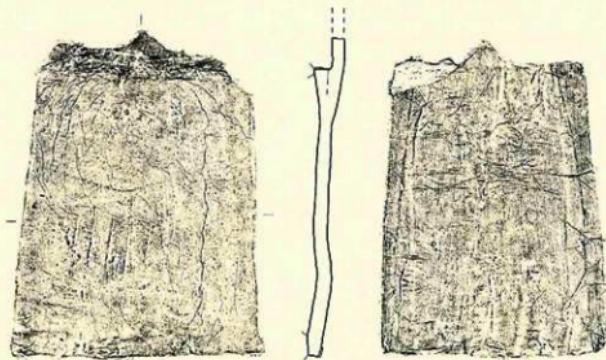
112



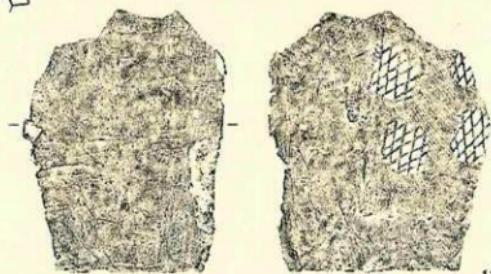
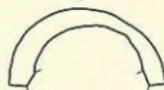
113

0 1:5 10cm

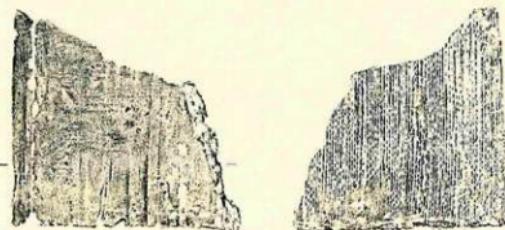
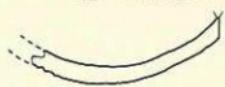
第114図 瓦20 回廊南東隅(3)



114



115



116



0 1:5 10cm

第115図 瓦21 回廊南東隅(4)



117



118



〔田〕

119

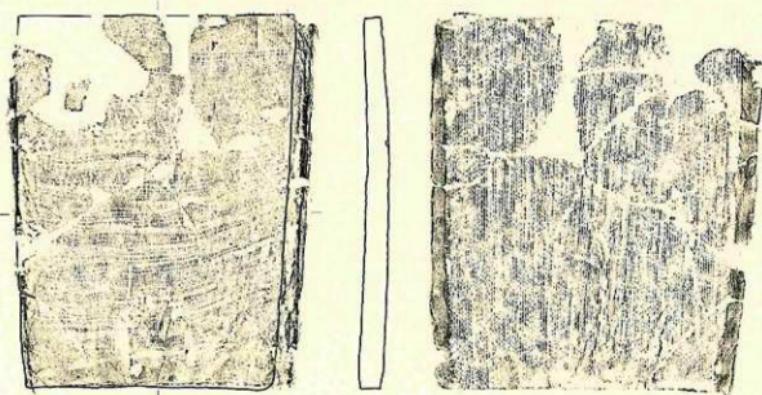
布目  
痕

120

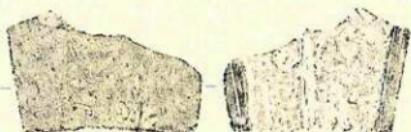
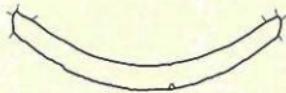


0 1:5 10cm

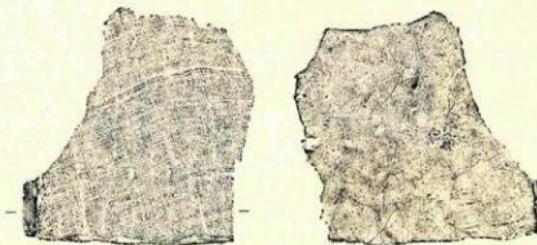
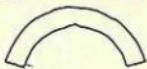
第116図 瓦22 回廊南東隅(5)



121

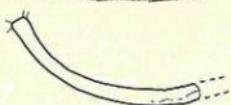


122



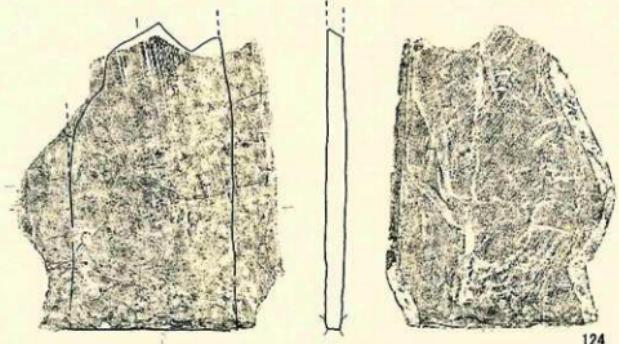
123

桿

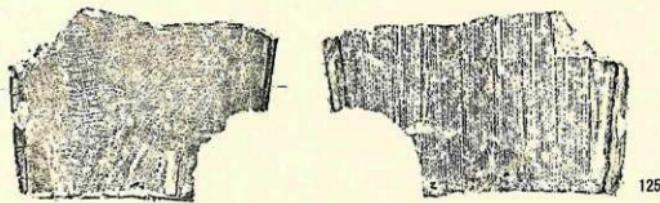


0 1:5 10cm

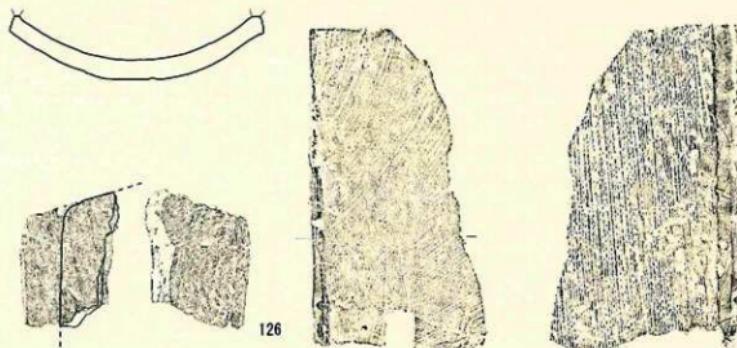
第117図 瓦23 回廊南東隅(6)



124



125

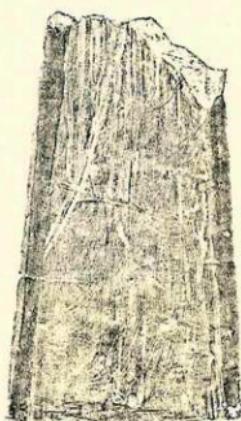
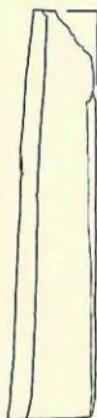


126

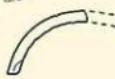
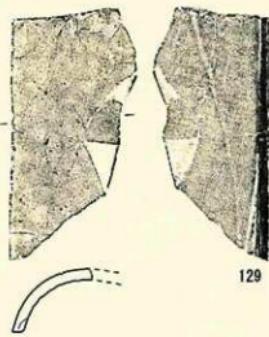
127

0 1:5 10cm

第118図 瓦24 回廊南東隅(7)



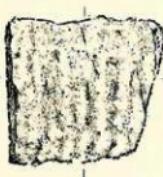
128



129



130

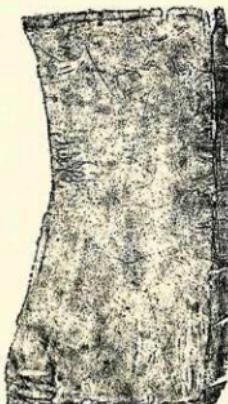
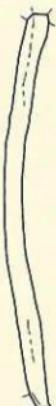
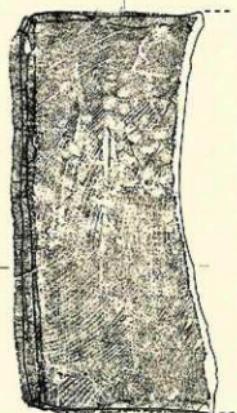


131



0 1:5 10cm

第119図 瓦25 回廊南東隅(8)



132



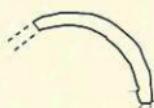
133



134

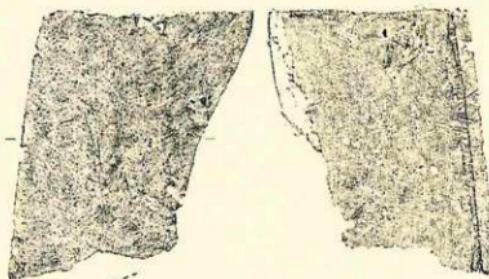


135

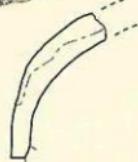


0 1:5 10cm

第120図 瓦26 回廊南東隅(9)



136



137



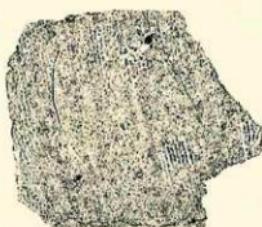
138



0 1:5 10cm

第121図 瓦27 回廊南東隅(10)

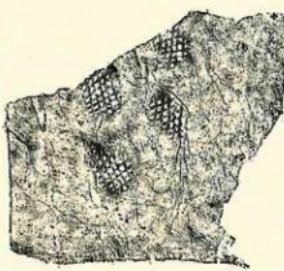
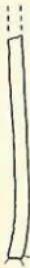
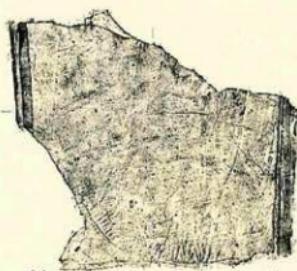
布紋



139



140

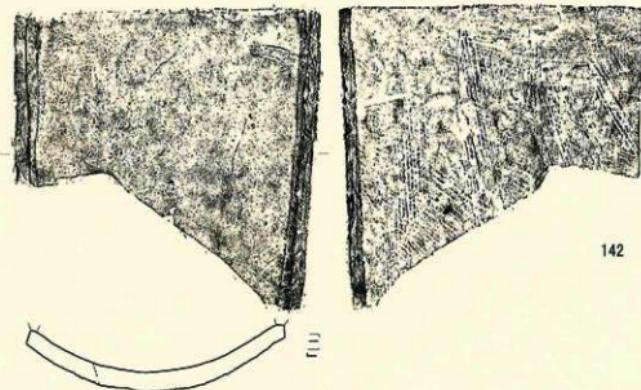


141

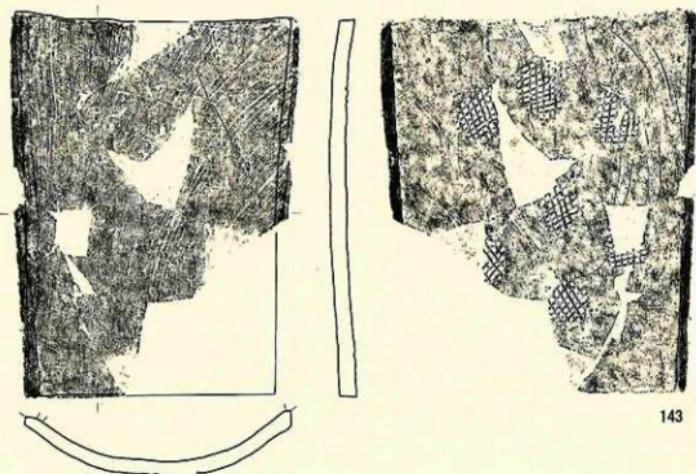


0 1:5 10cm

第122図 瓦28 回廊南東隅(1)



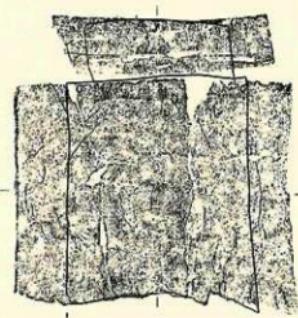
142



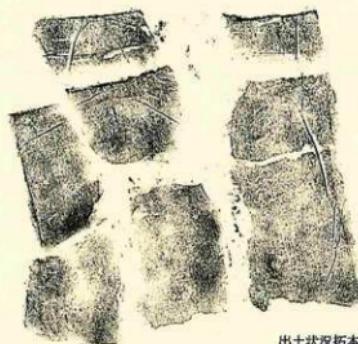
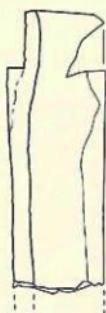
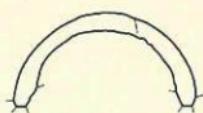
143

0 1:5 10cm

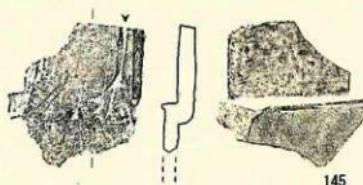
第123図 瓦29 回廊南東隅(12)



144



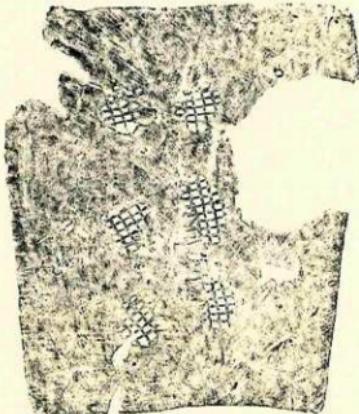
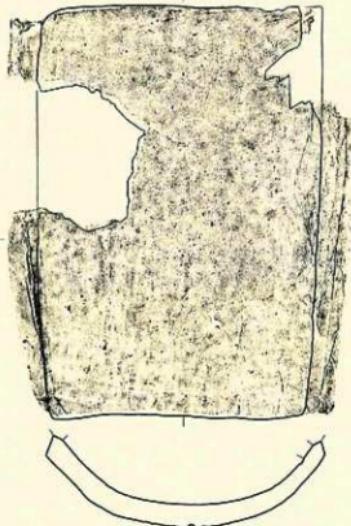
出土状况拓本



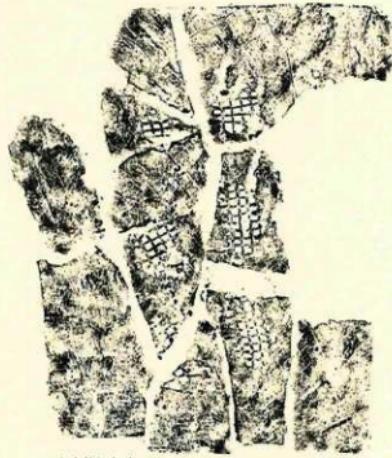
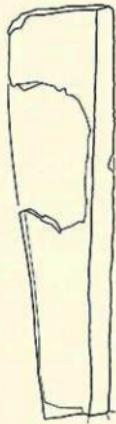
145

0 1:5 10cm

第124図 瓦30 回廊南東隅 (13)



146

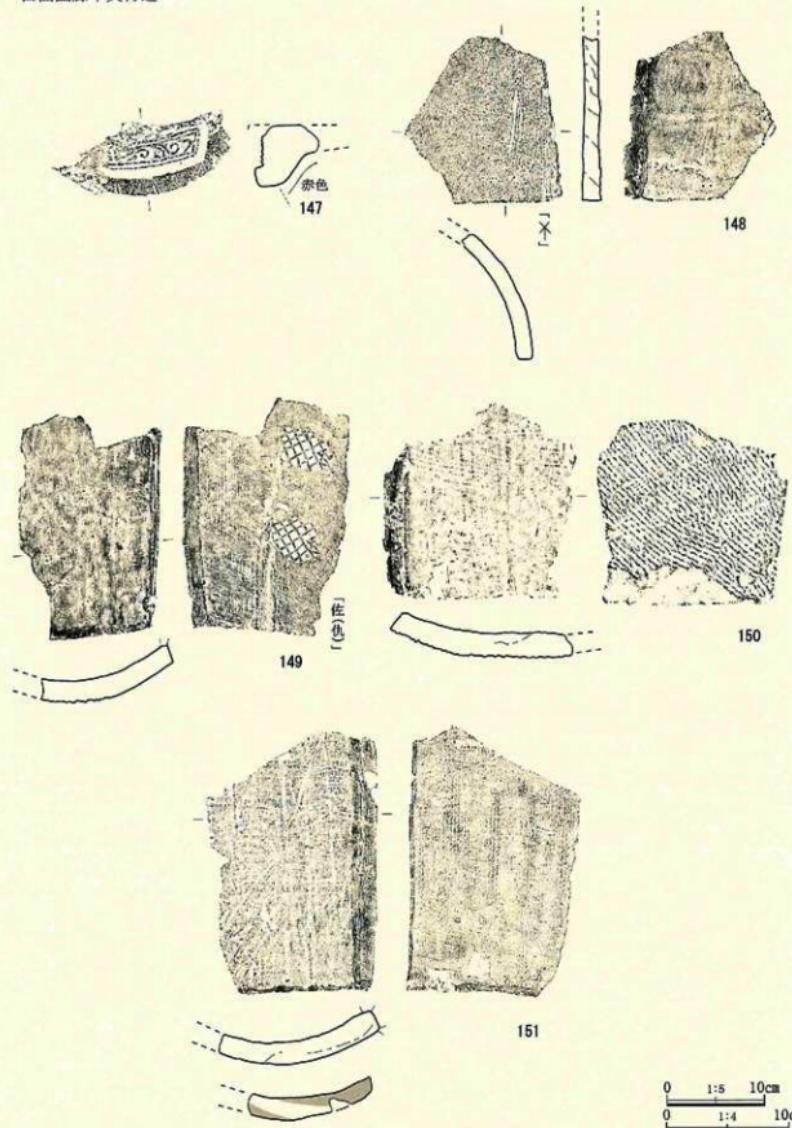


出土状況拓本

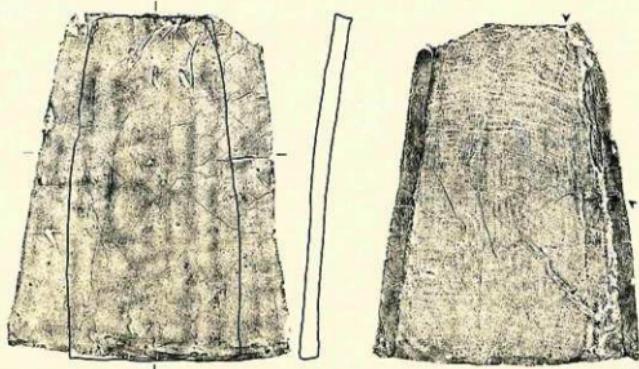
0 1:5 10cm

第125図 瓦31 回廊南東隅(14)

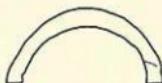
西面回廊中央付近



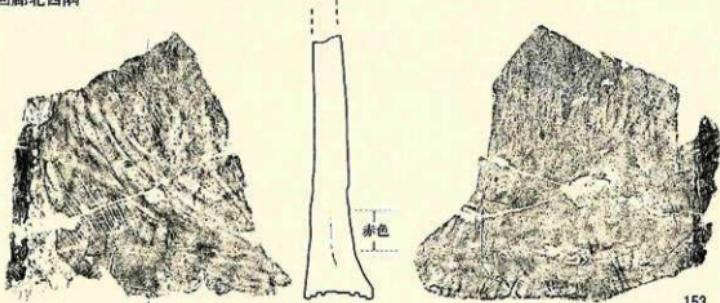
第126図 瓦32 西面回廊中央付近(1)



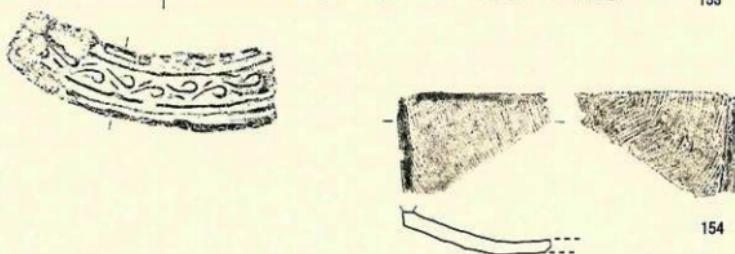
152



回廊北西隅



153



154

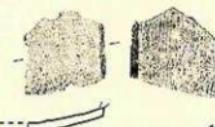
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第127図 瓦33 西面回廊中央付近(2)・回廊北西隅(1)

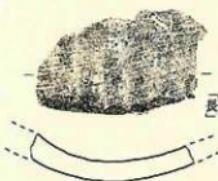


156

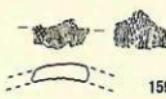
155



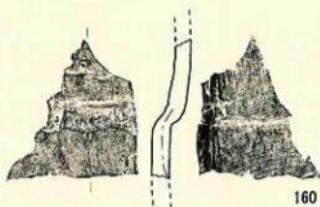
157



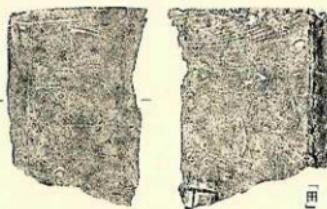
158



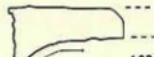
159



160



161



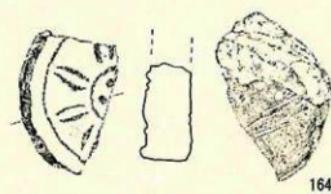
162



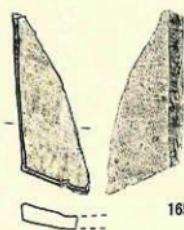
163

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

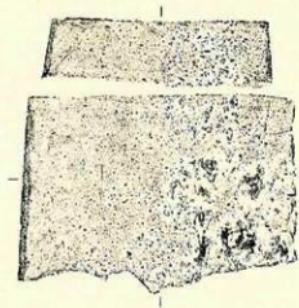
第128図 瓦34 回廊北西隅(2)



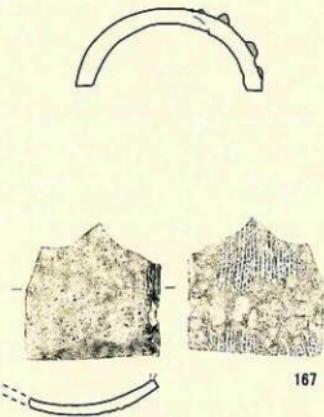
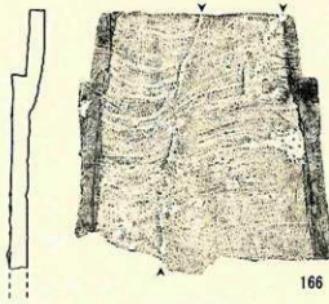
164



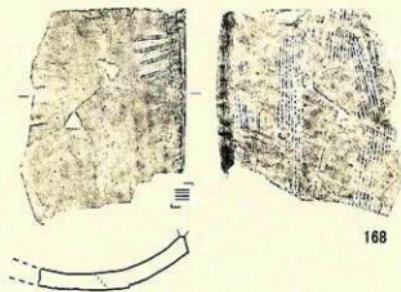
165



166



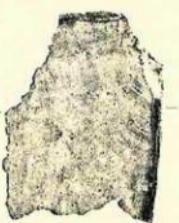
167



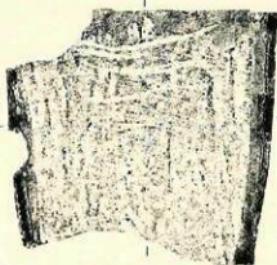
168

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

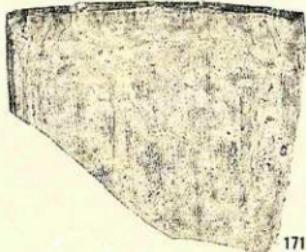
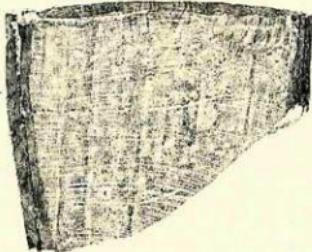
第129図 瓦35 回廊北西隅(3)



169



170



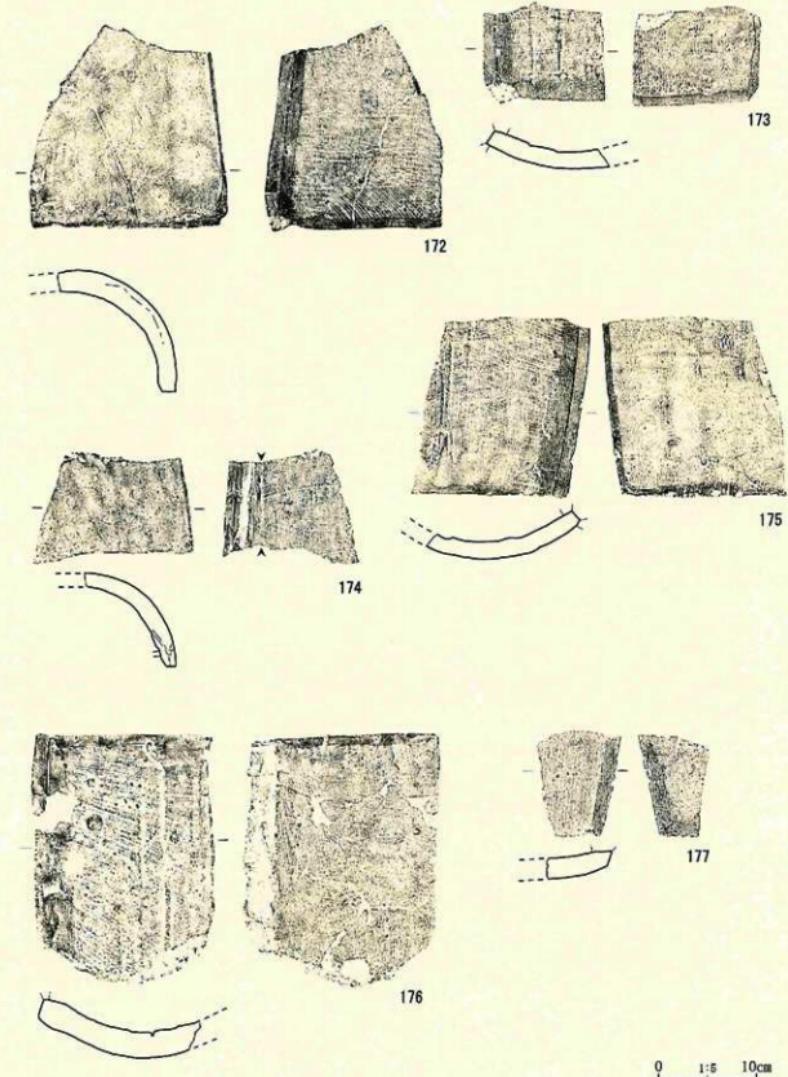
171



0 1:5 10cm

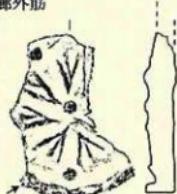
第130図 瓦36 回廊北西隅(4)

回廊北西隅地案内

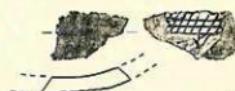


第131図 瓦37 回廊北西隅地案内

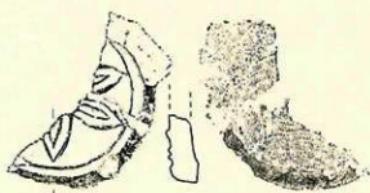
西面回廊外筋



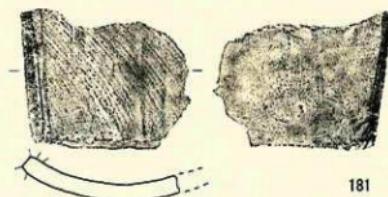
178



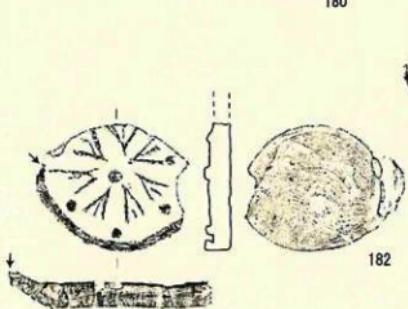
179



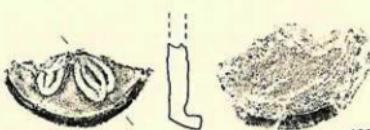
180



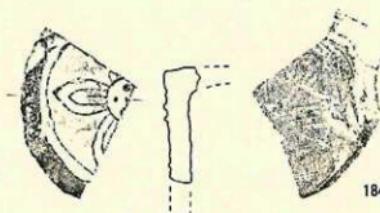
181



182



183

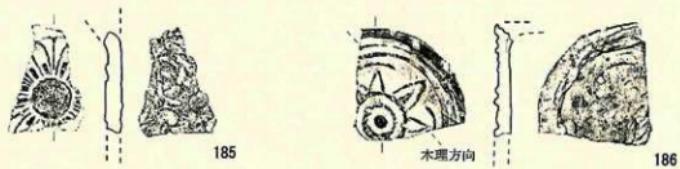


184

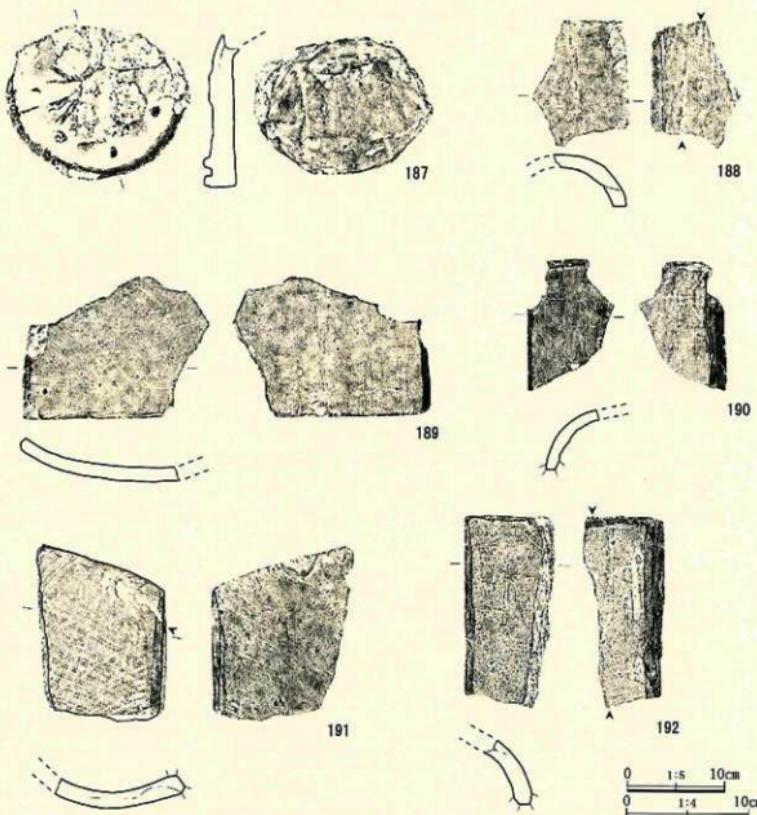
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第132図 瓦38 西面回廊外筋

西面回廊内筋



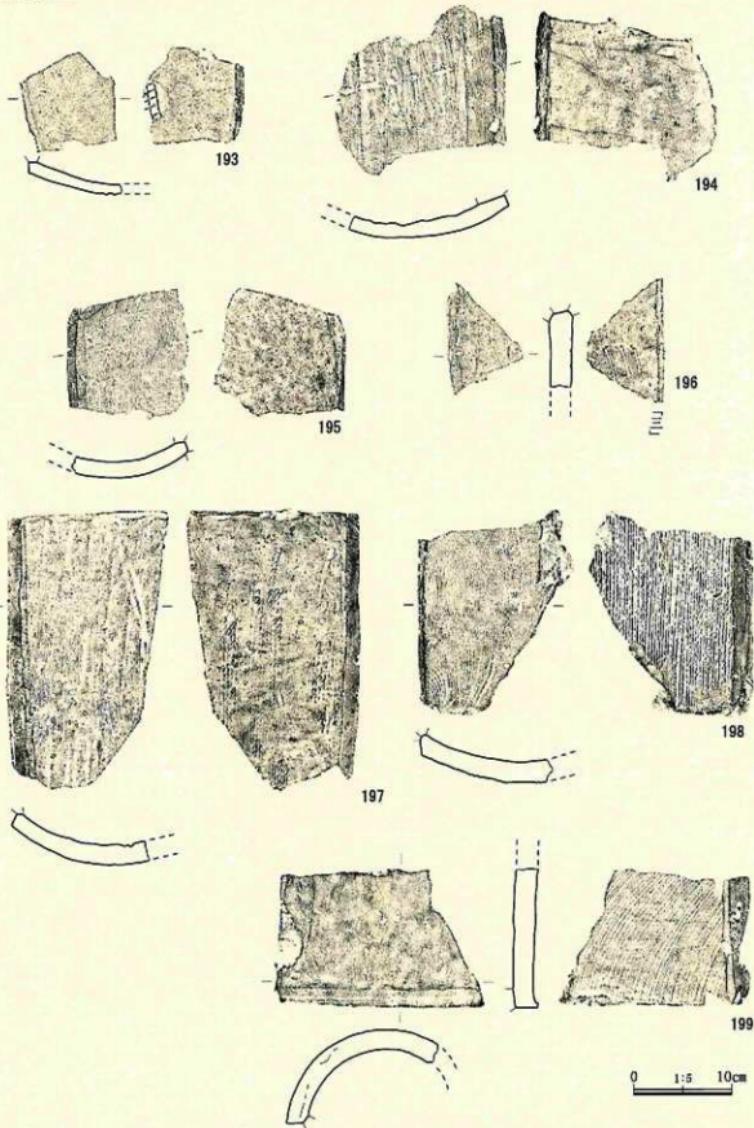
金堂南東隅と回廊取付き



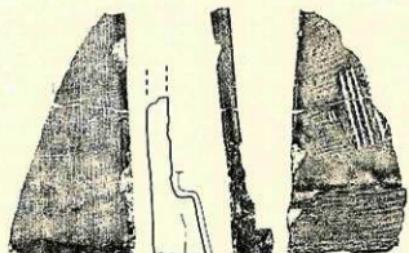
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第133図 瓦39 西面回廊内筋・金堂南東隅と回廊取付き

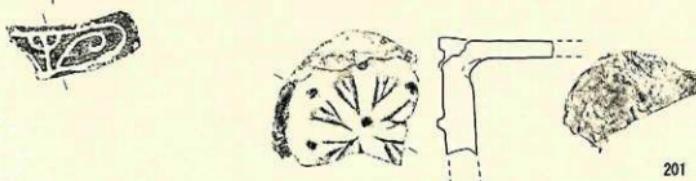
回廊北東隅



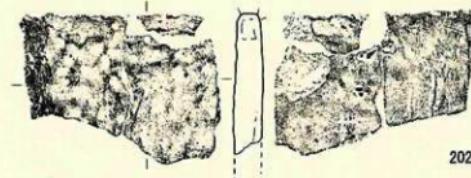
第134図 瓦40 回廊北東隅(1)



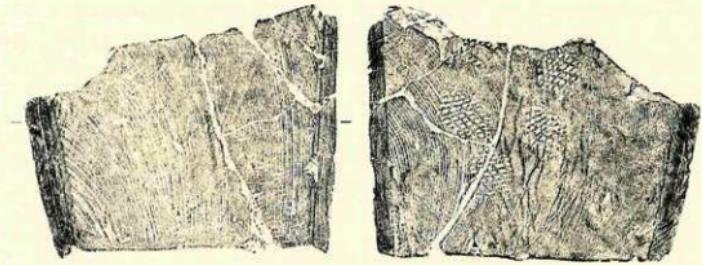
200



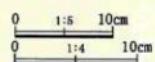
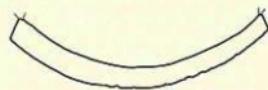
201



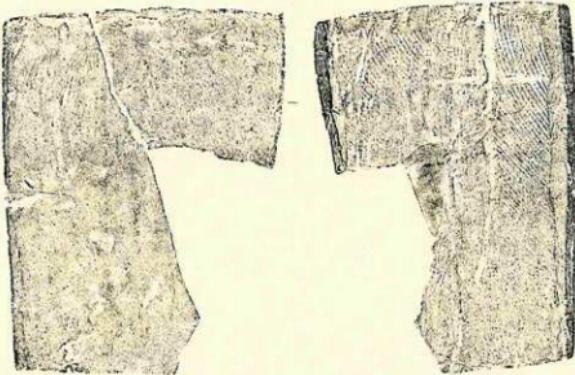
202



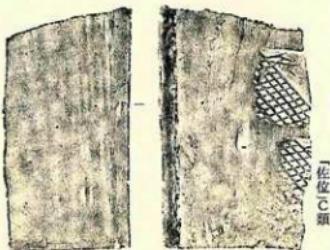
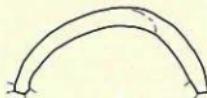
203



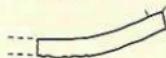
第135圖 瓦41 回廊北東隅(2)



204



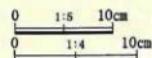
205



206

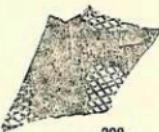


207



第136図 瓦42 回廊北東隅(3)

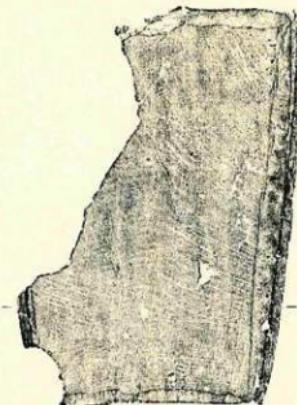
東面回廊



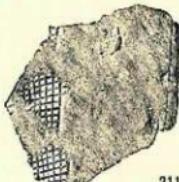
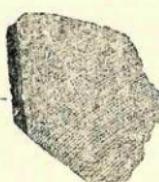
208



209



210



211

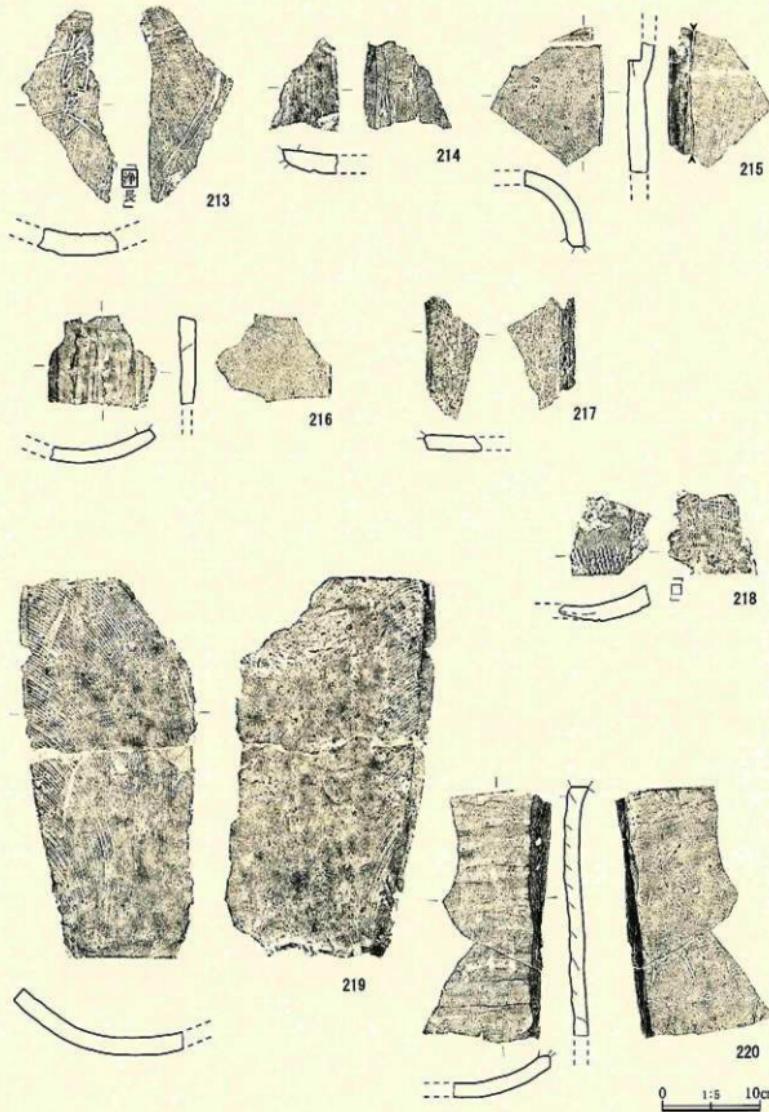


雀  
A類

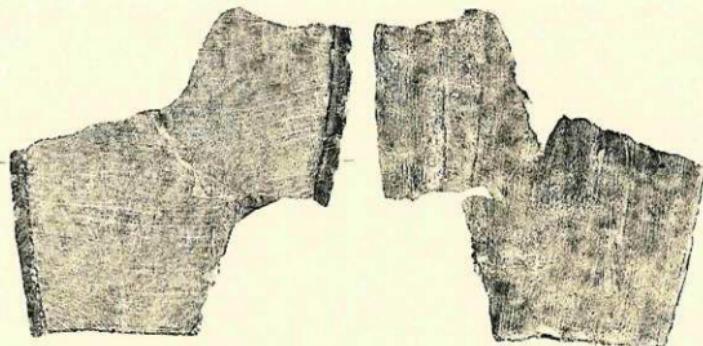
212

0 1·5 10cm

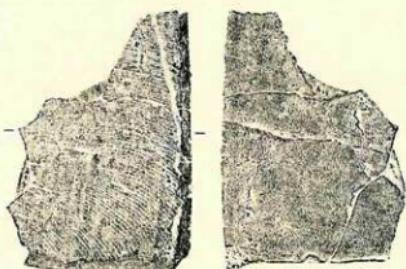
第137図 瓦43 東面回廊(1)



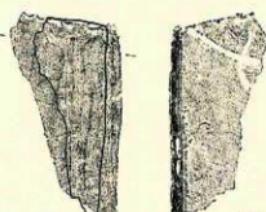
第138図 瓦44 東面回廊(2)



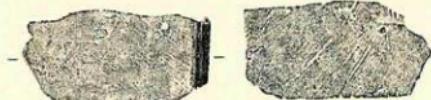
221



222



223



224

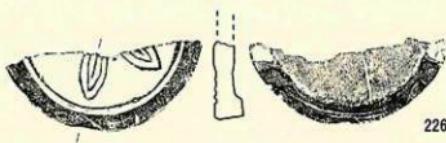


225

佐々  
木 C  
類

0 1:5 10cm

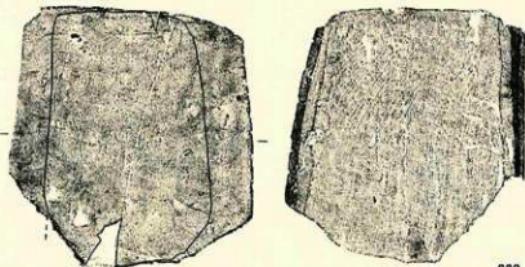
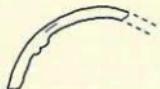
第139図 瓦45 東面回廊(3)



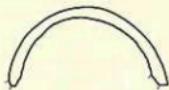
226



227



228

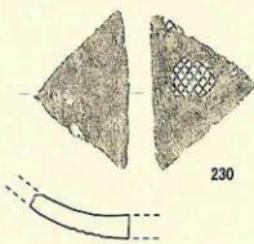


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

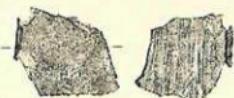
第140図 瓦46 東面回廊(4)



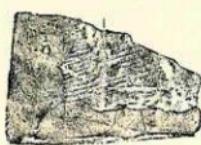
229



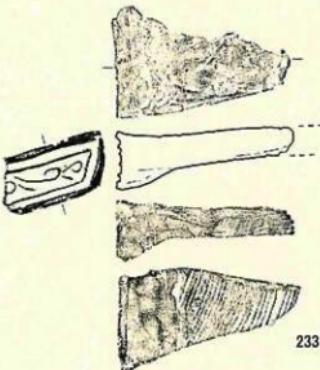
230



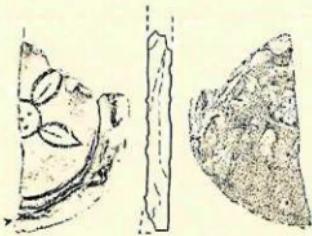
231



232



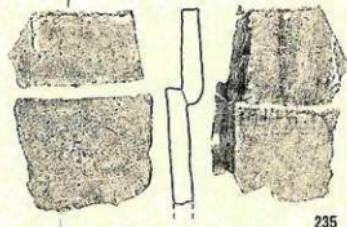
233



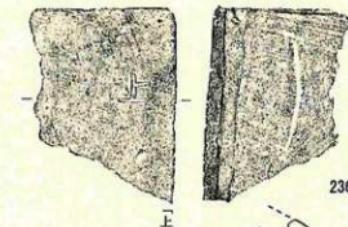
234

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

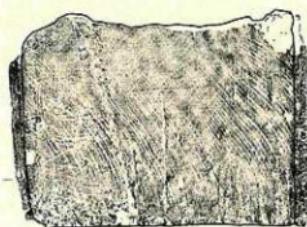
第141図 瓦47 東面回廊(5)



235



236



237



238

A scale bar with a length of 10 cm and a ratio of 1:5.

第142図 瓦48 東面回廊(6)

尼坊



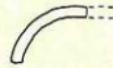
239



240



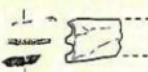
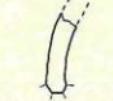
241



242



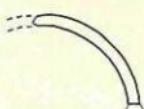
243



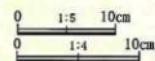
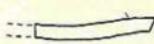
244



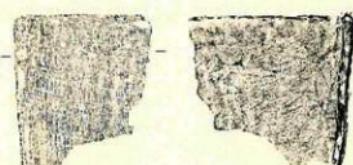
245



246



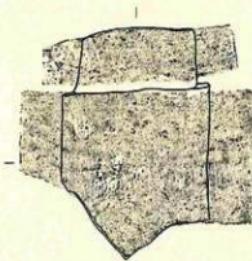
第143図 瓦49 尼坊(I)



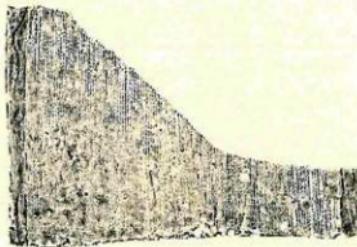
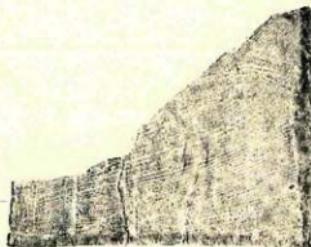
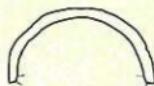
247



248



249

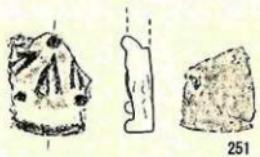


250

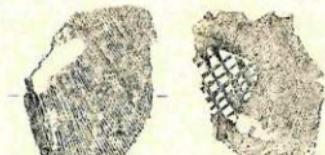


0 1:5 10cm

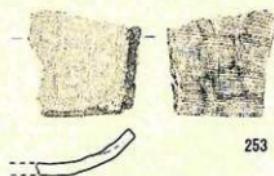
第144図 瓦50 尼坊(2)



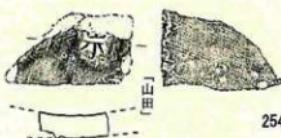
251



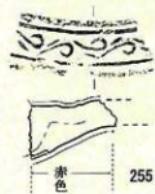
252



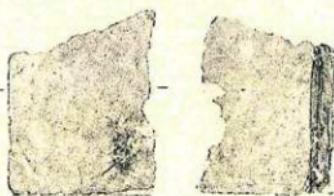
253



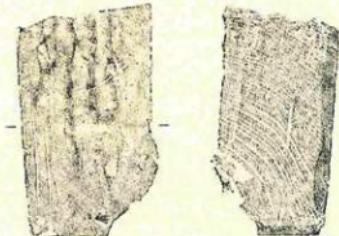
254



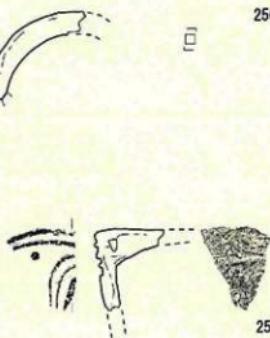
255



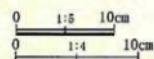
256



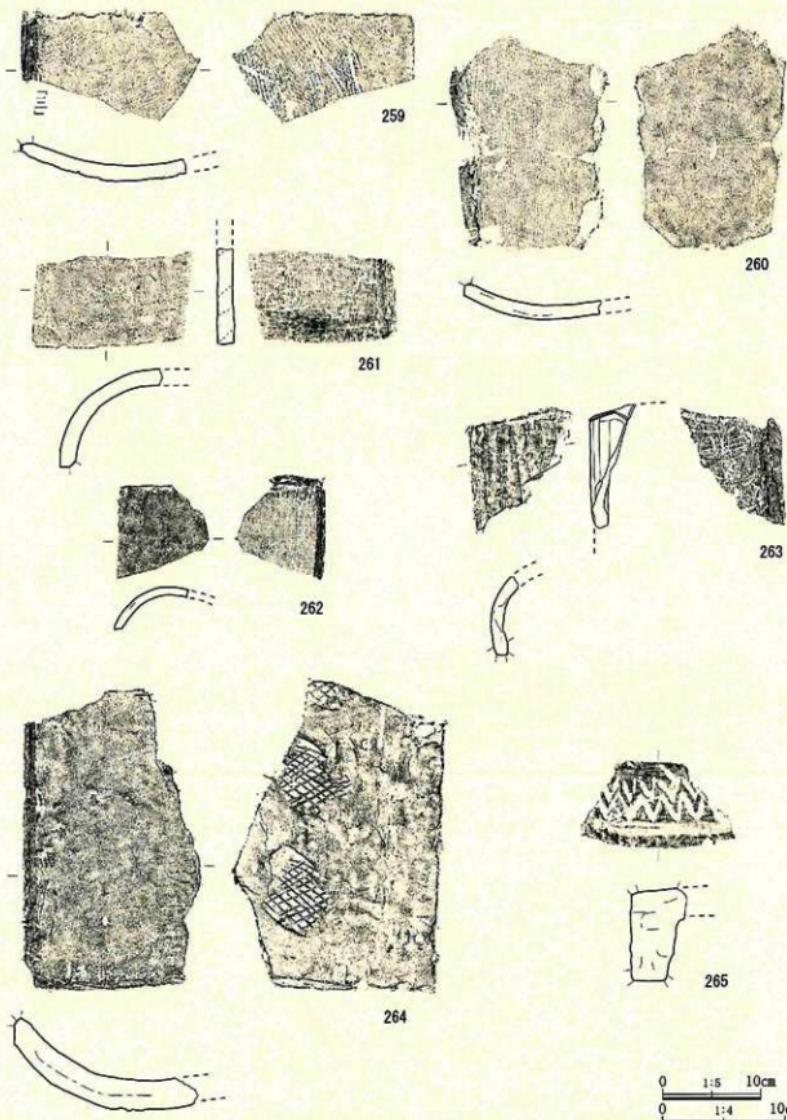
257



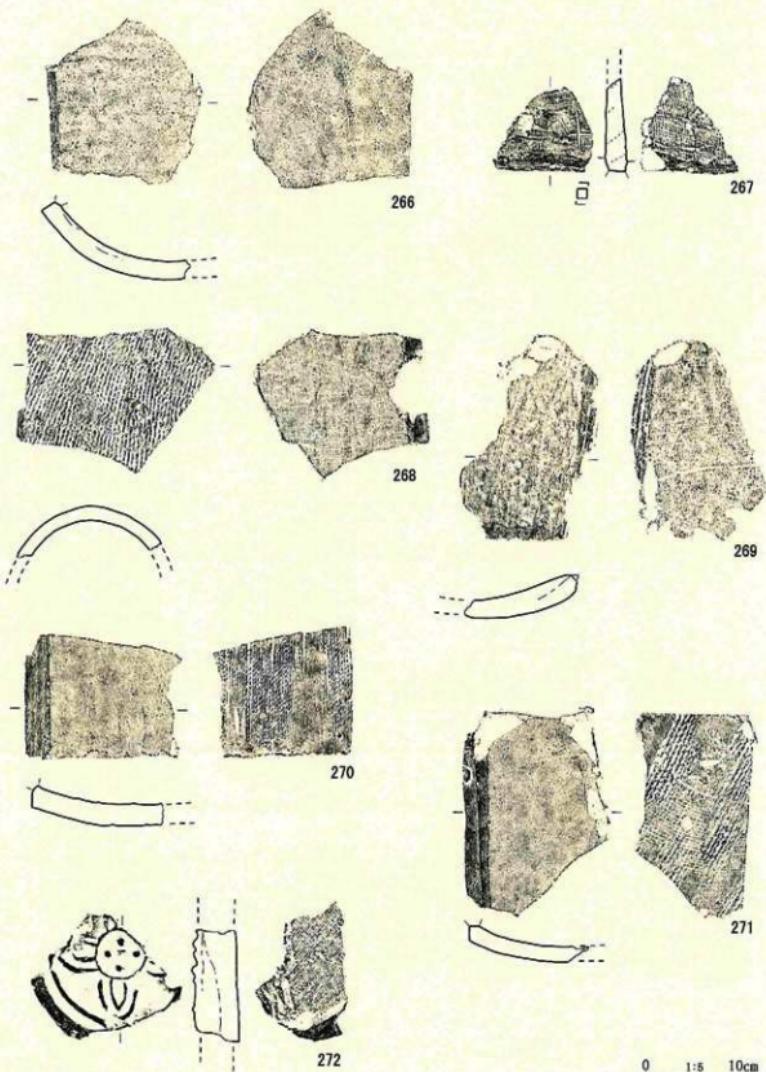
258



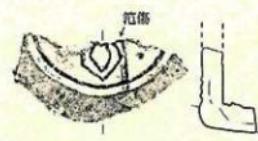
第145図 瓦51 尼坊(3)



第146図 瓦52 尼坊(4)



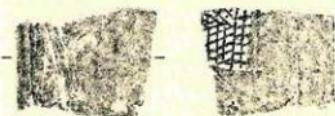
第147圖 瓦53 尼坊(5)



273



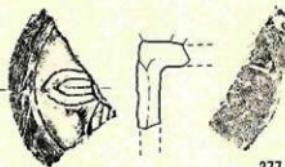
274



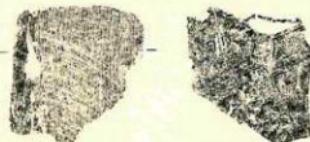
275



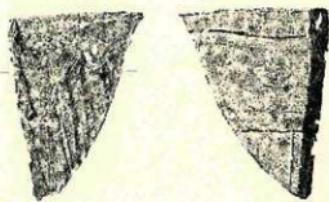
276



277



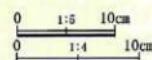
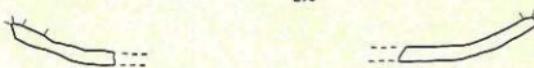
278



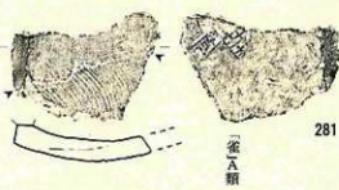
279



280



第148圖 瓦54 尼坊(6)

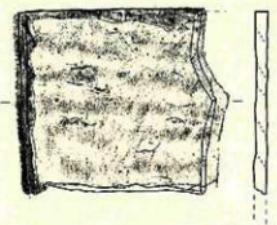
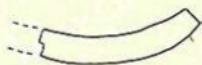


281

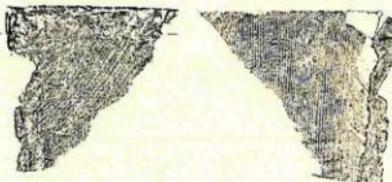
雀入瓶



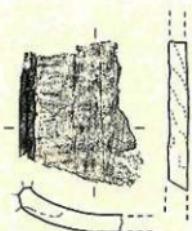
282



283



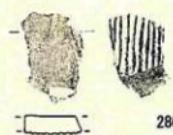
284



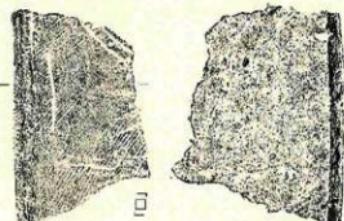
285

0 1:5 10cm

第149圖 瓦55 尼坊(7)



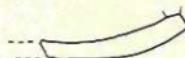
286



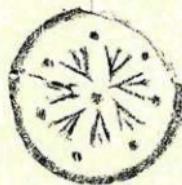
287



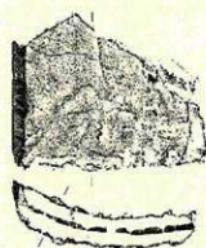
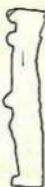
288



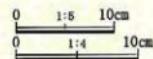
289



290

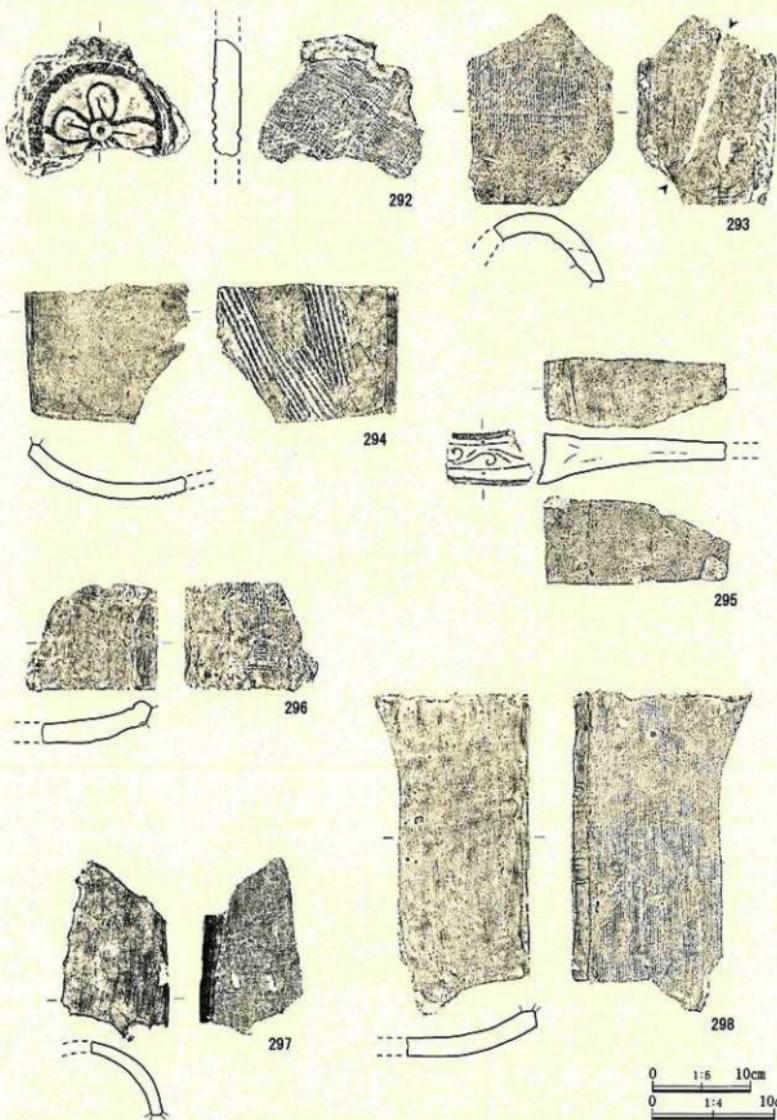


291

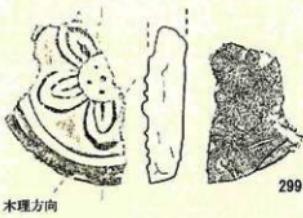


第150圖 瓦56 尼坊(8)

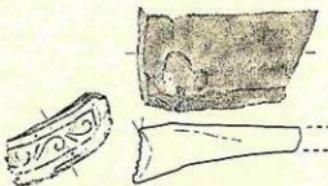
伽藍地北邊內側



第151圖 瓦57 伽藍地北邊內側(I)



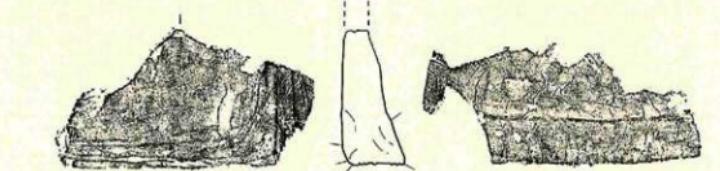
299



300



301

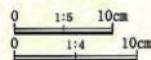


302

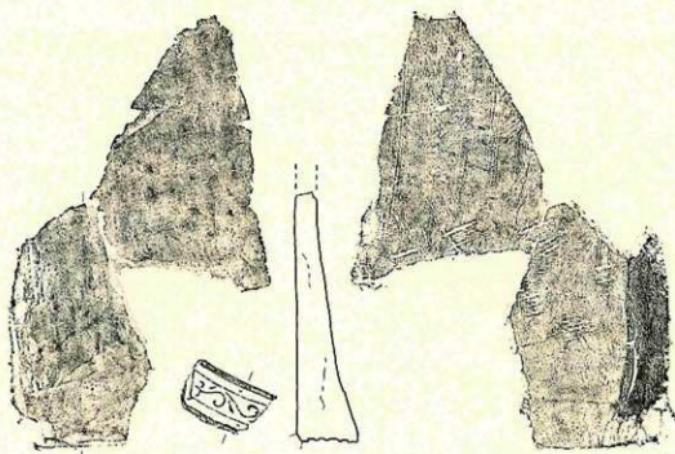
伽藍地北辺外側



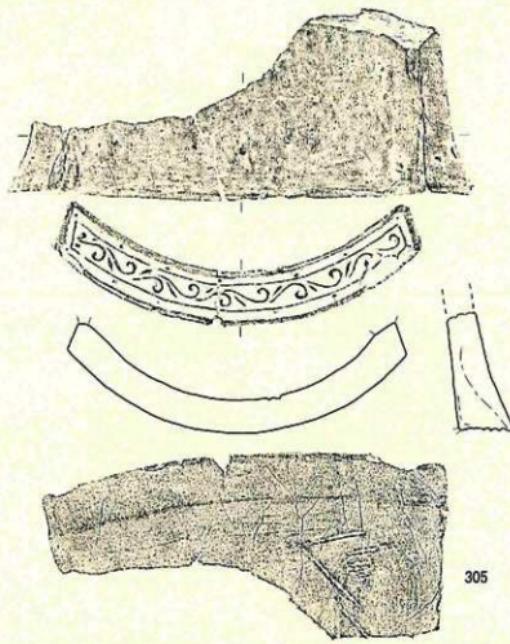
303



第152圖 瓦58 伽藍地北辺内側(2)・伽藍地北辺外側(1)



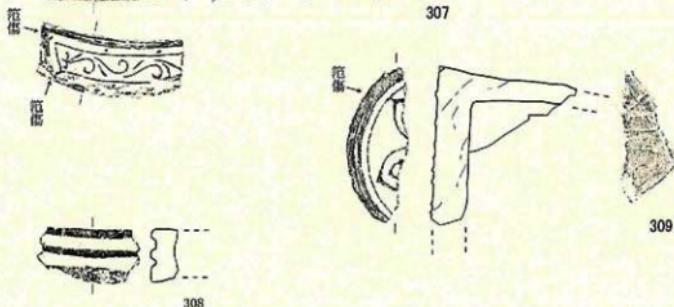
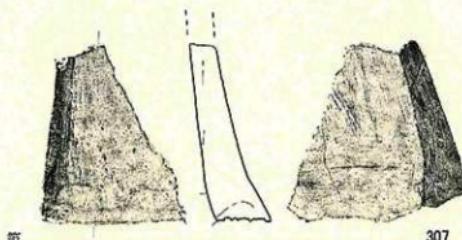
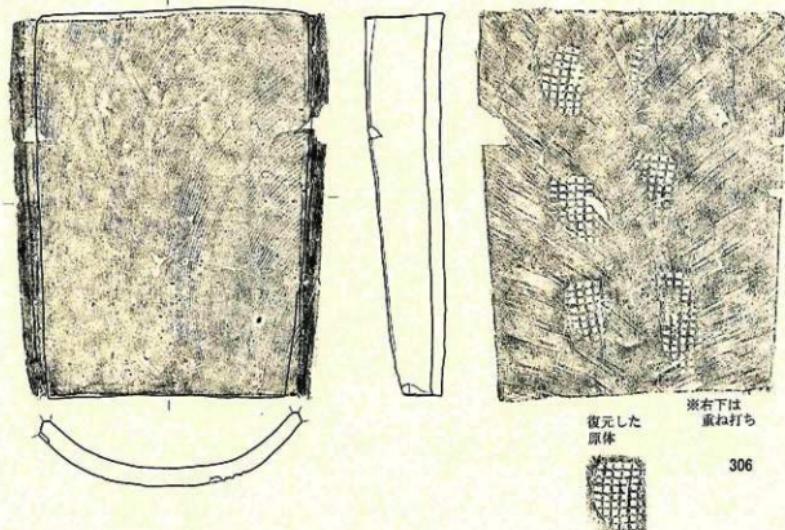
304



305

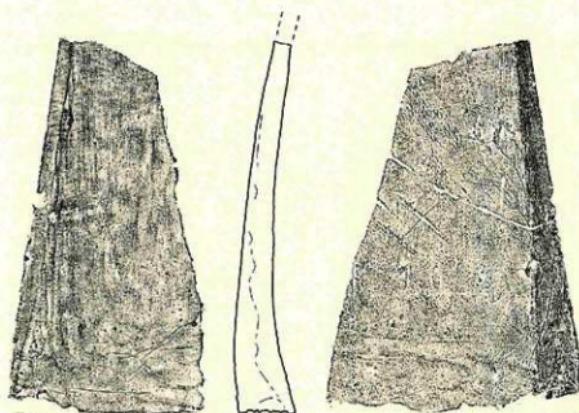
0 1:4 10cm

第153図 瓦59 伽藍地北辺外側(2)

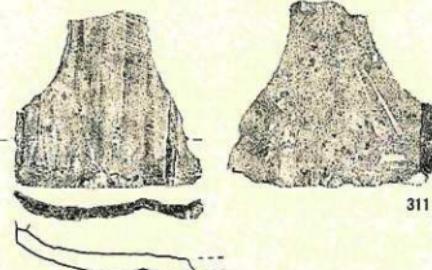


0 1:8 10cm  
0 1:4 10cm

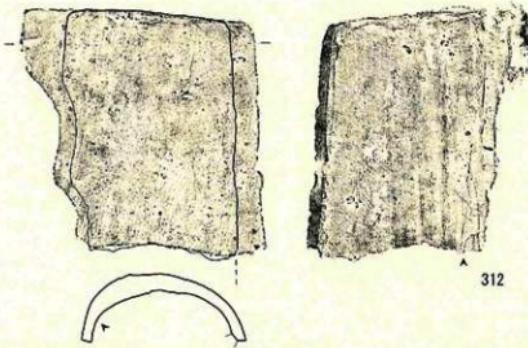
第154図 瓦60 加賀地北辺外側(3)



310



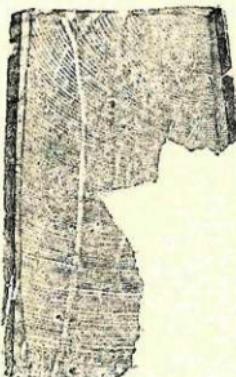
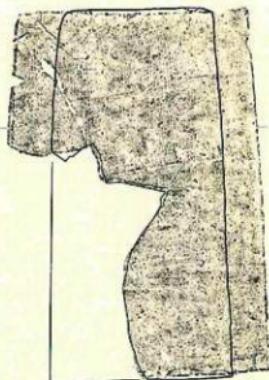
311



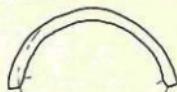
312

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第155圖 瓦61 伽藍地北邊外側(4)



313



314



314



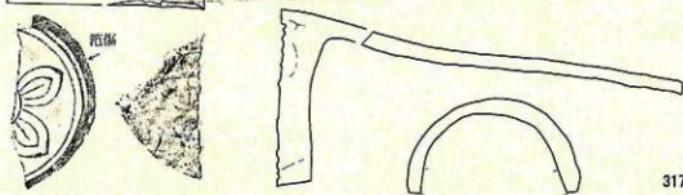
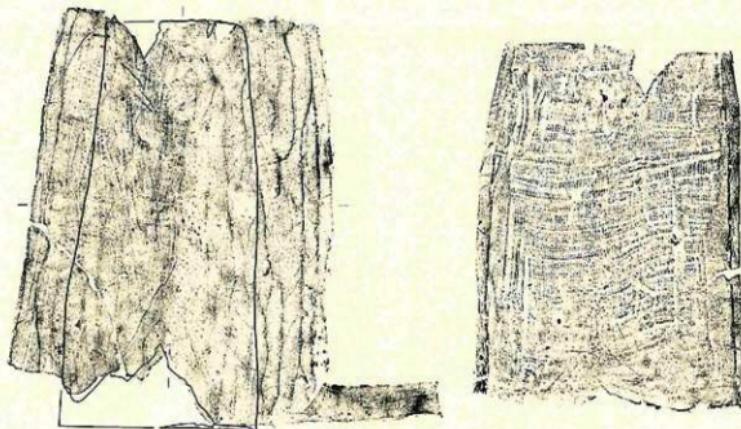
315



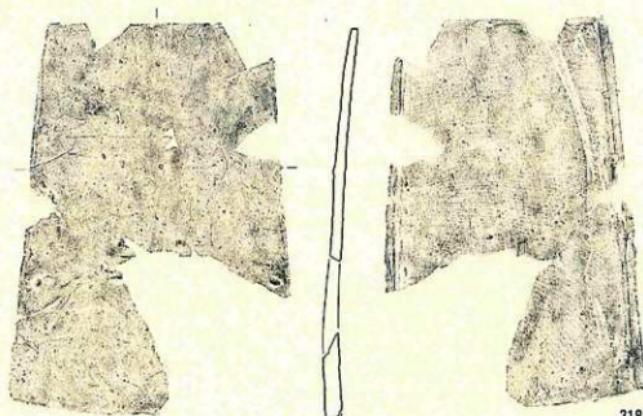
316



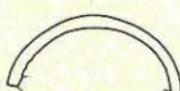
第156図 瓦62 伽藍地北辺外側(5)



317

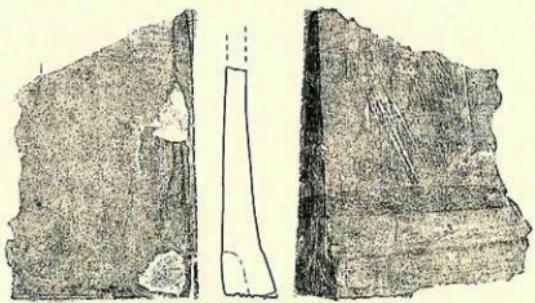


318

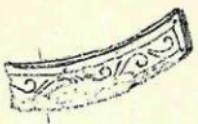


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

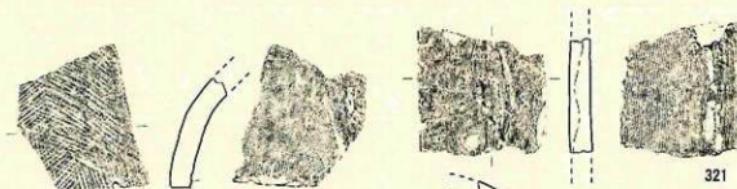
第157图 瓦63 蓝地北边外侧(6)



319

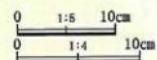


伽藍地区画北東隅



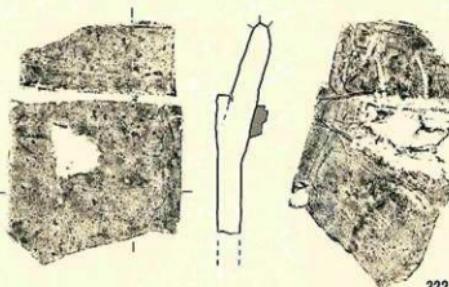
321

320

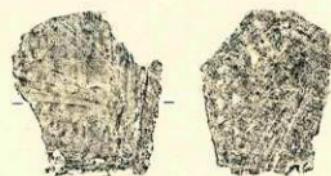


第158圖 瓦64 伽藍地北邊外側(7)・伽藍地區畫北東隅(1)

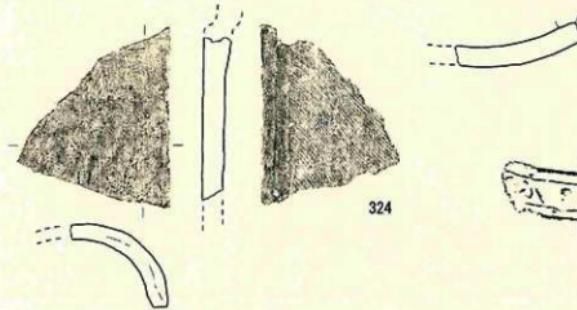
231



322



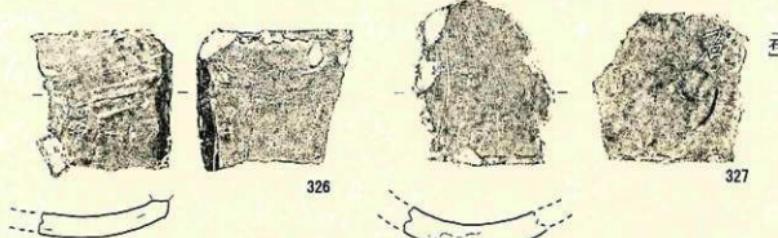
323



324



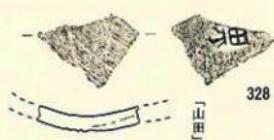
325



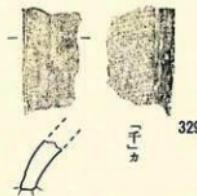
326

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

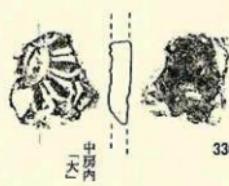
第159圖 瓦65 伽藍地區西北東隅(2)



328



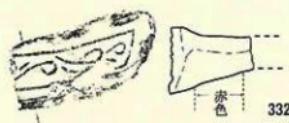
329



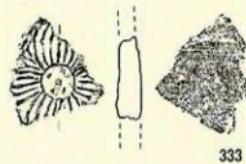
330



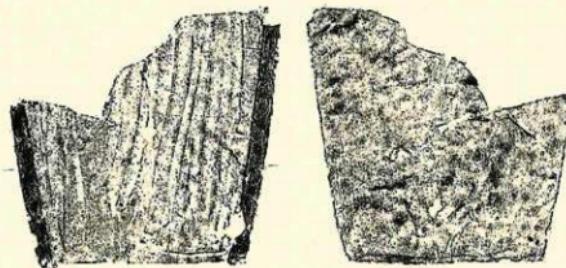
331



332



333

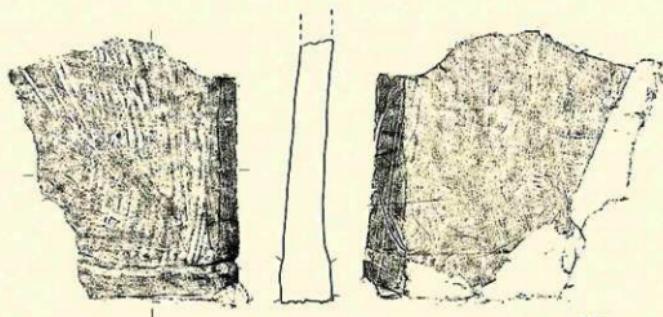


334

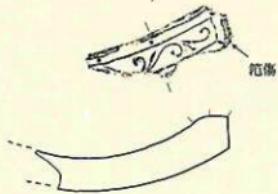


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

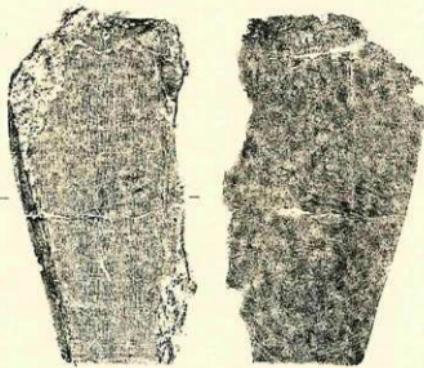
第160図 瓦66 伽藍地区面北東隅(3)



335



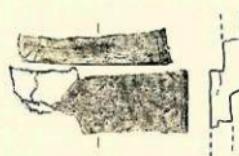
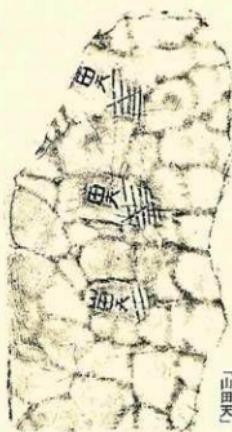
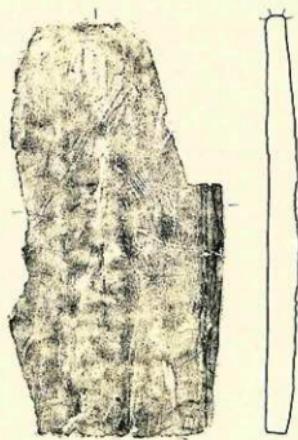
336



337

0	1:5	10cm
0	1:4	10cm

第161圖 瓦67 伽藍地區畫北東隅(4)



339

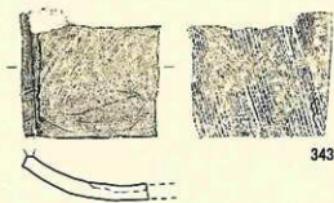
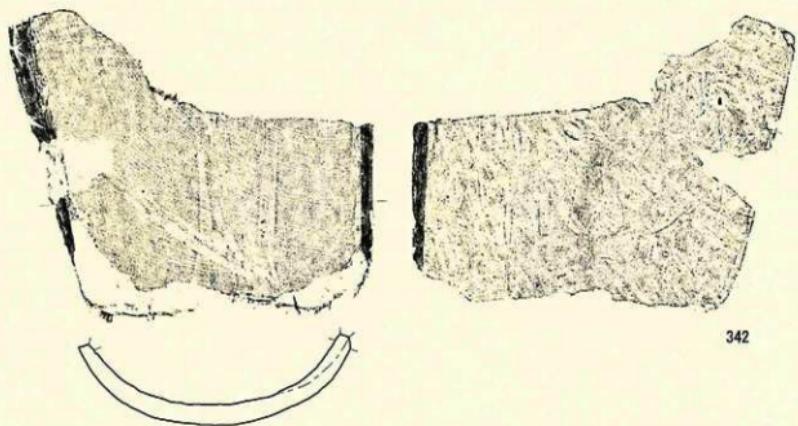


340

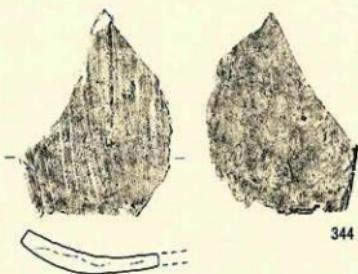


0 1:5 10cm

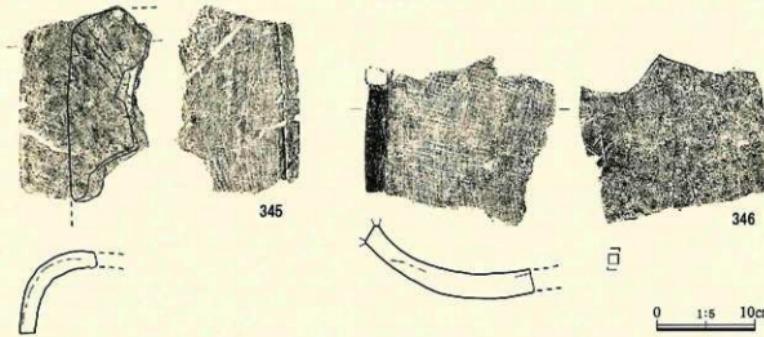
第162図 瓦68 伽藍地区面北東隅(5)



343

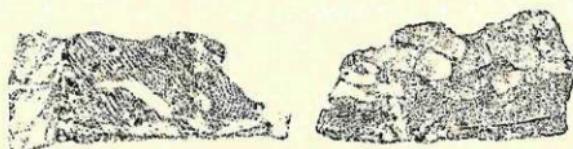


344

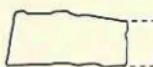
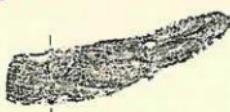


0 1:5 10cm

第163図 瓦69 伽藍地区画北東隅(6)



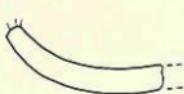
347



348



349



1/万50



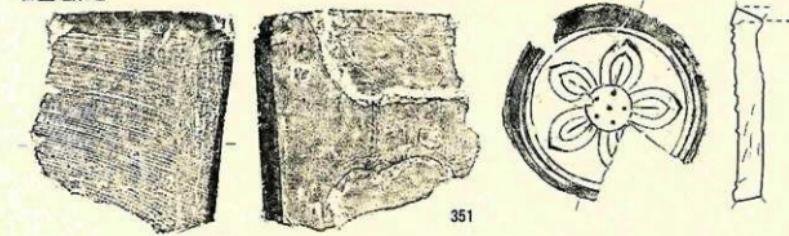
350



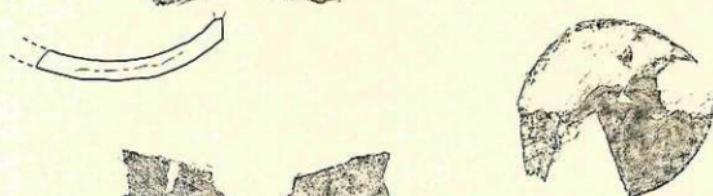
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第164圖 瓦70 伽藍地區西北東隅(7)

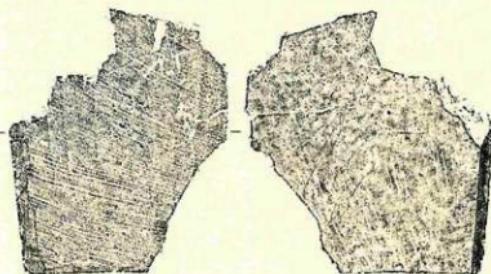
伽藍地東邊



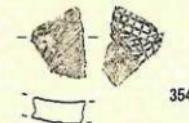
351



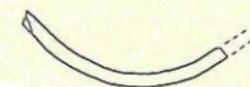
352



353



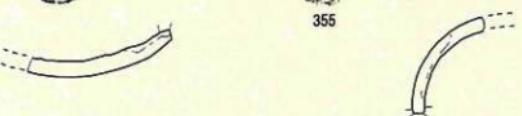
354



355

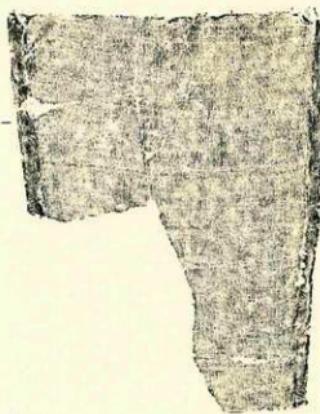


356

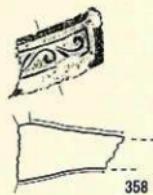


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第165図 瓦71 伽藍地東邊(1)



357



358



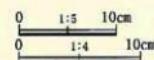
359



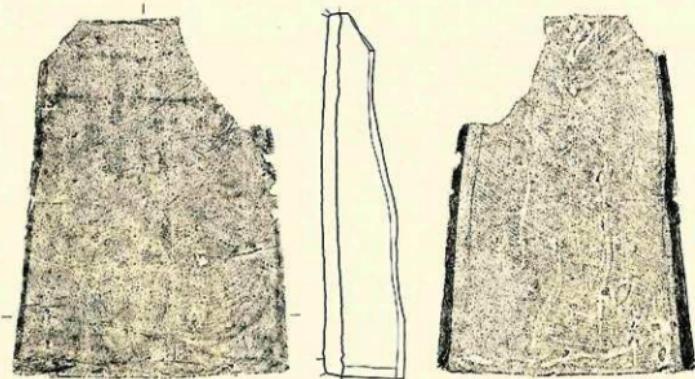
360



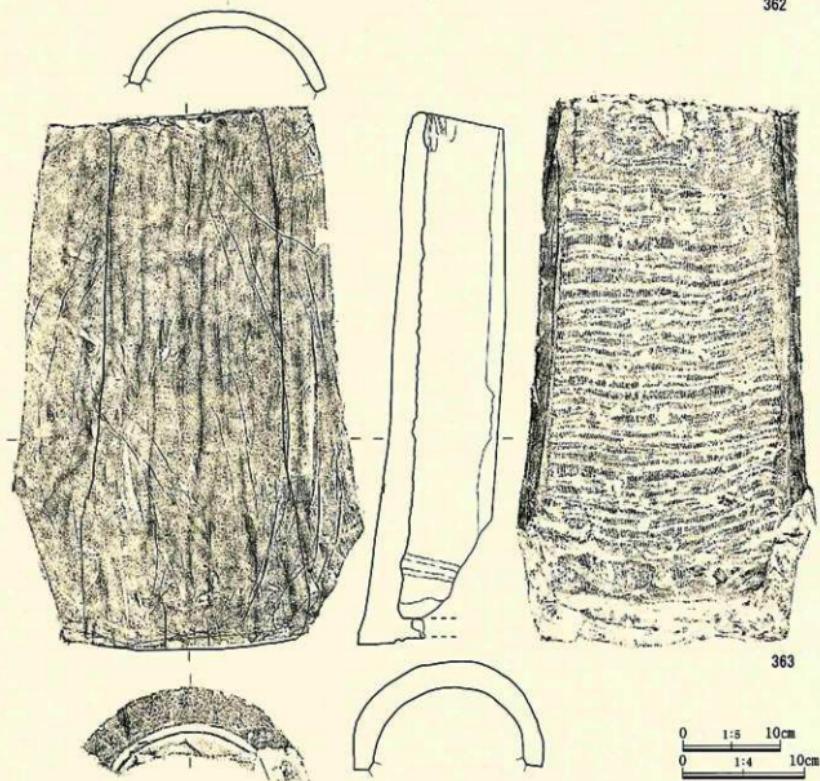
361



第166図 瓦72 伽藍地東辺(2)



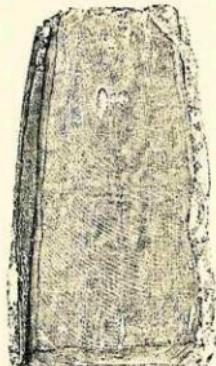
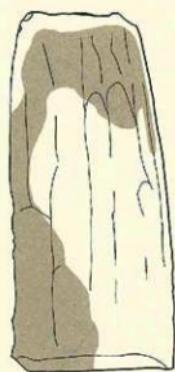
362



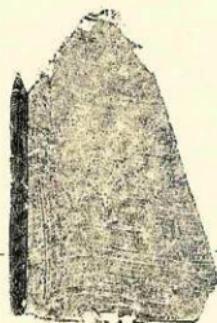
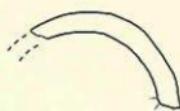
363

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第167圖 瓦73 伽藍地東邊(3)



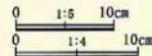
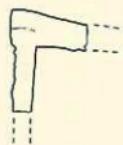
364



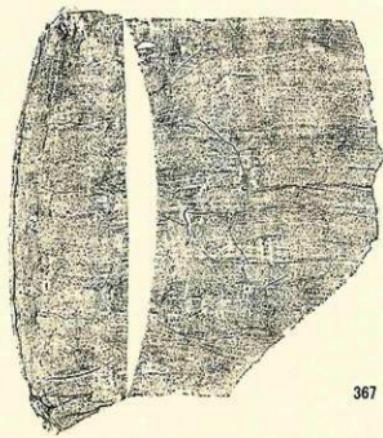
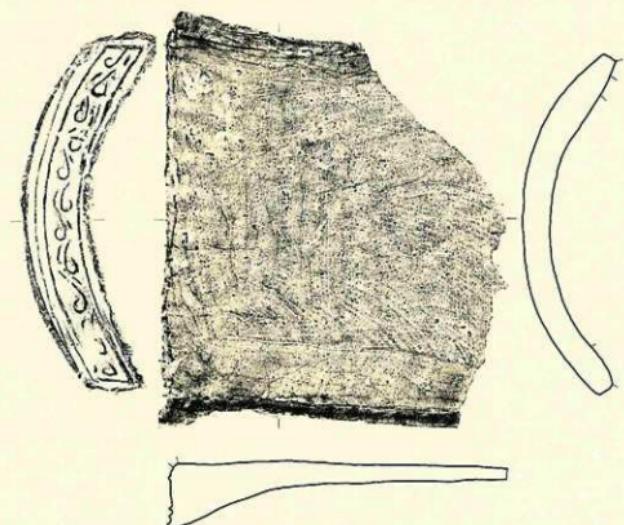
365



366



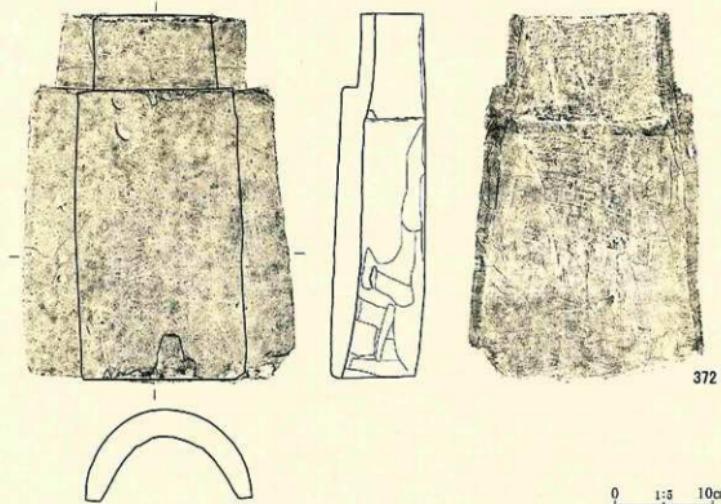
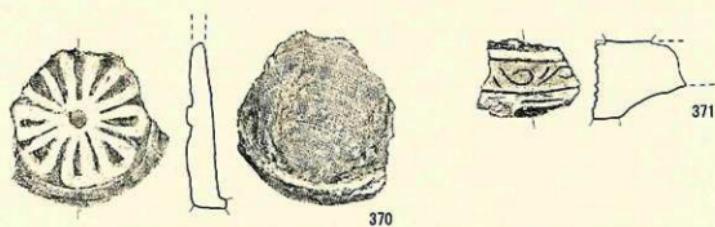
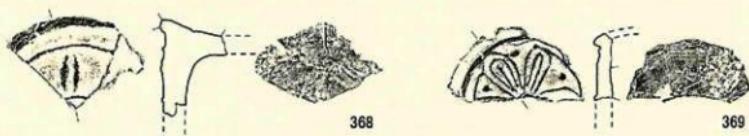
第168図 瓦74 加藍地東辺(4)



367

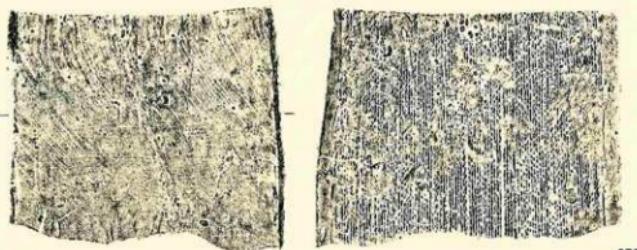
0 1:4 10cm

第169図 瓦75 加藍地東辺(5)

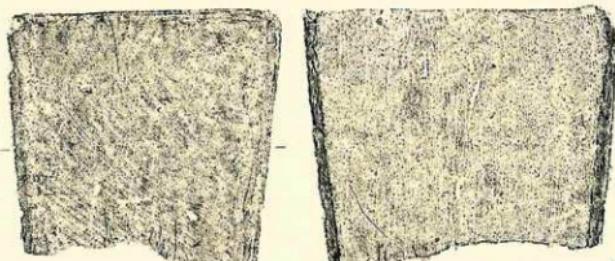


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

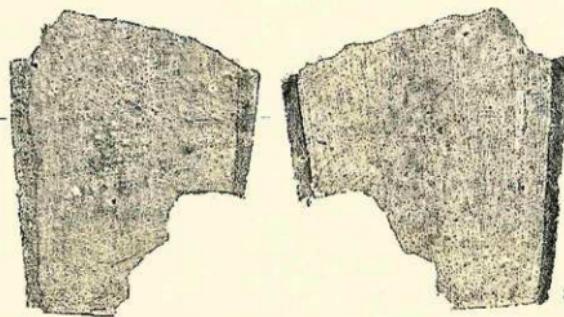
第170圖 瓦76 伽藍地東邊(6)



373



374

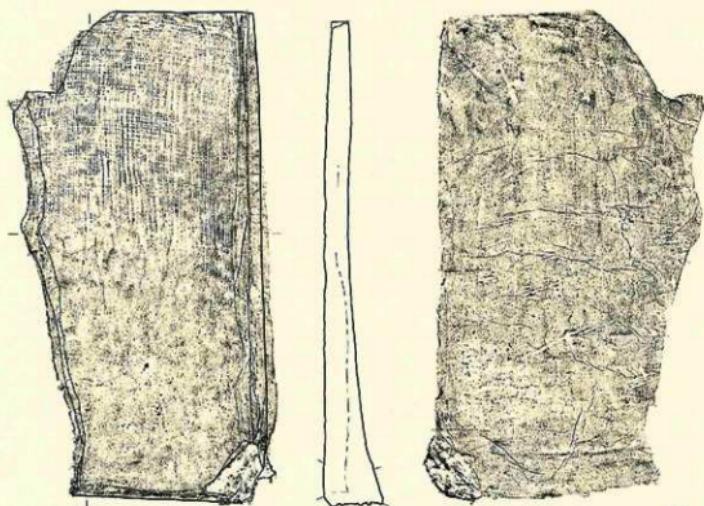


375

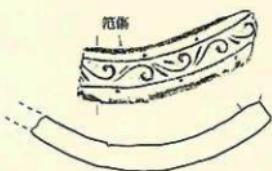


0 1:5 10cm

第171図 瓦77 伽藍地東辺(7)



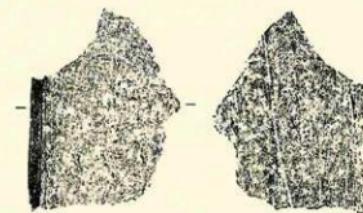
376



377



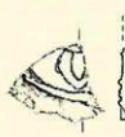
378



379

0 1:6 10cm  
0 1:4 10cm

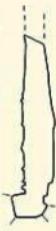
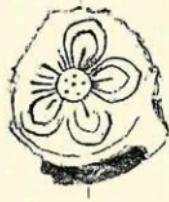
第172圖 瓦78 仰藍地東邊(8)



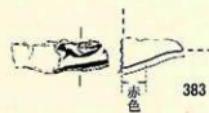
380



381



382



383



384



385



386



387



388

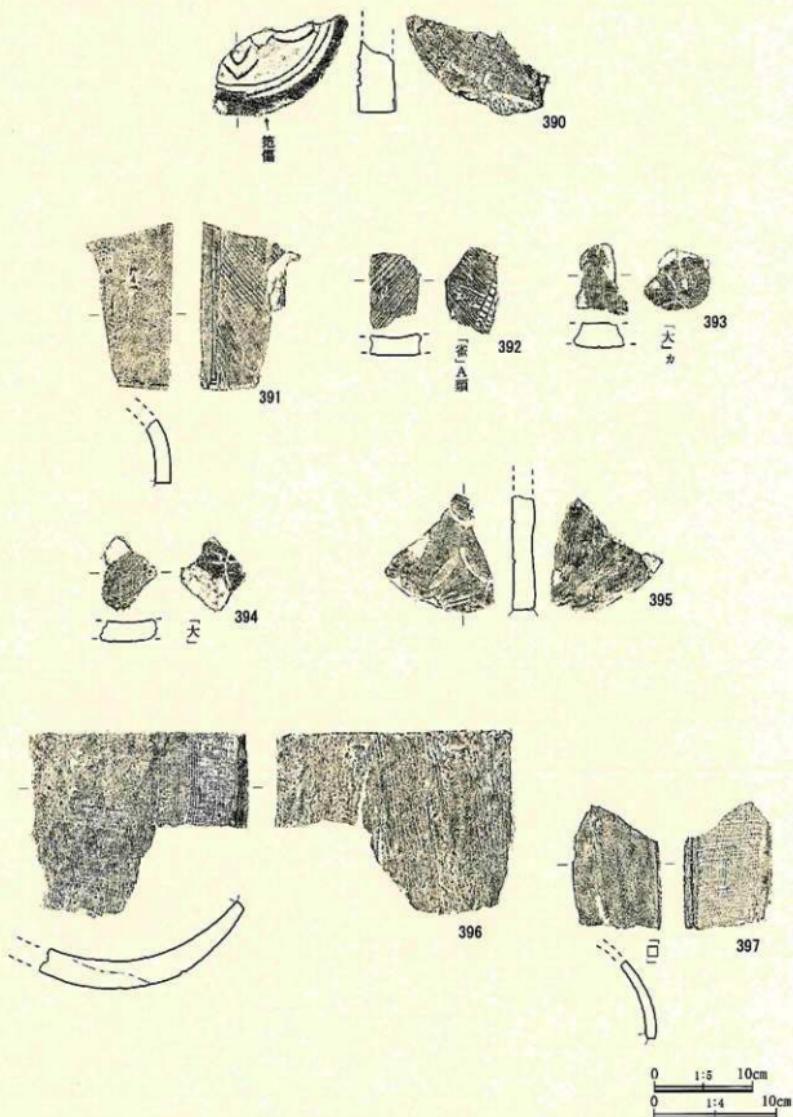


389

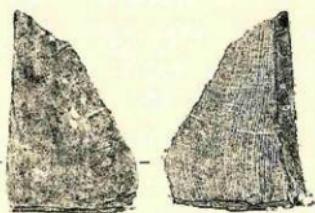
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第173圖 瓦79 伽藍地東邊(9)

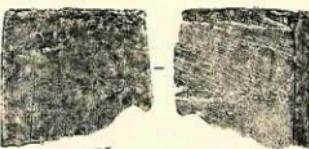
伽藍地南辺



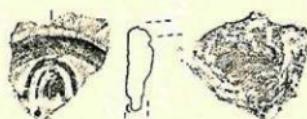
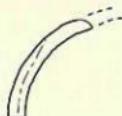
第174圖 瓦80 伽藍地南辺(1)



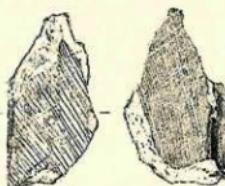
398



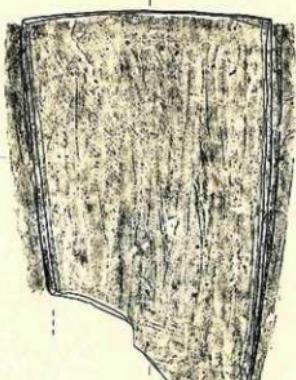
399



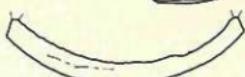
400



401

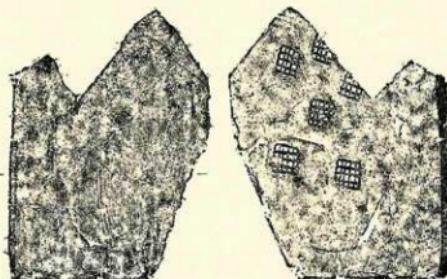
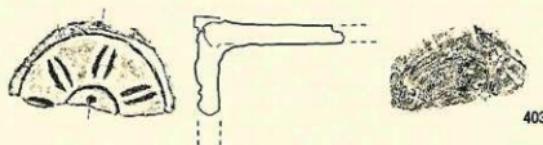
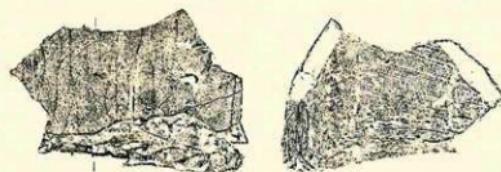


402

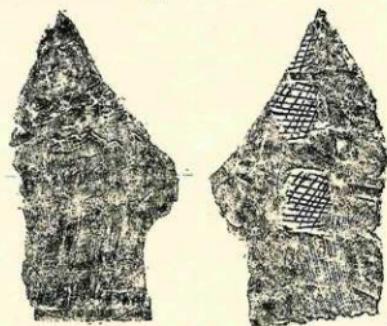


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第175図 瓦81 伽藍地南辺(2)



404

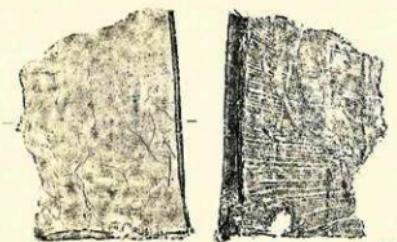


405

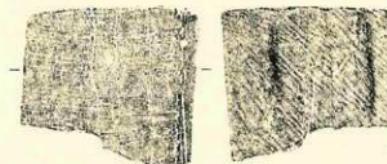


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

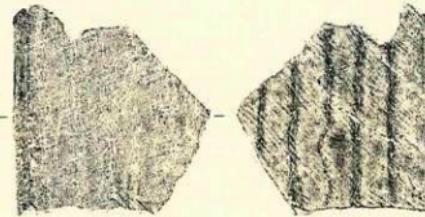
第176図 瓦82 伽藍地南辺(3)



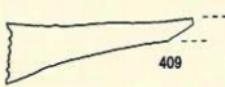
406



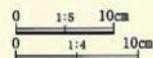
407



408

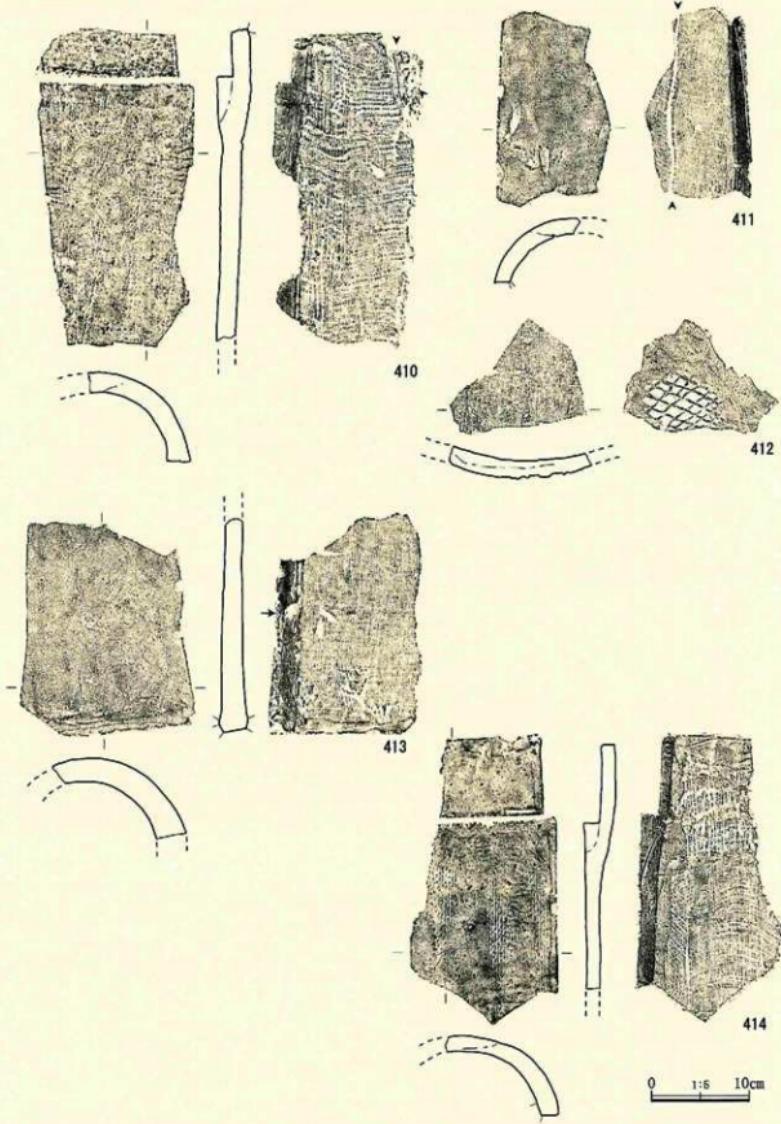


409

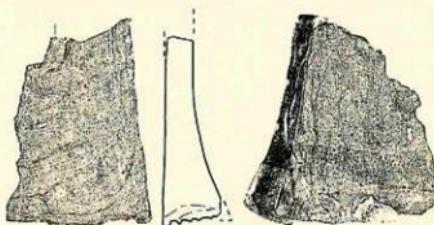


第177図 瓦83 伽藍地南辺(4)

伽藍地西邊



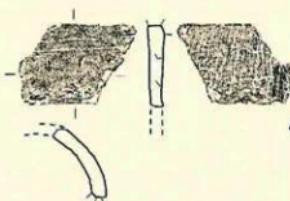
第178圖 瓦84 伽藍地西邊(1)



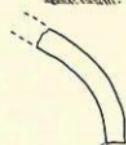
415



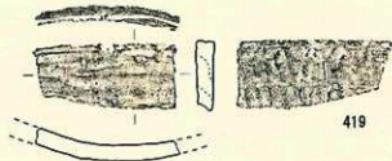
416



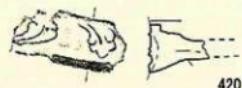
417



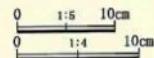
418



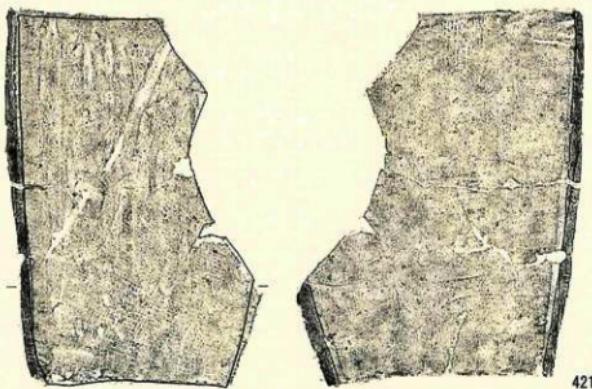
419



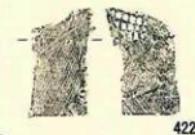
420



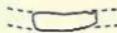
第179圖 瓦85 伽藍地西邊(2)



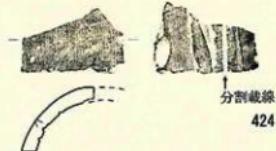
421



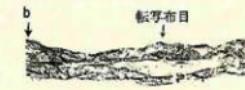
422



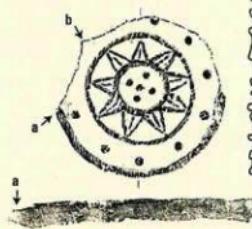
423



424



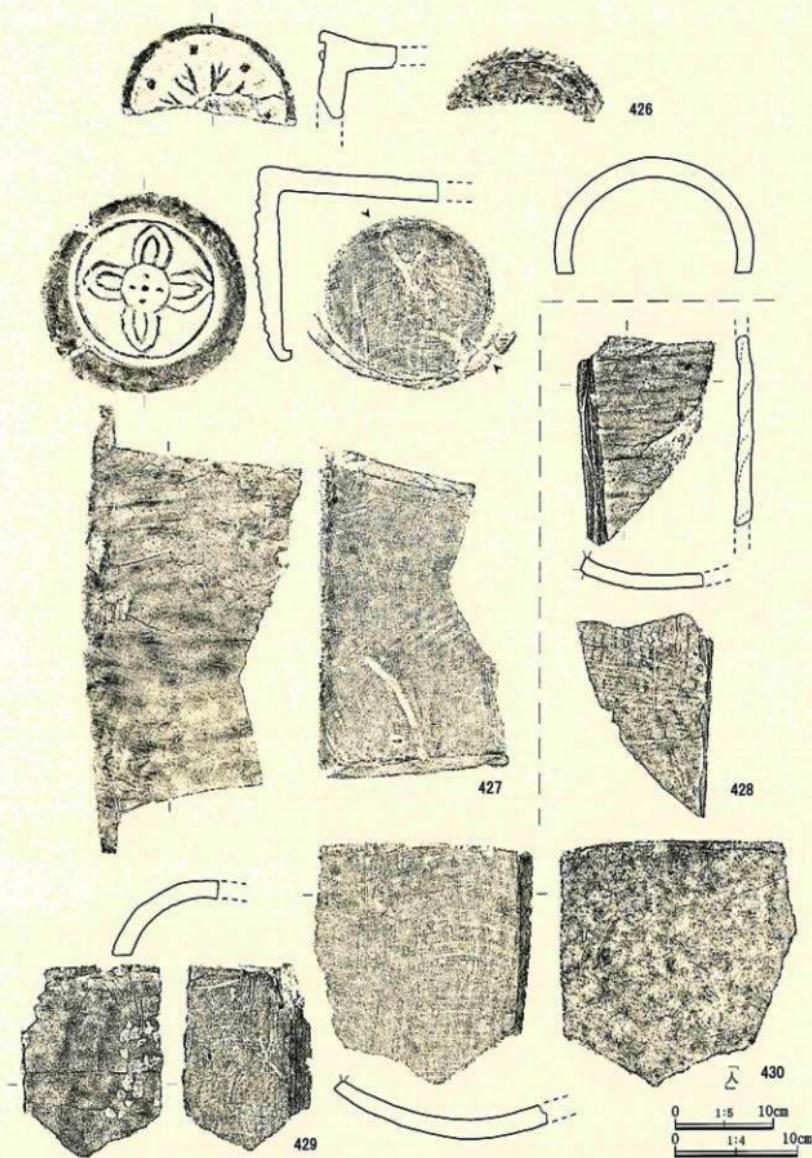
転写布目



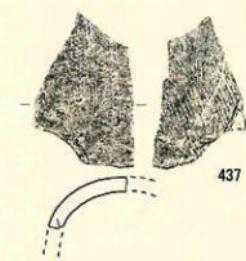
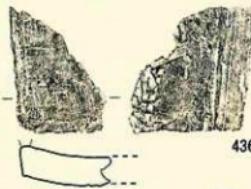
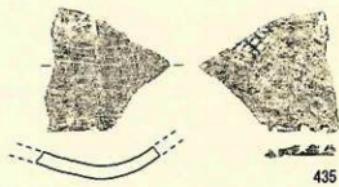
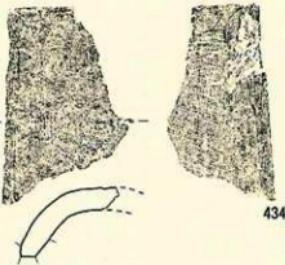
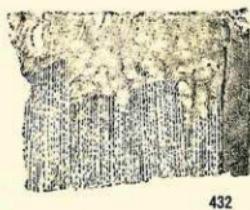
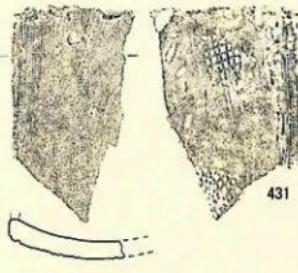
425

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第180図 瓦86 伽藍地西辺(3)

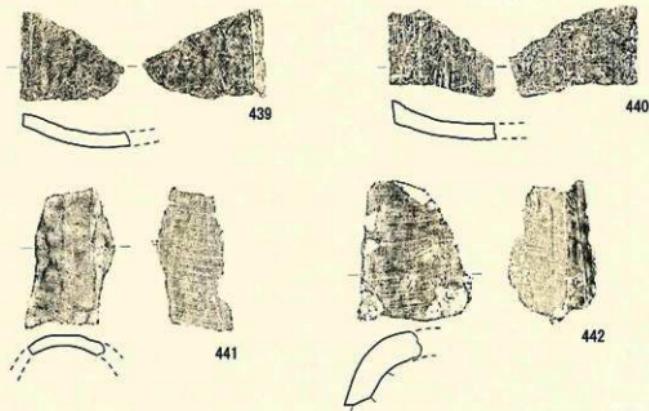


第181図 瓦87 伽藍地西邊(4)

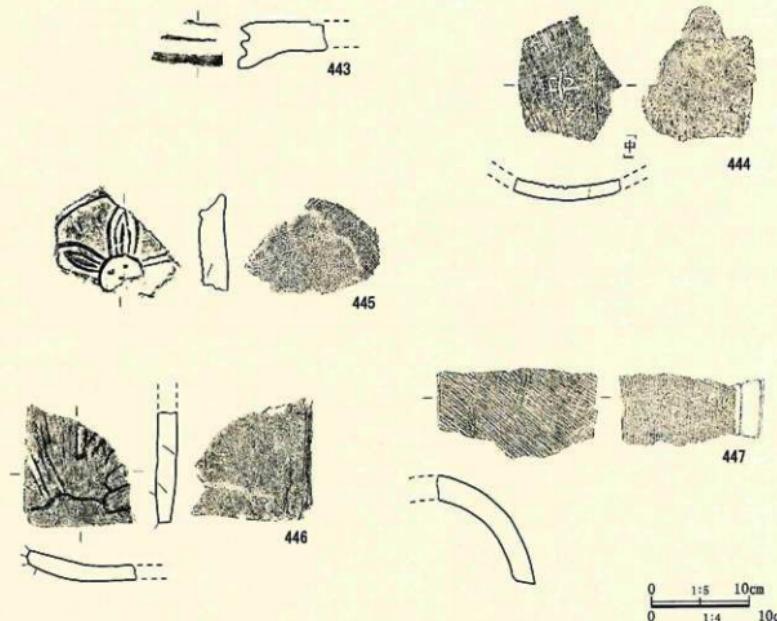


0 1:5 10cm

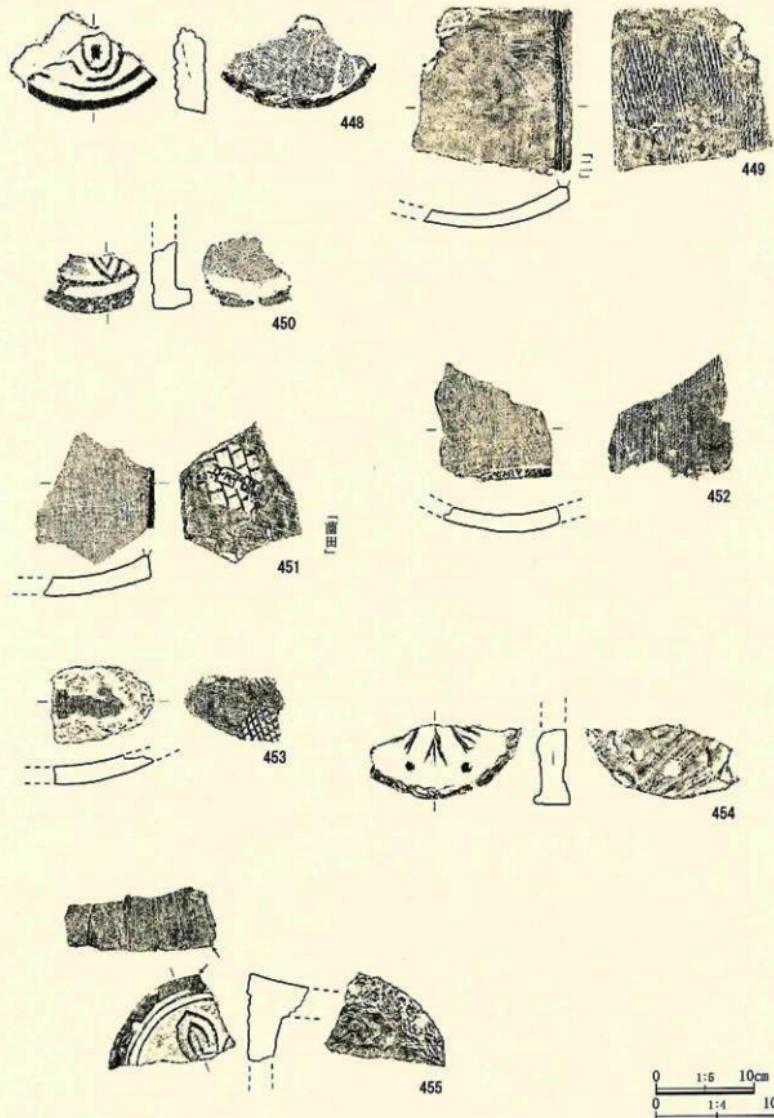
第182圖 瓦88 伽藍地西邊(5)



講堂



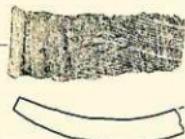
第183圖 瓦89 伽藍地西邊(6)・講堂(I)



第184図 瓦90 講堂(2)



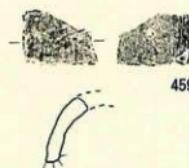
456



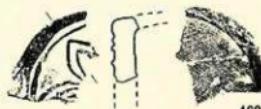
457



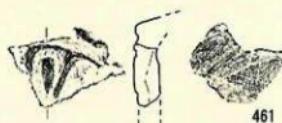
458



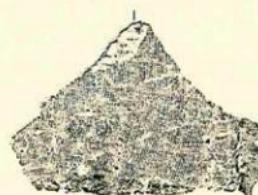
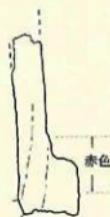
459



460



461

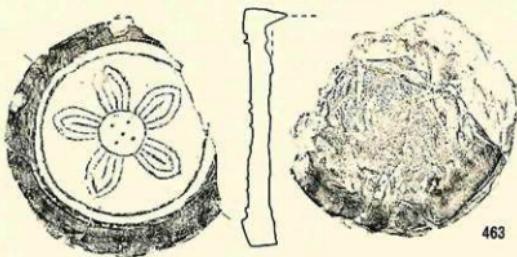
馬  
カ

462



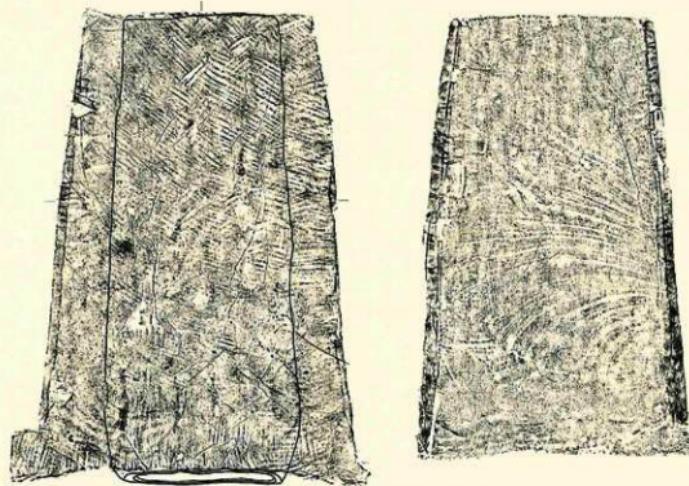
0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第185図 瓦91 講堂(3)

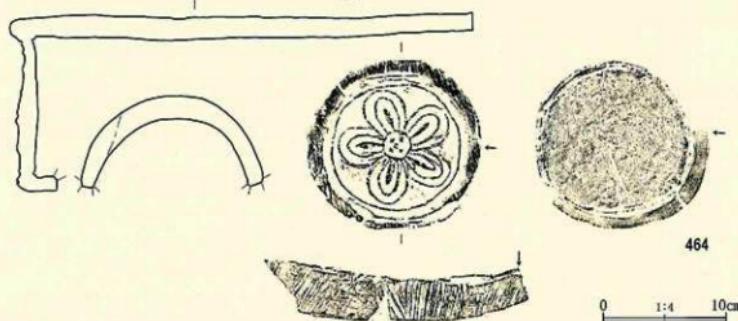


463

金堂西側瓦溜り

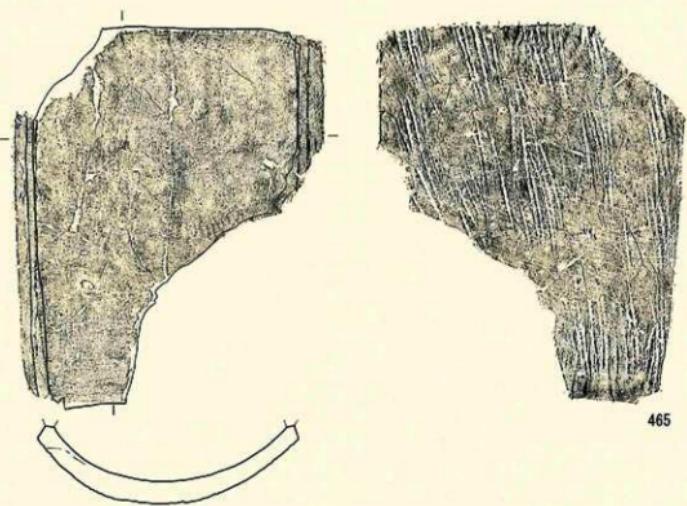


464

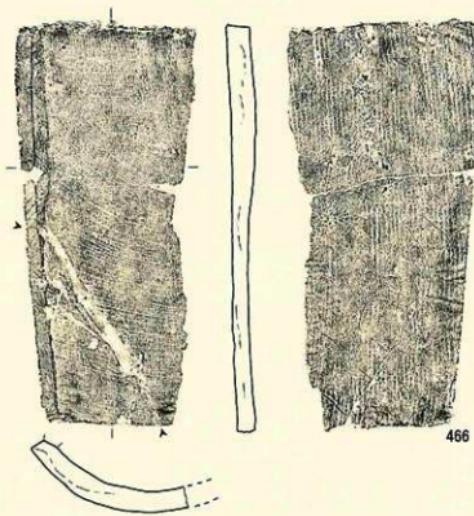


0 1:4 10cm

第186図 瓦92 講堂(4)・金堂西側瓦溜り(1)



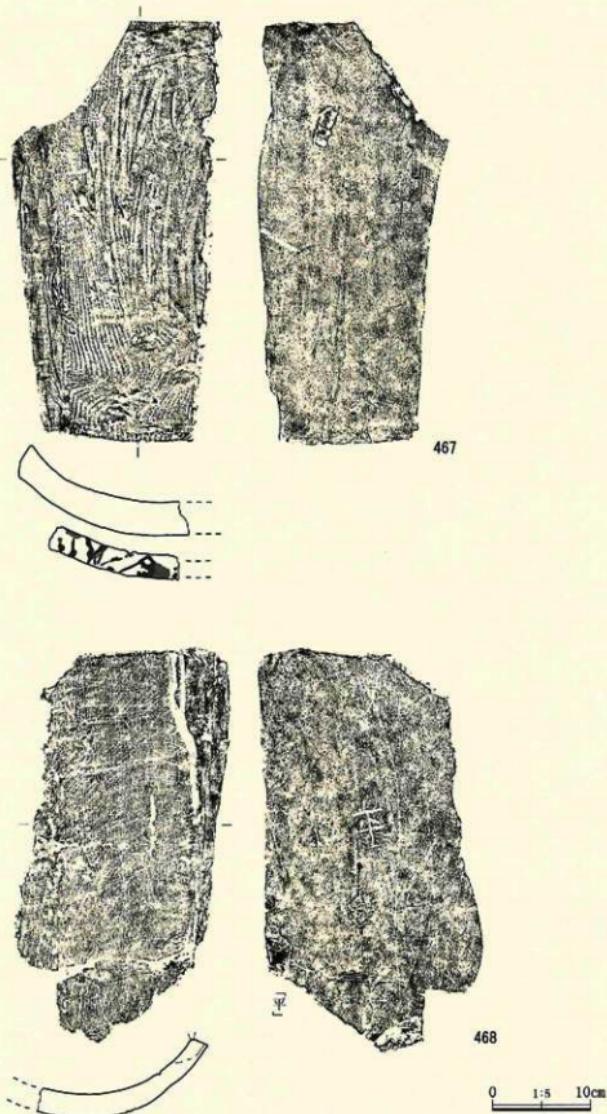
465



466

0 1:5 10cm

第187図 瓦93 金堂西側瓦溜り(2)



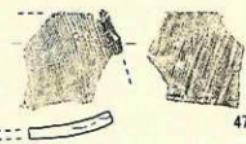
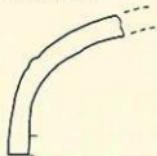
第188図 瓦94 金堂西側瓦溜り(3)



山



469



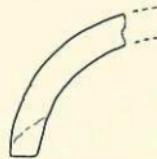
470



井

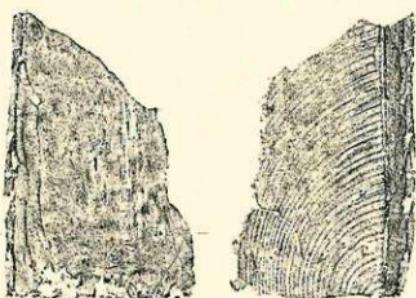


471

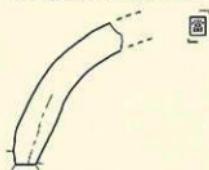


0 1:5 10cm

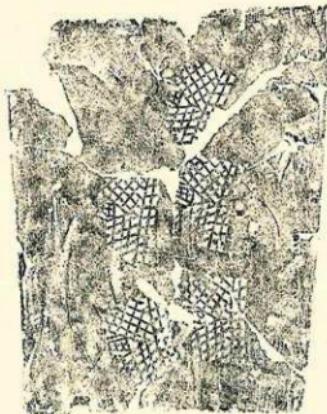
第189図 瓦95 金堂西側瓦溜り(4)



472

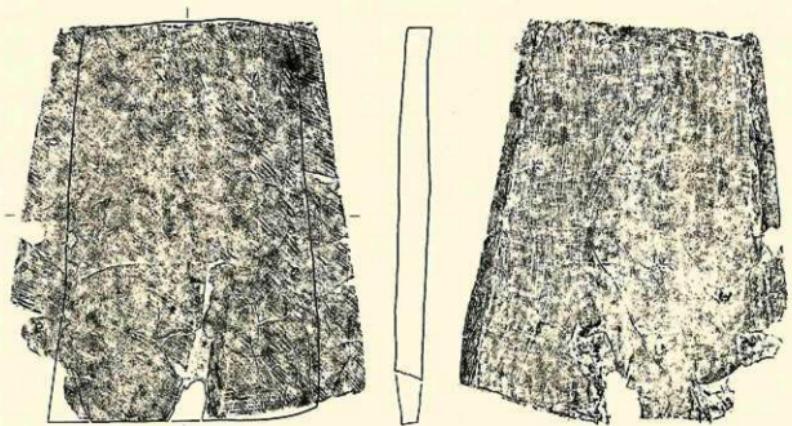


473

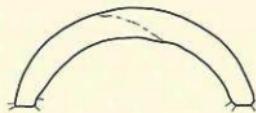


0 1:5 10cm

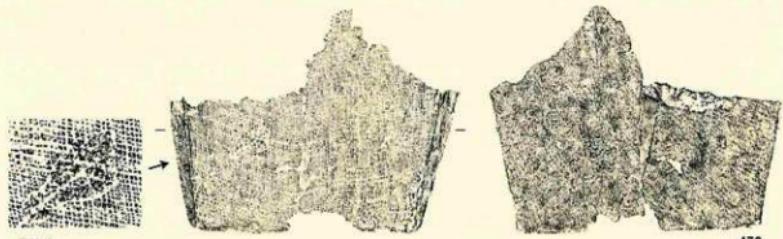
第190図 瓦96 金堂西側瓦溜り(5)



474



475



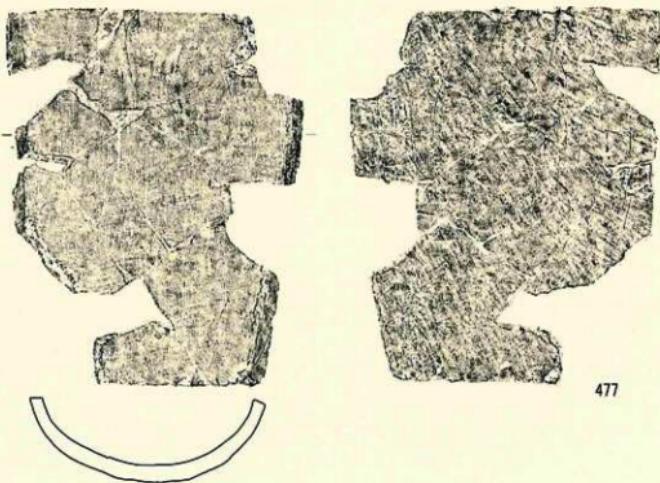
S=1:2

476

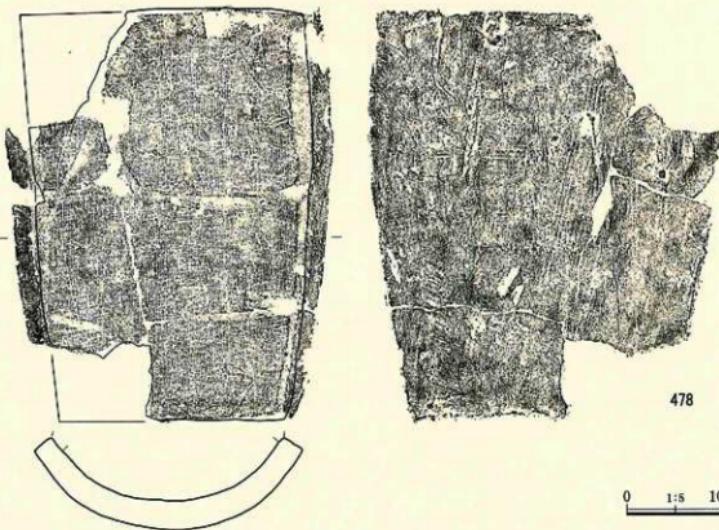


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第191図 瓦97 金堂西側瓦溜り(6)



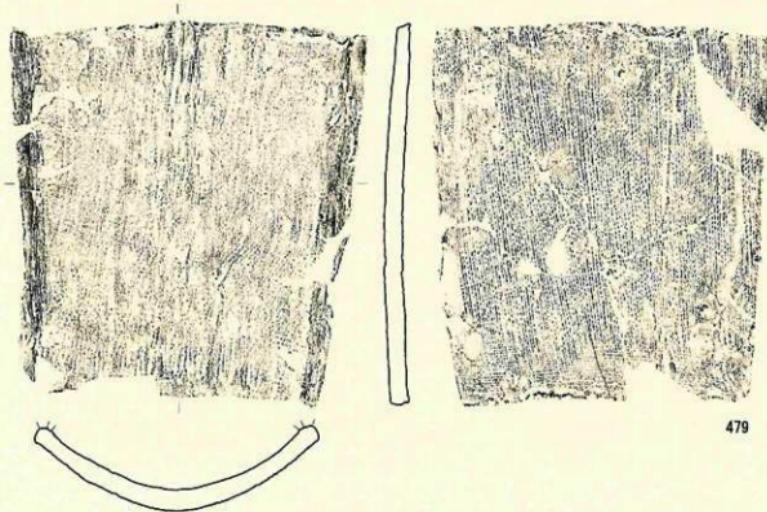
477



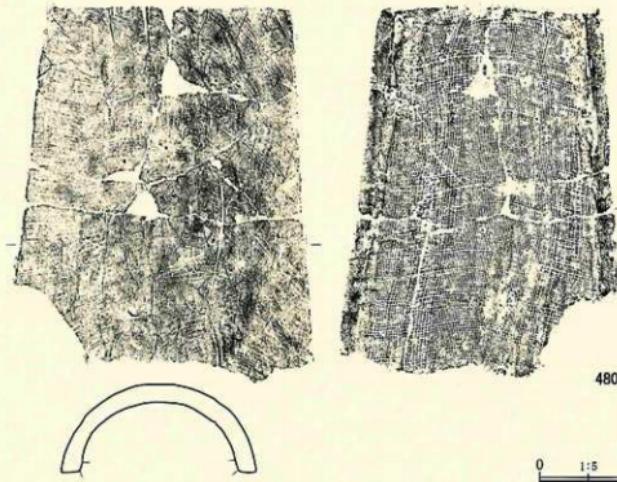
478

0 1:5 10cm

第192図 瓦98 金堂西側瓦溜り(7)



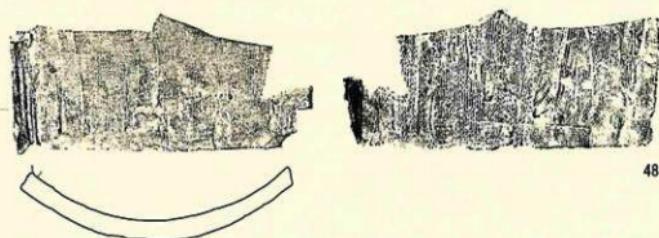
479



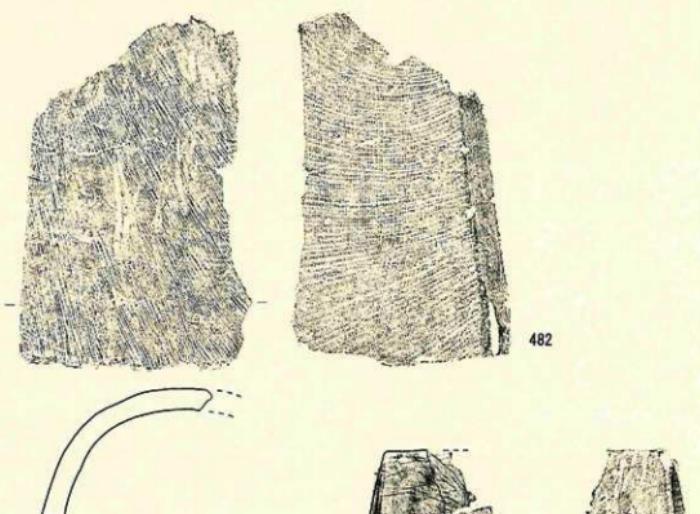
480

0 1:5 10cm

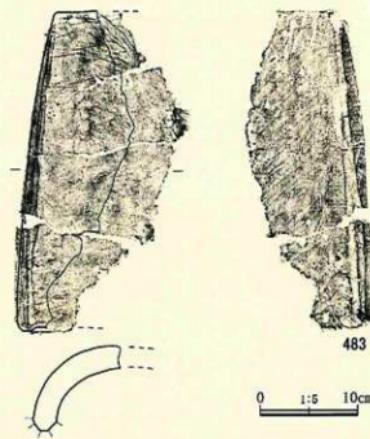
第193図 瓦99 金堂西側瓦溜り(8)



481



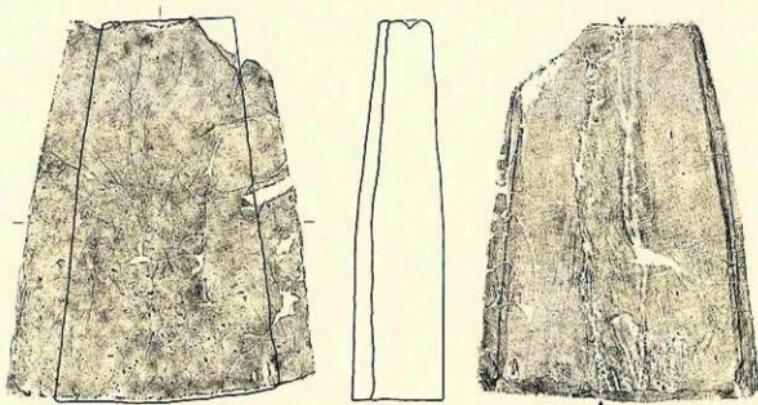
482



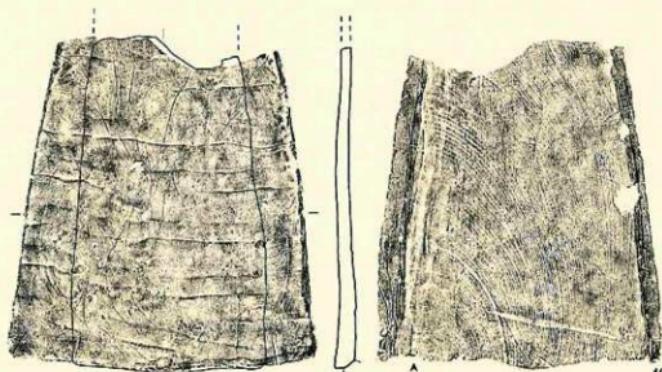
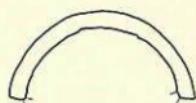
483

0 1:5 10cm

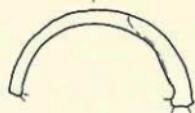
第194図 瓦100 金堂西側瓦溜り(9)



484



485



0 1:5 10cm

第195図 瓦101 金堂西側瓦溜り(10)

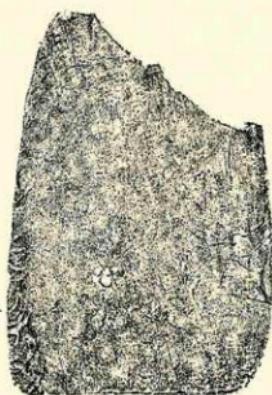
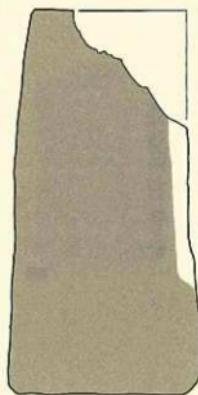
0919



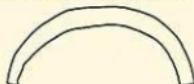
486



0915

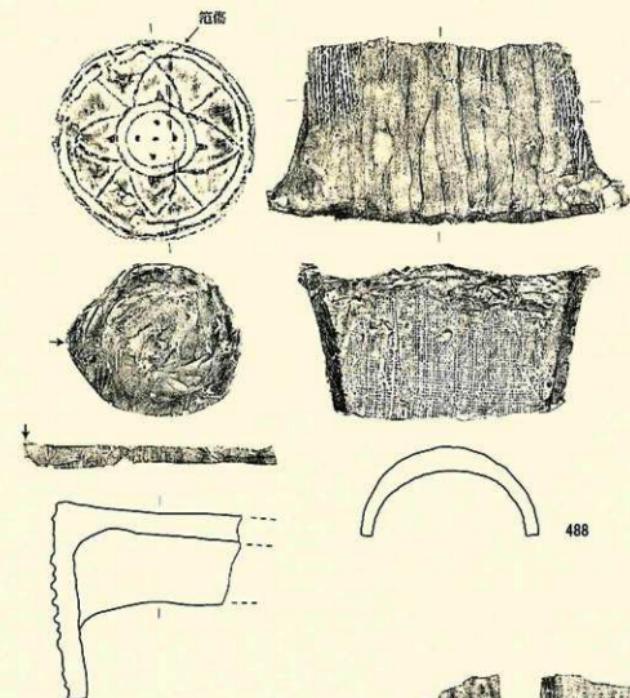


487

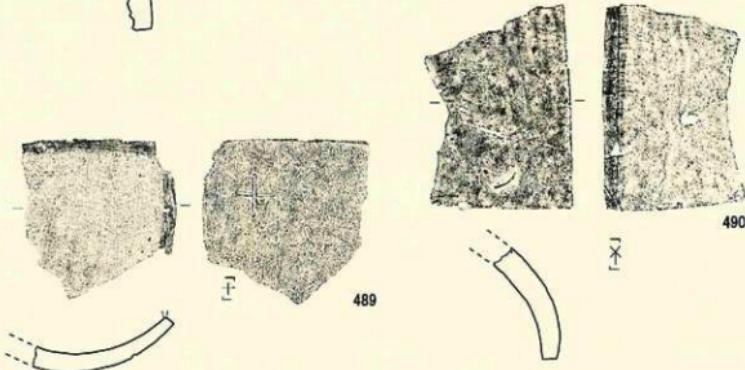


0 1:5 10cm

第196図 瓦102 金堂西側瓦溜り(11)



488

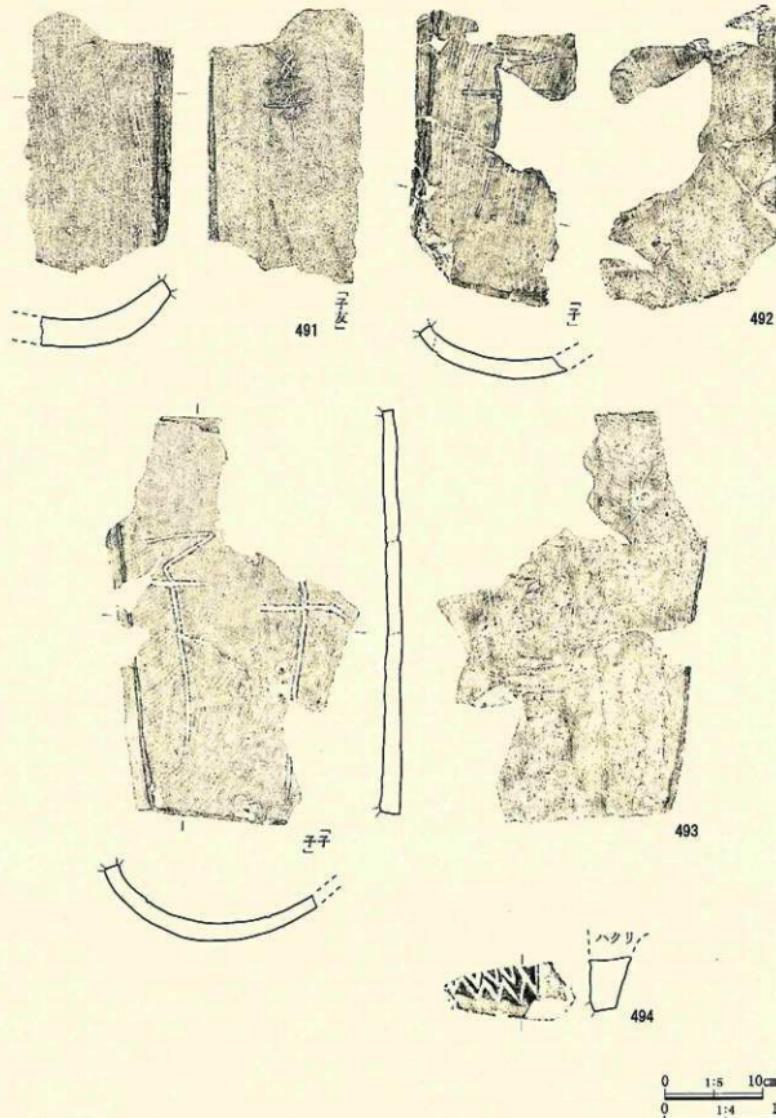


490

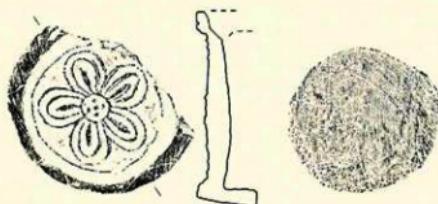
X

0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

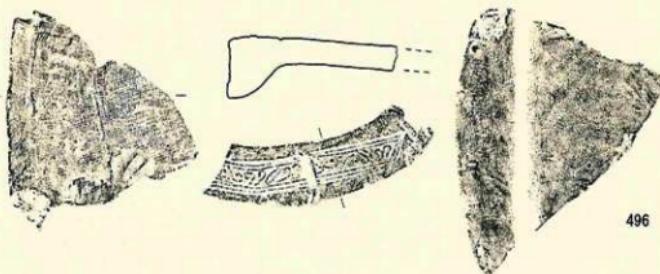
第197図 瓦103 金堂西側瓦溜り(12)



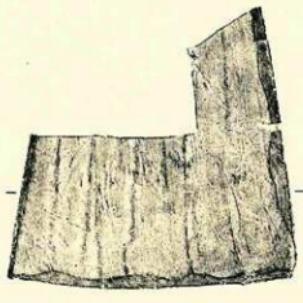
第198図 瓦104 金堂西側瓦溜り(13)



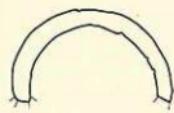
495



496

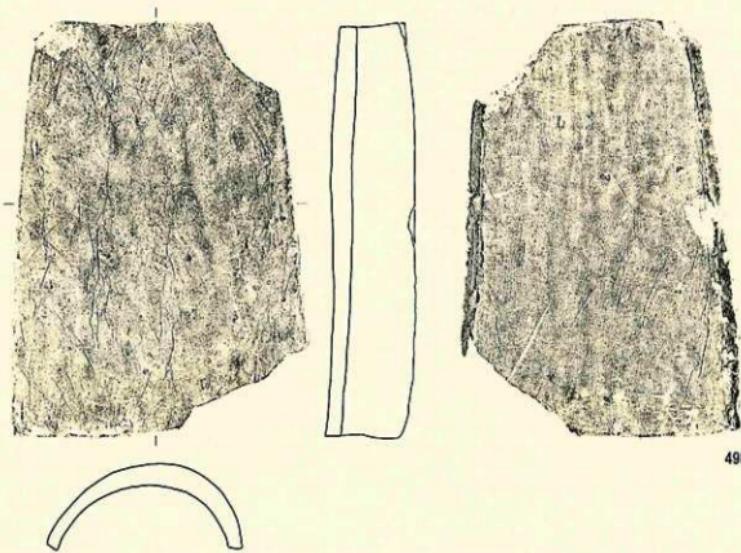


497

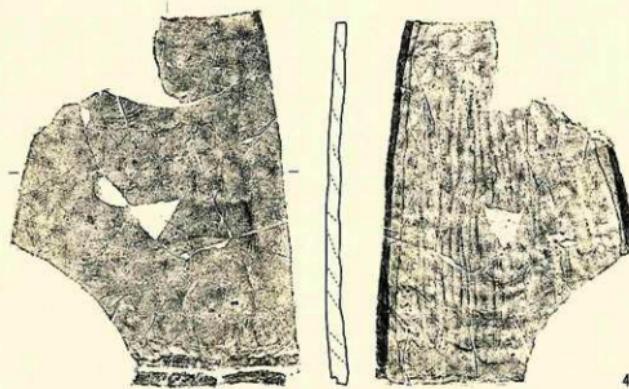


0 1:5 10cm  
0 1:4 10cm

第199図 瓦105 金堂西側瓦溜り(14)



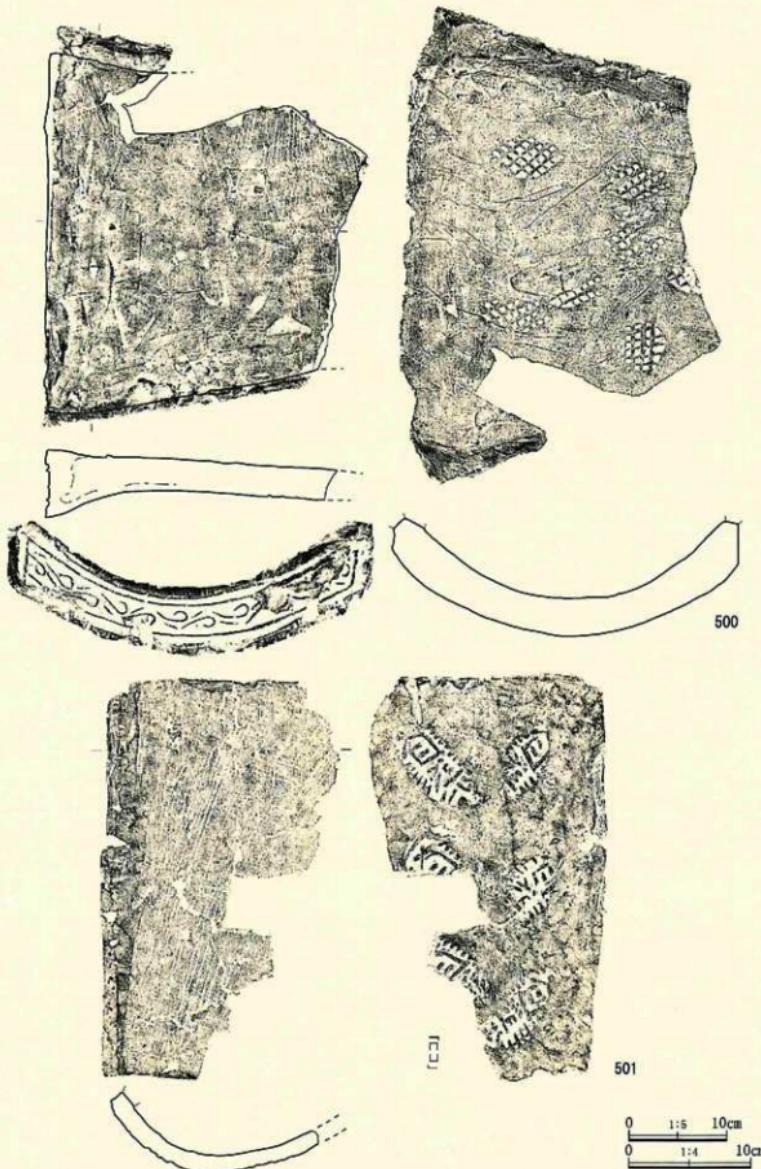
498



499

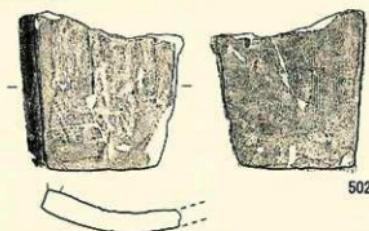
0 1:5 10cm

第200図 瓦106 金堂西側瓦溜り(15)



第201図 瓦107 金堂西側瓦通り(16)

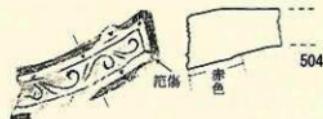
金堂西側



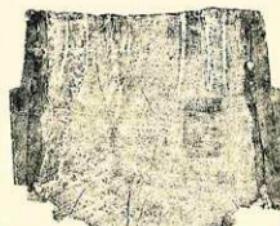
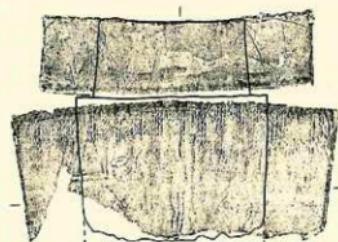
502



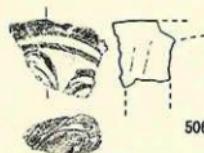
503



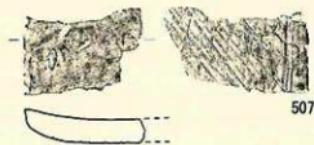
504



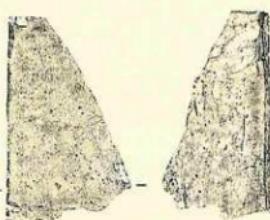
505



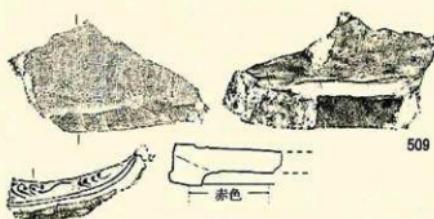
506



507



508

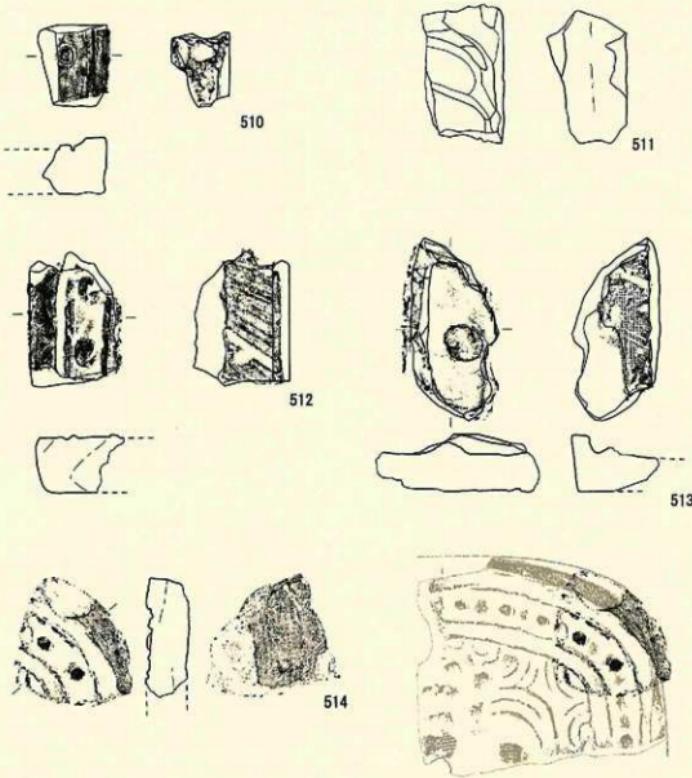


509

0 1:6 10cm  
0 1:4 10cm

第202図 瓦108 金堂西側

鬼瓦

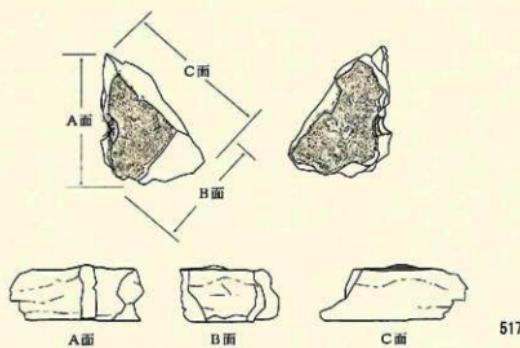


『上野国分尼寺跡 上野国分二寺中間地域』  
P47 図48(網掛)との重ね図

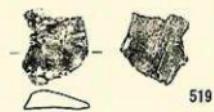
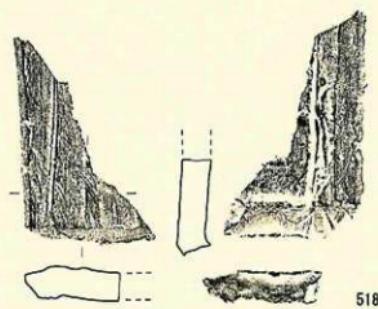


0 1:4 10cm

第203図 瓦109 鬼瓦(1)

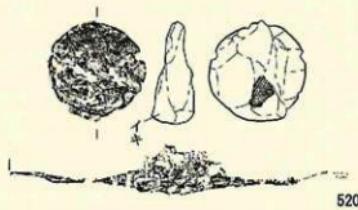


特殊瓦

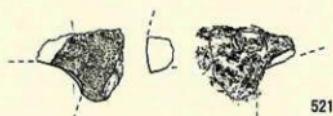


0 1:4 10cm

第204図 瓦110 鬼瓦(2)・特殊瓦(1)

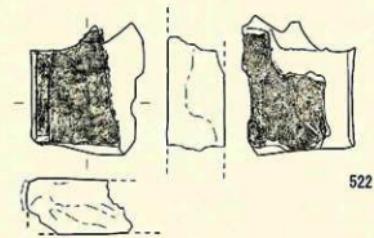


520



521

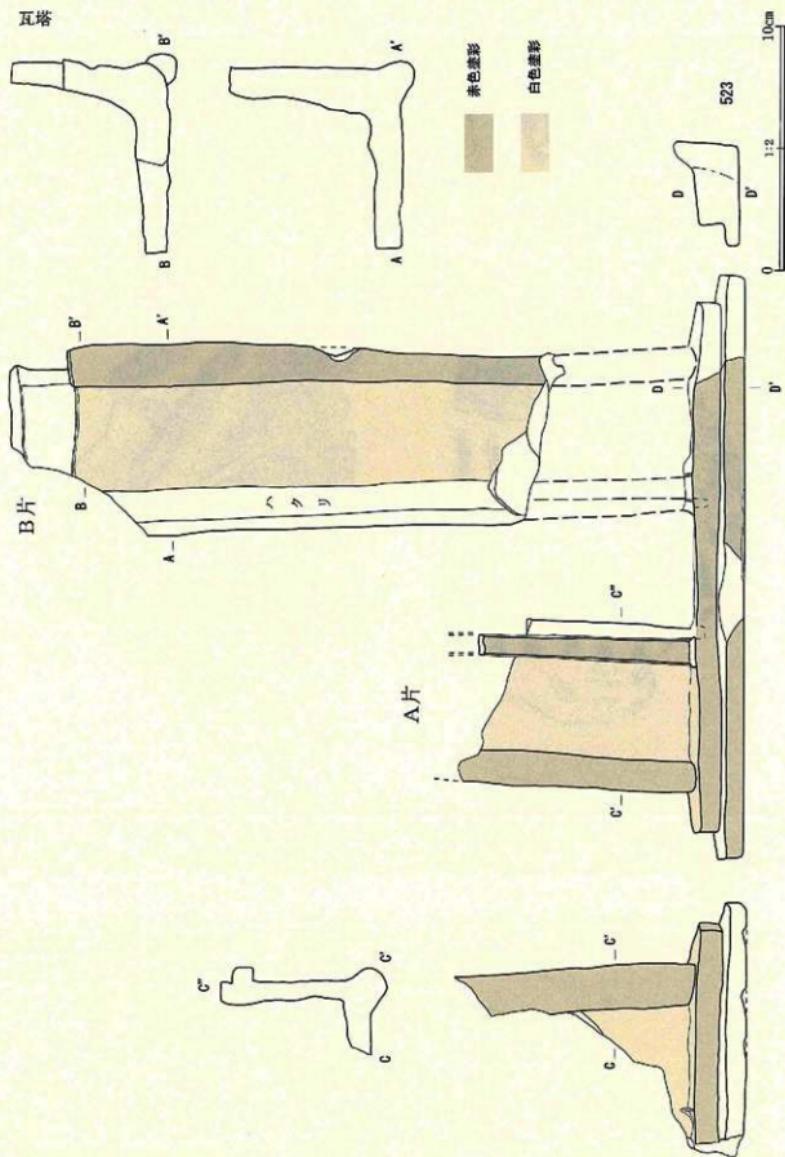
埠



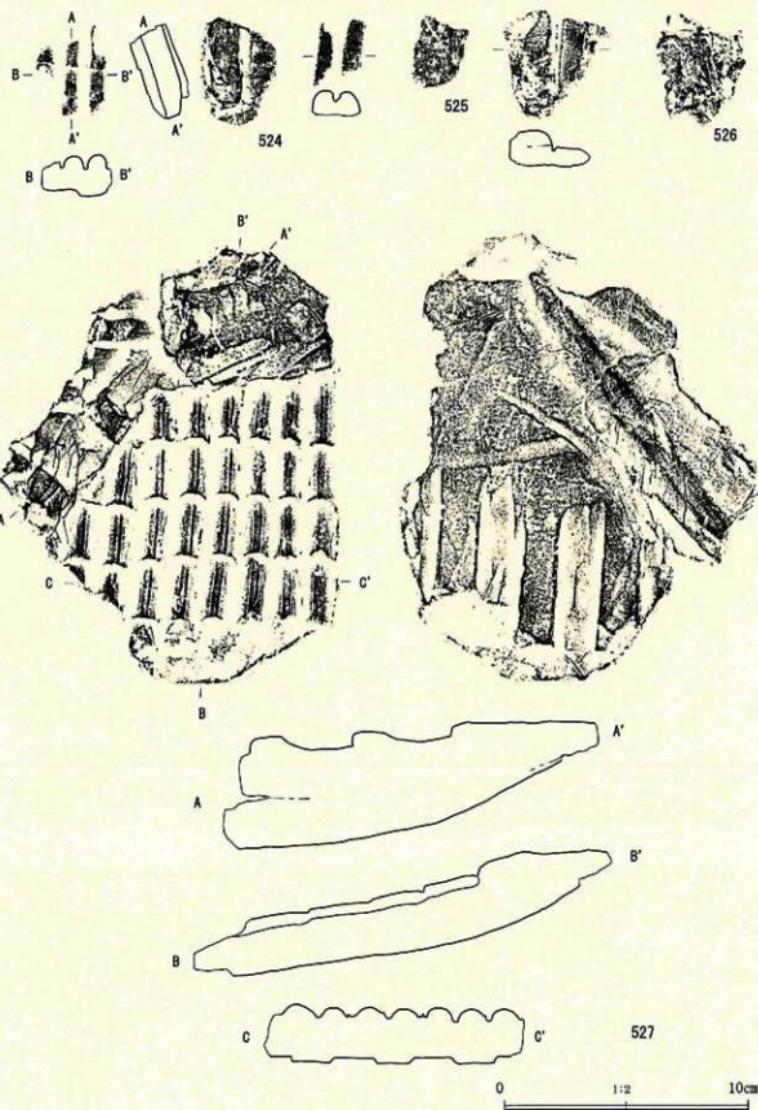
522

0 1:4 10cm

第205図 瓦111 特殊瓦(2)・埠



第206図 瓦112 瓦塔(1)



第207図 瓦113 瓦塔(2)

### 表3 遺構(トレンチ)別瓦の出土状況

各遺構(トレンチ)における瓦の出土状況は以下のとおりである。ただし、各瓦の個数(接合前)・重量kg(小数2位を切り捨て)は、As-Bを含まない遺構埋土中から出土したもののみで、平瓦には軒平瓦・丸瓦には軒丸瓦を含めている。ただし、必要に応じて表土中から出土した瓦についても触れているが、その場合には表土中からの出土であることを明記した。本文中( )内の数字は瓦類実測図の瓦類の通し番号、「文」に続く数字は文字瓦図での通し番号である。

#### 1) 金堂跡

##### ①北辺から北東隅(13-1トレンチ)

基壇外側を中心に瓦が出土した。出土量は平瓦180片・26.9kg、丸瓦63片・9.0kg。軒平瓦P008(4)、文字瓦は「格子一体型雀」A類(29 文698)などがある。また、基壇東辺の外には13-3トレンチ同様に、広端面を上に、凸面を外に向かた瓦列が検出され、そのうち1点を取り上げ図化した(1)。瓦列の東に近接してAs-B混土の瓦廻葉溝があり、そこから多数の軒平瓦・軒丸瓦・文字瓦・鬼瓦などの破片が出土した。軒平瓦には新范種p108(26)があり、鬼瓦の中には僧寺A類と昭和期の尼寺跡調査(註4 第30図48)で既出のものと同范のもの(514)が出土した。この瓦廻葉溝は北側には続いていないことから、これらの瓦類は金堂に使用されていた可能性が高い。基壇西寄りの地業内から平瓦が数片出土している。

##### ②南東隅及び回廊接続部分(13-2トレンチ)

出土量は平瓦110片・24.0kg、丸瓦24片・4.7kg。軒平瓦・軒丸瓦の出土量は少なくM002(187)などであった。回廊取り付き部の地業内から数片の瓦が出土している。

##### ③伽藍中軸の南辺部(13-3トレンチ)

基壇南辺の外側から瓦が出土した。基壇寄りで瓦の出土密度が濃い状況であった。出土量は平瓦581片・48.9kg、丸瓦295片・27.8kg。軒平瓦はP001・P004(62 金山2号窯)・NH3系がそれぞれ1片、軒丸瓦はB201(57)2片・B202が1片出土した。文字瓦はヘラ書き型「真」(60 文586)などが出土した。観音山小塚支群の特徴である凹面に莢蘿目痕のある平瓦(65)が出土した。このほか厚さが約3.5cmの厚い丸瓦(64)、厚さ1cmの薄い平瓦(63)が出土している。

#### 2) 回廊跡

##### ①南面回廊(8-1・8-2トレンチ)

###### ア. 8-1トレンチ

出土量は平瓦218片・20.4kg、丸瓦68片・7.2kg。地業内から平瓦101片・30.6kg、丸瓦41片・16.9kg。埋土中から軒平瓦はP001(72)、文字瓦はヘラ書き型「織維」(73 文614)などが出土した。地業内には破片となった瓦が敷き詰められており、そこから軒平瓦P001・P010の小破片も出土した。8-3トレンチと同様に、地業縁辺部に有段式丸瓦片が埋められていたが、現地での記録に留めた。表土中から軒平瓦P002、軒丸瓦M002、莢蘿目痕のある丸瓦(85)の小破片が出土した。文字瓦はヘラ書き型「真」(文587)・「辛」(文590)・格子一体型「雀」A類(文697)などが出土している。

###### イ. 8-2トレンチ

出土量は平瓦340片・21.1kg、丸瓦87片・14.0kg。地業内から平瓦13片・5.3kgが出土し、丸瓦は出土していない。埋土中から軒平瓦はP001(98)・P002(100)・P102・P307(95)・Z003(97)、軒丸瓦はA101(94)・M002などが出土した。文字瓦はヘラ書き型「石」(87 文565)・「三」(93 文545)・「虫」(文584)などが数片、判読困難な格子一体型(文722・723)が出土した。地業内からの出土量は8-1トレンチに比べると少ないが、地業の断ち割りを行った面積が小さいことによる可能性が高い。

#### ②回廊南東隅(8-3トレンチ)

基壇東辺外側裾部から大量に出土した。堆積状況は整然としたものではなく、平瓦・丸瓦の破片が混然と重なっていたことから、回廊の倒壊による堆積ではなく廃材処分により堆積したものと考えられる。出土量は平瓦1,116片・167.9kg、丸瓦403片・72.1kg。軒平瓦はP008、軒丸瓦はA101とみられる小破片が僅かに出土した。文字瓦はヘラ書き型の「二」(142 文537)・「川」(文596)のほか、格子一体型「薔田」(103-119 文714・文716)・「雀」A類(104 文702)などが出土し、判読困難なものも含めると17片出土した。地業の断ち割り面積が狭いものであったので、8-1・8-2トレンチよりも地業内出土の瓦数は少なく、平瓦48片・22.1kg、丸瓦24片・10.8kg。このトレンチでも地業縁辺には有段式丸瓦(144)が敷かれていた。また、地業確認面の下約3cmのところから平瓦(146)が出土した。この2点はその場で割られたようにまとまっており、瓦葺きの作業中に一部を破損したため埋設地点で割つて地業内に敷いたものと考える。

#### ③西面回廊内筋(11-1E・11-1Wトレンチ)

回廊内筋は尼寺廃絶以降の構などにより壊されており、表土中から平瓦・丸瓦合わせて16片の出土であった。軒丸瓦は二寺創建前に牛田廃寺跡・多胡郡正倉跡などで用いられていた6弁複葉のJ001(185)1片、A004(186)1片が表土中から出土した。

#### ④西面回廊中央付近(11-2トレンチ)

基壇裾部分を掘り下げていないため、埋土中からの出土量は少ない。平瓦52片・11.2kg、丸瓦9片・1.6kg。表土中から軒平瓦はP004(147 金山2号窯)、文字瓦は格子一体型「佐」(149 文708)のほか、泥状盤築技法で凸面に記号のある丸瓦(148 文734)、端面に重ね焼き痕のある平瓦(151)などが出土した。

#### ⑤北西隅(11-1W・11-3トレンチ)

##### ア. 11-1Wトレンチの北西隅部分

出土量は平瓦366片・90.5kg、丸瓦168片・31.2kg。軒平瓦P002(153)・軒丸瓦A101(163)のほか鬼瓦片(511)、瓦塔初層軸部(523)など特殊な瓦製品類も出土した。地業内からは平瓦5片・1.2kg、丸瓦1片・0.08kgが出土した。

##### イ. 11-3トレンチ

出土量は平瓦44片・7.7kg、丸瓦16片・3.1kg。軒平瓦はP001の小破片が1片、分類不明の軒丸瓦が數片出土している。地業内からは平瓦3片・2.1kg、丸瓦1片・0.1kgが出土した。

#### ⑥西面回廊外筋(11-4・11-5トレンチ)

##### ア. 11-4トレンチ

出土量は平瓦64片・10.8kg、丸瓦43片・5.4kg。軒丸瓦はM002(178)・新范種b211(180)が出土した。文字瓦は格子一体型「佐位」C類(179 文707)が1片出土した。

##### イ. 11-5トレンチ

西面回廊の痕跡は確認できず、瓦は表土中からの出土であった。軒丸瓦D001カ(183)・B2系(184)が出土した。

#### ⑦東面回廊(15トレンチ)

基壇上面は耕作等で消失しており、本トレンチから出土した瓦は表土中からのものである。遺構埋土中から出土した瓦は、サブトレンチ(15-1・15-2・15-3・15-4)からの出土である。基壇外側の15-1・15-3トレンチは瓦の出土量が多いが、内側の15-2・15-4トレンチの出土量は極めて少量であった。このほか、基壇断ち割り調査により地業内から瓦が出土した。

#### ア. 15トレンチ

表土中からほぼ完形の丸瓦(238)が出土した。この丸瓦は長さが30.8cmと短く、曲率も小さいことから通常とは異なる用途に用いられた可能性がある。このほか軒平瓦はNH301(232)・P001・P002(233)、軒丸瓦はA101・B104(234)・E103が出土し、文字瓦はヘラ書き型の「上」(236 文598)・「又」(文571)が出土した。

#### イ. 15-1トレンチ

基壇外側裾部にあたり、平瓦197片・35.5kg、丸瓦88片・15.2kgが出土した。軒平瓦P002、文字瓦は格子一体型「雀」A類(212 文699)・ヘラ書き型「淨長」(213 文613)が出土した。地業内からは平瓦2片・0.3kg、丸瓦1片・0.3kgが出土した。

#### ウ. 15-2トレンチ

15-1トレンチと対称の位置にある基壇内側裾部である。瓦の出土量は15-1トレンチに比べ極端に少なかった。平瓦7片・0.6kgで、丸瓦は出土しなかった。

#### エ. 15-3トレンチ

基壇外側裾部にあたり、平瓦84片・20.3kg、丸瓦39片・10.7kgが出土した。軒平瓦の出土はなく、軒丸瓦B101(226)が1片出土したのみである。文字瓦は格子一体型「佐位」C類(225 文706)が1片出土した。泥状盤築技法の平瓦、隅切りの丸瓦が出土した。

#### オ. 15-4トレンチ

15-3トレンチと対称の位置にある基壇内側裾部である。瓦の出土量は15-2トレンチと同様に少なく、平瓦4片・1.1kg、丸瓦7片・2.2kgである。

#### カ. 地業内

15-1トレンチでは、平瓦2片・0.3kg、丸瓦6片・0.6kg、15-3及びその延長から、平瓦2片・0.5kg、丸瓦6片・0.6kgが出土した。いずれも小破片である(214・215・216)。

### 3) 尼坊(3・4トレンチ)

基壇上面は土地改良事業・耕作によって消失しているが、基壇外側裾部及びAs-Bの混入がない瓦溜まりから大量の瓦が出土した。出土量は平瓦5,354片・365.3kg、丸瓦1,131片・17.0kg。ただし、尼坊南面と推定講堂北面はそれほど離れていない(約10m)ため、尼坊跡南面出土の瓦の中には講堂で用いた瓦が混入している可能性がある。出土した瓦は小破片のものが多い。尼坊跡からは軒平瓦・軒丸瓦・文字瓦も多数出土したが隅切り瓦は出土しなかった。軒平瓦はP001が4片、P002(255)・P008・鎧備文u002(265)がそれぞれ1片のほか分類不明の軒平瓦が2片出土した。軒丸瓦はA106(272)・B001・B203(277)・B201・B204・B205・B208カ・B20系(289)・E202・M002(251・290)のほか、分類不明の軒丸瓦が35片出土した。このうちM002は10片出土している。文字瓦はヘラ書き型「三」(259 文555)・刻印型「山(田)」(254 文711)・ヘラ書き型「万呂」と刻印型「匱」が並んで記された平瓦(278 文683)、刻印による「法輪」(243 文738)が出土した。平瓦(286)に残る平行条目は道具端部も見え、1片だけの出土である。表土中から軒平瓦NH301(291)、文字瓦の格子一体型「雀」A類(281 文694)が出土した。

### 4) 伽藍地

#### ①伽藍地北辺(9・5トレンチ)

##### ア. 9トレンチ

築垣内側では平瓦690片・76kg、丸瓦210片・3kgが出土した。軒平瓦はP001が4片(295・301・302)出土し、軒丸瓦はB202カ(299)・M002のほか新瓦種がそれぞれ1片出土した。このほか判読困難な文字瓦1片が出土した。盛土基部内から小破片の平瓦が5片・0.2kg出土した。表土中からヘラ書き型「千」(文599)が1片、鬼瓦(517)が出土した。

築垣外側では平瓦453片・61.1kg、丸瓦120片・23.0kgの出土量であった。このうち外側基部裾部の瓦溜まりからは平瓦124片・21.6kg、丸瓦44片・10.9kgが出土した。軒平瓦はP001が6片(304・305・307・310)、NH3系1片(308)、軒丸瓦はB201が2片(309・317)出土した。文字瓦はヘラ書き型「三」(314)が1片のほか判読困難なものが2片出土した。

#### イ. 5-1トレンチ

築垣内側の出土量は平瓦262片・23.0kg、丸瓦52片・6.6kg。表土中からは分類不明な軒丸瓦小破片が2片出土した。基部外側の出土量は平瓦92片・7.3kg、丸瓦22片・3.1kg。軒平瓦はP001(325)、分類不明がそれぞれ1片出土し、軒丸瓦は出土しなかった。

#### ウ. 5-2トレンチ

築垣外側から多量の瓦が出土し、平瓦327片・74.7kg、丸瓦52片・17.4kgであった。軒平瓦はP001が1片(335)、P002が2片(331・332)、Z008が1片(347)出土した。軒丸瓦はA102が1片(333)、新范模h003が1片(330)出土した。文字瓦は刻印型「山田」(328 文712)・格子一体型「山田天」(338 文720)がそれぞれ1片出土した。隅切り瓦が1片出土した。表土中から軒丸瓦M002が1片出土した。

#### ②仰藍地東辺(6-1・6-2・2・1トレンチ)

6-1・6-2トレンチどちらも仰藍地東辺を区画する施設の外側(E)と内側(W)に分けて取り上げを行った。また、6-2Wトレンチには堅穴建物跡が2棟あり、どちらも窓に使用した軒平瓦は遺存度が大きいものであった。

#### ア. 6-1Eトレンチ

出土量は平瓦120片・16.2kg、丸瓦37片・5.3kg。軒平瓦はなく、軒丸瓦はB201が1片(352)、分類不明が1片のほか、表土中から分類不明が1片出土した。文字瓦はこれまで「田」と読まれていた格子一体型(354 文688「田」ではなく格子の一部の可能性が高い。)が出土した。

#### イ. 6-1Wトレンチ

出土量は、平瓦106片・10.3kg、丸瓦22片・1.8kg。軒平瓦はP001(358)・P008カ(359)のほか分類不明を含め3片が出土し、軒丸瓦は出土しなかった。

#### ウ. 6-2Eトレンチ

出土量は平瓦162片・18.4kg。軒平瓦の出土はなく、軒丸瓦はB203カ(366)が1片、分類不明1片が出土した。

#### エ. 6-2Wトレンチ

出土量は平瓦183片・42.5kg、丸瓦39片・4.5kg。軒平瓦はP001(376)1片、P002(367ほか)2片、軒丸瓦はE103・E202(370)・M002・E10系がそれぞれ1片である。SI1の埋土中から、出土した軒平瓦P002(367)は窓の補強材として使用されていた。文字瓦は判読困難なヘラ書き型が1片出土した。SI2は埋土を掘り下げなかったが、軒丸瓦P001(376)が瓦当面を上にして立った状態で出土した。

#### オ. 2トレンチ

出土量は平瓦467片・26.2kg、丸瓦79片・3.2kg。軒平瓦はP001が1片、軒丸瓦はA106(380)・B207a(382 金山2号窓)・E102がそれぞれ1片、分類不明の破片が2片出土した。格子目が米字状とした叩きの平瓦が1片(378)出土した。表土中から軒平瓦P3系(383)1片、分類不明1片、軒丸瓦P201(385)1片のほか、瓦塔屋蓋の小破片(524)が出土した。

#### カ. 1トレンチ

出土量は平瓦467片・15.8kg、丸瓦45片・4.1kg。軒平瓦の出土はなく、軒丸瓦M002が1片であった。表土中から文字瓦は判読困難な墨書型(389)・格子一体型「渕」(388 文692)がそれぞれ1片出土した。

### ③伽藍地南辺(7-1・7-2・7-3トレンチ)

#### ア. 7-1トレンチ

出土量は平瓦59片・3.2kg、丸瓦13片・1.5kg。軒平瓦の出土はなく、軒丸瓦はB201(390)が1片出土した。

#### イ. 7-2トレンチ

出土量は平瓦75片・5.4kg、丸瓦24片・2.8kg。文字瓦はヘラ書き型「大」(394 文576)1片・格子一体型「雀」A類(392 文696)1片が出土した。表土中から軒丸瓦A107・新范種a007(395)がそれぞれ1片出土した。

#### ウ. 7-3トレンチ

出土量は伽藍地南辺で最も多く、平瓦708片・73.9kg、丸瓦186片・27.8kg。軒平瓦はP002が2片(409ほか)、軒丸瓦はB105(400)・E103(403)がそれぞれ1片出土し、判読困難な文字瓦類が6片出土した。表土中から判読困難な文字瓦類が2片出土した。

### ④伽藍地西辺(10-1・10-2・10-3・10-4・10-5・10-6・10-7・12トレンチ)

#### ア. 10-1トレンチ

出土量は平瓦132片・17.5kg、丸瓦56片・8.4kg。ほとんどは堅穴建物跡(SI1)の埋土中からである。軒平瓦はP101(418)・Q001(420)がそれぞれ1片、軒丸瓦はB001が2片出土した。泥条築法の平瓦(419)、文字瓦が数片出土した。表土中から莫蘆目痕のある平瓦小破片が出土した。

#### イ. 10-2トレンチ

出土量は平瓦58片・12.7kg、丸瓦23片・7.5kg。軒平瓦の出土はなく、軒丸瓦M002(426)1片が出土した。SI1からは軒丸瓦A106(427)、文字瓦のヘラ書き型「人」(430 文575)が出土した。

#### ウ. 10-3トレンチ

出土量は平瓦17片・2.0キロkg、丸瓦1.0kg。

#### エ. 10-4トレンチ

出土量は2片のみで、平瓦1片・1.9kg、軒丸瓦F001(425)1片・0.4kg。

#### オ. 10-5トレンチ

出土量は平瓦18片・5.2kg、丸瓦23片・8.5kg。分類不明の軒平瓦1片が出土した。

#### カ. 10-6トレンチ

出土量は平瓦37片・8.8kg、丸瓦19片・5.2kg。軒平瓦P002(415)の小破片が出土した。表土中から軒平瓦P001の小破片が1片出土した。

#### キ. 10-7トレンチ

出土量は平瓦1片・0.2kg、丸瓦1片・0.1kg。

#### ク. 12トレンチ

出土量は丸瓦2片・0.3kgだけであった。

### 5) 推定講堂(3トレンチ)

講堂跡推定箇所では、東端の僅かな傾斜部を除いて明確な建物跡と掘り込み地業を確認できなかった。しかし、北に存在した尼坊跡につながるトレンチや西端のトレンチ内ではAs-Bの混入しない整地土と思われる土層中から瓦が出土した。出土量は平瓦468片・24.3kg、丸瓦93片・6.5kg。整地土内から平瓦243片・12.2kg、丸瓦48片・3.5kg。埋土中から軒平瓦はP001・NH3系がそれぞれ1片、軒丸瓦はB201(455)、尼坊南辺寄りからM002(454)、整地土中からB102b(458)がそれぞれ1片出土した。表土中から軒平瓦はNH3系(443)・P004(462)、軒丸瓦はB101(445)・B105(448)・B205カ(460)・E202(461)がそれぞれ1片出土した。文字瓦はヘラ書き型「二」(449 文541)・「三」(文547)・「中」(444 文588)・格子一体型「蘭

「田」(451 文719)などが出土した。瓦塔等が出土した(525・526・527)。

6) 壺地業(11-1Wトレンチ)

壺地業内から瓦は出土しなかった。

7) 瓦溜まり(11-Eトレンチ)

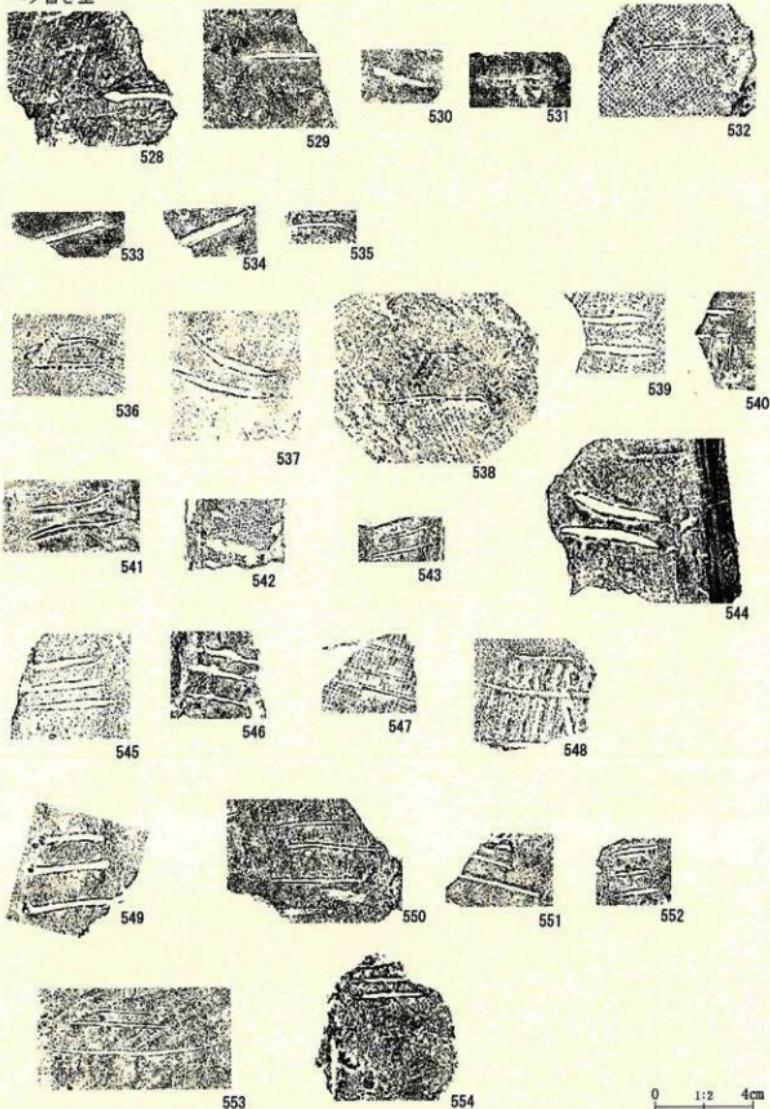
出土量は平瓦633片・122.3kg、丸瓦260片・79.2kg。軒平瓦はP002(500)・P010(496)・新范種鋸齒文u002(494)など、軒丸瓦はB103(464・495)が2片、新范種a108(488)などが出土し、ほかに泥状盤築技法の丸瓦(499)が出土した。文字瓦は多種に及び、ヘラ書き型では同一人の手によると思われる「子」(492 文604)・「子子」(493 文603)のほか「子友」(491 文607)・「平」(468 文568)などが出土し、刻印型の「匁」(472)、これまで「田」と読まれていた格子一体型(473 文687「田」ではなく格子の一部の可能性が高い。)が出土した。出土時に大きな破片のものは少なかったが、接合により完形に近く復元できたものが他のトレンチと比べ多い。

8) 金堂西側(11-1E・11-1Wトレンチ)

出土量は平瓦257片・37.1kg、丸瓦72片・10.2kg。平瓦凸面にヘラ状工具で斜格子目を入れたものが出土した(507)。軒平瓦はP001(504)・R003(509)、軒丸瓦は分類不明(506)がそれぞれ1片出土した。文字瓦は判読困難な平瓦(501 文721)が出土した。

7) 文字瓦

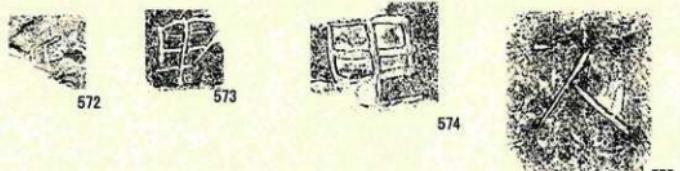
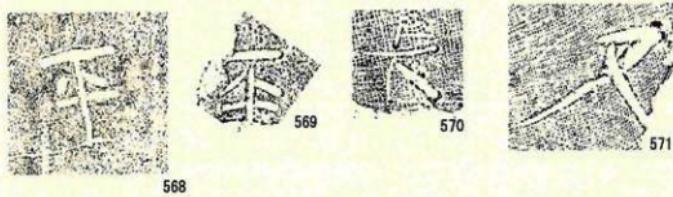
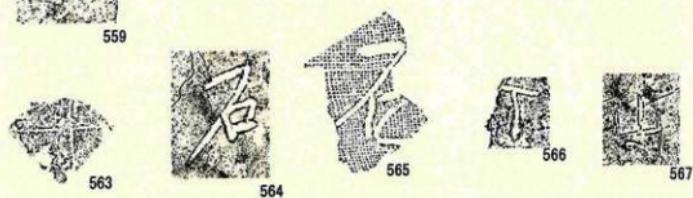
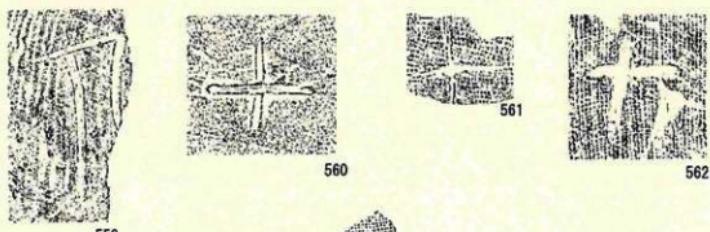
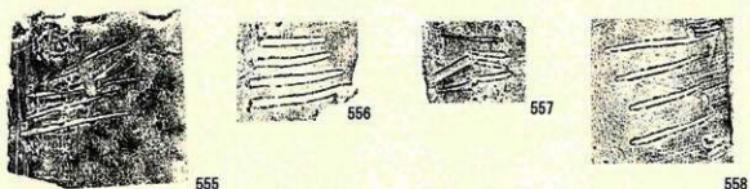
ヘラ書き型



0 1:2 4cm

第208図 瓦114 文字瓦(1)

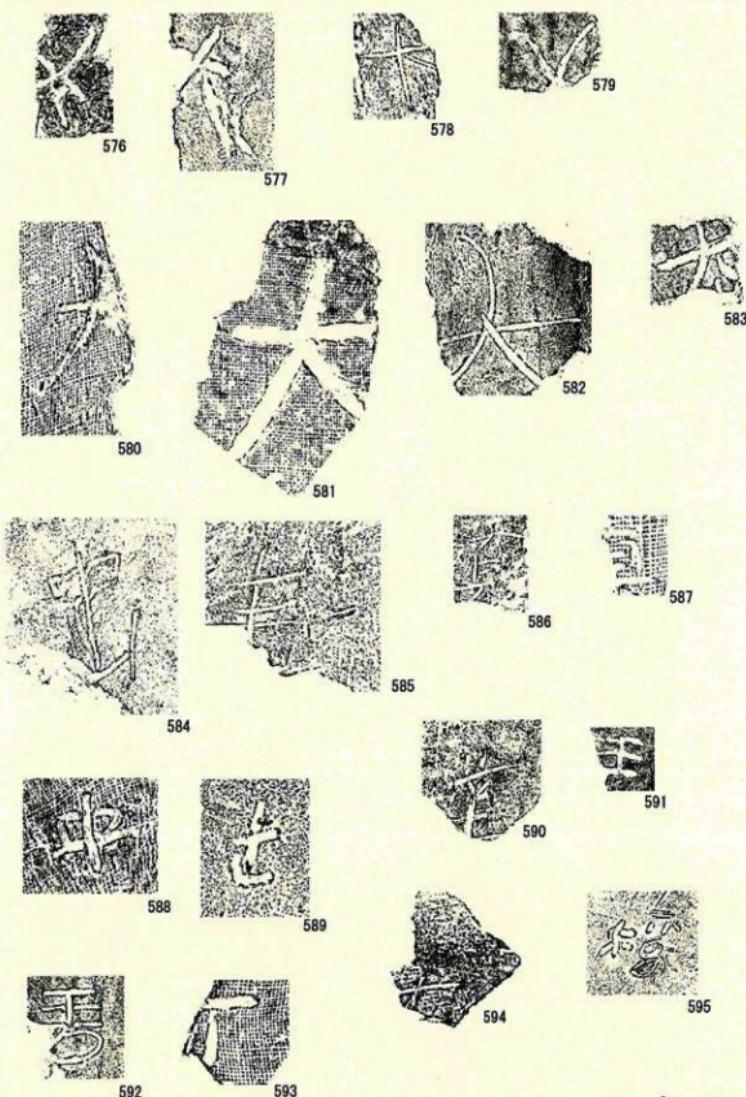
ヘラ書き型



0 1:2 4cm

第209図 瓦115 文字瓦(2)

ヘラ書き型



0 1:2 4cm

第210図 瓦116 文字瓦(3)

へら書き型



596



597



598



599



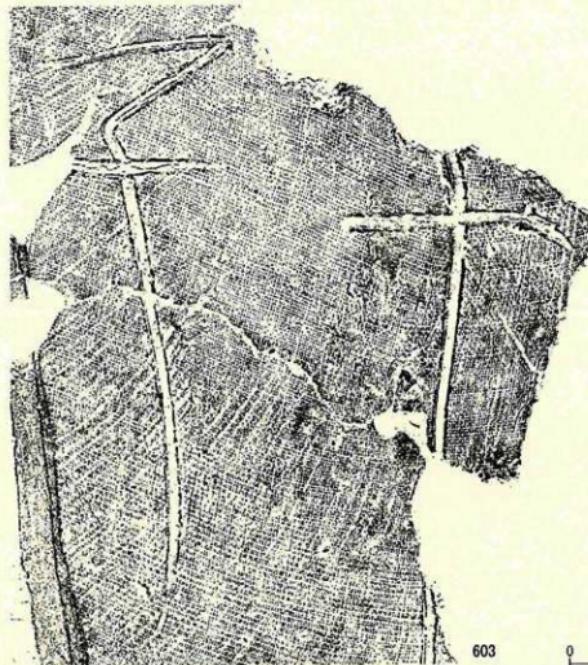
600



601



602

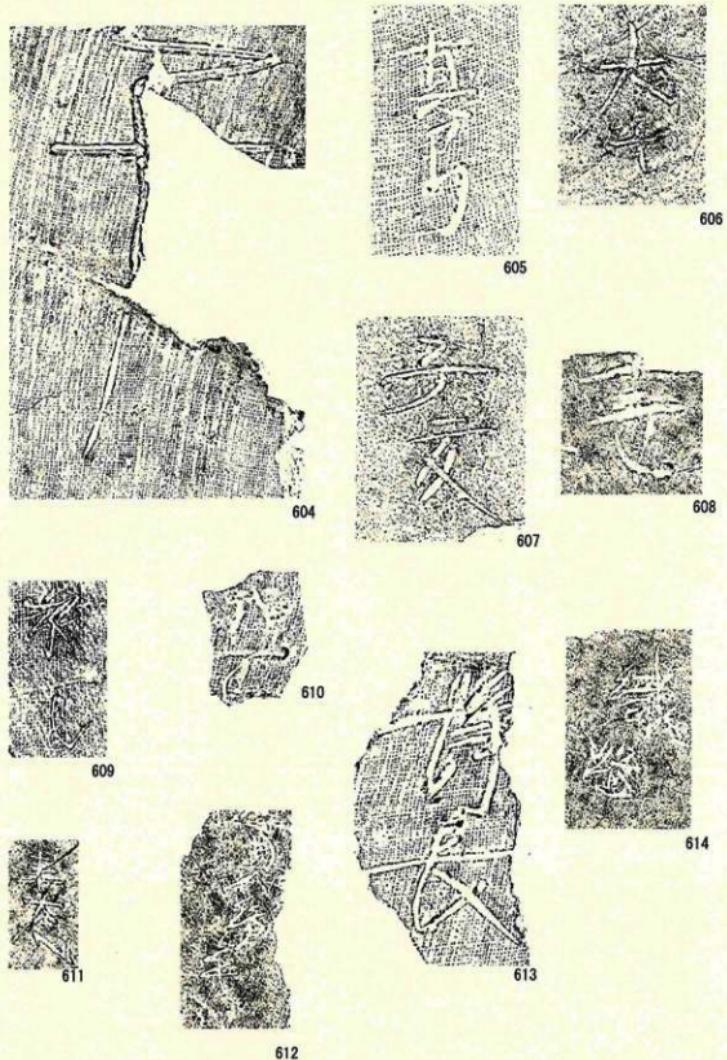


603

0 1:2 4CM

第211図 瓦117 文字瓦(4)

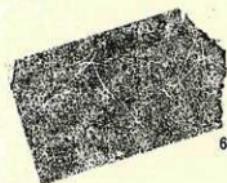
ヘラ書き型



0 1:2 4cm

第212図 瓦118 文字瓦(5)

ヘラ書き型



615



616



617



618



619



620



621



622



623



624



625



626



627



628



629



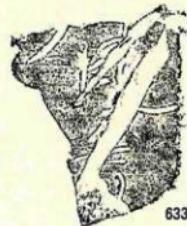
630



631



632



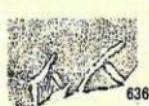
633



634



635



636



637



638



639



640



641

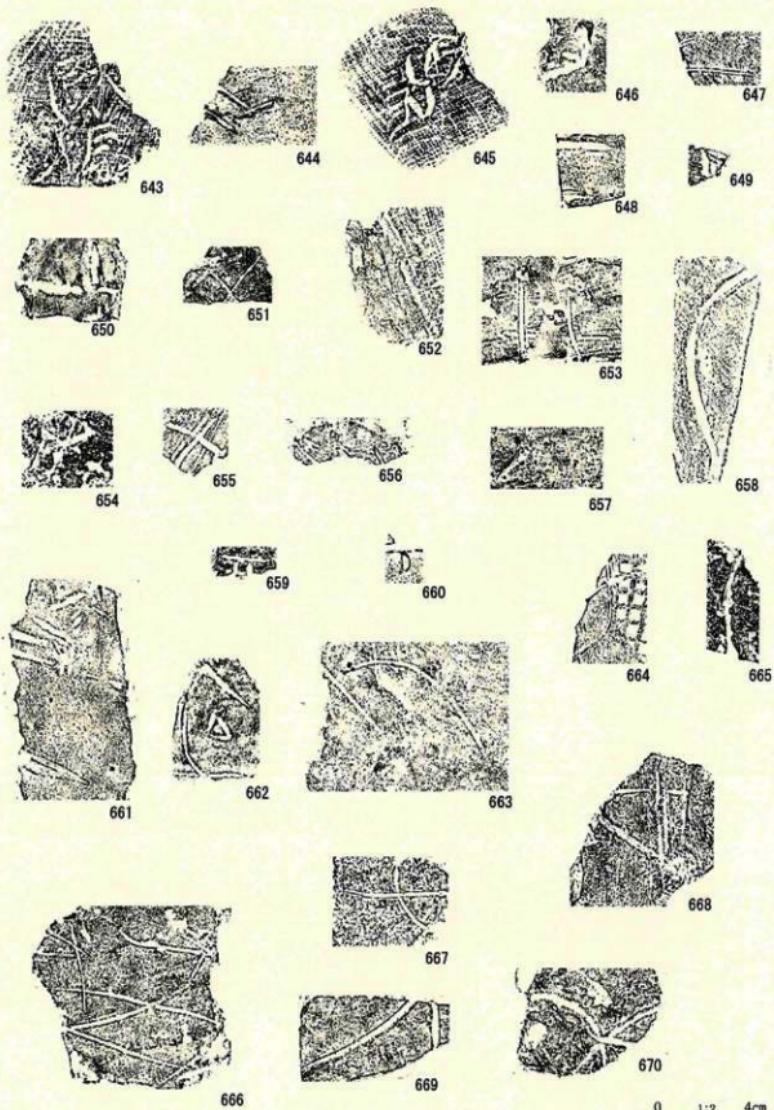


642

0 1:2 4cm

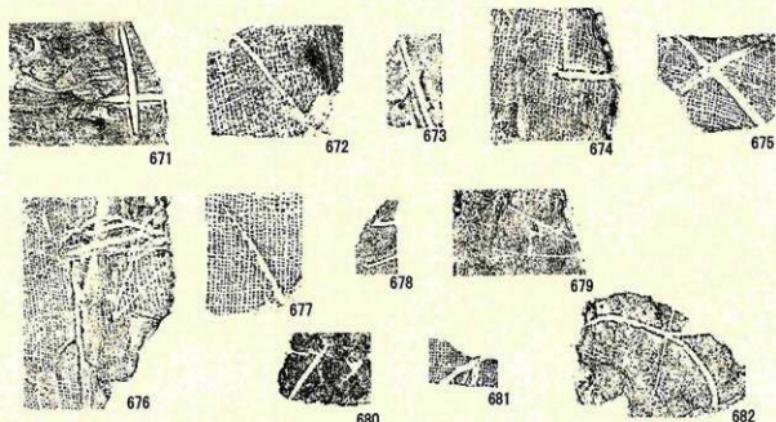
第213図 瓦119 文字瓦(6)

ヘラ書き型

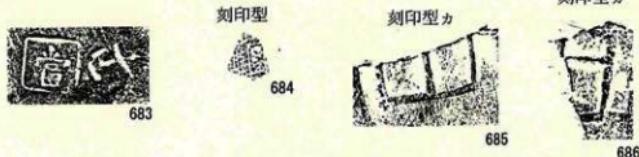


第214図 瓦120 文字瓦(7)

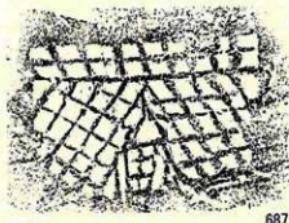
ヘラ書き型



ヘラ書き型と刻印型



格子一体型

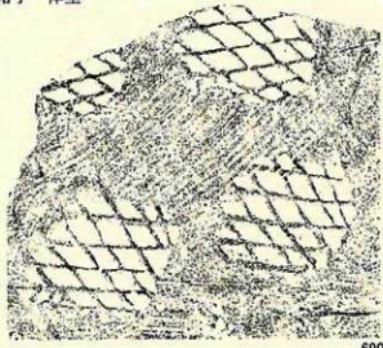


「多」刻印型陽刻  
「人」ヘラ書き型

0 1:2 4cm

第215図 瓦121 文字瓦(8)

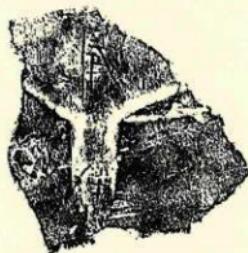
格子一体型



691



692



690



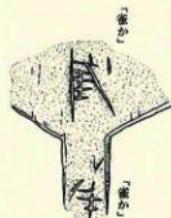
693



694



695



『上野国分尼寺跡  
上野国分二寺中間地域』より転載



696



697



698



699



700



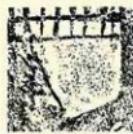
701



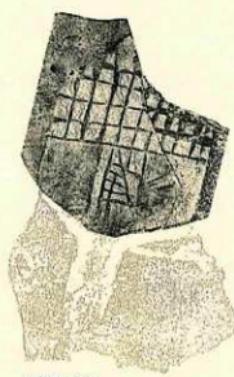
702



703



704



参考図1(計2)  
原体復元699・704を合成

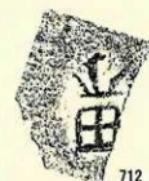
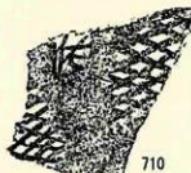
0 1:2 4cm

第216図 瓦122 文字瓦(9)

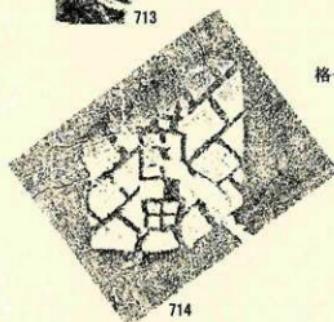
ヘラ書き型



刻印型陽刻



刻印型陰刻



格子一体型



0 1:2 4cm

第217図 瓦123 文字瓦(10)

格子一体型



721a



722



723



721b



724

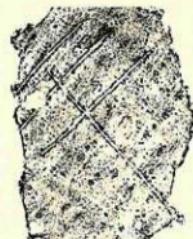


原体復元  
721a・bを合成

針書き型



725



726



727



728



729



730

0 1:2 4cm

第218図 瓦124 文字瓦(11)

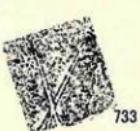
ヘラ書き型



731



732



733



734

記号刻印型



735

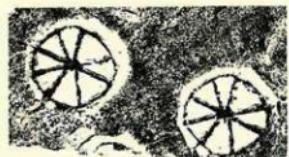


736



737

刻印型陽刻



738



739

0 1:2 4cm

第219図 瓦125 文字瓦(12)

表4 文字瓦一覧表

文字瓦番号	积	記載位置	出土場所	文字タイプ 備考	本篇	整理番号
528	—	平瓦凸面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	—
529	—	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0683
530	—	平瓦凹面	11-4 トレンチ	ヘラ書き型	—	1076
531	—	平瓦凹面	4 トレンチ	ヘラ書き型	—	0240
532	—	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0149
533	—	平瓦凸面	5-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0266
534	—	丸瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0148
535	—	平瓦凸面	11-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	0853
536	—	平瓦凹面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	0981
537	—	平瓦凹面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	142	0651
538	—	平瓦凸面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	—	0648
539	—	平瓦凹面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1401
540	—	平瓦凹面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1163
541	—	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	449	0673
542	—	平瓦凹面	8-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	0459
543	—	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0708
544	—	平瓦凹面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	—
545	三	平瓦凹面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	93	0505
546	三	平瓦凹面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	—	0934
547	三	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0680
548	三	平瓦凹面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1040
549	三	平瓦凸面	14 トレンチ	ヘラ書き型	196	1281
550	三	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0154
551	三	丸瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1187
552	三	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0105
553	三	平瓦凹面	9N トレンチ	ヘラ書き型	314	0737
554	三	平瓦凹面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1176
555	三	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	259	0120
556	三	平瓦凹面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1151
557	三	平瓦凹面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1175
558	三	平瓦凹面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	168	0981
559	九	丸瓦凹面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	108	0532
560	十	平瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	489	0924
561	十	平瓦凹面	7-3W トレンチ	ヘラ書き型	—	0422
562	十	平瓦凹面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	—	0528
563	十	平瓦凹面	7-3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0441
564	石	平瓦凸面	5-2S トレンチ	ヘラ書き型	327	0275
565	石	丸瓦凹面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	87	0501
566	丁	丸瓦凸面	5-2N トレンチ	ヘラ書き型	—	0282
567	山	丸瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	469	0863
568	平	平瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	468	0862
569	平	平瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	6	1116
570	長	平瓦凹面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	158	0845
571	又	丸瓦凹面	15 トレンチ	ヘラ書き型	—	1316
572	馬	軒平凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	462	0679

文字瓦 番号	文	記載位置	出土場所	文字タイプ 備考	本篇	整理 番号
573	里又は黒	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0687
574	里又は黒	平瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1008
575	人	平瓦凸面	10-2 トレンチ	ヘラ書き型	430	0795
576	大	平瓦凸面	7-2 トレンチ	ヘラ書き型	394	0395
577	大	平瓦凸面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	—	0520
578	大	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0706
579	大	平瓦凸面	2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0012
580	大	丸瓦凹面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	—	0893
581	大	平瓦凹面	4 トレンチ	先端丸みのあるヘラ書き型	—	0225
582	大	丸瓦凸面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1017
583	大	平瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1400
584	虫	平瓦凸面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0485
585	甘	平瓦凸面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	92	0502
586	真	平瓦凹面	13-3 トレンチ	ヘラ書き型	60	1237
587	真	平瓦凹面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0467
588	中	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	444	0201
589	万呂	丸瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	—	0854
590	辛	丸瓦凸面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0466
591	王	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0206
592	不明	平瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	—	0940
593	万呂	平瓦凹面	2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0033
594	万呂	平瓦凹面	5-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0267
595	不明	平瓦凸面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	123	0570
596	川	平瓦凸面	8-3S トレンチ	ヘラ書き型	—	0524
597	井	丸瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	471	0864
598	上	丸瓦凸面	15 トレンチ	ヘラ書き型	236	1317
599	千	平瓦凸面	9-S トレンチ	ヘラ書き型	—	0775
600	千	丸瓦凸面	5-2N トレンチ	ヘラ書き型	329	0286
601	手	丸瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1156
602	子	平瓦凹面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	0973
603	子	平瓦凹面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	493	0928
604	子	平瓦凹面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	492	0927
605	真弓	丸瓦凹面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1005
606	大千	丸瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1007
607	子友	平瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	491	0925
608	口万呂	平瓦凸面	5-2N トレンチ	ヘラ書き型	349	0320
609	家万呂	丸瓦凹面	5-2N トレンチ	ヘラ書き型	—	0294
610	弘万呂	丸瓦凹面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0494
611	[ ]	丸瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	256	0104
612	真淨毛	丸瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1006
613	淨長	平瓦凹面	15-1 トレンチ	ヘラ書き型	213	1328
614	織織	丸瓦凸面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	73	0457
615	大口	丸瓦凸面	3 トレンチ	ハリ書き型	—	0174
616	不明	平瓦凸面	9-S トレンチ	ヘラ書き型	—	0764
617	不明	平瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	5	1112

文字瓦番号	駅	記載位置	出土場所	文字タイプ 備考	本篇	整理番号
618	不明	平瓦凸面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1032
619	不明	平瓦凸面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	106	0522
620	不明	平瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	0952
621	不明	丸瓦凸面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1030
622	不明	丸瓦凸面	9-N トレンチ	ヘラ書き型	—	0728
623	不明	丸瓦凹面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0495
624	不明	平瓦凹面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0606
625	不明	丸瓦凹面	8-3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0521
626	不明	平瓦凸面	5-2N トレンチ	ヘラ書き型	346	0318
627	不明	平瓦凸面	2 トレンチ	ヘラ書き型	381	0017
628	不明	平瓦凹面	1 トレンチ	ヘラ書き型	387	0006
629	不明	平瓦凸面	5-2N トレンチ	ヘラ書き型	—	0285
630	不明	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0074
631	不明	平瓦凸面	4 トレンチ	ヘラ書き型	—	0228
632	不明	丸瓦凹面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1028
633	不明	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0205
634	不明	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0145
635	不明	平瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1152
636	不明	平瓦凹面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0481
637	不明	平瓦凹面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0464
638	不明	平瓦凹面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1041
639	不明	平瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	—	1395
640	不明	丸瓦凹面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0462
641	不明	丸瓦凹面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1031
642	不明	丸瓦凹面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	—	1027
643	不明	丸瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0689
644	不明	平瓦凸面	2 トレンチ	ヘラ書き型	384	0022
645	不明	平瓦凹面	6-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	0335
646	不明	平瓦凸面	9N トレンチ	ヘラ書き型	—	0736
647	不明	丸瓦凸面	8-3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0521
648	不明	丸瓦凸面	15-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1325
649	不明	平瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0690
650	不明	平瓦凸面	2 トレンチ	ヘラ書き型	—	0021
651	不明	平瓦凹面	1 トレンチ	ヘラ書き型	—	0005
652	不明	平瓦凹面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0463
653	不明	丸瓦凸面	8-3 トレンチ	ヘラ書き型	135	0525
654	不明	平瓦凸面	6-2W トレンチ	ヘラ書き型	—	0386
655	不明	平瓦凸面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0460
656	不明	平瓦凸面	7-3W トレンチ	ヘラ書き型	—	0434
657	不明	平瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1172
658	不明	平瓦凹面	7-3W トレンチ	ヘラ書き型	—	0442
659	不明	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0682
660	不明	平瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	—	0933
661	不明	丸瓦凸面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	—	0579
662	不明	平瓦凸面	13-3W トレンチ	ヘラ書き型	—	1263
663	不明	丸瓦凸面	8-2 トレンチ	ヘラ書き型	89	0491

文字瓦 番号	硃	記載位置	出土場所	文字タイプ 備考	本篇	整理 番号
664	不明	平瓦凸面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0607
665	不明	平瓦凸面	6-2W トレンチ	ヘラ書き型	—	0387
666	不明	丸瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1154
667	不明	丸瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1009
668	不明	丸瓦凸面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1010
669	不明	丸瓦凸面	13-3 トレンチ	ヘラ書き型	—	1226
670	不明(大)	平瓦凸面	7-2 トレンチ	ヘラ書き型	393	0392
671	不明	丸瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	267	0155
672	不明	平瓦凹面	11-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	1011
673	不明	平瓦凸面	8-1N トレンチ	ヘラ書き型	—	0610
674	不明	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0701
675	不明	丸瓦凹面	4 トレンチ	ヘラ書き型	—	0234
676	不明	平瓦凹面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型	—	0671
677	不明	平瓦凹面	8-1W トレンチ	ヘラ書き型	—	0461
678	不明	平瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0097
679	不明	丸瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0686
680	不明	丸瓦凸面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0688
681	不明	丸瓦凹面	3 トレンチ	ヘラ書き型	—	0212
682	不明	丸瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1173
683	万呂・當	平瓦凸面	3 トレンチ	線刻型と刻印型	278	0183
684	不明	丸瓦凹面	3 トレンチ	刻印型	—	0078
685	不明	平瓦凸面	14 トレンチ	刻印型か	—	1293
686	不明	平瓦凸面	11-1E トレンチ	刻印型か	161	1383
687	格子	平瓦凸面	11-1E トレンチ	格子一体型。「田」ではなく、格子の一部か	473	0866
688	格子	平瓦凸面	6-1E トレンチ	格子一体型。「田」ではなく、格子の一部か	354	0323
689	多・人	丸瓦凸面	8-2 トレンチ	「多」刻印型陽刻 「人」ヘラ書き型	90	0490
690	渕(左文字)	平瓦凸面	8-3N トレンチ	格子一体型。十三宝塚左型	115	0030
691	渕(左文字)	平瓦凸面	8-2 トレンチ	格子一体型。十三宝塚左型	96	0507
692	渕(左文字)	平瓦凸面	1 トレンチ	格子一体型。十三宝塚左型	388	0002
693	雀(左文字)	平瓦凸面	8-1N トレンチ	格子一体型。A類	—	0465
694	雀(左文字)	平瓦凸面	3 トレンチ	格子一体型。A類	281	0712
695	雀(左文字)	平瓦凸面	3 トレンチ	格子一体型。A類	—	0675
696	雀(左文字)	平瓦凸面	7-2 トレンチ	格子一体型。A類	392	0391
697	雀(左文字)	平瓦凸面	8-1N トレンチ	格子一体型。A類	—	0458
698	雀(左文字)	平瓦凸面	13-1E-1 トレンチ	格子一体型 A類	29	1111
699	雀(左文字)	平瓦凸面	15-1 トレンチ	格子一体型。A類	212	1323
700	雀(左文字)	平瓦凸面	4 トレンチ	格子一体型。A類	—	0239
701	雀(左文字)	平瓦凸面	5-1S トレンチ	格子一体型。A類	—	0261
702	雀(左文字)	平瓦凸面	8-3N トレンチ	格子一体型。A類	104	0519
703	雀(左文字)	平瓦凸面	3 トレンチ	格子一体型。A類	—	0198
704	雀(左文字)	平瓦凸面	11-2 トレンチ	格子一体型。A類	—	—
705	佐位(左文字)	平瓦凸面	14 トレンチ	格子一体型。C類	205	1285
706	佐位(左文字)	平瓦凸面	15-3 トレンチ	格子一体型。C類	225	1365

文字瓦 番号	駄	記載位置	出土場所	文字タイプ 備考	本篇	整理 番号
707	佐位(左文字)	平瓦凸面	11-4 トレンチ	格子一体型。C類	179	1077
708	佐(仇)	平瓦凸面	11-2 トレンチ	格子一体型。十三宝塚仇型	149	1026
709	佐	平瓦凸面	8-3N トレンチ	刻印型。陽刻。H類	110	0517
710	佐	平瓦凸面	8-3N トレンチ	刻印型。陽刻。H類	—	—
711	山田	平瓦凸面	3 トレンチ	刻印型。陽刻	254	0093
712	山田	平瓦凸面	5-2N トレンチ	刻印型。陽刻	328	0283
713	勢か	丸瓦凸面	4 トレンチ	刻印型。陰刻	—	0250
714	菌田	平瓦凸面	8-3N トレンチ	格子一体型	119	0569
715	(菌)田	平瓦凸面	3 トレンチ	格子一体型	—	0676
716	菌(田)	平瓦凸面	8-3N トレンチ	格子一体型	103	0518
717	菌(田)	平瓦凸面	11-1E トレンチ	格子一体型	—	0850
718	菌(田)	平瓦凸面	13-3W-1 トレンチ	格子一体型	—	1262
719	菌田	平瓦凸面	3 トレンチ	格子一体型	451	0674
720	山田天	平瓦凸面	5-2N トレンチ	格子一体型	338	0295
721 a, b	不明	平瓦凸面	11-1E トレンチ	格子一体型。山王庵寺跡。住コレ。元總社(116)	501	0923
722	不明	平瓦凸面	8-2 トレンチ	格子一体型	—	0486
723	不明	平瓦凸面	8-2 トレンチ	格子一体型	—	0487
724	不明	平瓦凸面	3 トレンチ	格子一体型	—	0681
725	不明	丸瓦凸面	7-3 トレンチ	針書き	397	0404
726	不明	平瓦凹面	13-1 トレンチ	針書き	—	1164
727	不明	平瓦凹面	4 トレンチ	針書き	287	0237
728	不明	平瓦凹面	11-1W トレンチ	針書き	—	1402
729	不明	平瓦凹面	8-3S トレンチ	針書き	—	0639
730	不明	平瓦凹面	13-3 トレンチ	針書き	—	1246
731	符牒か	丸瓦凸面	8-3N トレンチ	ヘラ書き型 734まで同一記号	109	0523
732	符牒か	丸瓦凸面	11-1E トレンチ	ヘラ書き型	490	0929
733	符牒か	丸瓦凸面	7-3W トレンチ	ヘラ書き型	—	0421
734	符牒か	丸瓦凸面	11-2 トレンチ	ヘラ書き型	148	1035
735	竹管文	平瓦凹面	5-2N トレンチ		—	0298
736	竹管文	平瓦凸面	13-1 トレンチ		—	1157
737	不明	丸瓦凸面	13-1 トレンチ	ヘラ書き型	—	1153
738	法輪(輪宝)	平瓦凸面	3 トレンチ	刻印型。陽刻。山王庵寺跡	243	0054
739	法輪(輪宝)	平瓦凸面	5-2N トレンチ	刻印型。陽刻。山王庵寺跡	—	0281

8) 文字瓦について 極小破片の数点を除いて、工具による傷と思われるものも含め211点を掲載した(註1)。

文字瓦についてはすでに記したとおり、瓦に文字を記す方法によって直接法と間接法に分類でき、さらにそれぞれその具体的方法・形態により細分した。直接法によるヘラ書き型・墨書型と、文字(記号)を板などに彫りそれを瓦に押し当てた間接法による刻印型・格子一体型である。さらに、墨書型を除き、瓦の表面に文字が窪んで記された陰刻、文字が突出している陽刻の形態がある。

文字を記す方法と主題である文字との関係については以下の3点が指摘できる。

- 1 人名と思われるものに刻印型・格子一体型のものはない。
- 2 東毛地域の郡・郷名が単独で記されたと思われるものにヘラ書き型はない。(郡・郷名は『群馬県史資料編4』に掲載。)
- 3 数字は全て手書きによるヘラ書き型のみである。

今回出土した文字瓦・記号瓦の詳細は以下のとおりである。

#### ①文字瓦

ア. ヘラ書き型には数字が書かれたものも多数出土した。特に「一」から「三」に集中している。

「一」・「二」・「三」・「三」(文528~558)は、数例を除いて平瓦凹面の隅近くにヘラ書きで記されている。この数字は、生産窯あるいは供給単位などを示した記号あるいは符牒の可能性が高い。これらの数字を記した瓦の殆どは凹凸両面が炭素吸着により黒色を呈しており、胎土も白色微粒を多く含み、素地粒が粗いといった共通した特徴を持っている。このような特徴を持つ瓦は、笠懸古窯跡群で生産されたことがわかっている。文551は「三」の文字が丸瓦凸面にあり色調・胎土とも他のものとは異なっており、数字のもつ目的・意味が異なる可能性が大きい。イ. 郡・郷名がヘラ書きによるものは、多胡郡山字(山宗)郷の可能性がある「山」(文567)、同じく多胡郡辛科郷を意味する可能性のある「辛」(文590)が出土した。いずれも丸瓦凸面に記されている。

ウ. ヘラ書き型の文字瓦は多数出土し、その文字が瓦の製作依頼者名であるとか、瓦製作者・窯の識別符号などであるのか不明なものが多い。「大」(文576~583)・「中」(文588)・「大千」(文606)など。

エ. ヘラ書き型では人名のほか、「虫」(文584)・「真」(文586・587)・「上」(文598)などが出土した。これらの中「子」(文602・603・604)の3片は、使用したヘラ状工具の先端が丸みを持ち、やや太め(0.5cm程度)で同一工具の可能性があり、さらに字形も似ていることから同一工人により記された可能性が高い。

オ. 人名のみ及び人名と郷名が記されていると思われるものは、「万呂」(文589)・「真弓」(605)・「家万呂」(文609)・「織維」(文614)、刻印型「當」に接して書かれた「万呂」(文683)などで、いずれもヘラ書き型である。ただし、「織維」の「織」は多胡郡織蓑郷の郷名の一部を記した可能性もある。

カ. 郡・郷名が格子一体型によるものは、山田郡菌田郷を表す「菌田」6片(文714~719)、このほか佐位郡の郡・郷名瓦は種類・数量が多く、「佐位」C類左文字3片(文705~707)、「仇」に読める「佐」1片(文708)、郷名を表す「測」左文字3片(文690~692)、「雀」A類11片(文693~704)が出土している。「雀」はすべて同じ格子目と一体で、左文字となっている。参考図1のとおり、昭和期の調査時に原体の一部(おそらく手で握る付近)も映っている瓦が出土している(註2)。これは羽子板の柄と同じ形状で、柄の部分にも左文字で「雀」が彫られていることがわかるものである。今回の調査では、この「雀」A類の出土が最も多かった(註3)。

キ、郡・郷名が格子と一緒にとなっていない押印型のものは、「山田」2片(文711・712)と「佐」1片(文709・710)が出土し、「勢」(文713)の可能性があるものが1片出土した。

今回の調査で出土した文字瓦の概要是上記のとおりであるが、以下の2点を指摘しておきたい。

1 尼寺跡では、格子一体型の「測」が3片出土したが、これまでの僧寺跡の発掘調査では出土していないものである。しかし、この「測」は「十三宝塚格子印「測」左型」(『史跡十三宝塚遺跡』)と同范型であり、上植木廃寺跡、国分境遺跡からも出土している。また、「仇(佐)」(文708)も僧寺跡からは出土していないが「十三宝塚格子印「仇」型」である。

2 佐位郡雀部郷を表す「雀」は僧寺分類のA類のみが出土した。

上記のように「測」、「雀」のどちらも佐位郡内の郷名を表していると考えられるが、このことから直ちに尼寺への瓦の供給が佐位郡主体であったとはいえない。

## ②記号瓦

ア、記号であるのか、裁画や工具の当り痕であるのか不分明のものが多い(文616~682など)。

文721~724は、同一の工具による。また文725~730は、線刻が細くヘラ書きでも「針書き」と呼ぶことができるものである。

イ、文731~734は、×の交点から一方向にだけ直線が伸びる記号で、尼寺のほか中間地域でも出土しており、生産窯を示した記号の可能性が高い。相川龍雄編著『上野國分寺文字瓦譜』(1934)において、出土地を今の尼寺跡に比定される「礎 住谷修氏藏」として紹介されている。

ウ、文738・739は、「法輪」(仏像の持物「輪宝」)を陽刻したもの。山王廃寺跡、住谷コレクションにあり。

註1 拓影図の縮尺は全て2分の1とした。

・拓影図右下の数字は瓦図版の通し番号を付し、この文章中は番号の前に「文」を付して文字瓦の図版であることを示した。

・表4の「整理番号」には整理作業中の通し番号、「本篇」には本書の遺物編に掲載されている図番号を記して検索の便に供した。

註2 僧寺の調査においても類例が出土している。

註3 松田 猛「上野國分寺跡と「雀」の文字瓦」『赤城村歴史資料館紀要』第6集 赤城村教育委員会 赤城村歴史資料館 2004

補1 文字を瓦に記す方法・手段と記された文字の内容、その組み合わせをもとに多くの指摘がなされている。なかでも、上野國分寺跡第1期調査の結果から、前澤和之が精緻な整理と考察を行っており、多岐にわたる考察のうち、尼寺出土の文字瓦について考察するうえで主要なものを列記すると以下のとおりである。

○特定の建物に文字瓦を使用したわけではない。

○押印(本書の格子一体型・刻印型)には郡名・郷名が多く、箆書き(本書のヘラ書き型)には郷名と姓名ないし名が多い。( )は筆者が付した註。以下同じ。

○押印は創建期を含み東毛で作製され、箆書きは9世紀以降のものを含み主に西毛で作製された。

○押印に個人名がほとんどみられないことは、自発的な行為による知識というより郷ないし郷を単位とした税の賦課と同じような性格であった可能性がある。

○箆書きにおいて、郷名と姓名または名が記されているものはほぼ多胡郡に限られている。

○箆書きでは組織的な貫通形態が組まれていたことを示す内容のものはみられないが、作製主体者(瓦の発注者)を書いたものである可能性が強い。

○第三者には理解困難な略記は、瓦作製現場で区分するための目印として記された可能性がある。

上記のほか前澤は、格子一体型などの叩きにより都郷名が刻されるのは笠懸古窯跡群を中心とした東毛地域生産に懸る国分寺創建期の瓦で、ヘラ書き型の文字瓦は多胡郡が関係するものが多く、8世紀末あるいは9世紀前半以降に補修のために生産された瓦であるとの見解を示している。

補2 群馬県内出土の文字瓦については川原秀夫が収集まとめている。これにより県内の状況が網羅的にわかるものであり、今回の調査においても非常に多くの情報を得ることができた。

「上野国文字瓦集成」『明和学園短期大学紀要』第16集・第17集・第18集・第19集 2005・2007・2008・2009

補3 上記のほか二寺跡出土の文字瓦について、高井佳弘、前澤和之、松田 猛が瓦生産地と瓦に記された文字と文字を記した方法の組み合わせから生産体制について述べている。

a 高井佳弘 「上野国分寺跡出土の郡郡名押印文字瓦について」『古代』第107号 早稲田大学考古学会 1999

「上野・下野・信濃国分寺の創建期の瓦生産」『国分寺の創建 組織・技術編』吉川弘文館 2013

高井は二寺跡出土の瓦だけでなく、周辺の古代寺院跡から出土した瓦も考慮に入れて瓦に文字を記す方法の違いによる分類、同一方法で同一文字だが複数種類の道具によって残されているものの分類などのほか、文字瓦が生産された時期、生産の状況(瓦窯と生産に係わる郡郷の関係など)について論考している。

特に後者では、僧寺の創建以降、軒先瓦が少品種大量生産から多品種少量生産に変化したこと。また、文字瓦に関しては、創建初期の笠懸庵ノ川窯(新田郡の閑与)から同じく山際窯に生産の中心が移り、その後勢多・佐位・山田・新田の諸郡が瓦生産に係わるようになったとしている。そして、瓦に郡郷名を記す理由として複数の郡が閑与することとなったため、各郡の生産分を明確にする必要が生じたためであろうとしている。

b 前澤和之『上野国交替実録帳と古代社会』同成社 2021

前澤は補1からさらに進んで、僧寺跡の伽藍地内から出土した軒先瓦と文字瓦の組み合わせと天平勝宝元年(749)の獣物紋位の記述をもとに、創建には碓氷郡の石上郡君諸弟、勢多郡少額上毛野朝臣足人がそれぞれ前者は碓氷・多胡・緑野、後者は勢多・佐位・山田・新田の諸郡の中心となって知識を編成して瓦の生産・供給に尽力をしたこと。さらに、その後の補修期にはヘラ書き文字瓦で多胡郡のものが増えたことから多胡郡居住の物部氏をはじめとする知識によって瓦の生産・供給が担われたとしている。

c 松田 猛「群馬県における文字瓦と墨書き土器」『信濃』第38巻第11号 1986

「確考察」『上西原遺跡』群馬県教育委員会 1999

松田は、僧寺跡と上西原遺跡から出土した瓦のうち、勢多郡を表す「勢」字の瓦について特に注目し、この「勢」字は格子叩きの格子目と一体となっている。一方、同じ格子目(同范)だが「勢」字のない瓦があることから、始めは格子目だけであったものに「勢」字を追刻して使用したことを明らかにした。そして、この「勢」が格子目に追加された叩き道具の使用を始めた時が僧寺に郡を単位とする瓦の供給が開始された時期であるとしている。

9) 格子目・平行条目・縄目 瓦凸面に残る格子目・平行条目・縄目痕を例示しておく。

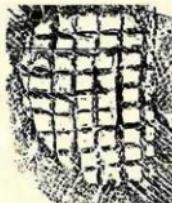
格子目は観察表に基に大きさ、形状で区分したが、一つの叩き痕の中で複数の大きさや形状があるため、異なる区分もできる。

平行条目は叩きを同一方向から行ったものと、交差する方向から行ったものがある。

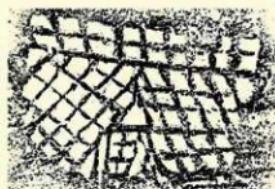
縄目は、縄が道具の長軸方向に卷いてある(縄長)か短軸方向に卷いてある(縄短)かで痕跡の大きさが異なる。また、縄長に分類した中には、縄目が狭端部でT字状に交差するものがある。

①格子目

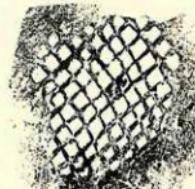
正方形(中)



1

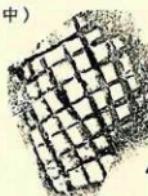


2

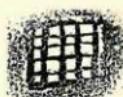


3

長方形(中)



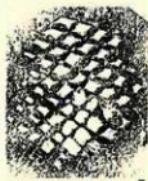
4



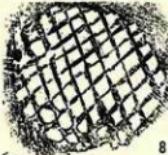
5



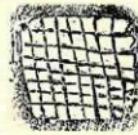
6



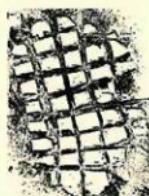
7



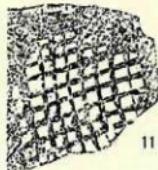
8



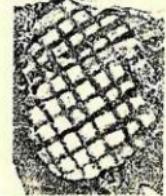
9



10



11

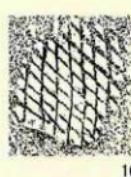
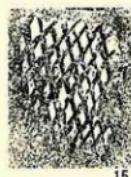
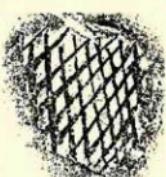
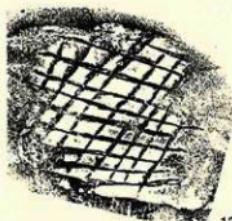


12

0 1:2 4cm

第220図 凸面叩き具痕(1)

ひし形・平行四辺形(中)



13

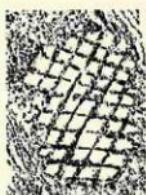
14

15

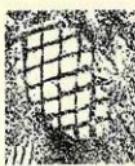
16



17



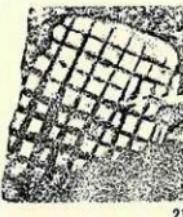
18



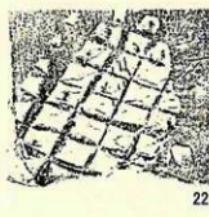
19



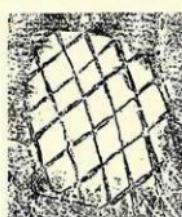
20



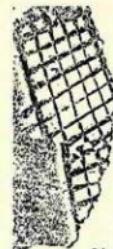
21



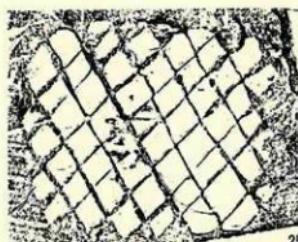
22



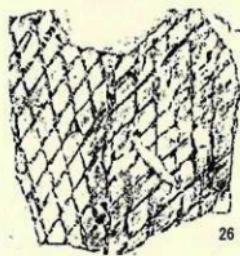
23



24



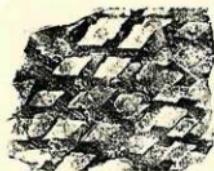
25



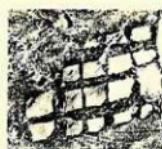
26

0 1:2 4cm

第221図 凸面叩き具痕(2)

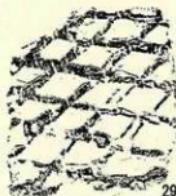


27

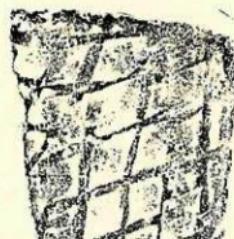


28

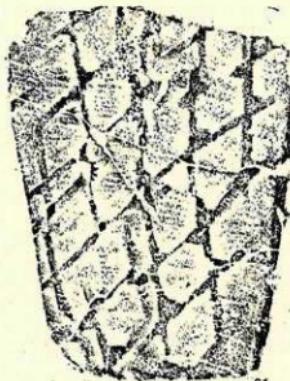
ひし形・平行四辺形(大)



29

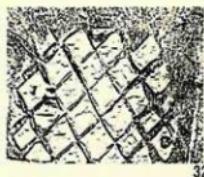


30



31

格子の中に珠点



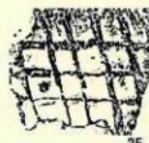
32



33



34



35



36

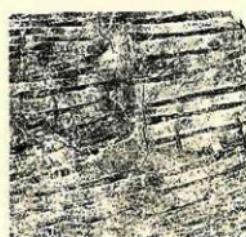


37

0 1:2 4cm

第222図 凸面叩き具痕(3)

異形格子



38



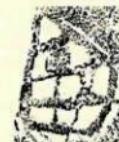
39



40



41



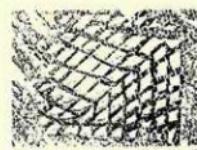
42



43



44



45

②平行条目



46



47



48

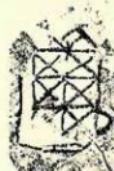


49



50

米字

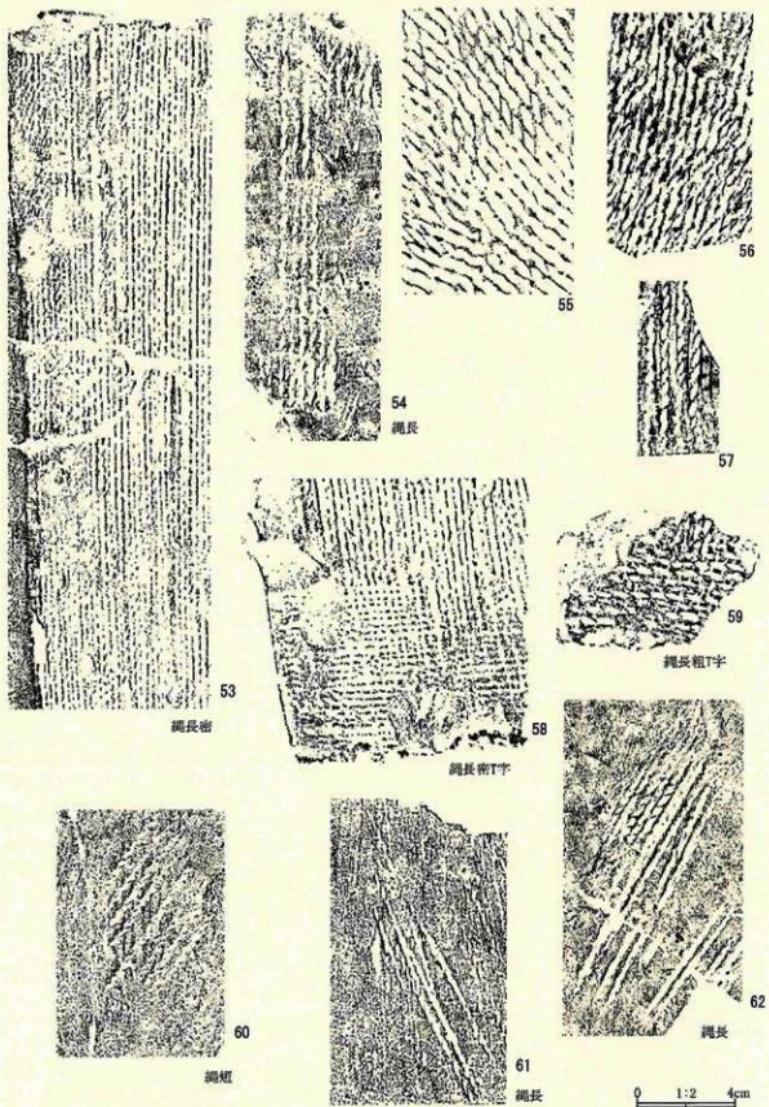


51

0 1:2 4cm

第223図 凸面叩き具痕(4)

③縄目



第224図 凸面叩き具痕(5)

### 10) 有段式丸瓦玉縁断面の形態分類

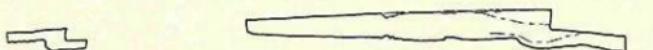
有段式丸瓦は、丸瓦と玉縁接合部の凹面の丸瓦側のくびれと玉縁側の膨らみに大小(強弱)があり、その形態と、丸瓦と玉縁の段差の違いで4分類した。この違いは有段式丸瓦を製作したときに用いた木型の違いによるものである。下図に示したとおりC1類はくびれが強く、膨らみも強いもので、段差が1cm以上のものをC1aとし、それ以下をC1bとした。C2類はくびれが弱く、膨らみも緩やかなもので、玉縁側の膨らみが長く緩いものをC2a、膨らみが殆どなく直線的に端部まで続くものをC2bとした。

4分類の中で最も多かったのはC1aで、C2bはわずかであった。

凸面側肩部は、下図のとおり丸瓦に別の粘土を貼り、凸面の段が直角になるように整形したことがわかる。



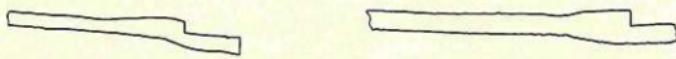
C1a



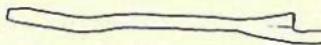
C1b



C2a



C2b



0 1:5 10cm

第225図 有段式丸瓦玉縁接合部分類図

## (2) 土器類(第 226 図～第 234 図)

土器類の出土状況は以下のように分類され、ほとんどが埋土内に混入したもので、使用状況を示すものでは無い。このため確認された土器類と尼寺の堂宇との関連は明らかではない。

- 1 尼寺に関連する遺構の埋土内での確認。
- 2 尼寺廃絶後に掘られた廐棄坑や瓦溜まり内での確認。
- 3 穴建物跡の床面上や埋土内での確認。

以下トレンチ番号順に記述する。8世紀以降の穴建物跡出土土器は第4章第1節(11)で言及した。

- 1) 1・2 トレンチ(伽藍地東辺・第 226 図 1～4) 1 の土師器杯(6世紀)は掘立柱建物跡の P4 埋土内で確認された。2 の須恵器蓋(8世紀前半か)は掘立柱建物跡確認面上の堆積土内、3 の須恵器杯(9～10世紀)は 1 トレンチ南端の尼寺整地面上の堆積土内で確認した。4 の須恵器碗(10世紀後半)は伽藍地東辺中央付近の地業状硬化面を掘り込む土坑あるいは溝跡の埋土内から出土した。
- 2) 3・4 トレンチ(尼坊跡・第 226 図 5～14) 5 の土師器杯(8世紀代)は尼坊跡南面(8P-3)の整地面上の堆積土、6 の土師器杯(7世紀前半)は北面(8P-85)でみられた尼寺創建以前の穴建物跡埋土内で出土した。7 の須恵器杯(10世紀)は尼寺跡南面に残存した講堂のものとみられる礎石(80-93)周辺の擾乱内でみられた。8・9 の須恵器碗(9世紀後半)は尼坊の基壇掘に掘られた廐棄坑内でみられ、8 は南辺(8P-71)で 9 は北辺(8P-21)で確認された。10・12・13 は地業面上の堆積土(廐絶後から As-B 降下前)内から出土したもので、10 の須恵器蓋(8世紀後半)は礎石抜取り痕(D2)付近、12 と 13 は灰釉陶器高台碗あるいは皿(9世紀後半か)で 12 が北西隅付近(9P-21)、13 が西辺(9P-42)でみられた。11 の須恵器杯(9世紀後半)は基壇北辺の外側(8P-71)埋土内で確認され、同じく北辺の西端では尼寺創建以前の穴建物跡がみられ、埋土内から 14 の土師器壺(7世紀)が出土した。
- 3) 5 トレンチ(伽藍地北東隅・第 227 図 15～29) 15・16 の土師器杯(7世紀後半)は北辺築垣東端の基部南側埋土内で確認され、また 17 の須恵器杯(11世紀前半か)及び 18 の土師器杯(7世紀後半)は築垣南面の溝状掘込埋土内でみられた。15・16・18 は、築垣南東隅と重複する 7世紀代の穴建物跡に関連するものとみられる。19 の須恵器杯(9世紀後半)と 20 の須恵器碗(9世紀後半)は築垣南面の溝状掘込のさらに外側の整地面上堆積土内で確認された。22 の土師器杯(9世紀後半)は北辺築垣東端の北側整地面上の堆積土内でみられ、21 の須恵器碗(9世紀後半～10世紀)はさらに北側の掘込内で確認された。27 の須恵器杯(9世紀前半か)と 28 の灰釉陶器碗あるいは皿(9世紀後半)は築垣北東隅東側の溝状掘込埋土内でみられ、29 の須恵器甕は築垣北東隅東側の瓦溜まり内に破片が散らばっていた。
- 4) 6 トレンチ(伽藍地東辺・第 228 図 30～40) 30 の須恵器杯(8世紀中葉)は東辺築垣東側(5P-18)の土坑状掘込埋土内で確認された。34 の須恵器杯蓋(8世紀中葉か)及び 35 の須恵器杯(9世紀前半)は東辺築垣東側(50-68)の溝状掘込埋土内でみられ、その外縁で重複する土坑状掘込の埋土内で 36 の須恵器杯(9世紀後半)が確認された。さらに、土坑状掘込東側の整地面上堆積土内から 37 の須恵器羽釜(10世紀後半)が出土した。また、築垣西側の S11 周辺で 38 の須恵器杯(10世紀)40 の須恵器碗(10世紀)や 39・40 の灰釉陶器碗(10世紀前半か)が確認された。
- 5) 7 トレンチ(伽藍地南辺・第 229 図 41～43) 41・42 の須恵器杯(9世紀後半)は、南辺中央付近(7L-70)の溝状掘込の埋め戻し土内で確認された。また、埋め戻し部の東端部は削り込みで整形されるにみられるが、削り込みの底面で 43 の須恵器杯(9世紀後半)が出土した。

- 6) 8 トレンチ(南面回廊・第 229 図 44~49) 44 は南面回廊東端部の基壇裾付近(7M-56)の堆積土内で確認され、45 の灰釉陶器皿(9 世紀末)はその南側(7M-36)の瓦溜まり内で出土した。また、46 の須恵器杯蓋(8 世紀中葉か)、48 の須恵器杯(9 世紀か)、47 及び 49 の須恵器高台付杯(8 世紀前半)は回廊南東隅の基壇裾東側の埋土内で確認された。
- 7) 10 トレンチ(伽藍地西辺・第 230~232 図 56・76~78) 56 の青磁碗(中世)は SD2 東側(100-6)の掘込埋土内、76 の須恵器杯蓋(8 世紀前半)は SD1 西側(10N-19)の埋土内、77 の軟質陶器鉢(中世)は SD2 の埋土内で確認された。78 の須恵器碗(9 世紀後半)は SD2 の西側(110-1)整地面上の堆積土内でみられた。
- 8) 11 トレンチ(西面回廊・第 232 図 79~81) 79 のカワラケ(14 世紀)は西面回廊と重複する溝(中世か)の南延長部とみられる箇所(9N-21)で確認された。80 の須恵器碗(9 世紀前半か)及び 81 の須恵器壺(9 世紀か)は西面回廊基壇裾の東側(8N-20)の埋土内で出土した。
- 9) 13 トレンチ(金堂跡・第 232 図 83~89) 83 の土師器杯(8 世紀後半)は金堂跡南辺中央付近の基壇残存部上の堆積土内で確認された。84~86 の須恵器杯(11 世紀)は、金堂跡南面(8N-33)の凝灰岩片敷込面上の堆積土内で確認され、正位置に置かれた状態であった。87・88 の須恵器杯(9 世紀)及び 89 の須恵器碗(10 世紀後半)は金堂跡南正面の「瓦列」付近(87・89 は 8N-53、88 は 8N-55)で出土した。

#### (3) 土製品(第 233 図)

土器類と同じく埋土内に混入した状況で確認され、本来の使用状況を示さず、尼寺の堂宇との関連は明らかではない。90 は円面硯の台部で回廊南東隅(8-3 トレンチ)から出土した。91 は円盤状で中央に孔を有する鋸鉋車、92 は羽口で、東辺築垣東側(6-2 トレンチ・50-68)の溝状掘込の埋土内で確認された。

#### (4) 鉄製品(第 233 図)

多くが釘が占め、多くは廃材処理によるとみられる焼土ブロックや炭片を含む埋土内で確認されている。93・94・98 は尼坊跡(3・4 トレンチ)で出土し、93 は南辺(8P-23)基壇裾、94 は礎石抜取痕 B2 周辺(8P-60)、98 は南辺(7P-19)の廃棄坑で確認された。96 は築垣基部の北東隅(5-2 トレンチ・5Q-39)、99 は金堂跡西側の北面回廊基壇北側裾(11-1E トレンチ・8N-80)、100 は東面回廊跡の柱跡 13 付近(15 トレンチ・7N-44)で出土した。95 の鉄鎌は北辺築垣基部北側(5-1 トレンチ・6Q-63)の埋土内で確認された。

#### (5) 銭貨(第 234 図)

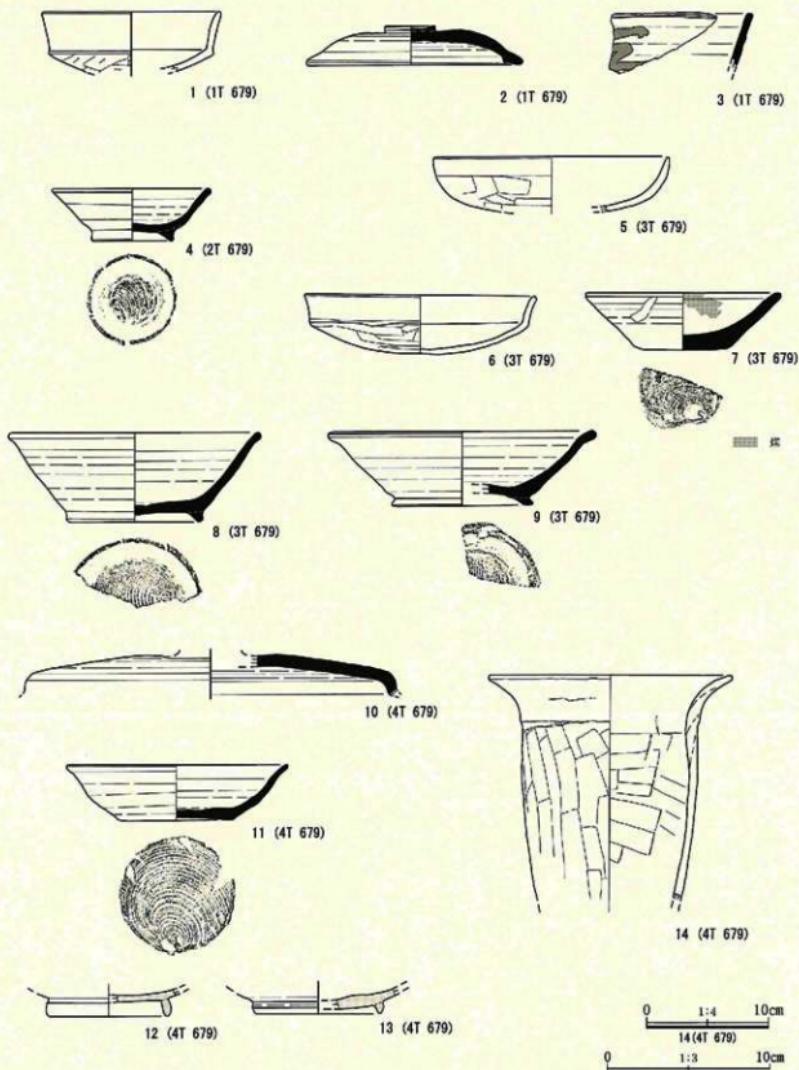
101 は治平元宝(初鋤 1064 年)で伽藍地西辺の SD2 東側(10-1 トレンチ・100-7)で確認された。

#### (6) 石製品(第 234 図)

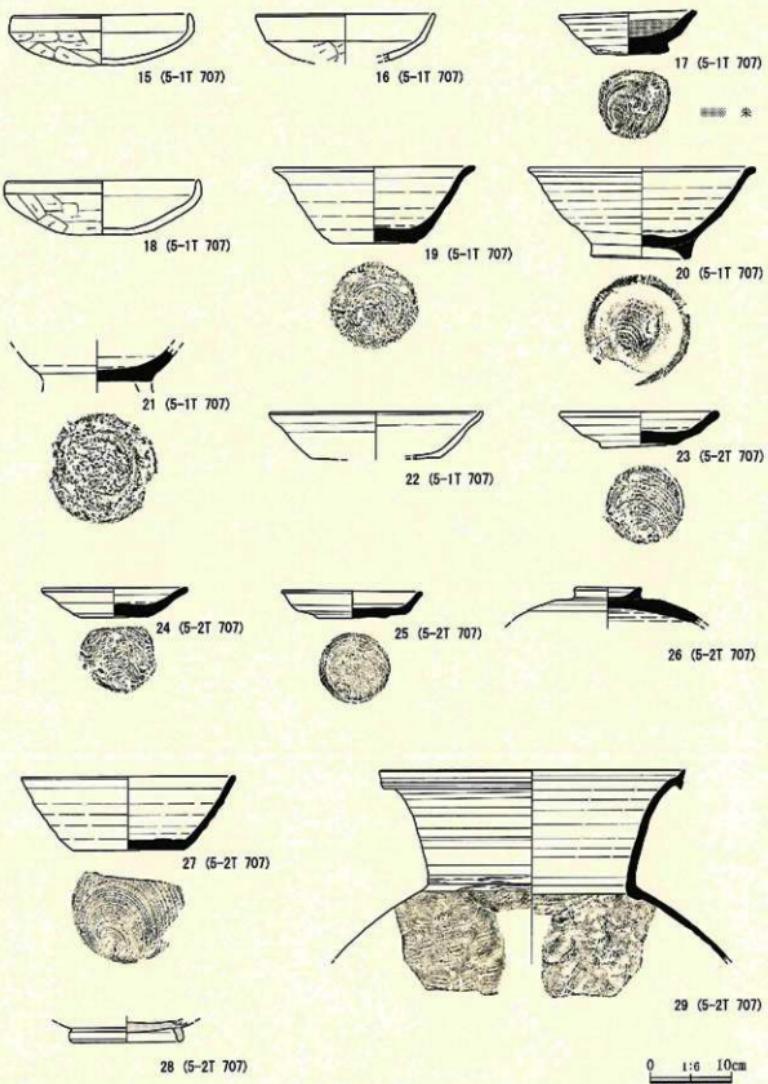
102 は古墳時代の石製模造品で、北辺築垣基部北側(5-1 トレンチ・6Q-63)の埋土内で確認された。103 は類例が無いため、名称を「環状加工礎」とした。扁平な礎の周囲を打ち欠き、中央に長軸 2.9 cm・短軸 2.2 cm の孔を穿ち、孔の両端周囲を打ち欠くことで全体を環状に整形している。擦痕等使用痕跡はみられなかった。104~106 は凝灰岩切石の破片で、金堂南辺に掘られた近年の耕作溝内に廃棄されていた。耕作溝の東側では、基壇外装と推定される凝灰岩切石列が確認されており、104~106 はこの一部を抜き取ったものとみられる。なお 104 では幅 5.0cm・高さ 2.5 cm の帯状の高まりが削り出され、石材相互のかみ合わせのための細工と推定される。106 は欠損により不明瞭だが 104 同様の削り出しを有するとみられる。

遺物実測図中に用いた表現は次の通り。

■ 須恵器・□ 灰釉陶器断面及び灰釉・■ 墨書。



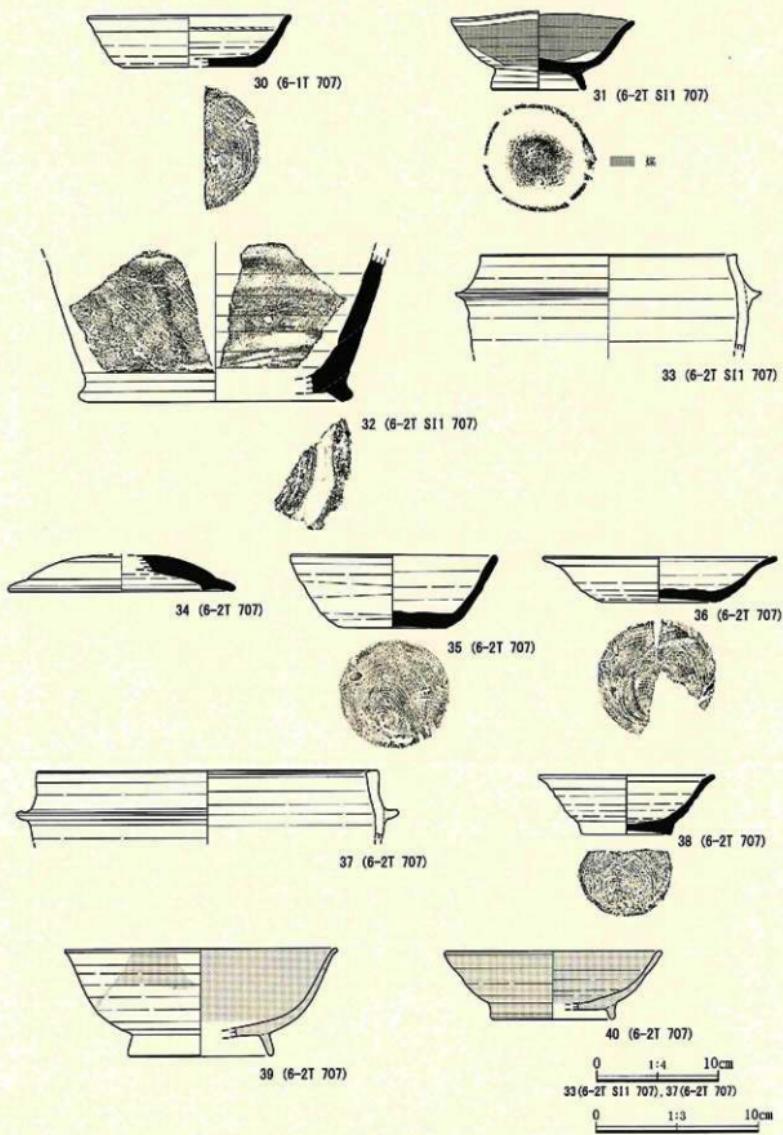
第226図 土器類1 1T, 2T, 3T, 4T



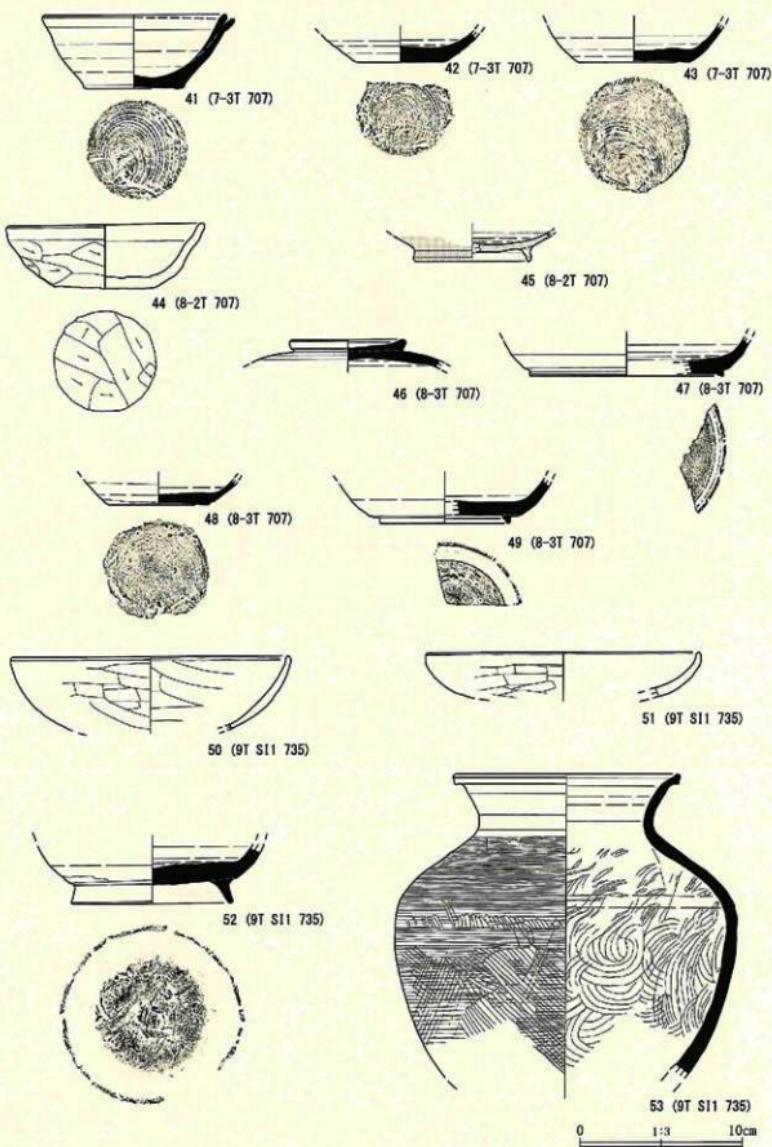
0 1:6 10cm  
 29 (5-2T 707)

0 1:3 10cm

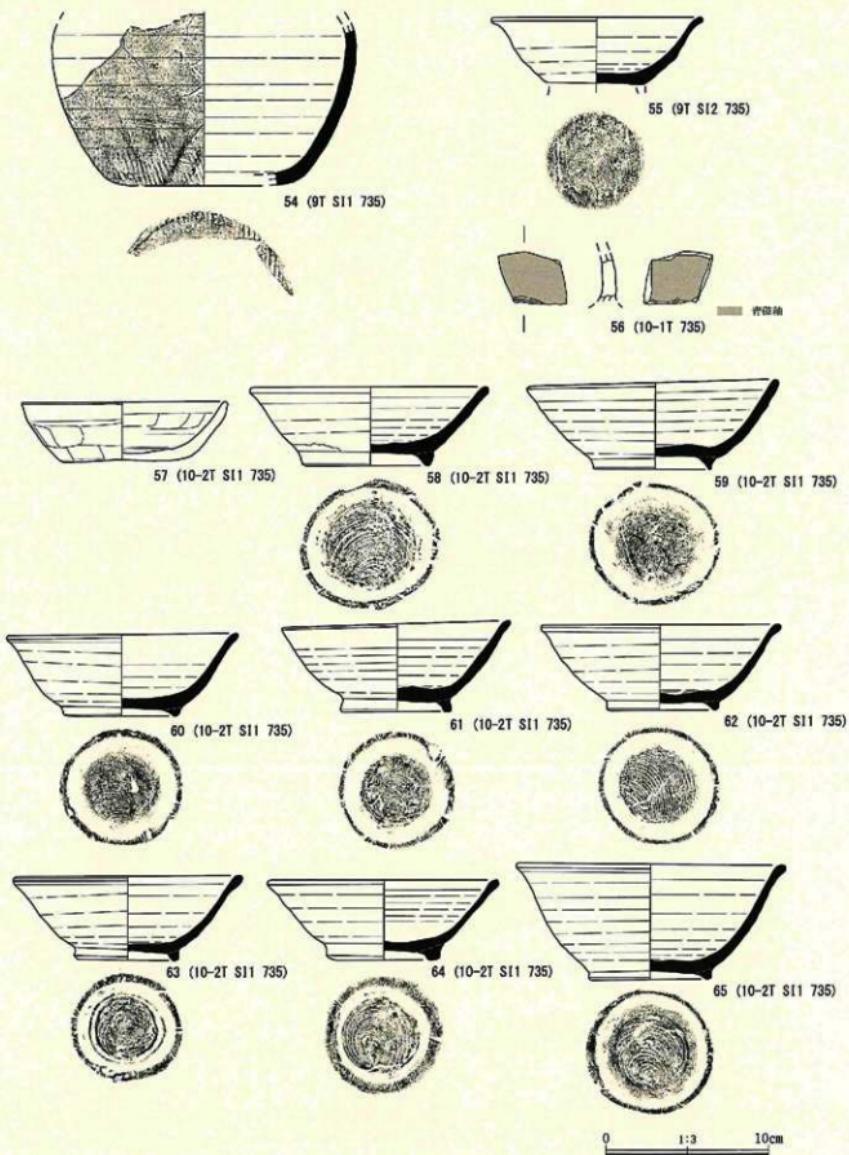
第227図 土器類2 5-1T, 5-2T



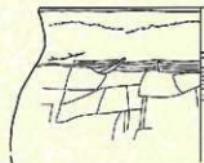
第228図 土器類3 6-1T, 6-2T, 6-2T(S11)



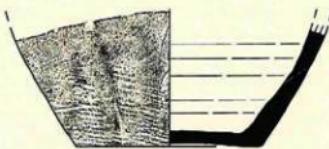
第229図 土器類4 7-3T, 8-2T, 8-3T, 9T (SII)



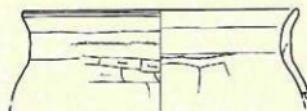
第230図 土器類5 9T(SII, SII), 10-1T, 10-2T(SII)



66 (10-2T SI1 735)



68 (10-2T 735)



67 (10-2T SI1 735)



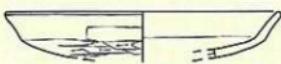
69 (10-2T SI2 735)



70 (10-2T SI2 735)



71 (10-2T SI2 735)



72 (10-2T SI2 735)



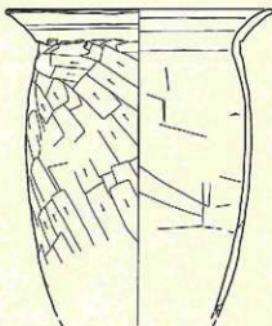
73 (10-2T SI2 735)



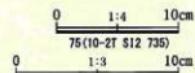
74 (10-2T SI2 735)



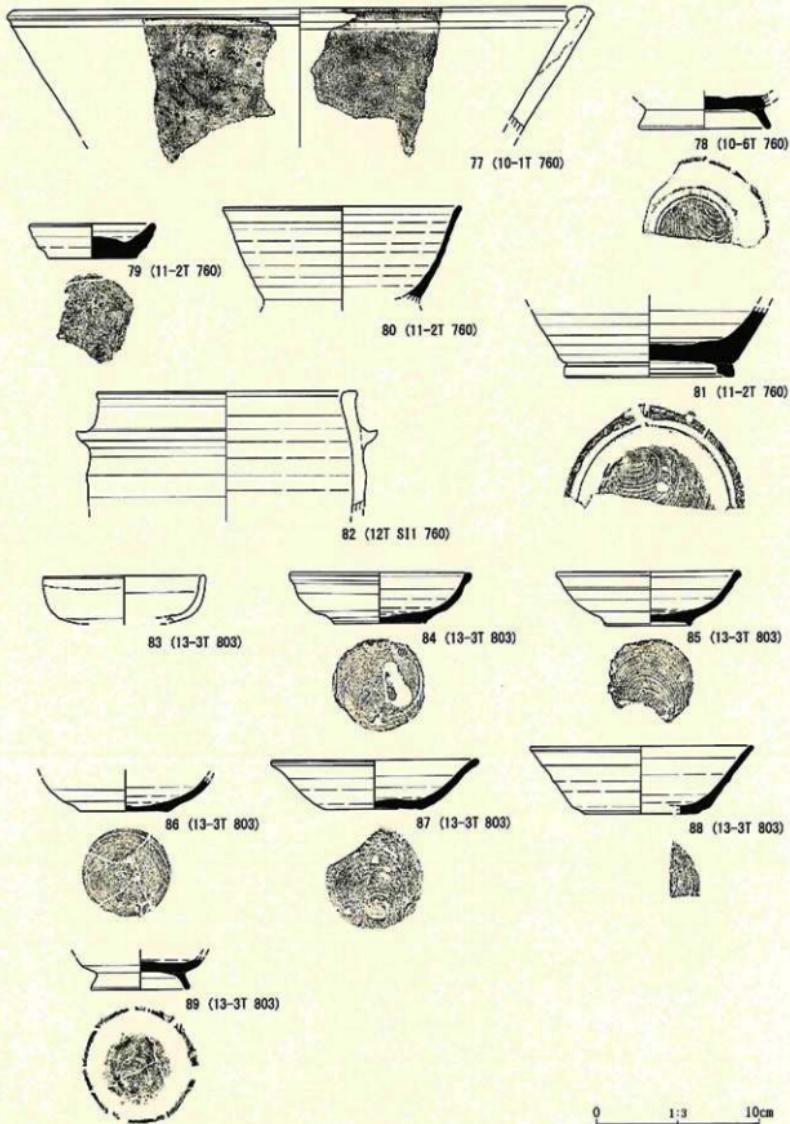
76 (10-2T グリッド 735)



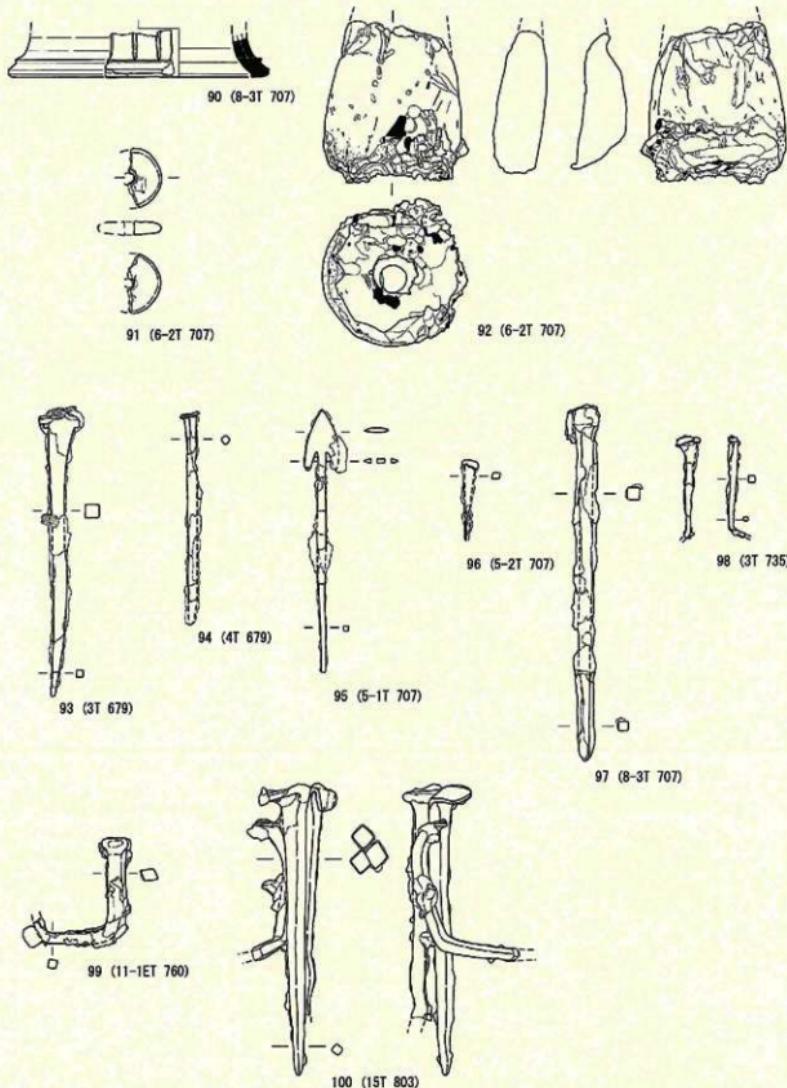
75 (10-2T SI2 735)



第231図 土器類6 10-2T(SI1, SI2, グリッド)

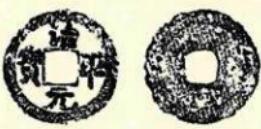


第232図 土器類7 10-1T, 10-6T, 11-2T, 12T (SII), 13-3T



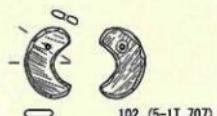
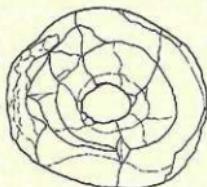
0 1:3 10cm

第233図 円面鏡・土製品・鉄製品



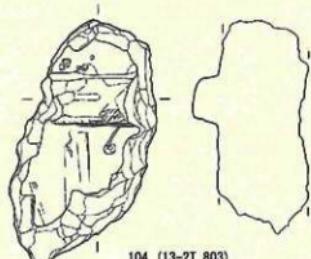
101 (10-1T 735)

0 1:1 2cm  
101 (10-1T 735)

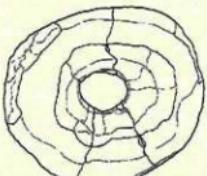


102 (5-1T 707)

0 1:2 5cm  
102 (5-1T 707)

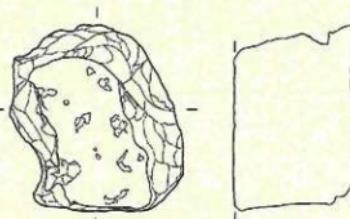
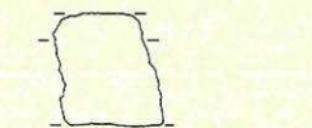


104 (13-2T 803)

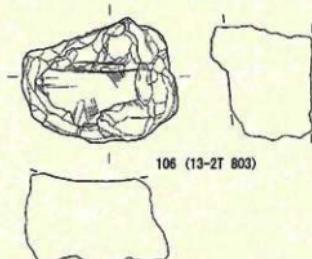


103 (10-1T 735)

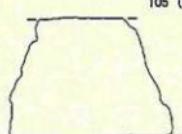
0 1:3 10cm  
103 (10-1T 735)



105 (13-2T 803)



106 (13-2T 803)



0 1:5 10cm  
104~106 (13-2T)

第234図 銀貨・石製品

## 瓦類觀察表註

出土瓦規察表の各欄に用いた用語は次のとおりである。なお、出土例が僅かしか無いものについてはこの説明以外の表現をしたものがある。

図番号、写真番号、整理番号 図番号、写真番号は本書掲載の図版番号。整理番号は遺物観察時のメモ作成時の番号。

出土地 調査時のトレーナー名にTを付し、続けてグリッド名を記載。ただしAs-B堤上中出土のものは「表土」、地業版基土中出土のものは「地業内」を付した。なお、調査時に出土グリッドが不明となってしまったものはトレーナー名だけである。

瓦種 平瓦、丸瓦(有段式・無段式)、軒平瓦、軒丸瓦の種別を記載。軒平瓦、軒丸瓦で備考調査の分類番号があるものはその番号(註1)、無いものは「新」とし、他の遺跡等で確認できるものは備考欄に遺跡名などを記載した(註2)。「有段式丸瓦」C1a・・丸瓦凹面と玉縁凹面の段差1cm以上、強く屈曲。C1b・・丸瓦凹面と玉縁凹面の段差1cm未満、強く屈曲。C2a・・丸瓦凹面から玉縁凹面にかけて緩い傾斜でやや屈曲。(C2b・・丸瓦凹面から玉縁凹面にかけて大きな変換点がないままつながるもの(註3))。

成形・整形 ①凸面 「格子目」は主たる格子目の形により正方形・長方形・平行四辺形・ひし形・不定形に分類。格子目大きさ区分は、格子の最も長い辺が5mm以下を「小」、最も短い辺が1cm以上を「大」、その間を「中」とした。「縞目」は3cmの幅にあらう条数で区分し、4本以下を「粗」、11本以上を「密」、その間を「中」とした。「縞短」は縞を板の短軸方向に巻いたと思われるもの、「縞長」は長軸方向に巻いたと思われるもの。「押圧」は圓筒道具を用い、叩きではなく押圧したと思われるもの。「ローラー状」は輪縦体を転がしたのではないかと思われるものの(註4)。「平行条目」は瓦に残る溝の幅で分類。産みの幅が4mm以上を「太」、4mm未満を「細」とした。「素文」は掌、手推や無地の板で叩いた痕跡の場合。「叩き方向」は叩いた(押圧)方向も可能な限り親指をし、「タテ」は瓦の長軸方向、「ヨコ」は短軸方向、「ナナメ」は斜め方向。工具等の痕跡が平行の場合は「平行」、そうでない場合に「ハの字状」、「二字状」と記載。「二字状」は平瓦に密接して細い綱長での痕跡があるものの中で狭端部際に綱長と直行する方向に綱目がありT字状に見えるものをいう。「一段式」は瓦全体が残っている場合で、叩き道具の単位が明瞭なものについて、長軸方向の單位個数を段、側面方向の単位個数を列で記した。「糸切り痕」は明瞭な場合は「糸切り痕」とのみ、ナデ等で大部分が消えている場合は「僅かに」、殆ど消えているが調整の下に見える場合は「微かに」とした。「離れ砂」は成形時、叩き締め道具等が瓦から離れてやすくなるための離材のことである場合にのみ記載。「調整」は最終調整が確認できるのみ「ナゲリ」、「ナデ」のはか、方向が明瞭のときは方向を記し、強い回転痕が認められるときは「回転」とした。調整の順序がわかるときは「→」前後を記した。「目地」は軒平瓦、軒丸瓦の瓦当面に気泡が抜けた痕のような細かい穴が全面に見えることがある。日本刀で用いる鈎の表面仕上げの石目地に似ているためこの用語を用いた。

②凹面 「布目」は布目底がある場合、1cm四方に於ける経糸糸緯の本数を数え、4本以下を「粗」、11本以上を「密」、その間を「中」とした。布の縞目がある場合にはそのことを記した。限られた部分的なものを除き、ナデ調整が施されているときは凸面と同様とした。「側板圧痕」は横骨構の側板圧痕が残っている場合。

「瓦當裏」は軒丸瓦の瓦当裏面に残る布目、ナデ、ケズリの状態を記した。布目は袋の縞目があるものを「有紋り」、無いものを「無紋り」とした。軒丸瓦の瓦当面と丸瓦接合技法は僧帽の例による(註5)。

法量 「厚」は最も厚いと思われる部分の厚みを/の左に、最も薄いと思われる部分の厚みを右に記した。全体がほぼ同一の厚さのときは区分しない。「広端縫」は広端面の直縫、「狭端縫」は狭端面の直縫、「全長」は瓦の全長である。

色調 瓦の凹面は「凹〇〇色」、凸面は「凸〇〇色」、凹凸面同じ場合は「凹凸〇〇色」で記した。色調は農林水産省技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所2016年版「新版標準土色帖」によった。「尾を引く」は側面等に墨を流したように筋状の黒色粘土が伸びているもの。「炭焼吸着」は炭素が全面に吸着するよう施成され黒色の墨となっているもの。

胎土 「夾雜物」は粒径1mm未満を「微粒」、1~2mmを「細粒」、2~4mmを「小粒」、4mm以上を「粗」とした。量は新版標準土色帖の面積割合を参考にし、1~3%を「微量」、5~10%を「少量」、15~25%を「多量」、30~50%を「大量」とした。微粒の白色粒が、割れ口全体にまんべんなく粉を振りかけたように見えるものは「まぶしたよう」と記した。「素地紋」は割れ口面が緻密でスッキリしたものを「密」、粒状のものを「粗」とし、同じ夾雜物、色調で幾層かに重なったように見えるものを「層狀」とした。薄い粘土が隙間を挟んで幾層にも重なっている場合は「ハイ皮状」、色の異なる粘土が幾層か重なっているものを「粘土鱗狀」とし、全体が均質なものは「均質」とした。「マーブル状」は複数の色の粘土が波を打ったように重なり合うもので、渦巻状のものも含む。

備考 プロジェクトでできるほどの資料がないものなどを記入した。そのうちいくつかは次のとおりである。「瓦分割時の側面痕跡」は円筒状の瓦を一枚ずつに分割する際、刃もので瓦に傷を付け分割時の補助をしているが、分割後の側面の調整状況と刃を入れた向き(凹面側が正面側に多い)がわかるものについて記した。瓦の厚みの半分程度まで刃先を入れた後分割する際のバリが出てる状態を「破面a」、バリと対になる窪みの状態を「破面b」とし、上下端部以外は刃先が貫通しているもので端部近くにだけ分割痕がありバリが出来るものを「破面c」、窪んでいるものを「破面d」とした(註6)。刃先が入った面を側面、凸面で表記した。

「側面布目」は一枚づくりの証左となる凹面から続く布目が側面にあるもの。

「隣切り」は隣棟に接する瓦で側面の長さが大きく異なるもの。「隣移」は瓦の洞を僅かに一部だけ切り落としたもの。

「表面剥離」は瓦の表面が剥離したものの。「石爆ぜ」は船上中に大きな礫が含まれ、そこからヒビが入っているもの。

「文字瓦」、文字瓦のうち文字として読めるものはその文字を、判読困難なものは「不明文字」とした。一部のものには倍寺の文字瓦に係る高井住吉の種類を付した(註7)。

「〇〇露」從来からの調査研究で生産窯が判明している場合記載した。

上記ほか次の事項なども記載した。

○いくつかの瓦について参考のため重さをg単位で記入した。

○同范瓦など参考となる図版中の瓦はN/Aを付して記した。

註1 僧寺における軒先瓦の分類番号

分類番号はアルファベット文字と数字3桁で表され、A～Mが軒丸瓦、N～Z(0を除く)が軒平瓦をあらわし、数字の1桁目が弁数など小分類。それ以下は同じ小分類での個体番号となっている。今回報告に関わるのあるところは以下のとおりである。  
『史跡上野国分寺跡』発掘調査報告書 1989および『史跡上野国分寺跡 第2期発掘調査報告書—総括編—』2018 どちらも群馬県教育委員会)

両書より抜粋し改編 ※軒丸瓦の蓮子1+4は中央に蓮子1個その周囲に蓮子4個を表す。

軒丸瓦			軒平瓦	
	大分類	小分類	大分類	小分類
単弁	A 4葉	0 蓮子1	N 重弧・重崩文	
		1 蓮子1+4		NH 篦
		2 蓮子1+5		NT 手書き
		3 その他		NR ロクロ
	B 5葉	0 蓮子1	P 唐草文	0 右偏行
		1 蓮子1+4		1 左偏行
		2 蓮子1+5		Q 斑文
		3 その他		R 流水文
	E 8葉	1 弁が()の形	U 線描・波状文	0 篦
		H 11葉～		1 手書き
	J 6・7葉		V 連珠文	
			W 植物文	

註2 軒平瓦、軒丸瓦の文様区分と郡郷名文字瓦の分類は僧寺の例によるが、僧寺において未発見の文様、文字については、「新」とし、そのうちいくつかは新たな分類番号を付し、同じ文様等のものが住谷コレクションや他の報告書に掲載されている場合にはその旨を備考に記した。その際の語訳は次のようにした。住谷 修編『上野瓦集西毛編』⇒住谷西毛、住谷コレクション⇒住コレ、『上野国分尼寺跡』(昭和期の園分尼寺の調査)⇒尼寺昭和、『上野国分僧寺・尼寺中間地域』(関東自動車道の建設に伴う発掘調査報告書 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業團1～8)⇒中間地域及び巻数、『元徳社蒼海遺跡群』(前橋市教育委員会等が尼寺南方を中心に実施している調査報告書)⇒元徳社及び巻数、『上野国分寺隣接地域発掘調査報告書』⇒「隣接地域」、『史跡十三堂造廬』⇒「十三堂」ほかこの例による。

註3 玉縁の形式は大脇 嶽の玉縁の成型におけるC1手法、C2手法の区分を基にした。大脇 嶽「丸瓦の製作技術」『研究論集IX』奈良国立文化財研究所学報 第49冊 1991

註4 ローラー状については原体がつかまる例がなく男産ではないが、これまでも可能性を指摘されている。佐原 真「平瓦捲巻作り」『考古学雑誌』第58巻第2号 1972、大江正行第4章第2節「瓦」『国分寺跡』群馬県教育委員会 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業團 1990

註5 A手法は瓦当面を接合する方法、A-1は接着法、A-3は印籠つぎ。B手法は丸瓦と瓦当を同時に形成する方法。B-1、B-2は裁頭円錐形の型木を用い、B-3は前輪状型木を使用したとする。

註6 佐原 真の分割手法を参考に、大脇 嶽の分類のa、bのほかd(佐原の「粘土円筒分割法3種」のII)を追加し、破面に粘土が付いて大きなバリが残ったものを、回んでいるものを表した。多くの場合刃先は凹面側から入るがバリの遺存状況から凸面(製作時の外)側から入るものがあるので刃の入った側を凹面、凸面で表記した。

註7 文字瓦の種類は高井佐弘の種類によった。「上野国分寺跡出土の郡郷名押印文字瓦について」『古代』第107号 早稲田大学考古学会 1999

上野国分尼寺跡出土瓦類観察表

器物名 実測値 測定部位	出土地	瓦種	成形 跡形	法量 (cm)	色調	粘土	備考
瓦1-1 PL-26-1 1090	13-IT 7018	平瓦	両 抵かに布目中。ヨコ ナダ 凸 微かに糸切り痕。ヨ コナダ	厚 2.5/1.8 奥幅 22.2	凹 淡灰褐色 凸 淡灰色	・白色微粒まぶした よう ・米粒状 ・均質 ・精進	・金丸瓦の裏外の瓦列 ・高麗瓦及びその他の裏面に自 然剥付着
瓦1-2 1087	13-IT 7012	有段式 丸瓦	圓 布目中 凸 同軸ヨコナダ	丸瓦厚 1.6	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒まぶした よう ・米粒状	・C1H ・武士合せ Z ・織塵紋面から
瓦1-3 1088	13-IT 8024	平瓦	圓 布目中。微かに赤切 り痕 凸 継目中、一方向タテ 巻き、縫合。ヨコナダ	厚 1.7	凹 にぶい黄橙色 凸 にぶい橙色	・白色微粒多量 ・灰白色粘土層状	
瓦1-4 1089	13-IT 8024	軒平瓦 P008	瓦面 石頭面 主筋、支筋 も押出かん。界線2本 間、段落5.3cm 圓 布目中	瓦当高 6.0	瓦面 灰白色 瓦裏 灰色 間 灰白色	・白潤微粒多量 ・色の異なる粘土が マーブル状	・頭は貼付け
瓦1-5 — 1112	13-IT 7009	平瓦	圓 布目中 凸 ヨコナダ	厚 2.2/1.9	凹 灰白色 凸 灰素吸着	・白潤微粒大量 ・黒褐色微粒多量 ・ハイ皮状	凸 ハラ書き型不明文字
瓦1-6 — 1116	13-IT 7009	平瓦	圓 布目中。糸の亂れあ り 凸 タテナダ	厚 2.2	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・灰褐色 ・白潤微粒 ・細粒多 量 ・灰白色粘土 ・ハイ皮状	凸 ハラ書き型「平」
瓦1-7 — 1183	13-IT 7019	平瓦	圓 布目中。赤切り痕 凸 継目中、一方向タテ 巻着、縫合。縫隙微細押 正	厚 2.1/1.6	凹 にぶい橙色 凸 にぶい橙色 瓦面 灰白色粘土 黒褐色粘土尾を引く	・黒褐色微粒少量 ・褐褐色 ・均質 ・精進	
瓦2-8 — 1184	13-IT 8022	軒丸瓦 S104	瓦面 先端の尖った一疵花。 子葉あり(正面)。中筋四 筋1本。界線2本 瓦当側面 下部四筋用ケズリ。瓦当 側面タケケズリ 瓦裏 タテナダ。突端なし。肩 内周方向には水平用にケ ズリ。丸瓦差込み用の溝 あり	瓦当厚 1.4	瓦面 黄灰色 瓦裏 黄灰色	・白潤微粒多量 ・米褐色微粒多量 ・同じ粘土層状 ・瓦当面側に凹目地 状 ・周縁、丸瓦差込に灰 白色粘土。黒褐色粘 土端状	・周縁高 0.6~1.0cm ・周縁幅 1.6~1.5cm ・瓦当直径 16.8cm ・界線底径 12.0cm ・A-3技法 ・寺山昭和 (この項目は以下 では略)
瓦2-9 — 1185	13-IT 8022	丸瓦	圓 布目中。赤切り痕 凸 タテナダ	厚 4.6/3.7	凹 にぶい黄橙色 凸 褐灰色	・白潤微粒多量 ・褐褐色粘土マーブ ル状	・一枚の瓦を重ねて作ったよ う
瓦2-10 — 1091	13-IT 8024 地蔵内	平瓦	圓 布目中。側板瓦底板 2.0cm 凸 継目中、一方向タテ 巻着、側板一回折ヨコナ ダ	厚 1.9/1.4 底 40.5	凹 灰素吸着 凸 灰素吸着	・白潤微粒大量 ・片挂 ・均質	
瓦3-11 — 1143	13-IT 7028 表土	軒丸瓦 E103	瓦当面 微小状葉草文八筋。子葉 なし。子葉1本。界線ナ ダ。中筋四筋あり。子葉 不明 瓦裏 ヨコナダ。突端なし。側 面端を斜めに削る	瓦当厚 2.4/1.6	瓦面 褐灰色 瓦裏 褐灰色	・灰褐色 ・白潤微粒多量・細 粒・小塊多量 ・同じ粘土層状	・周縁幅 4~5mm ・弁区分が盛り上る ・A-3技法
瓦3-12 — 1123	13-IT 7029 表土	軒平瓦 判別不能	瓦当面 左側行底筋。主筋、支筋 も押出かん生じる。界線2本 (2本とも可能性あり) 圓 布目中	平瓦厚 2.2	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・夾雜物多量 ・白潤微粒大量・細 粒・小塊多量 ・ハイ皮状	・平瓦は瓦当上端より症む
瓦3-13 — 1125	13-IT 7029 表土	軒平瓦 P103	瓦当面 左側行底筋。界線2本 横筋	—	瓦面 明褐色	・白潤微粒大量 ・灰白色粘土マーブ ル状	・頭の付け根強くヨビナダ ・褐褐色面 ・A-2Bと同一様だが胴体は 異なる
瓦3-14 — 1124	13-IT 7029 表土	軒平瓦 P010	瓦当面 左側行底筋。界線2本 横筋	瓦当高 4.3 平瓦厚 2.3	瓦面 黄灰色 凹 褐灰色 凸 褐灰色 ・瓦面に灰白色、 黒褐色粘土尾を引く	・白潤微粒多量 ・灰白色粘土マーブ ル状	・右上端、外側界線から周縁 に凹面あり ・褐褐色面 ・A-2Bと同一様だが胴体は 異なる

器物名 発掘場所名	出土地	瓦種	成形 施形	法量 (cm)	色調	触土	備考
瓦3-15 — 1130	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 P002	瓦面 左側に施形。異跡1本。 外底線文1つのみあり 三角形彫 瓦面ヨコナナデ 瓦面 亂かに有目中。瓦当 上面ヨコナナデ 凸 タテケズリ	瓦当高 4.8 平瓦厚 2.6	瓦当面 灰色 側灰白色 凸 雪灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精謹	・上植木庵寺跡、十三宝鏡遺 跡。寺井庵寺跡、中間地域で 出土。(この項目は以下では 省略) ・頭と凸面赤色塗形 ・笠懸山窓空
瓦3-16 — 1135	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 B201カ	瓦当面 二重花弁。子窓あり。界 縁1本。中房縁1本。蓮 子不明。周縁ナデ。 瓦面裏 無施紋り。布2重。突帶 あり	瓦当中央厚 1.1	瓦當面 増灰黄色 瓦當裏 黄灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精謹	・周縁幅 1.4cm ・瓦面裏 ・井戸底から界縁にかけて卓 で押した時に凹印状に刻む ・瓦当裏面突出部跡を斜めにケ ズル ・台之原庵寺跡、有馬庵寺 跡、寺井庵寺跡、油6坂遺 跡、中間地域などから出土 (この項目は以下では省略)
瓦3-17 — 1166	13-1T 7029 表土	丸瓦	四 微かに有目中。ヨ コナナデ 凸 タテケズリ	厚 4.2/3.4	凹 にぶい褐色 凸灰黄色。灰付 若	・白面微粒多量 ・素地粒 粗	・底面抉々に厚くなる。軒 丸瓦の五次欠落にては厚す ぎるので窓会のような道具瓦 の可能性あり
瓦3-18 PL-26-2 1135	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 B205カ	瓦当面 二重花弁五瓣化。子窓あ り。界縁1本。中房縁1 本。蓮子1-4 瓦当裏 無施紋り。突帶。突帶な ら下方は斜めケズリ 瓦当側面 段を有するケズリ	瓦当厚 1.9/1.6	瓦当面 淡黄色 瓦当裏 淡黄色	・白色微粒大量	・子窓 緑高い淡緑 ・周縁幅 1.5~2.5cm、平坦 ・側や背は突端があり本品 と異なる ・No18~20まで文様は酷似す るが背面確定できていない
瓦3-19 PL-25-3 1140	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 B205カ	瓦当面 二重花弁五瓣化。子窓あ り。界縁1本。中房縁1 本。蓮子1枚不明 瓦面裏 無施紋り布目。突帶不明。 突袋の合せ目	瓦当厚 2.8/2.4	瓦當面 にぶい褐色 瓦當裏 灰色	・白面微粒少量 ・開口粘土層状	・周縁幅 0.9cm ・瓦面軒丸味
瓦3-20 PL-25-4 1141	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 B205カ	瓦当面 二重花弁五瓣化。子窓あ り。界縁1本。中房縁1 本。蓮子1-4。周縁ナ デ 瓦当裏 無施紋り。突袋。突袋なし。 側面縫を斜めにくる	瓦当厚 2.2	瓦當面 にぶい黃褐 色 瓦當裏 にぶい黃褐 色	・白面微粒多量 ・灰白色粘土層状	・周縁幅 0.5~1.2cm ・周縁一部斜面高ちて水平 面はない ・中央部のため中空、塞子 不可 ・側や背は突端があり本品 と異なる ・No46と表土、弁形似る
瓦4-21 1142	13-1T 7029 表土	軒丸瓦 E103	瓦当面 腰爪状過成文八葉。子窓 なし。界縁1本。中房 縁1本。蓮子1-4。周縁ナ デ 瓦当裏 無施紋り。突袋なし。側 面縫を斜めにくる	瓦当厚 2.2/1.6	瓦當面 灰灰色 瓦當裏 灰色	・突縫物多量 ・白面微粒大量 ・片蓋 ・開口粘土層状	・周縁幅 0.5~1.0cm ・弁形に盛り上る ・A-T法
瓦4-22 — 1146	13-1T 7039 表土	軒丸瓦 B105カ	瓦当面 弁先の丸い二重花弁。界 縁1本。周縁ナデイネイ ナデ。中房縁文存しない ハ 瓦面裏 無施紋り布目。突袋ありナ デ	瓦当厚 1.9	瓦當面 灰白色 瓦當裏 灰白色	・白面微粒多量 ・灰白色粘土層状 ・素地粒 細 ・バイ皮状	・周縁幅 0mm ・周縁側面取りして、外に開 く ・突縫高 1.1~1.5cm ・突縫高 0.6cm ・中間地域。白台下原、天引 向原遺跡。高崎市鬼尾町茶臼 山(この項目は以下では略)
瓦4-23 PL-25-5 1144	13-1T 7039 表土	軒丸瓦 A107	瓦当面 弁網は盛り上り隣間に より弁先の丸い二重花 弁。子窓は隠れ。中房 縁1-4本。周縁ナデ。界 縁1本。周縁ナデ 瓦面裏 無施紋 瓦当裏 ミガキに似たライネイナ ナデ	瓦当厚 1.6	瓦當面 にぶい褐色 瓦當裏 にぶい褐色	・青褐色微粒、細粒 多量 ・灰白色粘土層状 ・素地粒 細	・周縁幅 2.0cm ・弁形幅 2~4cm ・突縫幅 2.0cm ・突縫高 1.4cm

測定号 発見場所 測定場所	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	鉢土	備考
瓦4-24 — 1162	13-IT 7029 表土	丸瓦	圓 布目中。側板直幅幅 2.3cm 凸 無しに縁幅有り、一方 向タテ縁唇、縫合、回転 ヨコナダ	厚 1.6/1.3	圓 深灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・濃密	・凹面端部間に円形窓み(分 割清掃痕か深さ0.8cm)と観察 向在み
瓦4-25 — 1179	13-IT 7039 表土	軒平瓦 P103	瓦当面 左端に縁唇。界線1本。 縫合タテ縁唇 形 布目中。糸切り痕 段傾	平瓦厚 3.0/2.4	瓦当面 黄灰色 凸 黄灰褐色	夾雜物大量 ・白面微粒大量・細 粒多量	・頂部點付け ・N4-13と同一文様だが儀体は 異なる ・全面に二次的状付着
瓦4-26 PL-26-6 1186	13-IT 7039 表土	軒平瓦 新 p108	瓦当面 中央に縁唇で二分割し、 5等分の文様が點がある。 界線1本。縫合・小理が明 瞭 圓 布目中。糸切り痕。 瓦当上面ヨコナダ。平瓦 側壁 凸 タテナダ 凹 ヨコナダ ゆるい曲線頭	瓦当高 5.7 平瓦厚 2.3	圓 深灰色 凸 在し、黄褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質	
瓦4-27 — 1108	13-IE1T 7009 13-IE1T 7019	軒瓦 M002	瓦当面 鳥趾状模様七 點。界線なし。中間圓線 なし。蓮子1個。両間に 文様 瓦当面 無し。ヨコナダ。丸 瓦块の部分円周ヨコナ ダ 瓦當上面ヨコナダ 圓 布目裏からヨコナ ダ 高さまでヨコナダ	瓦当厚 2.3	瓦当面 黄灰色 瓦当裏 黄灰色 凸 黄灰色	・墨毛微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質	・周縁幅 1.0cm ・蓮子の1つが半分に付く ・弁先から界線に向って肥脛 あり ・A-2既出 ・正底中央から出土(この 項目は以下では省略) ・秋間窓
瓦5-26 PL-26-7 1110	13-IE1T 7009	軒瓦 新 b211	瓦当面 二方向弁。子蓮なし。中 間圓線1本、蓮子1+4。界 線1本 瓦當裏 無し。縫合あり。要なし。 端子接合部あり。端部斜 め下にケズリ。外に広が る	瓦当厚 2.0	瓦当面 灰色 瓦當裏 黄灰色	・白面微粒多量 ・片岩 ・間に鉢土同状 ・素地粒 粗 ・均質	・周縁幅 2.9cm ・周縁幅 0.5~1.2cm ・周縁 界線より低く、肩が 丸く丸底に統く ・尾寺昭和。中間地域(4)。 隣接地域(4)地点
瓦5-28 — 1111	13-IE1T 7009	平瓦	圓 布目中 凸 長方形格子中	厚 1.6	圓 在し、黄褐色 凸 在し、黄褐色	・白色微粒多量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	凸 格子一体型「雀」A類(左 文字)
瓦5-30 — 1113	13-IE1T 7009	丸瓦	圓 布目中。糸切り痕 凸 圓輪ヨコナダ	厚 1.7/1.6	圓 黄褐色 凸 黄灰色	・白色微粒多量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	
瓦5-31 — 1114	13-IE1T 7009	平瓦	圓 タテナダ 凸 縫合中、一方向タテ 平行、縫合。ヨコナダ	厚 1.7	圓 黄褐色 凸 黄灰色	・白面微粒多量 ・圓形素地粒 ・均質 ・精選	
瓦5-32	13-IE1T 8029	丸瓦	圓 布目中 凸 タテナダ	厚 1.8	圓 深灰色 凸 深灰色	夾雜物多量 ・白面微粒多量 ・素地粒 粗	・粘土巻合せ S2不明
瓦5-33 — 1092	13-IE1T 8024	平瓦	圓 布目中。側板直幅幅 2.5cm。タテナダ 凸 縫合中、一方向タテ 縫合。ヨコナダ	厚 1.6	圓 深灰色 凸 深灰色	・白面微粒多量 ・素地粒 粗 ・均質 ・圓形面上に小縫隙出	
瓦5-34 — 1093	13-IE1T 8024	軒瓦 B104	瓦当面 先端の尖った一重花弁。 子蓮あり。中間圓線1 本、蓮子1+4 瓦當裏 ケズリ+ナダ	瓦當中央厚 1.7	瓦當面 深白色 瓦當裏 淡白色	夾雜物多量 ・白面微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・圓形素地粒	・弁元に遺傷あり
瓦5-35 — 1094	13-IE1T 8024	平瓦	圓 級に布目中。タテ 凸 長方形格子中。タテ ナダ	厚 2.3/1.8	圓 深灰色 凸 深灰色	・白面微粒多量 ・素地粒 密	
瓦5-36 — 1107	13-IN2T 8022	丸瓦	圓 布目中 凸 タテケメリ→タテナ ダ	厚 2.2/1.8	圓 深白色 凸 黄灰色	・白面微粒多量 ・均質	

出荷年 月日 (西暦)	出土地	直種	成形 塑形	法量 (cm)	色調	触土	備考
平6-37 PL-26-8 1100	13-IN2T 8022	肝丸新 w056	瓦当面 尖端が丸いのある花弁四 裂、子高あり。 界線1本。中割線1本、 邊子1個。 瓦当裏 無絞り有目	瓦当中央厚 1.9	瓦当面 暗灰色 瓦当裏 灰色	・白面微粒多量 ・灰白色粘土様状 ・片苔あり	・葉子有目 ・子高有目 ・1.5cm ・界線直徑 8.0~9.2cm ・尖端直徑 1.2cm ・尖端は平坦。幅約 5~1.3cm ・界線の外側に沈線が現る ・周縁部に丸穴をもつて斜め に丸方に続く ・瓦当裏中央やや膨らむ ・花の1つは弁先が界線と一 体 ・弁先に花弁のあるものがあ る ・A10と似るが異なる ・No.292と同范
平6-38 — 1102	13-IN2T 8022	平瓦	凹 布目中。側板直底幅 凸 斜切り底 △ 回折ヨコナダ	厚 1.3	面 凸 灰白色 灰白色	・黒褐色微粒少量 ・白面微粒微粒 ・黒褐色 粗 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ S2不明
平6-39 — 1101	13-IN2T 8022	平瓦	凹 布目中。斜切り底 凸 長方形格子中。斜切 △ 細目	厚 1.5	面 凸 にぶい、黄褐色 灰白色	・断面鉄分沈着のた め粗粒です	・粘土巻合せ S
平6-40 — 1106	13-IN2T 8022	平瓦	凹 布目中。微かに斜切 △ 細目。ヨコナダ 凸 平洋型圓形格子中	厚 1.4./1.2	面 凸 黄褐色 黄褐色	・白色微粒大量 ・黒褐色微粒微量 ・黒褐色 粗 ・均質 ・精選	
平6-41 — 1208	13-ZT 7N78 地案内	平瓦	凹 布目中。側板直底幅 1.8cm。斜切り底。薄く 自然釉付背 凸 瓦の裏に深くしづき あり。一部自然釉付背。 回折ヨコナダ	厚 1.7	面 凸 褐褐色 褐褐色	・白面微粒大量 ・小頭微粒	
平7-42 PL-26-9 1205	13-ZT 7N78 地案内	平瓦	凹 布目中。斜切り底 凸 平洋型圓形格子中。 斜切り底	厚 1.8./1.3 表周径 23.3	面 凸 褐褐色 褐褐色	・白色微粒少量 ・均質 ・精選	
平7-43 — 1201	13-ZT 7N78 地案内	平瓦	凹 布目中 凸 平洋型圓形格子中。 微かに斜切り底。ヨコナ ダ	厚 1.8	面 凸 にぶい、黄褐色 灰白色	・白色微粒微量 ・黒褐色微粒多量	
平7-44 — 1207	13-ZT 7N78 地案内	平瓦	凹 布目中。縫合に疎密 あり。斜切り底 凸 花菱形格子中。斜切 △ 細目	厚 1.3	面 凸 褐褐色 褐褐色	・火持物少量 ・白色微粒少量 ・黒褐色微粒少量 ・均質 ・素地位 粗	
平7-45 — 1209	13-ZT 7N82 地案内	平瓦	凹 瓦面に毫毛中。ヨコ ナダ。斜切り底 凸 斜切り底	厚 1.6./1.5	面 凸 黒褐色 灰白色	・白色微粒大量 ・均質	
平7-46 — 1215	13-ZT 7N88 地案内	平瓦	凹 係部に毫毛中。回折 △ 長方形格子中。タテ ナダ。微かに斜切り底。 側面間接頭顎押圧による凹 み	厚 1.4./1.2	面 凸 褐褐色 褐褐色	・白色微粒多量 ・素地位 粗 ・均質	
平8-47 PL-26-10 1210	13-ZT 7N88 地案内	平瓦	凹 布目中。布筋有目。 側面斜面斜起立筋成形か 凸 別の耳を立てかけた 底。斜切り底	厚 1.6./1.2	面 凸 灰褐色 灰白色	・黒褐色微粒多量 ・白色微粒少量 ・均質 ・精選	
平8-48 — 1220	13-ZT 7N79	肝丸 判別不 可	瓦当面 界線1本。周縁因縫ナダ 瓦当裏 者目あり 紋り有無不 明。糸区が薄くなる二段 か 凹 布目中 △ タテナダ	九瓦厚 2.3	瓦当面 橙色 瓦当裏 灰黃褐色 面 凸 にぶい、黄褐色 灰黃褐色	・白面微粒多量 ・素地位 粗 ・灰白色粘土マーブル状	・縫合幅 2.4cm ・糸区は小さく丸い
平8-49 — 1212	13-ZT 7N88 地案内	平瓦	凹 布目中。斜切り底 凸 瓦面に平行条溝。 ヨコナダタテナダ。別 の耳が挿した痕跡。	厚 1.7./1.2	面 凸 褐褐色 褐褐色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・素地位 粗 ・均質	
平8-50 — 1213	13-ZT 7N88 地案内	平瓦	凹 ごく僅かに毫毛中。 ヨコナダ △ その他の格子。格子内 に焼点あり。微かに斜切 り底	厚 1.7./1.3	面 凸 褐褐色 褐褐色	・白色微粒大量 ・黒褐色微粒多量	

田舎号 実測号 整理番号	出土地	瓦種	成形 様式	法量 (cm)	色調	施土	備考
瓦9-51 — 1188	13-251T 7N68	平瓦	四 備心中に布目中。ヨコナダ、系切り底。自然積付着 △ 平行四辺形格子中、系切り底。自然積付着	厚 1.4	面 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦9-52 — 1190	13-251T 7N67	丸瓦	四 布目中。系切り底。 △ 開口部にじわせ目 △ ヨコナダ	厚 1.8/1.7	面 にぶい橙色 凸 にぶい橙色	・白陶微粒大量	・粘土巻合せ S
瓦9-53 — 1191	13-251T 7N67	平瓦	四 布目中。系切り底 △ 微かに側面 △ 向タテ密 △ 横開口、一方向タテナダ→タテナダ	厚 2.1/1.6	面 灰白色 凸 灰白色	・白陶微粒大量	
瓦9-54 — 1243	13-3T BN53	平瓦	四 布目中。側面に放ま △ 布目 △ 横開口、一方向タテ △ 略者、開孔	厚 2.2/2.0	面 灰色 凸 灰色	・馬蹄色微粒少量 ・灰白色粘土粒 ・均質 ・精選	・一枚作り技法
瓦9-55 — 1228	13-3T BN52	軒丸瓦 B101	瓦当面 二重端面、良い子鹿あ △ 異界1本、脚らみの ない先鋒りの花芯 瓦当裏 無紋り右目	瓦当中央厚 2.0 瓦当上端面厚 2.4 丸瓦厚 2.0/1.7	瓦当面 黑褐色 瓦当裏 黑褐色 △ 黑褐色 凸 黑褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・圓錐形 0.8~1.2cm ・瓦当面直径 17.0cm ・界縁直徑 13.4cm ・瓦當重複部取り ・丸瓦との接合部に円周のス ク取あ ・笠置山跡窓
瓦9-56 — 1236	13-3T BN53	丸瓦	四 布目中 △ 布文、タチナダ	厚 1.4/1.0	面 黄褐色 凸 黄褐色	炎錆物多量 ・白陶微粒大粒 ・均質 ・同じ釉上型状	
瓦9-57 — 1229	13-3T BN53	軒丸瓦 B201	瓦当面 先端内側が反る二重花 △ 子鹿あり、界縁1 本、沿縁の一部が焼缺 △ 周縁不定方向ケズ リ、ナダ 瓦当裏 無目なし、ナダ △ タテナダ	瓦当厚 2.1 丸瓦厚 3.4	瓦当面 黑褐色 瓦当裏 黑褐色 △ 黑褐色 凸 黑褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・瓦当面直徑 1.8~1.9cm ・笠置庭ノ川窓
瓦9-58 — 1242	13-3T BN54	平瓦	四 布目中、系切り底。 側面面取り目にも布目 △ 横開口、一方向タテ 密者、開孔、開孔	厚 2.4/2.2	面 にぶい黄褐色 凸 灰黃褐色	・黑褐色微粒少量 ・均質 ・精選	・一枚作り技法
瓦9-59 — 1231	13-3T BN53	軒平瓦 BN3系	瓦当面 三重崩 △ ヨコナダ、側面面は 腰を削って作るが中 央突起はほつやかな三角形 △ ベルトに刻く △ 異かに前目中。ナダ △ 方向不明 △ タテケズリ	瓦当高 4.1	瓦当面 灰白色 △ 灰白色 凸 にぶい黄褐色	・白陶微粒少量 ・黑褐色微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質	
瓦9-60 — 1237	13-3T BN54	平瓦	四 布目中 △ ナマメナダ	厚 1.8/1.5	面 にぶい橙色 凸 灰色	炎錆物大量 ・白陶微粒大量 ・ハイ皮状	四 ハフ書き壁「真」
瓦10-61 — 1234	13-3T BN53	丸瓦	四 布目中、一部先の幅 △ レバーラック式でタケ、ナ マメで △ 布目中、瓦当上端ヨ コナダ △ 稲付模造近ヨコナ △ 稲付模に工具の痕 △ 異か △ ガヤのようなケズリ △ ある既製	厚 2.5/1.9	面 灰色 凸 灰灰色	炎錆物大量 ・白陶微粒大粒・細 粒多量 ・同じ粘土層状	・粘土巻合せ S
瓦10-62 — 1240	13-3T BN54	軒平瓦 P004	瓦当面 右端行庄革。界縁2本。 周縁ナダ △ 布目中、瓦当上端ヨ コナダ △ 稲付模造近ヨコナ △ 稲付模に工具の痕 △ 異か △ ガヤのようなケズリ △ ある既製	瓦当高 4.5 平瓦厚 2.1	瓦当面 灰黃褐色 △ にぶい黃褐色 凸 灰褐色	・白陶微粒多量 ・素地粒 粗	・曲輪金山2号窓
瓦10-63 — 1245	13-3T BN53	平瓦	四 布目中、側板正規幅 2.5cm、系切り底。 △ 微かに横目中側板タ ケ密者、開孔ヨコナ △	厚 1.0/0.8	面 灰色 凸 灰色	・白陶微粒多量 ・均質 ・精選	・薄い瓦
瓦10-64 — 1257	13-3T BN54	丸瓦	四 備心中に布目中、タテ △ タテケズリ→タチナ △	厚 3.5/3.4	面 灰褐色 凸 灰黃褐色	・白色微粒大量 ・黑褐色微粒少量 ・素地粒 粗	・相手と同一個体か

器物名 測定値 記録番号	出土地	真理	底形 盤脚	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦10-65 — 1248	13-3T BN54	平瓦	圓 基部直 台 ヨコナデ	厚 2.3	面 灰白色 凸 に少し黄褐色 側面及び側面側脚 側脚素面	・白陶微粒少量 ・黒褐色微粒少量 ・赤褐色微粒少量 ・灰白色粘土マーブル 状	・緑音山小窓室
瓦10-66 — 1258	13-3T BN54	丸瓦	圓 布目中 凸 タテケズリークチナ デ	厚 3.0	面 黄灰色 凸 淡灰色	・白色微粒大量 ・黒褐色微粒多量	・極めて厚い瓦 ・Na64と同一個体か
瓦10-67 — 1254	13-3 TBH54 表土 E103	軒丸瓦	瓦当面 蟹爪状複華文八角 界隈1本、中房圓脚1本、 蓋子14 瓦当裏 ヨコナデ	瓦当厚 2.4/1.9	瓦当面 暗褐色 瓦当裏 暗褐色	・白陶微粒多量 ・均質	・周縁幅 0.4cm ・瓦当直径 18.0cm ・界隈直徑 12.4cm ・芹区と中房の中心が盛り上 る ・A-3法 ・瓦当裏、裏に自然釉と灰付 着
瓦11-68 — 1260	13-3WIT BN54	軒平瓦 屋根 u002	瓦当面 二重輪廓文 段頭	瓦当高 4.6	瓦前面 暗褐色 凸面 暗褐色	・赤褐色微粒多量 ・灰白色粘土瘤状 ・素地位 粗	・重脚付け ・瓦当無追影 ・前面は内側に傾斜 ・沿と瓦当面の曲率が合わな い ・頭面及び平瓦との付根附近 ・足端暗紅、住コレ
瓦11-69 — 1264	13-3WIT BN55	平瓦	圓 布目中。各切り直 凸 直交脚の入る平行条 目字。ナメモ引きは金面 に施され重複で金面 引きの時は長脚方 向ごとに異なり交差する 方向。	厚 2.0/1.7	面 暗褐色 凸 淡灰色	夾雜物多量 ・白陶微粒大量 ・片岩あり ・灰黄色マーブル 状	・多頭部正合頭に類似きあ り
瓦11-70 — 1267	13-3WIT BN55	丸瓦	圓 布目中。縦から3 cm付根横に布に筋 合わせ目 凸 ヨコナデ	厚 1.3	面 に少し橙色 凸 に少し黃褐色	夾雜物多量 ・白陶微粒大量 ・片岩あり	
瓦11-71 — 1268	13-3WIT BN55	平瓦	圓 布目中 無切り直 凸 裂れに縫合す。方 向タテヨリ横。圓脚 ヨコナデ	厚 1.8/1.7	面 灰白色 凸 黄褐色	・白陶微粒多量 ・均質	
瓦11-72 — 0450	8-1NT 7W70	軒平瓦 P001	瓦当面 右肩微痕。界隈1本。 外区段文あり。右肩微文 ナデ。左肩に布目中。タテ ナデにより左肩に継 目中。並び脚にヨコナ デ。一頭根付着 三角形脚	瓦当高 4.1	瓦当面 暗褐色 四 暗褐色 凸 淡灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地位 粗	・平凸面赤色追彩 ・笠形足・川端 ・右之原寺寺跡。有馬鹿寺 跡。寺井沢寺跡。郡大塚遺 跡。中房地域などから出土 (この項目は以下では省略)
瓦11-73 — 0457	8-1NT 7W40	丸瓦	圓 布目中 凸 ナナメナデ	厚 1.9/1.8	面 炭素焼着 凸 炭素焼着	・白陶微粒多量・細 粒多量 ・赤褐色微粒多量・ 鉛粒少量	赤 ヘラ巻き型「旗臈」
瓦11-74 — 0474	8-1NT 7W50	平瓦	圓 亂かに布目中。ヨコ 凸 ひし形格子中。糸切 り縫	厚 1.5/1.4	面 暗褐色 凸 淡灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・素地位 密	・粘土巻合せ S
瓦12-75 PL 26-11 0469	8-1NT 7W40	平瓦	圓 布目中。板脚压縮 凸 深かに奥走底張。圓 脚ヨコナデ	厚 1.7/1.6	面 灰褐色 凸 灰褐色	・白陶微粒・細粒多 量 ・片岩あり	・溝切り直 ・溝切りは焼成前にティネイ な調整
瓦12-76 — 0587	8-1NT 7W55 地盤内	有段式 丸瓦	圓 布目中。布袋引上げ 施の基部 凸 回転ヨコナデ	丸瓦厚 1.5 丸瓦供給径 15.1 玉縁長 8.8	面 暗褐色 凸 灰白色	・白色微粒少量 ・桔梗	C1a
瓦12-77 — 0622	8-1NT 7W50 地盤内	平瓦	圓 布目中。糸切り直 凸 正方形格子中。糸切 り縫	厚 1.6/1.1	面 に少し黄褐色 凸 に少し黄褐色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・素地位 密	
瓦13-78 PL 27-12 0601	8-1NT 7W40 地盤内	有段式 丸瓦	圓 布目中。糸切り直 凸 回転ヨコナデ	丸瓦厚 2.7/1.4 丸瓦長 31.2 丸瓦供給径 16.2 玉縁長 7.6	面 に少し黄褐色 凸 暗褐色	・白色微粒まぶした よう ・素地位 粗	C1a ・粘土巻合せ S
瓦13-79 — 0603	8-1NT 7W70 地盤内	軒平瓦 P001	瓦当面 右肩微痕。界隈1本。 外区段文あり。縫かい石 目地 小さく縫い垂額 凸 ヨコナデ	瓦当高 4.1	瓦前面 に少し橙色 凸 に少し橙色	・白色微粒大量 ・素地位 粗	・左下脚の焼文。辺に押さ れた痕跡あるが、西隣に向か て偏りか ・笠懸應ノ川窓

出土地 年月日 発掘場所	出土地	瓦種	成形 部形	法量 (cm)	色調	粘土	備考
瓦13-80 PL-27-13 0618	B-INT 7M60 地窓内	平瓦	凹 凸 横目組、一方向ナナ メ、混焼	厚 2.2/1.5 37.1	凹 凸 黄灰色 灰灰色	・白色微粒まぶした よう ・層状	・広縫から7.0cmの幅で水平 に弱い痕跡観がみられる
瓦14-81 — 0617	B-INT 7M60 地窓内	平瓦	凹 凸 布目中。糸切り底 凸 横文	厚 1.9/0.9 38.5	凹 凸 褐灰色 褐灰色	・白面微粒大粒 ・黒褐色微粒多粒 ・灰白色粘土マーブ ル状	・粘土巻合せ Z
瓦14-82 — 0629	B-INT 7M55 地窓内	有段式 丸瓦	凹 布目中。側面脚粘土 点を折り曲げてナギつける 凸 タイル的なタケズ リ(窓ぎのよう)	厚 1.7/1.4	凹 凸 褐灰色 褐灰色	・白色微粒まぶした よう ・均質 ・素地焼 黒	・瓦縫欠失 ・瓦縫分根不明
瓦14-83 — 0619	B-INT 7M60 地窓内	平瓦	凹 布目中。糸切り底 凸 平行筋四形格子中。 糸切り底	厚 1.7/1.3 25.0	凹 凸 灰黃褐色 灰褐色	・白色微粒大粒	
瓦15-84 — 0452	B-INT 7M50 表土 断面	軒平瓦	凹 右端行唐草。界線2本 凹 布目中 横い段頭	瓦当高 4.5	瓦当面 にぶい黄橙 色 前 灰褐色 凸 灰灰色	・白面微粒大粒・細 粒少粒 ・灰褐色粘土混ざる ・ハイ皮状	・支望と主張が混みどちらも 界線から生じる。 ・左上隅の主張の巻く向きが 左方に向 ・頭部を貼り付け ・頭面側から赤色色彩
瓦15-85 — 0472	B-INT 7M50 表土	丸瓦	凹 高輪目 凸 ヨコナダ	厚 1.8/1.7	凹 凸 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	・白面微粒多量 ・素地焼 灰	・報音山小原窯
瓦15-86 — 0470	B-INT 7M50 表土	丸瓦	凹 圓輪ヨコナダ 凸 圓輪ヨコナダ	厚 1.8/1.5	凹 凸 灰褐色 灰褐色	・白面微粒多粒 ・灰白色粘土マーブ ル状	・瓦縫隙接合法 ・端縫隔は凸凹面とも肥厚 し、明瞭な凹凸ナギ
瓦15-87 — 0501	B-2T 7W26	丸瓦	凹 布目中 凸 タテナダ	厚 2.0/1.7	凹 凸 灰褐色 灰褐色	・白面微粒多粒 ・マーブル状	凹 ハラ書き型「石」
瓦15-88 — 0478	B-2T 7W26	丸瓦	凹 布目中 凸 タテナダ	厚 1.5/1.3	凹 凸 灰白色 灰白色	・白面微粒少粒 ・黒褐色微粒・細粒 少粒 ・素地焼 灰	・鏡面側面から
瓦15-89 — 0491	B-2T 7M26	丸瓦	凹 布目中 凸 ヨコナダ	厚 2.2/1.6	凹 凸 灰褐色 灰褐色	・突起物大量 ・白面微粒大量 ・均質 ・ハイ皮状	凸 ハラ書き型不明文字
瓦15-90 — 0490	B-2NT 7M26	丸瓦	凹 布目中。継かに糸切 り底 凸 ナナメナダ	厚 2.3/1.9	凹 凸 褐灰色 褐灰色	・白面微粒大粒 ・1.4cm間 ・ハイ皮状	・粘土巻合せ S 凸 ハラ書き型「人」 凸 錦押型「多」
瓦15-91 — 0484	B-2T 7M26	丸瓦	凹 布目なし。ヨコナ ダ。指印跡が認めある。 粘土塗抹の タテナダ。広幅筋的 2.0cmヨコゲズリ	厚 2.0/1.5	凹 灰褐色 凸 灰褐色	・白面微粒多量 ・黒褐色微粒・細粒 少粒	・突起物大量 ・瓦縫隙接合法 ・薄切り瓦
瓦15-92 PL-27-14 0502	B-2T 7W26	平瓦	凹 布目中 凸 タテナダ	厚 2.7/1.8	凹 凸 灰褐色 灰褐色	・突起物大量 ・白面微粒大粒・1.2 cm間あり ・黒褐色微粒少粒	凸 ハラ書き型「廿」カ
瓦15-93 — 0505	B-2T 7M36	平瓦	凹 布目なし。ティネイ なタテナダ。底かに糸切 り底 凸 横目中。一方向タテ 平行、開脚か	厚 1.9	凹 横筋接着 凸 灰褐色観	・白色微粒まぶした よう	凹 ハラ書き型「三」
瓦15-94 PL-27-15 0497	B-2T 7M36	軒丸瓦 A101	瓦当面 二重瓦合四葉。子葉あ り。中間圓頭1本、蓮子 1~4 瓦当裏 織紋り有目。突筋あり	瓦当厚 1.5	瓦当面 凹 灰褐色 瓦当裏 凹 灰褐色 凸 灰褐色	・白面微粒多量 ・黒褐色粘土マーブ ル状 ・瓦当面にも灰白色 粘土縞状	・外側花弁の根元は隣りの花 弁と共に ・縫隙は下部が少し歪む ・瓦縫なし ・瓦当面径 14.8~16.0cm ・界線高 12.7cm ・突脊高 1.4cm ・瓦当裏と瓦接合部の間に 布目あり
瓦15-95 — 0542	B-2T 7M36	軒平瓦 P307	凹 ヨコナダ 角形 凹 布目中 凸 タテナダ	—	凹 横灰色 凸 灰褐色	・白面微粒多量・細 粒少粒 ・黒褐色細粒少粒 ・灰白色粘土縞状	

出土地 遺物番号 測定番号	出土地	瓦種	成形 跡形	測量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦17-96 — 0507	8-2T 7M26	平瓦	面 磨かぬ布目中。ヨコ ナダ 凸 ひし形格子中。ナダ 直 面	厚 1.4/1.2	面 黄灰色 凸 灰色	・白色散粒多量 ・均質 ・素地粒 疊	凸 格子一体型「酒」(左文 字) ・十三家坂 ・僧寺跡出土なし
瓦17-97 — 0537	8-2T 7M27	軒平瓦 2003類	瓦当面 系縫なし。周縫なし 面 布目中	瓦当高 2.0 平瓦厚 1.6/1.5	面 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白色散粒多量 ・素地粒 粗	・瓦当面にボタン状粘土の貼 り付けか
瓦17-98 — 0541	8-2T 7M28	軒平瓦 P001	瓦当面 右側行窓痕。糸縫1本。 外区焼文あり。 左側行窓痕。ヨコナダ 凸 三角形痕 面 テイハイなヨコナダ	瓦当高 4.2	瓦当面 灰色 面 灰色 凸 灰色	・白色散粒多量 ・均質 ・素地粒 疊	・製の跡わりから平瓦にかけ て赤色漬形 ・笠懸鹿ノ川窓
瓦17-99 — 0508	8-2T 7M28	丸瓦	面 黒茹田 凸 タテナダ	厚 1.4	面 黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白色散粒多量 ・黒褐色散粒少量 ・素地粒 粗	・楢曾山小坂窓
瓦17-100 PL 28-16 0540	8-2T 7M28	軒平瓦 P002	瓦当面 右側行窓痕。糸縫1本 下外区焼文あり。 左側行窓痕。ヨコナダ 凸 三角形痕	瓦当高 4.6	瓦当面 灰色 面 灰色 凸 灰色	・白色散粒まぶした よう ・素地粒 粗	・下外区の弦文は極小 ・左から3番目、下系縫との 間にキズか ・笠懸山銀窓
瓦17-101 — 0635	8-2T 7M46 地盤内	平瓦	面 布目中。側板压痕 凸 亂れに糸縫1本 面 タテナダ	厚 1.9/1.3 側板径 18.3	面 暗褐吸着 凸 暗褐吸着	・白色散粒大量	・粘土巻合せ S
瓦19-102 — 0512	8-3NT 7M53	丸瓦	面 布目中。所々に強い ニビレ痕 凸 面がなにタテ方向綱長 痕。タテナダ	厚 3.0/2.2	面 灰色 凸 灰色	・白色散粒・細粒大 量	・複数の粘土板を貼り合せた か
瓦19-103 — 0518	8-3NT 7M53	平瓦	面 布目中 凸 長方形格子中。タテ ナダ	厚 1.5/1.1	面 灰色 凸 灰色	・白色散粒多量 ・灰白色粘土マープ ル状 ・素地粒 粗	凸 格子一体型「蔭(田)」 ・笠懸山銀窓
瓦19-104 — 0519	8-3NT 7M52	平瓦	面 布目中。亂かに糸切 り痕 凸 長方形格子中	厚 1.8/1.7	面 黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白色散粒大量 ・素地粒 粗	凸 格子一体型「蔭(田)」 ・笠懸山銀窓
瓦19-105 — 0516	8-3NT 7M52 8-3NT 7M53	平瓦	面 布目中。糸切り底二 方向 凸 タテナダ(タラカ)	厚 2.4/2.0 表 39.0	面 暗褐吸着 凸 灰白色	・夾雜物殆どなし ・黒褐色散粒微量 ・均質	
瓦19-106 — 0522	8-3NT 7M53	平瓦	面 布目中。糸上縫合せ 痕。ヨコナダ 凸 白が平行条目太。 ヨコナダ	厚 1.7/1.4	面 暗褐色 凸 灰色	・白色散粒大量 ・灰白色粘土綿状	・泥条盤筑法 凸 ヘラ書き型不眞文字
瓦19-107 PL 28-17 0515	8-3NT 7M52	平瓦	面 布目中。側板压痕 糸切 り痕。ヨコナダ 凸 一方にタテ密縫、綱長	厚 2.1/1.4 表 36.3	面 灰白色 凸 灰白色	・白色散粒多量 ・黒褐色散粒少量 ・均質 ・素地粒 疊	・粘土巻合せ S ・糸切りの支点途中で移った か
瓦19-108 — 0532	8-3NT 7M53	丸瓦	面 布目中。糸切り底 タテナダ 凸 タテナダ	厚 2.1/1.4 長 34.5	面 埋灰黄色 凸 埋灰黄色	・夾雜物多量 ・白褐色散粒大量 ・灰白色粘土マープ ル状	田 ヘラ書き型「九」カ
瓦19-109 — 0523	8-3NT 7M52	丸瓦	面 布目中。糸切り底 ヨコナダ	厚 2.4/2.0 長 35.5	面 灰黄色 凸 黄褐色	・白褐色散粒多量 ・灰白色粘土マープ ル状 ・バク皮狀	凸 ヘラ書き型記号 ・中間地城(4)-(5)。住コレ
瓦20-110 PL 28-18 0517	8-3N 7M52	平瓦	面 布目中。亂かに糸切 り痕。ヨコナダ 凸 ひし形格子中	厚 2.3/1.7	面 橙色 凸 にぶい橙色	・白色散粒多量 ・赤褐色小礫微量 ・素地粒 粗 ・均質	凸 刻印型「佐」H頭 ・笠懸山銀窓
瓦20-111 PL 28-18 0543	8-3NT 7M53	丸瓦	面 布目中 凸 平行条目太、一方向 ヨコ	厚 1.8/1.7	面 埋灰色 凸 にぶい黄褐色	・白色散粒多量 ・マーブル状 ・側面落状	
瓦20-112 — 0533	8-3NT 7M53	平瓦	面 布目中。側板压痕 2.6cm 凸 全面に長方形格子中	厚 1.6/1.4	面 黄灰色 凸 灰色	・黒褐色散粒・細粒 多量 ・均質	

番号 年月日 発見者名	出土地	瓦種	形成 形態	測量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦20-113 PL 28-20 0528	8-3NT 7W52	平瓦	四 布目中。糸切り痕。 側板正底幅2.5cm 凸 開口部、一方向タテ 平行、奥部、長筋方向約 1/2で方向が異なる。ヨ コナダ	厚 1.8./1.3 長 36.4	面 灰白色 凸 灰白色。一部灰 素面吸着	・白面微粒多量 ・均質	四 ハラ書き窓「十」
瓦21-114 — 0534	8-3NT 7W52	有段式 丸瓦	四 布目中 凸 亂れ心地凹凸面、開 長。回転ヨコナダ	丸瓦厚 2.8./1.8 丸瓦長 29.7 丸瓦広端径 16.8	面 灰色 凸 灰白色	・白面微粒多量 ・一部ハイ皮状 ・素地粒 粗	・C2b
瓦21-115 PL 29-21 0535	8-3NT 7W53	平瓦	四 亂れ心地布目中。ヨコ ナダ 凸 ひし形格子中。糸切 り痕	厚 1.9./1.5	面 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗	凸 格子一休型「湧」(左文 字) ・上述木窓寺跡、十三室深 井中出土なし ・笠懸山遺跡
瓦21-116 — 0539	8-3NT 7W52	平瓦	四 布目中。側板から1 cm程のところに横方向沿 伏の凹み。不明瞭な板状 底版あり 凸 滾目中、一方向タテ 密着、開長	厚 2.4./2.1	面 黒灰色 凸 黑灰色	・黒褐色微粒少量 ・均質 ・稍選	
瓦22-117 — 0553	8-3NT 7W52	平瓦	四 回転ヨコナダ 凸 回転ヨコナダ	厚 1.8./1.5 長 35.5	面 灰白色 凸 にぶい黄橙色	・白面微粒・津粒多 量 ・灰白色粘土状及 び小塊(1cm)	・足歩行技術 ・堅壁器外側火候をもちタイ ネイガ御船ナダ ・広場面平滑
瓦22-118 — 0554	8-3NT 7W53	平瓦	四 布目中。側板正底幅 2.5cm、糸切り痕 凸 亂れ心地凹凸面、開長。回転 ヨコナダ	厚 1.5./0.9	面 灰白色 凸 灰白色	・白面微粒微量 ・黒褐色微粒少量 ・稍選 ・均質	
瓦22-119 — 0569	8-3NT 7W53	平瓦	四 布目中 凸 長方格子中。ヨコ ナダ	厚 2.3./1.1	面 黒灰色 凸 灰素面吸着	・白色微粒多量 ・素地粒 粗	凸 格子一休型「廣田」 ・黒と田の割が繋がる ・笠懸山遺跡
瓦22-120 — 0573	8-3NT 7W53	平瓦	四 布目中 凸 滾目中、一方向タテ 密着、開長	厚 2.5./21.0	面 灰色 凸 灰色	・穿孔物少 ・黒褐色微粒少量 ・粘選 ・側面に灰白色粘土 糊状	・一枚作り技術 ・侧面側面部に布目痕
瓦23-121 PL 29-22 0562	8-3NT 7W53	平瓦	四 布目中 凸 滾目中、一方向タテ 密着、開長。離れ砂	厚 2.5./2.1 長 38.5 広端径 25.5	面 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・墨褐色微粒多量 ・灰白色粘土度あり	
瓦23-122 — 0567	8-3NT 7W53	丸瓦	四 布目中。上幅0.9cm 底方向の凹みあり 凸 回転ヨコナダ	厚 2.1./1.9 美端径 13.8	面 灰白色 凸 にぶい黄橙色	・墨褐色微粒少量 ・墨褐色微粒少量 ・白色粘土粒 ・素地粒 粗 ・粘選	
瓦23-123 — 0570	8-3NT 7W52	平瓦	四 布目中。側板正底前 凸 布目。ヨコナダ	厚 1.7./1.4	面 にぶい黄橙色 凸 黄褐色	・白面微粒多量 ・赤褐色津粒微量 ・灰白色粘土糊状 ・均質	凸 ハラ書き型不明文字 ・粘土層合せ
瓦24-124 — 0571	8-3NT 7W53	丸瓦	四 布目中。側板に糸切 り痕。右辺合せ底 凸 滾目中、一方向タテ 密着、開長。ヨコナダ	厚 2.1./1.1	面 黑灰色 凸 黑灰色。一部に にぶい黄橙色	・白面微粒多量 ・素地粒 粗	
瓦24-125 — 0578	8-3NT 7W52	平瓦	四 布目中。糸切り痕 凸 滾目中、一方向タテ 密着、開長。離れ砂。右 下隅に板で押した痕跡	厚 2.2./1.9	面 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・墨褐色微粒少量 ・灰白色粘土粒糊状 あり	
瓦24-126 — 0585	8-3NT 7W52	丸瓦	四 布目中 凸 タテナダ	厚 1.7./1.6	面 黑灰色 凸 黑灰色	・白面微粒大盛・細 粒多量 ・灰白色粘土と黑色 粘土が糊状	・隅切り瓦
瓦24-127 — 0589	8-3NT 7W52	平瓦	四 布目中。糸切り痕 凸 滾目中、一方向タテ 密着、開長。側部斜指頭 底版	厚 2.1./1.9	面 灰素面吸着 凸 灰素面吸着	・墨褐色微粒少量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦25-128 PL 29-23 0572	8-3NT 7W53	丸瓦	四 布目中。糸切り痕 凸 滾目中、一方向タテ 密着、開長。ヨコナダ タテナダ	厚 2.2./1.7 長 41.6 広端径 19.0	面 黑灰色 凸 黑灰色	・墨褐色微粒多量 ・灰白色粘土あり ・稍選	

固有番号 可変番号 固定番号	出土地	柱種	成形 監査	法面 (cm)	色調	触土	備考
瓦25-129 — 0583	8-3NT 7W52	丸瓦	固 布目中。布袋引き上 凸 げ縁の組みか 凸 面模ヨコナデ	厚 1.2/1.0	面 黄褐色 凸 灰白色	・黒褐色微粒多量 ・均質 ・粘連	・薄い瓦
瓦25-130 — 0594	8-3NT 7W53	平瓦	固 布目中。側面間に巻 き込むように布目瓦あり 凸 瓦目中、一方尚タケ 面模、瓦長	厚 2.4/2.3	面 にぶい褐色。端 側面模被着 凸 灰褐色	・黒褐色微粒多量 ・灰白色粘土状	・一枚作り技法
瓦25-131 — 0592	8-3NT 7W53	平瓦	固 布目なし。ユビ押え か、タケタナデ 凸 瓦目中。ナナメ重複 ローラーか	厚 1.7/1.5	面 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白褐色微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・灰白色粘土状	・泥条盤筑技法
瓦26-132 — 0590	8-3NT 7W52	平瓦	固 布目中。糸切り麻 凸 ヨコナデータナデ。 金目中に自然釉付青 筋跡か	厚 2.2/1.7 長 40.6	面 灰色 凸 灰色	・黒褐色微粒 ・白褐色微粒面に露出 ・均質	・版方向大きく反る
瓦26-133 — 0692	3NT	丸瓦	固 布目中。糸切り麻 凸 タケタナデ。長版方向 に後あら。タケテカリの 筋跡か	厚 1.9/1.4	面 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白色微粒大量 ・黒褐色微粒多量	
瓦26-134 — 0557	8-3ST 7W43	平瓦	固 瓦目ヨコナデ 凸 略微に平行白目付。 テイネイな面模ヨコナデ	厚 1.7	面 灰白色 凸 灰白色	・白褐色微粒多量 ・黒褐色細粒少量	・泥条盤筑技術 ・後端面外観。丸瓦をもじテ イネイな面模ナデ
瓦26-135 — 0525	8-3NT 7W52	丸瓦	固 布目中 凸 ヨコナデ	厚 2.6/1.3	面 灰褐色 凸 灰褐色	・白色微粒少量・0.5 ~1.0cm幅あり ・黒褐色細粒少量	凸 ヘラ書き型記号
瓦27-136 — 0593	8-3NT 7W53	丸瓦	固 布目中 凸 ナナメナデ	厚 3.4/2.0	面 灰褐色 凸 灰褐色	・白褐色微粒多 ・灰白色粘土状 ・小ブッコロ ・バイ皮状	
瓦27-137 — 0596	8-3NT 7W53	平瓦	固 布目中。側板压痕僅 かに残るが。布目がない 所のみある 凸 瓦目中、一方尚タケ 面模、瓦長	厚 2.1/1.6	面 灰褐色 凸 灰褐色	・白褐色微粒多量 ・黒褐色微粒多量	
瓦27-138 PL-30-24 0581	8-3NT 7W52	平瓦	固 布目中。側板压痕僅 かに残るが。布目中、一方 尚タケ面模、瓦長。 回転 ヨコナデ	厚 1.9/2.1 幅 21.2	面 灰色 凸 灰色	・白褐色微粒多量・小 縫少量 ・灰白色粘土状	
瓦28-139 — 0531	8-3ST 7W43	平瓦	固 布目中。側板压痕僅 かに残るが。布目中、一方 尚ナナメナデ。瓦長。 ヨコナデ	厚 1.6/1.3	面 灰褐色 凸 灰褐色	・夾雜物大量 ・白褐色微粒大量・銀 微粒多量	・凸面に窓体付着 ・面模無面方に布模じ目
瓦28-140 — 0650	8-3NT 7W54 地窓内	平瓦	固 亂かに布目中。ヨコ 凸 瓦目中、一方尚タ ケ、糸切り瓶	厚 1.7/1.5	面 淡褐色 凸 淡褐色	・白色微粒大量 ・均質	
瓦28-141 PL-30-25 0640	8-3ST 7W44 地窓内	平瓦	固 亂かに布目中。面模 ヨコナデ 凸 ひし形格子中。糸切 り瓶	厚 1.7/1.5	面 暗褐色 凸 暗褐色	・白色微粒少 ・深褐色 ・粘連 ・均質	
瓦29-142 PL-30-26 0651	8-3NT 7W54 地窓内	平瓦	固 亂かに布目中。糸切 り瓶 凸 平行四辺形格子中、 2段+3段+2段+3段。 糸切 り瓶	厚 1.9/1.4 長 39.7 広端径 27.6	面 暗褐色 凸 暗褐色	・白色微粒まとした よう ・黒褐色微粒多量 ・均質	同 ヘラ書き型「二」 ・粘土巻合せ S
瓦29-143 — 0654	8-3NT 7W55 地窓内	平瓦	固 布目中。糸切り瓶 凸 平行四辺形格子中、 2段+3段+2段+3段。 糸切 り瓶	厚 1.6/1.4 長 39.7 広端径 28.3	面 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白色微粒大量 ・粘連 ・粘土粒 密	
瓦30-144 PL-30-27 0652	8-3NT 7W54 地窓内	有粒式 丸瓦	固 布目中。糸切り瓶 凸 平行四辺形格子中、 2段+3段+2段+3段。 糸切 り瓶	丸瓦厚 2.1/1.6 長 39.7 三線長 6.2	面 暗褐色 凸 にぶい黄褐色	・白褐色微粒大量 ・粘土粒	・C2a ・粘土巻合せ S2不規 ・玉縁内面粘土不足の凹み板 部あり
瓦30-145 — 0646	8-3ST 7W42 地窓内	有粒式 丸瓦	固 布目中 凸 回転ヨコナデ	丸瓦厚 1.4 長 39.7 三線長 8.0	面 灰白色 凸 灰白色	・白色微粒大量	・C1a ・粘土巻合せ S

遺物番号 可動品番号	出土地	瓦種	成形 型別	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦31-146 PL 31-28 0655	8-3NT 7W55 地蔵堂	平瓦	圓 布目巾。糸切り底 凸 正方形格子中、3段 ・2列。糸切り底	厚 2.3/1.5 長 42.0 鉄柱径 25.3	圓 黒灰色 凸 黑灰色	・白色微粒大量・ 大塊あり ・均質	
瓦32-147 — 1024	11-2T 9W20 表土	軒平瓦 P004カ	瓦当面 左側面行唐手。既刻2本 同 布目中。僅かに糸切 り痕 段張	瓦当高 4.9	瓦当面 黃褐色 圓 黑灰色 凸 黑灰色	・白陶微粒大量 ・同じ胎土解状	・内側は周縁より0.6cm深い が文様は薄くはっきりしない ・豊作邊に赤色痕跡 ・藤原山2号窯
瓦32-148 — 1035	11-2T 9W14 表土	丸瓦	圓 布目なし。自然鉢付 右 ヨコヨーダタナ 左 自然鉢付着	厚 1.9/1.6	圓 黑褐色 凸 黑褐色	・白陶微粒大量	凸 ヘラ書き型記号 ・泥余鉢技法
瓦32-149 PL 31-28 1026	11-2T 9W14 表土	平瓦	圓 低火候布目中。タチ ナダ 凸 長方形格子中。僅か に糸切れ痕。側面脚部押 延張。瓦上部ヨコヨナ テ。他の瓦を見て立かけた 感跡か	厚 2.2/1.9	圓 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	凸 格子一体焼「佐(仇)」 ・十三宝 ・香寺新出土なし ・笠置山跡窯
瓦32-150 PL 31-30 1034	11-2T 9W14 表土	平瓦	圓 布目中。僅かに糸切 り痕。無側面底幅3.0cm 凸 圓周目。全面開目 (ローラーか)	厚 3.1/2.6	圓 にぶい黄褐色 凸 にぶい橙色	・白陶微粒多量 ・黒褐色微粒多量	
瓦32-151 PL 31-31 1044	11-2T 9W14 表土	平瓦	圓 布目巾。糸切り痕。 側面底幅2.0cm 凸 圓周目。一方向タチ 密着、飛瓦。瓦上ヨコナ テ	厚 2.3/1.9	圓 黑褐色 凸 黑褐色	・白陶微粒大量・ 1cm の塊あり ・片岩あり	・胎土巻合せ Z ・端面に重浸き痕
瓦33-152 — 1037	11-2T 9W14 表土	丸瓦	圓 布目中 凸 圓周目。ヨコナダ。既方 向に接し複数本	厚 1.7/1.3 長 36.5 鉄柱径 17.5	圓 黑褐色 凸 黑褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・胎土巻合せ S ・本と胎土巻合せ目で分割
瓦33-153 — 0980	11-1WT 9W74	軒平瓦 P002	瓦当面 左側面行唐手。界隈1本。 外区焼文化。	瓦当高 6.0 平正厚 2.2/2.0	瓦当面 黃褐色 圓 黑褐色 凸 黑褐色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	・外区の後は極小 ・平瓦先端に赤色塗彩 ・尾の上下端の瓦底 ・笠置山跡窯
瓦33-154 — 0992	11-1WT 9W73	平瓦	圓 布目巾。糸切り痕 凸 糸切れ痕途中で糸切 り變る。竿で押圧がみられ る	厚 1.4	圓 黑褐色 凸 黑褐色	・白色微粒多量 ・素地粒 粗	
瓦34-155 1049	11-3T 9W74	丸瓦	圓 布目巾。巻合せ端 テユビナダで消す 凸 出文。四軒ヨコナダ	厚 1.6/1.3	圓 暗灰色 凸 暗灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・胎土巻合せ Z ・瓶頭か圓面から ・胎土巻合せ目で割れ
瓦34-156 — 1055	11-3T 9W83	平瓦	圓 布目中 凸 腹かん幅目中。一方 向タチ。タチナダ	厚 1.0/0.9	圓 暗白色 凸 暗灰色	・束縛物大量 ・白陶微粒大量 ・素地粒 粗	・薄い瓦
瓦34-157 — 0846	11-1ET BN90	不明	圓 布目なし。タチナダ 凸 タチナダ	厚 4.3/3.8	圓 明褐色 凸 暗褐色	・白陶微粒大量 ・赤褐色微粒少量	
瓦34-158 — 0845	11-1ET BN90	平瓦	圓 布目中。側板压痕幅 2.3cm。自然鉢付着 凸 タチナダ。僅かに糸 切り痕	厚 2.3/1.8	圓 暗灰色。自然鉢 付着 凸 暗灰色。自然鉢 付着	・白陶微粒多量 ・灰白色粘土構造 ・素地粒 粗	圓 ヘラ書き型「長」
瓦34-159 — 1381	11-1ET BN90	丸瓦	圓 瓢箪目 凸 タチナダ	厚 1.5/1.3	圓 暗褐色 凸 にぶい橙色	黒紋の灰被物多量 ・白陶微粒多量 ・素地粒 粗	・縦脊山小堀窯
瓦34-160 — 1385	11-1ET BN90	有段式 丸瓦	圓 布目中 凸 ヨコナダ	丸瓦厚 2.0	圓 暗褐色 凸 暗褐色	・白色微粒大量 ・均質	・Cia ・凸面は丸瓦から玉律まで過 渡して均質に炭素吸着して いることから玉律の肩が焼成前 にはすれていたと考えられる
瓦34-161 — 1383	11-1ET BN90	平瓦	圓 瓢箪目 凸 文詠。糸切り痕	厚 2.2/2.0	圓 暗灰色 凸 暗褐色	・白色微粒まぶした よう ・均質	凸 刻印型か、陽刻「田」か

記号番号 発掘場所	出土地	瓦種	成形 盤形	法量 (cm)	色調	黏土	備考
瓦34-162 PL-31-32 1394	II-1ET 8N60	軒丸瓦 0001	瓦当面 窓からタグ 露文 回 有目なし。ヨコナダ 凸 タテケズリ。側付近 ヨコナダ 三角形窓	瓦当高 4.5 平瓦厚 2.2	瓦当面 黄褐色 凹 黄褐色	・白色微粒多量 ・無地粒 粗 ・均質	・瓦側面は頭形成用の粘土 を残している ・上半木庭寺跡(この項目は 以下では省略) ・蓋部または瓦脚谷室
瓦34-163 — 0958	II-1WT 9N71	軒丸瓦 A101	瓦当面 二直瓦舟。界縁1本。自 然釉付骨 瓦露文 無段式窓目。丸瓦取り付 け脚内側ナダ	瓦当厚 1.3	瓦当面 暗灰色 瓦当裏 灰色	火浦物大量 ・白色微粒多量 ・同じ粘土層状	・花卉を貫く透かず
瓦35-164 — 0957	II-1WT 9N74	軒丸瓦 E103	瓦当面 盤爪付窓文八葉。界縁 1本。蓋子1-4枚。自然釉 付骨 瓦當裏 ケズリ。突筋なし 凸 追込み模様あり 瓦当側面 ナダ	瓦当厚 3.5/3.2	瓦当面 暗灰色 瓦当裏 灰色	・白面微粒大量 ・均質 ・細密	・直径8mmの大きい窓子 ・下半の肩は側面に向って斜 めに下る ・瓦当側面は瓦当が裏に向つ て開く
瓦35-165 — 0982	II-1WT 9N74	平瓦	回 有目中。微かに側板 压痕2.3cm 凸 露筋ヨコナダ。窓体 付骨。自然釉付骨	厚 1.6/1.3	面 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・片端 ・均質	・溝切り瓦
瓦35-166 — 0982	II-1WT 9N74	有筋式 丸瓦	回 有目中。糸切り底。 粘土付骨 凸 露筋ヨコナダ。窓体 付骨。自然釉付骨	丸瓦 1.8/1.5 玉径長 6.7	面 灰色 凸 灰色	火浦物大量 ・白色微粒多量 ・粗密	・C2a ・粘土巻合せ S 凸 粘土柱が複数かSあり 粘土板を横骨筋に巻くとき、 ところどころ切れた崩れか
瓦35-167 — 0971	II-1WT 9N74	平瓦	回 微かに窓目あり。タ チナダ。窓目中。一方窓タチ 露文。側板か。縫隙寄り を跨ぐ窓压 凸 窓目中。	厚 1.1/0.7	面 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・均質 ・精選	・薄い瓦
瓦35-168 — 0981	II-1WT 9N74	平瓦	回 微かに窓目中。ヨコ ナダタチナダ。微かに 窓切られ 凸 窓目中。一方向タ チ。露文	厚 1.6/1.5	面 灰色吸着 凸 灰色吸着	・白色微粒大量 ・均質 ・精選	回 ヘラ書き型「三」
瓦36-169 — 0974	II-1WT 9N74	平瓦	回 微かに窓目中。タチ ナダ。微かに糸切り底 凸 方形格子様子。糸切 り底	厚 1.8/1.6	面 灰褐色 凸 灰黃褐色	・白色微粒多量 ・赤褐色微粒少量 ・無地粒 粗 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ S
瓦36-170 — 0979	II-1WT 9N74	平瓦	回 有目中。横方向に有 る寄り吸着。窓压2.8cm。 広幅窓字形横清状 凹 みあわせ 凸 微かに窓目中。一 方窓切られ。側板 ヨコナダ	厚 1.3/1.2	面 黄褐色 凸 黄褐色。一部底 部吸着	・白色微粒多量 ・灰白色粘土粒あり ・窓周辺に露出 ・均質	
瓦36-171 PL-31-33 0964	II-1WT 9N74	平瓦	回 素面。糸切り底。 広幅窓ヨコナ 凸 みあわせ 凹 微かに窓目中。一方 窓切られ。側板 ヨコナダ	厚 1.7/1.5 玉端径 28.0	面 灰色 凸 にぶい黄褐色	・白色微粒大量	・粘土巻合せ Z
瓦37-172 — 0945	II-1ET 8N60 地蔵内	丸瓦	回 有目中。糸切り底。 粘土付骨 凸 露文。窓压ヨコナ ダメナダ	厚 2.4/2.0	面 にぶい橙色 凸 にぶい黄褐色	・白色微粒多量 ・赤褐色微粒少量 ・無地粒 粗 ・均質 ・精選	
瓦37-173 — 0942	II-1ET 8N60 地蔵内	平瓦	回 有目中。側板压底 2.8cm 凸 微かに窓目中。一方 窓タチ ヨコナダ	厚 2.1/1.7	面 灰黄色 凸 灰黄色	・白色微粒微粒 ・黒褐色微粒微粒 ・灰白色粘土ブロッ ク ・窓周辺マーブル 状 ・均質 ・精選	
瓦37-174 — 0946	II-1ET 8N60 地蔵内	丸瓦	回 有目中。糸切り底。 粘土付骨 凸 露文。ヨコナダーナ ダメナダ	厚 1.7/1.5	面 灰白色 凸 黄褐色	・黒褐色微粒少量 ・白面微粒細粒微粒 ・白色微粒少量 ・無地粒 粗 ・均質 ・精選	

地番 実行番号 実行番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦37-175 — 0998	11-1ET 9N73 地窓内	平瓦	四 布目中. 側板压痕 2.0cm. 細切り底 凸 側板が切り目中、一方 向タテ、潤足。圓軸ヨコ ナダ	厚 1.9./1.6	凹 灰青褐色 凸 灰青褐色	・白面微粒大粒 ・滑地粒 粗	
瓦37-176 — 1052	11-3T 9N73 地窓内	平瓦	四 布目中. 側板压痕 2.0cm. 細切り底	厚 2.6./2.4	凹 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白面微粒多量 ・パイ皮状	
瓦37-177 — 1054	11-3T 9N73 地窓内	平瓦	四 布目中 側板が切り目中、一方 向タテ若しく、潤足。 タテ ナダ	厚 2.0	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白面微粒多量 ・黒褐色微粒少 量 ・灰白色粘土マーブ ル状	
瓦38-178 — 1062	11-4T 9N63	軒丸瓦 B002	瓦当面 鳥趾状旋部文七葉、界線 なし。中間頭無し、追 子1頭。非常に珠文 瓦表面 ヨコナダ。側面頭へ。 突張なし	瓦当厚 1.9./1.6	瓦當面 にぶい黃褐色 瓦當裏 灰白色	・灰褐色少 量 ・黒褐色微粒數 量 ・滑地粒 粗 ・均質 ・精造	・瓦當面中央が厚く周縁に 向って薄くなる ・秋窓室
瓦38-179 — 1077	11-4T 9N63	平瓦	四 布目なし。ヨコナダ 凸 平行四邊形落子中	厚 1.9	凹 灰黄色 凸 明赤褐色	・白面微粒大粒 ・赤褐色微粒少 量 ・滑地粒 粗 ・均質 ・初造	凸 格子一体型「佐佐」C類 (左文字) ・笠悲山原窓
瓦38-180 — 1073	11-4T 9N52	軒丸瓦 B011	瓦当面 先端が細い二重花弁。子 葉なし。先端が界線に 付く。界線日本 瓦當頭 無絞り目口。突張なし	瓦当厚 1.5	瓦當面 瓦當裏 にぶい褐色	・白面微粒多量 ・灰白色粘土鈍次	・周縁幅 0.5~0.8cm ・周縁部は丸足をもつて外に 開く ・冬日朝晴。中間地級(4)。 隣接地級3地点
瓦38-181 — 1078	11-4T 9N63	平瓦	四 布目中. 側切り底。 自然釉付着 凸 自然釉付着	厚 1.9	凹 灰色 凸 灰色	・白面微粒多量 ・細 ・小穂微粒 ・滑地粒 粗 ・均質	
瓦38-182 — 1079	11-4T 9N63	軒丸瓦 B002	瓦当面 鳥趾状旋部文七葉、界線 なし。中間頭無し。追 子1頭。非常に珠文 瓦當頭 突張なし。丸瓦合面あ り。ヨコナダ端は内方に 向ナダ 瓦當側面 ヨコナダ	瓦当中央厚 1.8 瓦当周縁厚 1.4	瓦當面 瓦當裏 黄灰色 瓦當裏 灰黄色	・黒褐色微粒多量 ・灰白色粘土鈍次 ・滑地粒 粗 ・均質 ・精造	・瓦當面直徑 14.6cm ・瓦當面中央が厚く周縁に 向って薄くなる ・追子の1つが先方に付く ・秋窓室
瓦38-183 PL.31-34 1080	11-5T 9N63 表土	軒丸瓦 B001カ	瓦当面 中房、追子不明。界線な し 瓦當裏 無絞り目口。突張あり	瓦当面央厚 1.5 瓦当径 13.8	瓦當面 にぶい黃褐色 瓦當裏 淡黃褐色	・灰褐色少 量 ・白面微粒大粒 ・灰白色粘土マーブ ル状 ・パイ皮状	・突張高 1.5cm ・突張幅 0.9~1.1cm ・周縁幅 6~9mm ・周縁幅かな高さり1mm ・瓦當面直徑は外張り突張側に 向けて開く
瓦38-184 — 1081	11-5T 9N63 表土	軒丸瓦 B2系	瓦當面 先端より上る二重花弁五 葉か、子葉あり。界線1 中房頭日本1本、追子 1.6cm. 周縁部ナダ 瓦當裏 無絞り目口。突張なし 瓦當側面 弱い段をつくりながら円 筒ケズリ	瓦当面中周厚 1.5	瓦當面 にぶい黃褐色 瓦當裏 にぶい黃褐色	・白色微粒大粒 ・同じ粘土構成 ・精造 ・瓦當面加い目口地 ・滑地粒 粗	・瓦當面下端、瓦接合部結 子葉を尾して円筒ナダ ・追子中房であまり細らまな いのでB2332 ・追子の割付から五葉、追子の 割付から1~5と推定
瓦38-185 PL.32-35 1093	11-1ET 8N50 表土	軒丸瓦 J001	瓦当面 筋長い三形に子葉のある 花弁四葉、子葉のない 三角形の花弁、周縁の先 に亂状の子葉文。 界線日本。中房頭日本。 中央に直徑1.2cmの追子1 頭。周縁部ナダ 瓦當裏 ナダ	瓦当面中周厚 1.4	瓦當面 黃褐色 瓦當裏 黃褐色	・白面微粒多量 ・パイ皮状	・中房直徑 3.3cm ・牛田廢寺跡、多胡郡正倉院 (牛田廢寺跡が先行)
瓦39-186 PL.32-36 1094	11-1ET 8N60 表土	軒丸瓦 A004	瓦当面 筋長い三形に子葉のある 花弁四葉、子葉のない 三角形の花弁、周縁の先 に亂状の子葉文。 界線日本。中房頭日本。 中央に直徑1.2cmの追子1 頭。周縁部ナダ 瓦當裏 ナダ	瓦當面中周厚 1.3	瓦當面 灰色 瓦當裏 灰色	・白面微粒少 量 ・均質 ・緻密	・周縁幅 0.7cm ・A法縫 ・わざかに灰白色粘土頬状 ・灰面窓室谷津支群

測量号 年次 月日	出土地	瓦種	成形 整形	厚度 (cm)	色調	胎土	備考
瓦39-187 — 1195	13-2527 7N59	軒丸瓦 M002	瓦当面 剥離・凹凸面 ヨコカタリーヨコナダ 突部なし 瓦当側面 凹凸ナダ	瓦當面 2.1	瓦當面 灰色 瓦當裏 灰白色	・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗	・圓錐形 0.5~10.0cm ・底盤高 0.7cm ・瓦當面直徑 14.5cm ・周縁と弁先の範囲は整がっていない ・A-2技法
瓦39-188 — 1194	13-2527 7N59	丸瓦	圓 布目中。 あり 凸 凹輪ヨコナダ	厚 1.3~/1.0	面 灰色 凸 灰色	火跡物大量 ・白潤微粒大量	・粘土巻合せ S ・分割時の粘土を侧面に折返す
瓦39-189 — 1198	13-2527 7N59	平瓦	圓 布目中。 凹 滑面ヨコナダ	厚 1.5~/1.1	圓 凸 族面吸着 族面吸着	・白潤微粒大量 ・黒褐色微粒少量 ・精選 ・素地粒 粗	・粘土巻合せ S
瓦39-190 — 1196	13-2527 7N49	丸瓦	圓 布目中。 凸 滑面ヨコナダ	厚 1.2~/0.9	圓 凸 にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	火捺物少量 ・黒褐色微粒微量 ・精選 ・素地粒 粗 ・均質	・薄い瓦
瓦39-191 — 1192	13-2527 7N59	平瓦	圓 布目中。 凸 切り底 凸 タテナダ。	厚 1.9~/1.7	圓 灰色 凸 灰色 側面 側面を引く	・白潤微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・兩面に小窓露出 ・同じ上層次	・粘土巻合せ Z ・隅切り瓦
瓦39-192 — 1199	13-2527 7N59	丸瓦	圓 布目中。 凸 凹輪ヨコナダ	厚 1.7~/1.4	圓 灰色 凸 灰白色	・白潤微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 細	・粘土巻合せ Z ・粘土巻合せで割れ
瓦40-193 — 1273	14T 7N64	平瓦	圓 滑面に布目中。 凸 銀灰に糸切り底	厚 1.1	圓 黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白潤微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・均質	・薄い瓦
瓦40-194 — 1278	14T 7005	平瓦	圓 布目中。 凸 剥板压痕付 凸 凹輪ヨコナダ	厚 2.1~/1.3	圓 族面吸着 凸 族面吸着	・白潤微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・均質	
瓦40-195 — 1280	14T 7005	平瓦	圓 布目中。 凸 タテナダ	厚 1.8~/1.4	圓 黄褐色 凸 黄褐色	・白潤微粒少量 ・黒褐色微粒微量 ・灰白色粘土マーブル状	
瓦40-196 — 1281	14T 7N64	平瓦	圓 密目なし。 凸 ヨコナダ	厚 2.2	圓 黑褐色 凸 灰色	火捺物大量 ・白潤微粒大量 ・細粒多量 ・均質 ・同じ紡土層狀	凸 ハラ吉型「三」
瓦40-197 — 1287	14T 7005	平瓦	圓 布目中。 凸 糙目中。 凸 一方向タテ テ密着、潤乏	厚 2.1~/1.6	圓 灰色 凸 灰褐色	・白潤微粒・粗粒多量	
瓦40-198 — 1289	14T 7005	平瓦	圓 布目中。 凸 切り底 凸 糙目中。 凸 一方タテ テ密着、潤乏	厚 2.3~/2.0	圓 族面吸着 凸 族面吸着	・黒褐色微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・灰白色粘土鱗狀、 ブロック ・均質 ・精選	
瓦40-199 — 1292	14T 7005	丸瓦	圓 布目中。 凸 繋文。タテケツリー タテナダ	厚 2.3	圓 黄褐色 凸 灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	
瓦41-200 PL-32-37 1279	14T 7005	軒平瓦 新 M002	瓦当面 裏面底筋。手彫り。界線 を以て施して表す 頭筋が広くあまり高くな い現状 圓 布目中。 凸 滑面中。潤乏。頂の 付根部ヨコナダ。ヨコカタリーヨコナダ 付根部 分は側面に付む 頭 ヨコナダ	瓦当高 4.2 平瓦厚 1.8	瓦當面 灰黃褐色 圓 にぶい橙色 凸 皮志吸着	・白色微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・黒褐色微粒少量	・往コレと同文様だが複部が 異なる

探査番号 可視化番号 発見場所	出土地	瓦種	成形 整型	法面 (cm)	色調	被土	備考
瓦41-201 — 1262	14T 7005	軒丸瓦 M002	瓦当面 馬蹄状横筋文七葉。界線なし。 中筋無し。蓮子1個。両間に唐文。 軽角は丸株。 瓦当裏 タテナダ。丸瓦接合部は 凹窓ナダ。 印 布目密 凸 タテナダ	瓦当厚 2.6/2.1 丸瓦厚 1.7/1.0	瓦当面 にぶい黄褐色 瓦当裏 黒褐色 凹 にぶい黄褐色 凸 灰色	・黒褐色微粒大粒 ・灰白色粘土質状 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・周径幅 1.0cm ・周長高 0.7cm ・瓦当面中央が厚く瓦縫に 曲って浮きくなる ・A-2技法
瓦41-202 — 1268	14T 7N64	平瓦	印 布目なし。指頭押印 板多 凸 ヨコナダ	厚 3.3/2.0	凹 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・灰褐色微粒大粒 ・片巣	・端部に帶状の粘土を芯にして 両面から貼り付けている
瓦41-203 — 1266	14T 7N64	平瓦	印 布目中。糸切り痕 凸 ひし形格子中。糸切 り痕	厚 2.7/1.8 狭端径 24.3	凹 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白褐色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	
瓦42-204 — 1263	14T 7N64	丸瓦	印 布目中。糸切り痕。 丸瓦合せ目(一部ナダ崩 し)。 東方に向端部に平行 に凹窓 凸 ヨコナダタテナダ	厚 2.1/1.3 長 37.7 広端径 21.0	凹 浅黄褐色 凸 浅黄褐色 縦灰色粘土端面に尾 を引く	・白褐色微粒大量 ・細粒多量	
瓦42-205 PL 32-38 — 1265	14T 7N64	平瓦	印 布目中有目中。ヨコ ナダタテナダ 凸 ひし形格子中。タテ ナダ	厚 2.0	凹 灰黃褐色 凸 灰黃褐色～にぶい 褐色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	凸 格子一体型「佐世」C類 (左文半) ・笠懸山廐室
瓦42-206 — 1295	14T 7N66 表土	軒丸瓦 B201	瓦当面 先端内側が反る二重花 弁。子高あり。界線1 本、右は2本。段取 瓦当裏 瓦当側面 丸瓦底はタテケツリ。下 半は円窓ナダ	厚 3.3/2.2	瓦当面 黑褐色 瓦当裏 黑褐色	・白褐色微粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・周径幅 0.7~1.1cm ・瓦当面直徑 15cm ・界線直徑 12.8cm ・中筋直徑 4cm ・瓦当の裏みは丸瓦寄りが厚 く、下方に向って浮きなる ・笠懸ノ山川窓
瓦42-207 — 1296	14T 7N66 表土	軒平瓦 新カ	瓦当面 左端に唐文。界線上には1 本、右には2本。段取	—	瓦当面 灰色 凹 灰色 凸 灰色	・白褐色微粒多粒 ・黒褐色微粒多粒 ・灰褐色粘土質状 ・素地粒 粗	・P10に似ているが右端は直 線文様で上下各2枚計4枚ある ので異なる
瓦43-208 — 1318	15-1T 7N23	平瓦	印 布目中。糸切り痕 凸 ひし形格子中。格子 目内に木理明顯	厚 1.8/1.6	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・精選	・印に格子目底あり、その 後に布目底がつく
瓦43-209 — 1321	15-1T 7N23	丸瓦	印 布目中 凸 タテケツリ	厚 1.8/1.3	凹 緋斑色 凸 灰黄色	・白色微粒大粒 ・にぶい優色粘土端 状・均質	・粘土合せ S ・印凸部の一部に灰付着 ・調切り瓦
瓦43-210 PL 32-39 — 1320	15-1T 7N23	平瓦	印 布目中。微かに糸切 り痕 凸 何かに間に目中。一方 向タテ密着、混瓦。タテ ナダ	厚 1.9/1.3 長 40.7	凹 灰白色 凸 灰白色	・白褐色微粒大量 ・素地粒 密 ・片巣 ・均質	・粘土合せ S
瓦43-211 — 1326	15-1T 7N23	平瓦	印 布目中。糸切り痕 凸 何かに糸切れ格子中。微か に糸切り痕	厚 1.8/1.6	凹 灰褐色 凸 黑灰色	・黒褐色微粒多量 ・白褐色微粒少量 ・素地粒 粗 ・均質	
瓦43-212 — 1323	15-1T 7N23	平瓦	印 布目中 凸 微かに糸切り痕	厚 1.5/1.3	凹 緋斑色 凸 黑褐色	・白色微粒大粒 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	凸 格子一体型「雀」A類(左 文半) ・笠懸山廐室
瓦44-213 PL 32-40 — 1328	15-1T 7N23	平瓦	印 布目中 凸 ヨコナダタテナダ	厚 2.3/1.9	凹 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白褐色微粒多量 ・灰褐色粘土質状	印 ヘラ書き型「淨長」カ
瓦44-214 — 1338	15-1T 7N23 地盤内	平瓦	印 布目なし。タテナダ 凸 タテケツリ	厚 2.0	凹 にぶい緑色 凸 黑褐色	・白褐色微粒多量 ・灰褐色粘土質	
瓦44-215 — 1340	15-1T 7N23 地盤内	有段式 丸瓦	印 布目中 凸 圓窓ヨコナダ一部 タテナダ。大條状あり	丸瓦厚 1.8/1.6	凹 灰色 凸 灰色	・白褐色微粒大量 ・素地粒 密 ・均質	・Cn ・玉縁と丸瓦で分割線を間違 えたためか両者の側面が連続 せず段落がある
瓦44-216 — 1339	15-1T 7N23 地盤内	平瓦	印 布目なし。タテナダ 凸 ヨコナダ	厚 1.5/1.3	凹 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白褐色微粒多量	・断面削離されているため明 確ではないが画面に横方向の 凹凸があるので泥条盤技術法の 可能性あり

固有号 考古学名 測量号	出土地	埋置	成形 型形	位置 (cm)	色調	埴土	備考
瓦44-217 — 1343	15-2 7N27	平瓦	圓 布目中 凸 タテナナデ	厚 1.5	圓 灰色 凸 灰色	・白陶微粒多量 ・圓・凸粘土崩状 ・素地粗	
瓦44-218 — 1345	15-2T 7N27	平瓦	圓 布目中 凸 調目中、一方向タ チ、タテナナデ	厚 1.9	圓 にぶい黄橙色 凸 極灰色	・白陶微粒少後 ・黑褐色微粒微量	凸 ヘラ書き型不明文字
瓦44-219 — 1346	15-3T 7N52	平瓦	圓 布目中、糸切り底 凸 タテナナデ。糸切り 底、広幅面に布目(ボ ジ)	厚長 2.2./1.6. 39.4	圓 灰白色。一部誤 表現着 凸 灰白色。一部誤 表現着 底面 底面灰色黏土尾を引く ように	・白陶微粒大量 ・灰白色粘土マーブ ル状 ・ハイ皮状	
瓦44-220 — 1348	15-3T 7N52	平瓦	圓 布目なし。回転ヨコ ナナデ、凹凸を残す約1cm 単位のナナデが明瞭 凸 ヨコナナデ	厚 1.7./1.5	圓 灰色 凸 灰色	・白陶微粒大量 ・灰褐色微粒大量 ・均質 ・灰白色块土僅かに 崩状	・混多壁基法 ・広幅寄りで外側に向る
瓦45-221 PL 32-41 1350	15-3T 7N53	平瓦	圓 布目中 凸 布目に縦目中、一方 向タテナナデ、圓底、ヨコ ナナナナナナ	厚 2.1./1.7	圓 淡褐色。一部誤 表現着 凸 炭素粒表現着	・白陶微粒大量 ・赤褐色微粒多量 ・均質 ・灰白色块土崩状 ・素地粗	
瓦45-222 PL 33-42 1353	15-3T 7N53	平瓦	圓 布目中。側板正直幅 2.0cm。赤切口。底 凸 回転ヨコナナデ。回転 ヨコナナデの傾度の差が明 瞭	厚 2.1./1.4	圓 灰白色 凸 灰白色	・白陶微粒大量 ・黑褐色微粒多量 ・灰白色块土、黑褐色 块土マーブル状	・粘土巻合せ S
瓦45-223 — 1359	15-3T 7N53	丸瓦	圓 布目中。布引上げ 用端の跡みか 凸 タテケズリ	厚 1.5./1.3	圓 黒褐色 凸 灰色	・白色微粒大量 ・均質 ・精選	・誤切口 ・誤焼成や斜に上げて 土を表面に折り返したまま
瓦45-224 — 1355	15-3T 7N53	平瓦	圓 亂がに布目中。ヨコ ナナデ。亂がに糸切り底	厚 1.4./1.3	圓 灰黄色 凸 灰黄色	・白色微粒大量 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ S ・凸 格子・体型不明文字(底 部2本に見える) ・病落
瓦45-225 — 1365	15-3T 7N53	平瓦	圓 布目中。糸引に糸切 底 凸 ひし形格子中	厚 1.7./1.6	圓 灰色 凸 増灰色	・白色微粒大量 ・素地粒 離 ・均質 ・精選	凸 格子・体際「佐々」CR (左文字) ・笠懸山原窯
瓦46-226 PL 33-43 1356	15-3T 7N53	軒丸瓦 B101	瓦当底 二段重ね。長い子鶴あり。 底幅1.6、底らみの ない、底の花。周縁 ナナデ 正方形面 円周ナナデ 瓦当裏 無紋。布目、一筋二重。 突帯あり	瓦当厚 1.3	瓦当面 黑褐色 瓦当裏 黑褐色	・白色微粒大量 ・均質 ・精選	・四縁幅 1.2~1.5cm ・瓦当面直徑 12.6cm ・界線直徑 12.6cm ・突帯幅 1.4~1.7cm ・突帯高 0.8~1.0cm ・周縁脣は底に曲がり下方に向って入る ・笠懸山原窯
瓦46-227 PL 33-44 1357	15-3T 7N53	丸瓦	圓 布目中。粘土合せ 日、長方形の突起。布の 跡引があり 凸 回転ヨコナナデ	厚 1.4./0.9	圓 増灰色 凸 増灰色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ S
瓦46-228 PL 33-45 1358	15-3T 7N53	丸瓦	圓 布目中。糸切り底 凸 亂がに縦目。回転 ヨコナナデ	厚 1.7./0.8	圓 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白陶微粒大量・凸 面に黒褐色 ・灰白色块土崩状	・前面に小さな粘土板を幾枚 か足した痕跡か
瓦47-229 PL 33-46 1371	15-4T 7N57	丸瓦	圓 布目密。周縁に九 い伴状痕 凸 一方向タテ寄り、圓 底、ヨコナナデ	厚 1.6./1.4 12.3	圓 灰色 凸 灰色	・黑褐色微粒多量 ・灰白色块土崩状、 粒状	・粘土巻合せ S
瓦47-230 — 1366	1ST 7N56 地蔵内	平瓦	圓 亂がに布目中。ヨコ ナナデ 凸 平行四辺形格子中	厚 2.2./1.9	圓 灰オーブ色 凸 灰色	・白色微粒大量 ・均質 ・精選	
瓦47-231 — 1369	1ST 7N56 地蔵内	丸瓦	圓 亂がに布目。タテナ ナナデ 凸 亂がに縦目、タテ、 ヨコナナデ	厚 1.8./1.7	圓 灰黃褐色 凸 にぶい黄褐色	・白陶微粒多量	
瓦47-232 — 1297	1ST 7N56 表土	軒平瓦 N301A	瓦当面 三道縫 底 布目中。糸切り底 凸 瓦当面幅(0.5cm)だ け割取り状にケズリ。底 及び瓦当はタテ及びナナ メにケズリ。無面隙に指 印に底	瓦当高 4.0 平瓦厚 2.6./2.2	瓦當面 灰白色 底 灰白色 凸 灰白色。一部根 表現着	・粘土巻合せ Z ・瓦当近くは上下に粘土を足 している可能性があるが、回 面に側板底付らしき側縫 があるため抽巻作と考えら れる	

試験番号 実験番号 管理番号	地土地 表土	瓦種	成形 要形	法量 (cm)	色調	施土	備考
瓦47-233 — 1299	1ST 7N45 表土	軒平瓦 P002	瓦表面 左斜行切分。界線1本。 外区線丸文あり微小、葉筋 外区線の當り有り微小 内区線の當り有り微小 頂部なし 内区線部に近い 瓦面上部 ヨコナデ 強 ヨコナデ、指擦痕底 三角形底	平瓦厚 2.8/2.5	瓦当面 灰色 瓦当裏 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒まぶした ・均質 ・精選	・瓦当面粘土剥がれ ・笠山山系窯
瓦47-234 — 1300-1	1ST 7N96 表土	軒丸瓦 B104	瓦表面 先端の尖った一直角弁。 子窓あり。界線1本。中 区線横1本、巻子1/4か 瓦当更 ナデ。指擦による底みみ り有り。突起なし 瓦面側 内区線部 内区線方向ケズリ→ナデ	瓦当厚 2.0	瓦表面 灰白色 瓦当裏 灰白色	・白色微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・均質 ・ババ皮状	・屏風沿て粘土剥ぎ目有 ・丸瓦複合用粘土に丸瓦の布 目底が船底 ・A=3粒度
瓦48-235 — 1302	1ST 7N96 表土	有段式 丸瓦	圓 布目中 凸 回転ロコナダ→タケ ナデ	丸瓦厚 2.4/1.9 玉縁長 8.0	圓 灰黃褐色 凸 灰黃褐色	・白色微粒多量 ・赤褐色 ・均質 ・精選	・Clb ・三様と丸瓦を連続しない別 の粘土で成形か
瓦48-236 — 1317	1ST 7N26 表土	丸瓦	圓 布目中。微かに糾 り底 凸 タケナデ	厚 2.9/2.2	圓 灰黃褐色 凸 淡灰色	灰褐色物 大量 ・白色微粒多量 ・灰褐色粘土マーブル状	凸 ハラ書き型「上」
瓦48-237 PL 33-47 1310	1ST 7N06 表土	平瓦	圓 布目中。糾切り底。 子窓じび 凸 縫目西、一方向タチ 透窓、縫合	厚 2.3/2.2 玉縁長 27.4	圓 にぶい黄褐色 凸 淡灰色	・黒褐色微粒多量 ・縫合部 ・灰褐色粘土粒 ・素面粒 粗	
瓦48-238 PL 33-48 1311	1ST 7N26 表土	丸瓦	圓 布目中。糾かに糾切 り底。 全面自縫合付着 凸 タケゼリ。全面自 縫合付着	厚 1.7/1.4 長 30.8 広幅厚 18.2 玉縁長 14.0	圓 灰黃褐色 凸 にぶい黄褐色	・黒褐色微粒多量 ・白面微粒少量	・面幅が狭く、長さも短い ・特殊な用途か
瓦48-239 — 0036	3T BP14	軒丸瓦 E202	瓦当面 陰刻花弁。中間回線な し。子窓中央に1個底径 1.4cm 瓦面裏 無絞り毛目	瓦当厚 2.0/1.2	瓦当面 灰白色 瓦当裏 淡灰色	・白面微粒多量 ・灰褐色粘土層状 ・素面粒 粗	・灰土着
瓦48-240 — 0037	3T BP14	丸瓦	圓 布目中 凸 タケナデ	厚 1.1/0.7	圓 淡灰色 凸 淡灰色	・白色微粒多量 ・削れ口 粗	・粘土鉢作り ・板金回しから
瓦49-241 — 0045	3T BP14 底剥状	軒丸瓦 C002カ	瓦表面 花弁は陰刻。導線不明。 回線円周ナデ 瓦面裏 無絞り毛目。突起あり	瓦当厚 1.0/0.8	瓦表面 黄灰色 所面 黄灰色 瓦面裏 黄灰色	・白面微粒多量 ・素面粒 粗 ・均質 ・精選	・回線幅 1.2~1.5cm ・回線高 1.0cm ・突起幅 1.0~1.5cm ・突起高 0.4~0.9cm
瓦49-242 — 0044	3T BP15 底剥状	丸瓦	圓 布目密 凸 平行縫合目、一方向 ナナメ、密着	厚 2.1	圓 黄灰色 凸 淡灰色	灰褐色物 大量 ・白面微粒多量 ・白色微粒多量	
瓦49-243 PL 34-49 0054	3T BP16 底剥状	平瓦	圓 布目中。糾かに糾切 り底 凸 糾かに糾切底	厚 1.6	圓 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白色微粒多量 ・素面粒 粗 ・白色微粒多量	凸 刻印型「法輪」 ・山王庵寺跡
瓦49-244 — 0100	3T BP21	軒平瓦 M13系	瓦表面 三重刺 凸 ヨコナデ 回 タケゼリ→ヨコナ デ	正当高 3.6	瓦表面 灰白色 回 淡白色 凸 淡白色	・白色微粒微量 ・黒褐色微粒微量 ・白面微粒微量	・軒部粘土貼付明瞭
瓦49-245 — 0066	3T BP13	丸瓦	圓 布目中。糾切り底 凸 ヨコナデ	厚 1.3/1.0	圓 黄灰色 凸 淡黄色	・白色微粒まぶした よう	・被面d・回面から
瓦49-246 — 0065	3T BP13	平瓦	圓 糾かに布目中。タチ ナデ 凸 糾切り底あり	厚 1.7/1.4	圓 黄灰色 凸 淡灰色	・白色微粒大量 ・均質	
瓦50-247 — 0072	3T BP24	平瓦	圓 布目中 凸 平行条目、ナナメ→ ナデ	厚 1.5/0.6	圓 暗灰黄色 凸 淡灰色	・白面微粒多量 ・黒褐色微粒少量 ・素面粒 粗 ・均質	・全体的に薄作り
瓦50-248 — 0073	3T BP24	平瓦	圓 布目中 凸 僅かに凹目中、一方 向タチ。回転ヨコナデ	厚 1.5/1.2	圓 淡黄色 凸 淡灰色	・白面微粒多量 ・素面粒 粗 ・白面微粒微量 ・灰褐色粘土粒あり ・灰褐色粘土粒	
瓦50-249 PL 34-50 0077	3T BP24	有段式 丸瓦	圓 布目中 凸 僅かに凹目中、一方 向タチ。回転ヨコナデ	丸瓦厚 2.4/0.8 玉縁長 14.8 玉縁径 11.5 玉縁長 6.2	圓 黄灰色 凸 黄灰色	・Clb ・全面自然釉	

番号 測量番号	出土地	真理	底形 断面	法量 (cm)	色調	粘土	備考
瓦50-250 — 0085	3T BP24	平真	圓 布目中。糸切り底 凸 縫合部。糸切り底。 縫合部	厚 2.0/1.7	面 灰黄色 凸 灰灰色	・黒褐色微粒多量	
瓦51-251 — 0086	3T BP24	軒丸瓦 P002	瓦当面 島紋状墨文七索。中房 圓形なし。邊子1頭。弁 圓形なし。文 瓦當面墨 ナダ 瓦當裏 ナダ 美帶なし	瓦当厚 1.9/1.6	瓦当面 墨素發着 瓦当裏 墨素發着	・黑色微粒大量 ・白色微粒微量 ・素地粒 粗	・瓦当面中央が厚く四捨に 向って薄くなる ・状間空
瓦51-252 — 0088	3T BP24	平瓦	圓 布目中。糸切り底 凸 方形格子中。糸切 り底	厚 2.0/1.5	面 にぶい褐色 凸 灰褐色	・白色微粒まぶした よう	・粘土巻合せ Z
瓦51-253 — 0089	3T BP24	平瓦	圓 布目中 凸 平行条目組。一方向 ヨコ	厚 1.3/0.9	面 灰黄色 凸 灰白色	・黑色微粒・細粒多 量 ・白褐色粒少量 ・素地粒 粗	
瓦51-254 — 0093	3T BP24	平瓦	圓 布目中 凸 ヨコナデ	厚 2.4/2.2	面 褐色 凸 にぶい褐色	・白色微粒多量 ・赤褐色・細粒少 量 ・灰白色土構状に入 る	凸 刻印型「山田」 ・笠懸山原屋
瓦51-255 PL 34-51 0094	3T BP24	軒平瓦 P002	瓦当面 右側有落差。界線1本。 凸 ヨコナデ	瓦当幅 4.4	面 灰白色 凸 灰褐色	・白色微粒大量	・頂赤色塗彩 ・笠懸山原窓
瓦51-256 — 0104	3T BP25	丸瓦	圓 布目中 凸 微かに平行条目。ナ ダメナダ	厚 2.6/1.9	面 焼削吸着 凸 焼削吸着	・白褐色粒大粒 ・赤褐色微粒・細粒 多量	凸 ヘラ書き型不刷文字 ・粘土巻合せ S
瓦51-257 — 0110	3T BP26	丸瓦	圓 糸切り底 凸 タテケズリ	厚 1.6	面 黄灰色 凸 灰黄色	夾雜物大量 ・白褐色粒多量 ・白色微粒・細粒多 量・褐色	・粘土巻合せ Z
瓦51-258 — 0099	3T BP21	軒丸瓦 軒別不 能	瓦当面 二重花弁。素面あり。珠 文入り。界線1本 瓦當裏 向なし	瓦当厚 1.5	瓦当面 褐色 瓦当裏 墓灰色	・白色微粒・細粒多 量 ・層次	・焼付幅 5mm程度 ・瓦当裏に積があるが丸瓦は はまっているV技法 ・珠文を見るものは、珠文 ではなく跡
瓦52-259 — 0120	3T BP85	平瓦	圓 微かに布目。糸切 り底。 ヨコナデ 布目中。糸切 り底。糸切 り底	厚 1.5/1.2	面 褐色 凸 にぶい黄褐色	・白色微粒まぶした よう ・赤褐色微粒多量 5~10mm隔たり ・素地粒 粗	圓 ヘラ書き型「三」
瓦52-260 — 0144	3T BP71	平瓦	圓 布目中。布目一部二 重か	厚 1.7/1.4	面 黄灰色 凸 灰褐色	夾雜物大量 ・白褐色粒多量・細 粒少量・褐色	
瓦52-261 — 0122	3T BP85	丸瓦	圓 布目中。粘土縫合部 凸 タテナデ	厚 1.4	面 灰色 凸 灰褐色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	・組作りか
瓦52-262 — 0157	3T BP71	丸瓦	圓 布目中 凸 ヨコナデ	厚 0.6	面 褐色 凸 灰褐色	・白色微粒微量 ・素地粒 粗	・粘土巻合せ S ・板面表面から ・全体に薄作り
瓦52-263 — 0123	3T BP85	丸瓦	圓 布目中	厚 1.4	面 灰色 凸 灰褐色	・白色微粒まぶした よう	・粘土巻合せ Z ・調切瓦
瓦52-264 — 0141	3T BP85	平瓦	圓 僅かに布目中。タテ 凸 ひし形格子中	厚 3.3/2.5	面 にぶい黄褐色 凸 灰褐色	・白色微粒まぶした よう	
瓦52-265 PL 34-52 0138	3T BP74	軒平瓦 軒 u002	瓦当面 二重瓣唐文	瓦当幅 7.0 張幅 2.3	瓦当面 灰褐色 瓦当裏 灰褐色	・白色微粒微量 ・黒褐色細粒少量 ・素地粒 粗	・尼寺昭和。住コレ
瓦53-266 — 0142	3T BP23	平瓦	圓 ヨコナデ	厚 2.1/1.9	面 灰白色 凸 灰白色	夾雜物大量 ・白褐色粒多量 ・素地粒 粗	・足糸盤技法
瓦53-267 — 0155	3T BP71	丸瓦	圓 布目中 凸 ヨコナデ	厚 1.9/1.4	面 明褐色 凸 明褐色	・白色微粒少 量 ・黒褐色微粒少 量 ・素地粒 粗	凸 ヘラ書き型不明文字 ・組作り
瓦53-268 PL 34-52 0143	3T BP71	丸瓦	圓 布目中 凸 ローラーか	厚 1.6	面 褐色 凸 にぶい黄褐色	夾雜物少 量 ・墨褐色微粒・細粒 少 量 ・素地粒 粗	・組作り

器物名 年号 通番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦53-269 — 0161	3T BP75	平瓦	四 備かに布目中。タテ ナダ	厚 2.7./2.2	圓 凸 黃灰色 黃灰色	夾雜物大量 ・白面微粒・細粒多 量・小面・微少量 ・表面にも白陶小面 大粒が露出	
瓦53-270 — 0146	3T BP71	平瓦	四 布目密。タテナダ。 側板壓痕幅3.2~2.9cm 凸 薄目密、一方向タテ 壓着、側長絞	厚 2.2	圓 凸 灰 灰 色 色	・黑色微粒多量 ・灰白色粘土粒状に 入る	
瓦53-271 — 0163	3T BP75	平瓦	四 備かに布目。ヨコナ ダ 凸 側目中、一方向ナダ ナダ、側面引裂	厚 1.8	圓 凸 にぶい 證 色 にぶい 證 色	・白色微粒多量 ・黑色微粒少量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦53-272 PL 34-54 0147	3T BP71	軒丸瓦 A106	瓦当面 二重花弁型器。子盤な し。界線1本。中房頭隙1 本。選子1+4 瓦当裏 無紋り布目。突帯不明	瓦当厚 3.2	瓦當面 灰色 瓦當裏 灰色	・白色微粒多量 ・黑褐色微粒少量	・中房頭隙 4.0cm ・周縁厚 1.0cm ・周縁羽は明瞭だが側面は外 に広がる ・瓦當裏は複数の粘土を重ね て製作か
瓦54-273 — 0150	3T BP71	軒丸瓦 軒	瓦当面 二重花弁。井凹不明。子 盤なし。中房、選子不 明。界線1本 瓦当裏 無紋り布目。突帯あり	瓦当厚 2.0./1.6	瓦當面 深色 瓦當裏 深色	・白面微粒・細粒少 量・0.5~1.2cm粒あ り ・灰白色粘土粒状に 入る	・弁が分厚ら ・弁の外側に范傷 ・周縁厚 1.2~2.5cmで一定 しない ・周縁羽はなだらか ・ALICに似ているが外側の弁 が角張る ・突帶側面に木板から取りは した後にメレンジの跡らみか ・突帶高 2.7cm
瓦54-274 — 0167	3T BP75	軒丸瓦 判別不 能	瓦当面 二重花弁。子盤あり押し つ込まれている。中房頭 隙1本。選子1個 瓦当裏 中央が高く、周囲が低 い。布目中	瓦当厚 1.4	瓦當面 灰黃色 瓦當裏 灰黃色	・白色微粒大量 ・黑褐色微粒多量	
瓦54-275 — 0168	3T B006	平瓦	四 備かに布目中。ヨコ ナダ。 凸 その他の格子	厚 1.8	圓 粗 色 凸 灰 黃 色	・白色微粒多量した よう	凸「田」ではなく格子の一 部分
瓦54-276 — 0164	3T BP75	平瓦	四 布目中 凸 タテナダ	厚 1.5	圓 黃 色 凸 灰 白 色	・黑褐色微粒多量・ 細粒微量	・粘土巻合せ SZ不明
瓦54-277 PL 34-55 0165	3T BP75 B203カ	軒丸瓦 A106	瓦当面 二重花弁。中房頭隙1 本。子盤あり。界線1本 瓦当裏 無紋り布目。突帯あり	瓦当厚 1.7	瓦當面 灰色 瓦當裏 灰色	・白面微粒多量 ・均質な粘土が薄い 盾状	・周縁厚 1.5cmケズリ ・周縁直角 ・ごく低い高さの突帯2~3mm
瓦54-278 — 0183	3T BP86	平瓦	四 備かに糸切り痕 凸 ナダ、糸切り痕	厚 2.6./2.0	圓 にぶい 黃 色 凸 灰 黃 色 吸 着	・白面微粒少量 ・黒褐色微粒少量 ・周状	凸 刻印型「口に當」 凸 ハラ書き型「刀呂昌」 ・粘土巻合せ SZ不明
瓦54-279 — 0176	3T B006	平瓦	四 所々タテに強いナダ (無根付)を消しかた 凸 ヨコナダ(幅8.0cmの 板小口でナダ)	厚 1.6./1.2	圓 凸 黃 色 黃 色	・白面微粒微量 ・1cm隙あり ・均質 ・素地粒 粗	
瓦54-280 — 0177	3T B006	平瓦	四 布目中。糸切り板 平行四辺形格子中。 タテナダ。備かに糸切り 板	厚 1.6./1.0	圓 にぶい 黃 色 凸 にぶい 黃 色 (糸分沈かる)	・白色微粒多量 ・素地粒 粗	
瓦55-281 — 0712	3T TP78 表土	平瓦	四 布目中。糸切り底 凸 摺目中。一方向タテ 壓着、側長	厚 2.3./1.6	圓 灰 黃 色 凸 灰 黃 色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・黏土貼り合せか 凸 一骨子一体型「雀」A版(左 文字) ・笠原山原産
瓦55-282 — 0710	3T TP35	平瓦	四 布目中。糸切り底 凸 摺目中。一方向タテ 壓着、側長	厚 3.3./2.1	圓 灰 黃 色 凸 灰 黃 色	・白面微粒・細粒微 粒 ・暗褐色粘土盾状 ・素地粒 粗	
瓦55-283 PL 34-56 0175	3T BP86	平瓦	四 ヨコナダ-タテナダ 凸 タテナダ 凸 粘土接合板合致あり	厚 1.4	圓 黃 色 凸 黃 色	夾雜物少量 ・白面微粒微量 ・白色微粒微量 ・径1.5cm程あり ・素地粒 粗	・泥条捲技法
瓦55-284 — 0218	3T BP24	平瓦	四 布目中。糸切り底 凸 摺目中。一方向タテ 壓着、側長、隠れね。一 次の煤付層	厚 2.3./2.1	圓 にぶい 黃 色 凸 灰 黃 色 灰 色	・黑褐色微粒少量 ・灰白色粘土盾状 ・稍透	

番号 測量番号	出土地	真種	成形 堅度	測量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦55-285 — 0709	3T 7P35	平瓦	凹 凸 ヨコナダ→タテナダ ヨコナダ→タテナダ	厚 2.0	凹 灰黃褐色 凸 暗灰色	・白面微粒大量 ・黒褐色微粒多量 ・素地粒 粗	・泥条壓瓦法 ・胎土巻合せ SZ不明
瓦56-286 — 0235	4T 8P21	平瓦	凹 有目中 凸 不規則な平行条目太 (伸縮跡あり)	厚 1.9/1.5	凹 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白色微粒多量 ・赤褐色微粒・鉢粒 少量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦56-287 — 0237	4T 8P62	平瓦	凹 有目中、糸切り痕 凸 タテナダ	厚 2.3/1.8	凹 灰黃褐色 凸 黄灰色	・白面微粒・鉢粒少 量・經あり ・黒褐色粒(粗大)あ り ・マーブル状	凹 ヘラ書き型(針書き)不明 文字
瓦56-288 — 0244	4T 8P19	平瓦	凹 有目中、タテナダ タテナダ→布日を留す 凸 タテナダ	厚 2.3/1.6	凹 黄灰褐色 凸 黄灰色	火拂物多量 ・白面微粒・鉢粒大 量 ・白色微粒多量 ・マーブル状	・側面、端面に黑色胎土尾を 引く
瓦56-289 — 0251	4T 8P19	軒丸瓦 B20系	瓦当面 子窓のある二重屋根。界 隈1本、中房圍縁1本、邊 子あわせ瓦 瓦当裏 無焼けの有目中、一部布日 が粗い。美姿なし	瓦当厚 1.2cm	瓦当面 灰黄色 瓦当裏 灰黄色	・白色微粒大量 ・層次 ・素地粒 粗	・花弁の先端が界縁のつく
瓦56-290 PL 34-57 0253	4T 8P42	軒丸瓦 B20系	瓦当面 鳥糞斑・藻草文ヒ素。中房 圍縁なし、邊子1個。弁 間文ヒ素 瓦当裏 ヨコナダ。丸瓦付根円周 ナダ。	瓦当厚 2.1/1.8	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰白色	・黒褐色微粒大量 ・灰白色胎土粒 ・素地粒 粗	・瓦当底径 14.5cm ・弁先から周縁まで沿筋あり ・邊子の1つが先端に付く ・瓦当裏中央が厚く周縁に 向って薄くなる ・A=2法 ・状況窓
瓦56-291 PL 34-58 0711	3T 7P67 表土	軒平瓦 N001	瓦当面 三重崩 國 瓦から平瓦にかけて タケヅリ。瓦当上面 ヨコナダ 三角形窓	瓦当高 3.4 平瓦厚 2.5/1.9	凹 灰黃褐色 凸 灰色。一部自然 積付帶	火拂物大量 ・白面微粒大量・鉢 粒多量・經あり	・老子直徑 0.8cm ・中房底径 1.6cm ・界縁直徑 9.3cm ・沈縁直徑 11.4cm ・界縁は平坦。幅0.6~1.1cm ・界縁の外側に沈縁が延る ・瓦当裏面に小さな野差あり ・花弁の1つは界縁と 一休 ・弁先に直筋のあるものがあ る ・A105と似るが異なる ・N037と同窓
瓦57-292 PL 35-58 0744	9ST 7026	軒丸瓦 新 a006	瓦当面 先端が丸味のある丸瓦と 子窓あり。界縁1本、中房圍縁1本、邊子1個 瓦当裏 無焼けの有目。突筋不明	瓦当厚 1.9	瓦当面 灰色 瓦当裏 灰色	・白面微粒多量 ・灰白色胎土質	・老子直徑 0.8cm ・中房底径 1.6cm ・界縁直徑 9.3cm ・沈縁直徑 11.4cm ・界縁は平坦。幅0.6~1.1cm ・界縁の外側に沈縁が延る ・瓦当裏面に小さな野差あり ・花弁の1つは界縁と 一休 ・弁先に直筋のあるものがあ る ・A105と似るが異なる ・N037と同窓
瓦57-293 — 0750	9ST 7026	丸瓦	凹 有目中、胎土の合せ 目縫をヨコナダで留す 凸 有目中、一方側面タ ケ密着。ヨコナダ	厚 1.9/1.8	凹 灰白色 凸 灰白色	・白面微粒大量 ・黒褐色微粒少量	
瓦57-294 — 0749	9ST 7026	平瓦	凹 亂かに有目。ヨコナ ダ→タテナダ 凸 亂目中、二方に注出 状、亂共→木造のある板 叩き→タテナダ	厚 1.6/1.4	凹 炭素吸着。一部 落漆 凸 炭素吸着	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	
瓦57-295 0762	9ST 7027	軒平瓦 P001	瓦当面 右側に附着。糸窓1本。 外筋文あり。 凹 亂目中、ヨコナダ→タ テナダ 凸 先端上面ヨコナダ 凹 乱窓に糸窓1本ナメ。 タケヅリ。國面から5.0 cm幅のヨコナダ 國 ヨコナダ	瓦当高 4.1 平瓦厚 1.4	凹 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・鉢粒 ・均質	・笠瓶底ノ川型
瓦57-296 — 0759	9ST 7026	平瓦	凹 布目窓 凸 糸窓1本、一方向瓦 若 T字形長 窓、T字形長 窓、糸窓 タテ方向に半で押す	厚 2.4/1.8	凹 黑灰色 凸 黑灰色	・黒褐色微粒大量 ・灰白色胎土粒	・側面側面間に粘土折り返し

番号 平成年 度年次 度年次	出土地	瓦種	成形 範囲	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦57-297 — 0768	9ST 7027	丸瓦	四 面中、焼成時に何 かで引掛けたような跡み が複数点。外側は膨ら む タケケズリータナ グ	厚 1.5/1.2	面 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦57-298 — 0765	9ST 7027	平瓦	四 面中、端面より一 部タケナグ 凸 底面中、一方尚タテ 密着、泥長帯、隙れ砂	厚 2.0/1.5	面 灰白色 凸 灰白色	・黒褐色微粒大量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦58-299 PL-35-60 0773	9ST 7037	軒丸瓦 P002分	瓦当面 瓦ナグ 子面1本、界隈1本。中房 屋根1本。底子1-5、周縁 瓦凹ナグ。底面に細い石 目模様。底面に開拓が 強く平行な木筋痕あり 瓦当裏 ヨコケズリーナグ	瓦当厚 2.9	瓦当面 にぶい黄橙 色 瓦當裏 にぶい黄橙 色	・白色微粒多量	・周縁幅 1.8cm
瓦58-300 — 0772	9ST 7037	平瓦	四 面中目。側面下辺に かかって布目続。糸切り 底 凸面直目、一方尚タテ密 着、網長(ローラー)か。 壁2.6分	厚 1.9	面 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	灰掉物少量 ・赤褐色微粒多量 ・灰白色粘土粒混ざ る ・均質	・一枚作り抜
瓦58-301 — 0774	9ST 7037	軒平瓦 P001	瓦当面 右端行模様。界隈1本。 外縁文あり。 底 布目中、タケナグ。 瓦当上面ヨコナグ 凸 タケケズリーニ二方 X字、頭延する平瓦ヨ コナグ 小さな曲線痕	瓦当高 4.1 瓦当厚 1.7	瓦当面 にぶい黄橙 色 面 にぶい黄橙色 凸 灰黄色。一部 灰掉物	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・笠懸庵ノ川窓
瓦58-302 — 0763	9ST 7027	軒平瓦 P001	瓦当面 右端行模様。界隈1本。 外縁文あり。 底 僅かに布目中。タ ケナグ。 瓦当上面ヨコナグ 底 頭延する平瓦ヨ コナグ 三角形痕、縫合縫 隙 ヨコナグ	瓦当高 4.5 瓦当厚 3.6/3.2	瓦当面 にぶい黄橙 色 面 にぶい黄橙色 凸 にぶい黄橙色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗 ・精度	・落丁のためか下外区の 文が折えかかるものあり。界 縁も一部壊れる ・笠懸庵ノ川窓
瓦58-303 — 0721	9NT 7056	平瓦	四 面中、側面行模様 2.0cm。僅かに糸切り瓦	厚 2.2/1.8	面 灰白色 凸 灰白色	・白褐色微粒少量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 粗	
瓦59-304 — 0719	9NT 7047	軒平瓦 P001	瓦当面 右端行模様。界隈1本。 外縁文あり。 底 僅かに布目中。ヨコ ナグ 底 僅かに布目中。二方X字 状、網眼。タケケズリ 縫合 ヨコナグのある段割 隙 ヨコナグ	瓦当高 4.5 瓦当厚 3.4/1.8	面 炭素吸着 凸 炭素吸着	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・左下隅模文が界縁とつなが る ・笠懸庵ノ川窓
瓦59-305 — 0731	9NT 7047	軒平瓦 P001	瓦当面 右端行模様。界隈1本。 外縁文あり。 底 僅かに布目中。タ ケナグ。瓦当上面ヨコナグ 凸 タケケズリーニ二方 (二方向) 三角形痕、縫合縫 隙 ヨコナグ	瓦当高 4.4 瓦当厚 3.0/2.1	瓦当面 にぶい黄橙 色 面 にぶい黄橙色 凸 灰黄色	・白色微粒大量 ・素地粒 粗	・左右下隅模文から界縁にキ ズ ・笠懸庵ノ川窓
瓦60-306 PL-35-61 0722	9NT 7047	平瓦	四 面中、糸切り底 凸 長方形格子中、3段 +2列、羽状ナグ(ヘラ)	厚 1.6/1.1 長 39.5 広 27.7 高 24.5	面 黄褐色 凸 黄褐色	・白色微粒多量 ・黒褐色微粒多量	

試験番号 年月日 登録番号	出土地	瓦種	成形 盤型	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦60-307 — 0725	GNT 7047	軽平瓦 P001	瓦当面 右側に虎紋、界溝1本。 外側縁文あり。 回 傷かに布目中 凸 テケズリナメ 凹 異形き 横口ナメ 縫い段張	瓦平厚 3.0/2.0	瓦当面 黄褐色 凹 灰褐色 凸 黄褐色	・白色微粒大量 ・均質 ・赤地粒 密	・左上部、下部の釉文傷あり ・上縁付近に虎斑か ・唐草先端、系縁は尖っている ・笠懸鹿ノ川窯
瓦60-308 — 0727	GNT 7047	軽平瓦 P001系	瓦当面 三重底 凹 リコナメ 凹 瓦当上面から平瓦に かけて面開 凸 瓦当上面タナメ 三角形張か	瓦当高 4.2 瓦平厚 2.3	瓦当面 灰白色 凹 灰白色 凸 灰白色	・白團微粒大量 ・片岩あり ・精選	
瓦60-309 — 0723	GNT 7047	軽丸瓦 S201	瓦當面 瓦當内側が反る二重花有 界溝1本。中房、屋字不明。 細い石虎紋。周縁内 側に向うナメ 瓦底返 傷かに布目、ヨコケズ 突端なし 回 布目中、タケズリ 瓦当側面 瓦見のない部分はヨコケ ズリ	瓦当厚 2.6 瓦平厚 1.9	瓦当面 にぶい褐色 瓦底 黄褐色 凹 灰褐色 凸 灰褐色	・白色微粒大量 ・均質 ・滑状	・弁先から界溝まで滑出 ・周縁内側に虎斑の面みか ・笠懸鹿ノ川窯
瓦61-310 — 0726	GNT 7047	軽平瓦 P001	瓦當面 界溝1本。珠文あり 回 布目中、タケナメ。 瓦当上ヨコナメ 凸 テケズリナメ 凹 異形き 横口ナメ 縫い段張	瓦當高 4.5 瓦平厚 2.5/1.3	瓦当面 にぶい褐色 凹 にぶい黄褐色 凸 灰褐色	・白色微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・均質	・上周側に虎斑か ・瓦当に向って全體的に下がる ・笠懸鹿ノ川窯
瓦61-311 — 0738	GNT 7047	平瓦	回 布目中。側板江底幅 2.5cm、自然被付層。 糸切り有。他の瓦の一部が 付り有。	厚 1.9/1.4	回 灰褐色 凸 灰褐色	・白團微粒大量	・乾燥時立てかけ等での歪み か
瓦61-312 — 0729	GNT 7047	丸瓦	西 布目中。側かに系切 り底。タケナメ	厚 2.3/1.1 表端径 16.8	回 にぶい緑色 凸 にぶい褐色	・白團微粒大量・深 絞多量 ・墨褐色微粒多量	・抹土巻合せ Z ・隅切り丸瓦 ・高さのない丸瓦
瓦62-313 — 0730	GNT 7047	丸瓦	圓 布目中、糸切り底。 側端上に虎斑の跡跡 凸 側端中、一方 側端を省、裏見-面缺 ヨコナメ	厚 1.6/1.1 表端径 15.5	回 黄褐色 凸 灰白色	・白團微粒多量 ・片岩あり	
瓦62-314 — 0737	GNT 7047	平瓦	回 番かに布目。 糸切り底。ヨコナメ タケナメ 凸 番目中、一方向ナメ 、二方向字状、彌平	厚 1.3/1.0	回 灰褐色 凸 灰褐色	・白色微粒大量 ・精選	回 細いへラ書型「三」 ・文字が浅く長い、表面が損 傷吸着でないため他の文字丸とは異質
瓦62-315 — 0741	GNT 7047	平瓦	回 番かに布目 凸 番目中、二方向ハ字 状(左右対称)。彌平	厚 1.5/1.3	回 黄褐色 凸 灰褐色	・白色團粒大粒 ・赤地粒 粗	・被面b回頭から
瓦62-316 — 0720	GNT 7047	平瓦	回 布目なし。回転ヨ ナメ 凸 番目中、一方向タケ 平行、糸切り底	厚 2.4/1.1	回 黄褐色 凸 黄褐色	・白色團粒大量 ・墨褐色微粒少量 ・素地粒 粗	
瓦63-317 FL-35-62 0743	GNT 7047	軽丸瓦 S201	瓦當面 先端内側が反る二重花 有。界溝1本。子安あ り。中房圓錐器あり。細い 石目地 瓦底返 ヨコナメ、突端なし。瓦 底部分内側ナメ 瓦当側面 下半分は円周ナメ 回 布目中。瓦底高から 7.0cmの軸でヨコナメ 複数回重ねてタケ ズリ	丸瓦厚 2.0/0.7 瓦底径 33.5 表端径 11.3	瓦当面 黄褐色 瓦底 黄褐色 凹 黄褐色	・白色微粒多量 ・素地粒 粗	・表端幅 0.5~1.2cm ・瓦当面直径 15.0cm ・瓦底面直径 12.0cm ・弁先から界溝まで凹脇 ・周縁部は角張る ・複数の結晶を使用したためか 丸瓦中央で接合あり ・笠懸鹿ノ川窯
瓦63-318 — 0742	GNT 7047	丸瓦	回 布目中 凸 全面自然被付着	厚 1.6/10.9	回 黄褐色 凸 黑褐色	・尖端物 大量 ・白團微粒大量	・側面中央付近から歪む

器物名 考古学的 属性	出土地	瓦種	成形 變形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦70-350 PL.37-73 0321	5-2NT 6031	平瓦	圓 布目中 凸 タテナデ	厚 2.2/1.3 長 49.5 広幅径 19.5	面 灰白色 凸 灰白色	- 白濁微粒多量 - バイ皮狀 - マーブル狀	- 菩士卷合土 S
瓦71-351 PL.37-74 0330	6-1ET SP28	平瓦	圓 布目中, 細切り底 凸 ナデで微妙に拵長	厚 2.2/1.8	圓 深黃褐色 凸 にぶい黃褐色	- 白濁微粒多量・細 粒少量 - 蒜地粒 粗	- 菩士卷合土 Z - 制限により接合面露出
瓦71-352 PL.37-75 0332	6-1ET SP28	軒丸瓦 8201	瓦直面 先端内側が削る二重直邊 五稜, 子窓あり, 界隈1 中, 中間窓1本, 雷子 1-5 瓦当面 ヨコケズリ. 突筋なし	瓦当面 2.0	瓦直面 黄灰色 瓦当面 黄灰色	- 白色微粒大量 - 蒜地粒 粗 - 均質 - 精選	- 中央直徑 3.8cm - 広幅径 0.8~1.5cm - 末端から界隈まで范圍 - 末端部の胎土は模様みでは ない - 喜根が2本に見えるのは瓦 の縫の圧延のためと解されて いる(他の個体も同じ) - 玉壁瓦ノ川窓
瓦71-353 — 0331	6-1ET SP28	平瓦	圓 滲かに布目中. 細切 り底直頭 凸 ヨコナデ. 滲かに糸 切り底	厚 1.5/1.3	圓 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	- 白濁微粒多量・細 粒微量	
瓦71-354 — 0323	6-1ET SP28	平瓦	圓 布目中. タテナデ 凸 長方形. 平行四邊形 雷子中	厚 2.2	圓 にぶい黄褐色 凸 灰黃褐色	- 白色微粒多量 - 精選 - 均質 - 蒜地粒 粗	凸 「田」ではなく格子の一 部カ
瓦71-355 — 0329	6-1ET SP28	平瓦	圓 削抜直頭6.2~2.4 cm 凸 瓦頭ヨコナデ	厚 1.6	圓 黄褐色. 一部炭素級 凸 灰白色. 一部炭素級 脊	- 白濁微粒・網粒大 量	
瓦71-356 — 0324	6-1ET SP28	丸瓦	圓 布目中, 細切り底 凸 細かに溝目中, 一方 向タテ, 脊長. ヨコナデ	厚 1.5/1.1	圓 灰色 凸 灰白色	- 白濁微粒少量 - 黑褐色微粒微量 - 均質 - 蒜地粒 粗	
瓦72-357 PL.36-76 0340	6-1WT SP30	平瓦	圓 布目中 凸 溝(木板ナナメ に). タテナデ	厚 1.6/1.2 長 40.3 広幅径 27.0	圓 灰黄色 凸 黄灰色	- 白濁微粒大量 - 黑褐色細粒少量	- 菩士卷合土 S
瓦72-358 — 0333	6-1WT SP30	軒平瓦 P001	瓦直面 右端斜削面. 界隈1本, 外区段又あり. 圓・雷子目 三角形(平瓦を抜く 所って横がね状あり)	瓦当面 4.4	瓦直面 灰黄色 瓦当面 灰黄色	- 白濁微粒多量 - 均質 - 蒜地粒 粗	- 右下范キズか界隈と珠文が つながる - 玉壁瓦ノ川窓
瓦72-359 — 0339	6-1WT SP30	軒平瓦 P008a	瓦直面 右端斜削面. 界隈2本	—	瓦直面 稼灰色 圓 稼灰色 凸 稼灰色	- 灰褐色物大粒 - 白濁微粒多量・細 粒少量・細少量	- 瓦直面上から平瓦間にかけ て1cmほど埋む
瓦72-360 — 0347	6-2ET 5047	丸瓦	圓 布目中. ヨコナデ. 糸切り底. 菩士卷合土 が側面に沿って残る 凸 ヨコナデ	厚 1.8/1.3	圓 増灰色 凸 増灰色	- 白色微粒大量 - 均質 - 蒜地粒 粗	- 菩士卷合土 SZ不明
瓦72-361 — 0346	6-2ET 5048	丸瓦	圓 布目中. 細切り底 凸 ヨコナデ	厚 1.7/1.2 長 42.5 広幅径 22.5	圓 沈灰色 凸 灰色	- 白色微粒大量 - 蒜地粒 粗	- 菩士卷合土 Z - 瓦直面から
瓦73-362 PL.36-77 0348	6-2ET 5048	丸瓦	圓 布目中. 細切り底. 凸 同上ヨコナデ(へ リ). 一部自然剥付着	厚 1.7/1.3 長 37.0 広幅径 21.2	圓 増灰色 凸 増灰色	- 灰褐色物大粒 - 白濁微粒大粒・細 粒微量・露あり	- 頭部の一部が内側に捲んで いる
瓦73-363 PL.36-78 0349	6-2ET 5047	軒丸瓦 判別不 能	瓦直面 掛縫木 圓 布目中. 繡糸の寄り が多い底面. 瓦直面から 3.0cmのところに筋状の 溝み. 便用削削跡をえ状 の底み. 菩士卷合土付着 凸 タテケズリ. 四周外 0.8cmでヨコケズリ	厚 2.8/2.2 長 43.9 広幅径 12.5	圓 黄灰色 凸 黄灰色	- 白色微粒大量 - 均質	- 四周縫 2.7~3.0cm - 瓦縫面はナデ仕上げの後で 胎土がかぶり調整していない
瓦74-364 0350	6-2ET 5048	丸瓦	圓 布目中. 細切り底. 広幅径2.0~3.0cm幅でヨ コケズリ 凸 タテナデ. 広幅部 1.0cm幅でヨコケズリ. 一部薄付着	厚 2.1/1.6 長 37.0	圓 深黃褐色 凸 にぶい黃褐色	- 白色微粒多量 - 蒜地粒 粗	- 瓦面の凹面から

品種名 登録番号	出土地	互種	成形 整型	法量 (cm)	色調	地土	備考
瓦74-365 PL 39-78 0352	6-2WT 5067	平瓦	圓 布目中 凸 滾目中、二方向への字状、渦巻	厚 2.3/1.6	圓 淡灰色 凸 淡灰色	・白色微粒大粒	
瓦74-366 PL 39-80 0343	6-2WT 5068	軒丸瓦 E203カ	瓦当面 二重丸。子窓あり。界 縁日本 瓦当底 無紋り布目。突帯不明 凸 タテケヅリ	瓦当厚 1.8	圓 淡灰色 凸 淡灰色	・白色微粒多量 ・素地粒 粗	・布目は丸瓦と連続していない。 丸瓦との接合部細い溝状に凹む ・周縁部の焼が残る ・周縁厚 3.3cm ・瓦当底から2.5cm内側に円形にヒビが連続。丸瓦接合部か。 ・
瓦75-367 PL 39-81 0372	6-2WT S11	軒平瓦 P002	瓦当面 右側行唐草。界縁日本。 外区段文なし 圓 布目中 凸 タテナナデ 凹 タテケヅリ 三角形張	瓦当高 5.2 瓦当幅 29.0	圓 暗褐色 凸 暗褐色	・白色微粒多粒	・瓦当面と田面の一部に焼付 跡、窓に化粧か ・笠懸山御室
瓦76-368 — 0367	6-2WT S11	軒丸瓦 E103	瓦当面 盤小伏作華文八葉。周縁 内円ナナデ 瓦当裏 ナナ 凸 タテケヅリ→タテナ デ	瓦当厚 2.5/1.9	瓦当面 にぶい黄褐色 瓦当裏 にぶい黄褐色	・白開微粒・細粒多 量 ・縫あり	・A-3法 ・次でから二次的被熱
瓦76-369 PL 39-82 0366	6-2WT S11	軒丸瓦 B001	瓦当面 二重丸弁五葉。子窓のある 花弁とない花弁が混 在。界縁に珠文。券と弁 を繋ぐ筋線あり。界縁 日本 瓦当裏 ナナ。渦巻なし	瓦当厚 0.8	瓦當面 淡灰色 瓦當裏 淡灰色	・黒褐色微粒・細粒 少量 ・均質 ・素地粒 粗	・A-2法 ・山王座少款。施真庭寺跡。 猪野堂Ⅰ造跡。店舗座少款など ・秋闇八重空
瓦76-370 PL 39-83 0371	6-2WT S11	軒丸瓦 E202	瓦当面 左側行唐草。周縁ナ デ。中腹圓筒なし。蓋子 中央に圓柱径1.4cm 瓦当裏 無紋り布目。突帯あり。 突帯に沿って内円ナナ デ。	瓦当厚 2.0	瓦當面 細密横筋 瓦當裏 斜基部を除いて吸収吸着	・白開微粒・細粒大 量	・瓦当面削丸味をもつ ・瓦当面側内側の窪みが范 の跡か ・周縁部が均厚 ・高崎市吉井町長坂下高原 (古瓦研%)3)
瓦76-371 — 0368	6-2WT S11	軒平瓦 P002	瓦当面 右側行唐草。界縁日本。 外区段文なし 曲原張	瓦当高 6.1	瓦当面 黄褐色 にぶい黄褐色 瓦当裏 暗褐色	・白色微粒多量 ・黒褐色細粒少量 ・均質	・笠懸山御室
瓦76-372 PL 39-84 0373	6-2WT S11	有筋式 丸瓦	圓 布目中。糸切り直 凸 回転ヨコナナデ	金長37.9 丸瓦厚 2.5/1.7 丸瓦幅 30.6 瓦当面径 17.0 丸瓦底径 16.0 瓦底厚 1.7/1.3 玉筋長 7.8 玉筋径 12.2	圓 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白色微粒大量	C2a
瓦77-373 — 0374	6-2WT S11	平瓦	圓 布目中。糸切り直 凸 滾目中、二方向タテ 巻筋、渦巻	厚 2.1/1.7 瓦当幅 25.7	圓 黄灰 凸 黄灰	・墨褐色微粒・細粒 大量 ・灰白台給土粒あり ・均質 ・素地粒 粗	・長さ2.0cm大差が田面から 田面まで露出し焼きはぜにな る・焼付帶
瓦77-374 — 0375	6-2WT S11	平瓦	圓 布目中。糸切り直 凸 滾目中、渦巻をナナ 消し。タテナナ	厚 2.2/1.8 瓦当幅 25.0	圓 にぶい黄褐色 凸 淡黄→淡灰色	・白開微粒・細粒多 量	
瓦77-375 — 0379	6-2WT S11	平瓦	圓 布目中。端付若 凸 滾目中。ナナ消し。 タテナナ。端付若	厚 2.0/1.4	圓 淡灰色 凸 淡灰色	・白開微粒・細粒多 量 ・素地粒 粗	
瓦78-376 PL 39-85 0381	6-2WT S12	軒丸瓦 P001	瓦当面 右側行唐草。界縁日本。 外区段文あり。 圓 布目中、一方向ヨ コ、渦巻。突帯。ナナ 筋線ナナナナナナナ 凹・渦巻張	瓦当高 4.7 平瓦厚 2.9/1.3 長 40.3	圓 暗褐色 凸 にぶい褐色 瓦当面 暗褐色	・白色微粒主とした よう	・瓦当面に筋線 ・笠懸瓦ノ川瀬
瓦78-377 0010	2T 5N68	軒平瓦 P001	瓦当面 右側行唐草。界縁日本。 外区段文あり。 圓 布目中 凸 タテケヅリ→タテナ デ 三角形張	瓦当高 5.3	圓 灰色 凸 灰色 瓦當面 灰色	・白色微粒微量 ・6mm程あり ・素地粒 疊	・瓦当面間隙深く疊む ・笠懸瓦ノ川瀬

器物名 写真番号 実測番号	出土地	瓦種	成形 型形	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦78-378 — 0014	2T SN68	平瓦	四 凸 布目なし。糸切り版 米字印き。タテナデ	厚 2.2/2.0	面 凸 橙色 橙色	・白系微粒多量 ・黒褐色微粒多量	・米字印きは一片のみ
瓦78-379 — 0009	2T SN90	平瓦	四 凸 布目中 横かに網目。タテナ デ	厚 2.1/1.2	面 凸 灰白色 灰白色	夾雜物大量 ・白系微粒微量・面 多量 ・黒褐色微粒多量 ・層状	
瓦78-380 PL 40-66 0015	2T SN68	軒丸瓦 A106	瓦表面 二重花弁四葉。素窓な し。界線1本。中房頭縫1 本。蓮子不明 瓦当裏 無設り布目。美帶不明	瓦当厚 2.2	瓦当面 黄灰色 瓦當裏 灰灰色	・白系微粒多量 ・灰白色粘土質状	
瓦78-381 — 0017	2T SN78	平瓦	四 凸 布目直 ナデ	厚 1.9/1.4	面 凸 褐灰色 褐褐色	夾雜物大量 ・白系微粒大量・面 微量	凸 ハラ書き型不明文字
瓦78-382 — 0020	2T SN68	軒丸瓦 B207a	瓦表面 細い溝線。中位が膨らむ 二重花弁五葉。素窓あ り。界線1本。中房頭縫1 本。蓮子14。周縫内凹 ナデ 瓦当裏 瓦土合わせ目。無設り布 目。低い脊部	瓦当厚 2.3	瓦当面 灰白色 瓦當裏 灰白色	夾雜物大量 ・白系微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・白色粘土質状	・中房頭縫 2.5cm ・周縫幅 1.6~1.8cm ・界線幅 11.2cm ・周縫幅 18.8cm ・周縫内凹12.9cm ・瓦当裏面下半が膨らむ(木 壁の反響か)
瓦78-383 — 0024	2T SN90 表土	軒平瓦 P3系カ	瓦表面 雨れ砂。界線1本 三角形網目	瓦当直存高 2.6	瓦表面 灰白色 瓦當裏 灰白色	・扇形微粒多量 ・崩地粒 粗 ・均質	・瓦当上部剥離か ・張付色空洞
瓦78-384 — 0022	2T SN89	平瓦	四 凸 布目中 凸 文、タテナデ	厚 2.3/2.1	面 凸 褐灰色 灰黃褐色	・白系微粒多量 ・灰白色粘土質状	凸 ハラ書き型不明文字
瓦78-385 PL 40-67 0027	2T SN60 表土	軒丸瓦 B201	瓦表面 先端内側が膨る二重 花弁。素窓あり。界線1 本 瓦当裏 ケズリーナデ。突筋不明	瓦当厚 3.3	瓦表面 灰色 瓦當裏 灰色	・白色微粒大量 ・層状 ・均質	・生垣鹿ノ川窓
瓦78-386 — 0004	IT 5007	平瓦	四 凸 僅かに布目中。タテ ナデ 中開、異民。X字状	厚 1.4/1.2	面 凸 炭素焼着 炭素焼着	・白色微粒まぶした よう ・崩地粒 粗 ・均質	四 指押さえ有
瓦78-387 — 0006	IT 5027	平瓦	四 凸 布目中 凸 文	厚 1.9/1.7	面 凸 にふい黄褐色 灰黄色	・白系微粒大量・細 粒多量 ・バ皮状 ・色の異なる粘土質 状	凸 ハラ書き型不明文字
瓦78-388 — 0002	IT 5016 表土	平瓦	四 凸 布目なし。ヨコナデ ひし形格子中。ナデ 方向不明。系張り痕	厚 1.7	面 凸 褐灰色 灰黃褐色	・白色微粒多量 ・崩地粒 粗 ・均質	凸 格子一体型「匂」(左文 字) ・十三三宝。住コレ ・地蔵跡出土なし
瓦78-389 — 0003	IT 5025 表土	丸瓦	四 凸 布目中 凸 横かにあ切り痕。ヨ コナデ。墨書き	厚 2.1	面 凸 炭素焼着 にふい黄褐色	・白系微粒多量 ・赤褐色微粒少量	凸 墓型不明文字
瓦80-390 — 0389	7-1T 61.73	軒丸瓦 B201	瓦表面 二重花弁。界線1本。周 縫一定方向にケズリ 瓦當裏 突筋なし	瓦当厚(内区)2.4	瓦表面 灰黄色 瓦當裏 灰灰色	・白色微粒まぶした よう ・黒褐色微粒多量 ・崩地粒 粗	・參考から界縫まで泥脂 ・生垣鹿ノ川窓
瓦80-391 — 0390	7-1T 61.63	丸瓦	四 凸 布目中。糸切り版 ヨコナデタテナデ	厚 1.9/1.7	面 凸 灰白色 泥灰色	・白色微粒大量・細 粒多量 ・褐色微粒少量	・粘土巻合せ S
瓦80-392 — 0391	7-2T 7L72	平瓦	四 凸 布目中。糸切り版 凸 タテナデ。糸切り版	厚 1.9	面 凸 灰黃褐色 泥灰色	・白色微粒大量 ・均質 ・崩地粒 粗	凸 格子一体型「匂」A類(左 文字) ・完點山脚處
瓦80-393 — 0392	7-2T 7L62	平瓦	四 凸 布目中 凸 ナデ方向不明	厚 2.6/2.4	面 凸 灰褐色 灰褐色	夾雜物多量 ・白系微粒大量・細 粒多量・小確あり	凸 ハラ書き型「大」カ
瓦80-394 — 0395	7-2T 7L72	平瓦	四 凸 布目中 凸 ナデ方向不明	厚 2.1	面 凸 灰褐色 灰褐色	夾雜物大量 ・白系微粒大量・細 粒多量・粗あり	凸 ハラ書き型「大」

遺物番号 平成年号 発見場所	出土地	瓦種	成形 並び	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦80-395 PL-40-88 0383	7-2T 7L62 教土	軒丸瓦 新 8007	瓦当面 外側が直立する片垂形 の平唇花弁か。中房縁線 1本。透子不明 瓦唇部に凹字、突帯なし 瓦当裏面 ナデ	瓦当厚 1.7 / 1.3	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰黄色	・黒褐色微粒微量 ・素地粒 粗 ・均質 ・粗造	・瓦当表面とも指彌正が無い 圓凸あり
瓦80-396 — 0386	7-3T 7L70	平瓦	面 布目中 凸 微かに圓目中、一方 向タテ、圓溝。ナデ方向 不明	厚 2.7 / 0.8	面 暗灰色 凸 にぶい黄褐色	夾雜物大粒 ・白褐微粒・細粒多 量 ・1.0cm大粒あり ・素地粒 粗	・粘土巻合せ Z
瓦80-397 — 0404	7-3T 7L70	丸瓦	面 布目中 凸 タテナデ	厚 1.1 / 0.7	面 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白褐微粒少量 ・黒褐色微粒微量 ・灰白色粘土状	凸 ヘラ書き型(卦書き) ・側部よりも中央よりが細め て薄い
瓦81-398 — 0406	7-3T 7L69	丸瓦	面 布目中。 系切り痕 凸 ヨコ、ナナメナデ	厚 1.7 / 1.6	面 灰色 凸 黄褐色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	・粘土巻合せ Z ・板面が凸面から
瓦81-399 — 0407	7-3T 7L69	丸瓦	面 布目中。 各切り痕 凸 面がに圓目中。 調長 卷を脚絞ヨコナデで消す	厚 1.8 / 1.2	面 浅黄褐色 凸 淡黄褐色	・褐色微粒少量、細 粒粒 ・白色粘土粒含む ・均質 ・粗造 ・素地粒 粗	
瓦81-400 — 0435	7-3T 7L69	軒丸瓦 8105	正面面 先端の丸い二重花弁。予 定あり。界縁1本。中房 圓縁なし。透子不明。井 理縫合。瓦唇部 無凹り者目	瓦当厚 1.8	瓦当面 灰色 瓦唇部 灰色	・白褐微粒多量 ・灰白色粘土マーブル状	・周縁部を面取り後にナデ
瓦81-401 — 0415	7-3T 7L80	丸瓦	面 布目中 凸 長方形格子小、一方 向、ナデ密着	厚 2.1	面 暗灰色 凸 暗褐色後着	・白褐微粒大粒・細 粒多量 ・灰白色粘土箱状 ・凹凸面に纏あり	・凸面に接し接あり
瓦81-402 PL-40-89 0414	7-3T 7L59	平瓦	面 低かに布目中。タテ 凸 圓目中、一方向タテ 密着。調長ナデ消す。 ヨコナデ、低かに切妻の形 目(ボウ)痕あり	厚 2.2 / 1.7 長 39.4 高 宽端径 24.7	面 崩落後着 凸 崩落後着	・白褐微粒多量 ・白色微粒多量	
瓦82-403 — 0420	7-3T 7L70	軒丸瓦 8103	瓦当面 腰爪状葉文八葉。界縁 1本。中房圓縁1本。透子 あり。瓦當部 ヨコナデ。結合部内周ナ デ。透子不明 面 布目中。各切り痕 凸 タテケズリ	瓦当厚 1.9 / 1.4	瓦当面 にぶい褐色 瓦唇部 灰黃褐色 面 灰黃褐色 凸 灰黃褐色	・白褐微粒多量・細 粒少量・深少量(瓦表 面に露出) ・素地粒 粗	・弁区が盛り上る ・A技法
瓦82-404 PL-40-90 0430	7-3T 7L70	平瓦	面 布目中。 ナデ、各切り痕。長軸方向 に凹字痕か所にあり。側 板正方形。 凸 長方形格子小、糸切 り痕。布目(ボウ)あり	厚 1.4 / 1.1	面 暗褐色 凸 にぶい褐色	・白色微粒大粒 ・暗褐色微粒少量 ・均質 ・素地粒 粗	
瓦82-405 — 0429	7-3T 7L59	平瓦	面 低かに布目中。ヨコ ナデ、ヘラ状工具?痕あ り 凸 瓦唇圓形格子中、 糸切り痕。成形時に粘土 を足している	厚 2.2 / 1.6	面 暗褐黃褐色 凸 始伏黃褐色	・白色微粒まぶした よう ・素地粒 粗	
瓦83-406 — 0435	7-3T 7L70	丸瓦	面 布目中。各切り痕 凸 ヨコナデ	厚 2.0 / 1.2	面 灰黃褐色 凸 灰黃褐色	・白色微粒まぶした よう ・均質	・広端部寄りが肥厚
瓦83-407 — 0419	7-3T 7L69	平瓦	面 布目中。側板压痕幅 2.8cm程かに渡る 凸 各切り痕	厚 1.7 / 1.1	面 灰白色 凸 黄褐色	・白褐微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・素地粒 粗	・Na408と同一個体か
瓦83-408 — 0413	7-3WT 7L69	平瓦	面 布目中。側板压痕幅 1.3cm 凸 タテナデ。糸切り痕	厚 1.6 / 1.1	面 灰黃褐色 凸 暗灰色	・白褐微粒多量 ・黒褐色微粒多量 ・素地粒 粗	・Na407と同一個体か

器皿名 年次及 分類等	出土地 場所等	真形	成形 部形	法量 (cm)	色調	粘土	備考
瓦83-409 — 0432	7-3WT 7L80	軒平瓦 P002	瓦当面 右端行唐紙。界線1本。 外区旗文あり 凹 ティネイナタナデ △ 三角形張	瓦当高 5.0	凹 黄褐色 凸 灰黄色	夾雜物少量 ・白色微粒微量 ・均質 ・精選	・左の界線から周縁に向けて 瓦キズ ・笠山山頂
瓦84-410 — 0823	10-ST 11020	有段式 丸瓦	圓 布目中、律承の寄り 上合わせをナデ。粘 凸 圓目中、一方向タテ 平行、開長。回転ヨコナ デ	厚 1.9 玉経長 5.0	凹 にぶい黃褐色 凸 灰黄色	夾雜物多量 ・白色微粒多量 ・滑堆粒 稀	・C2a ・粘土巻合せ S
瓦84-411 — 0833	10-ST 11020	丸瓦	圓 布目中。粘土巻合せ 時に布を含む 凸 回転ヨコナデ	厚 1.6	凹 漆黑色 凸 灰色	・白色微粒まぶした よう ・滑堆粒 稀 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ SZ不明 ・表面b側面から
瓦84-412 — 0829	10-ST 11020	平瓦	圓 布目中。綫ハゼあり 凸 し心形格子中	厚 2.0/1.6	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒まぶした よう ・滑堆粒 稀	
瓦84-413 PL 40-91 0831	10-ST 11020	丸瓦	圓 布目中。広幅脚垂自 が見れる 凸 回転ヨコナデ	厚 2.5/1.7	凹 黄褐色 凸 灰褐色	・白色微粒多量 ・黑褐色微粒少量 ・滑堆粒 稀	・壁面a側面から ・分量特に二度刃ものを入れ たためか側面が二段になる (底→) ・底面凸側に把厚し細部を削 取り
瓦84-414 — 0837	10-ST 11001	有段式 丸瓦	圓 布目中。玉縁寄り縫 糸の寄りが大きい。裏 面に糸切り板 凸 隆起な圓目中、無 縫。回転ヨコナデ	丸瓦厚 1.9/1.3 玉経長 8.3	凹 漆灰色 凸 漆灰色	・白潤微粒多枚 ・白色微粒多枚 ・黑褐色微粒少量 ・片岩あり ・均質	・C2a ・粘土巻合せ S
瓦85-415 PL 40-92 1377	10-ST 10010	軒平瓦 P002	瓦當面 右端行唐紙。界線1本。 外区旗文あり △ 三角形張 凹 両目なし。タテケズ リ→瓦底上部ヨコケズリ △ タケズリ。傾回辺 ヨコナデ	瓦厚 2.4/2.1	瓦垂面 漆灰色 凹 漆灰色 凸 漆灰色	・白色微粒多枚 ・灰白粘土構状、粒 狀	・笠山山脚窯
瓦85-416 — 0779	10-IT 10008 — 10-IT 10007	丸瓦	圓 布目中。布目前2重 平行目条、一方向 ナナメ	厚 2.4/2.0	凹 灰色 凸 漆灰色	・白潤微粒多枚 ・灰白粘土構狀	
瓦85-417 — 0780	10-IT 10006	丸瓦	圓 布目中 凸 回転ヨコナデ	厚 1.5/1.2	凹 黄色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・滑堆粒 稀 ・均質 ・肩狀	・粗作り
瓦85-418 PL 40-93 0782	10-IT 10006	軒平瓦 P101	瓦當面 草草仕罟と支窓を備 界線1本。建文なし 圓 布目なし。瓦當上面 む。ヨコナデ 曲線頭 凹 ヨコナデ	瓦当高 3.4	瓦垂面 灰色 凹 にぶい黃褐色 凸 灰色	・白潤微粒大量	・瓦面に薄く(0.5cm)粘土を つめて製作か
瓦85-419 — 0815	10-IT 10008	平瓦	圓 布目なし。回転ヨコ ナデ 凸 ヨコナデ→タテナデ	厚 1.7/1.4	凹 灰白色 凸 灰白色	・白潤微粒多量 ・肩狀	・泥乳盤籠技法 ・底面にH字形の溝状溝み
瓦85-420 — 0816	10-IT 10018	軒平瓦 P001	瓦當面 樂文。異端なし。左か ら2形目3形目 △ 三角形張	瓦當高 4.1	瓦垂面 灰黃褐色 凹 灰黃褐色 凸 漆灰色	・白色微粒大量 ・滑堆粒 稀 ・均質	・四面剥離面に糸切り痕があ り粘土を貼り合せたことがわ かる ・笠山山脚窯または岡野谷古 窯跡
瓦85-421 — 0814	10-IT 10019 — 10-IT 10009	平瓦	圓 布目中。側面正直縫 2.6cm。裏面に糸切り痕 2.6cm。側面に開口部。 一方 向タテ花芯、開長。ヨコ ナデ	厚 1.7/1.4 長 37.3 鉛錠径 19.8	凹 漆灰色 凸 漆灰色	・白潤微粒大量・兩 面に瘤突 ・片岩あり	

測量番号 古墳名 古墳番号	出土地	直標	成形 基形	法量 (cm)	色調	地土	備考
Ⅲ86-422 — 0844	10-7T 10N69	平瓦	圓 布目中。徑かに斜切 り底 凸 長方形格子中。徑か に斜切り底	厚 1.6	圓 底深吸着 凸 底深吸着	・白色微粒多量 ・黑色粘土質 ・赤褐色粘土少量 ・泥地鉄 粗 ・層状	
Ⅲ86-423 — 0820	10-4T 10N39	平瓦	圓 径かに布目中。ティ ネイタクダナデ 凸 一方斜タケ平行、捲 長、相間压痕多枚	厚 2.2/1.8	圓 黄灰色 凸 黄灰色	・白色微粒大粒 ・赤褐色 ・泥地鉄 粗	
Ⅲ86-424 — 0843	10-7T 10N60	丸瓦	圓 有目密、側面部分削 用鉛鉋込み 凸 径かに縦目中、一方 斜タケ短、捲長。ヨコナ デ	厚 1.7/1.4	圓 淡白色 凸 淡白色	・黒褐色微粒大量 ・素地鉄 粗 ・均質 ・結晶	
Ⅲ86-425 PL 40-94 0619	10-4T 10N48	軒丸瓦 F001	瓦当面 三角形花弁九瓣。外区 域に斜切。子瓣1本。中 間瓣1本、子瓣1-4 瓦當裏 ナデ布目なし。丸瓦との 接合部へべら子ナデ。突筋 なし	瓦当厚 1.7	瓦當面 黄褐色 瓦當裏 灰色	・黒褐色微粒大量 ・素地鉄 粗	・中頂直径 4.2cm ・周縁幅 5mm ・A枝法 ・山王座守跡。住谷西毛 ・秋間澤
Ⅲ87-426 — 0787	10-2T 10N19	軒丸瓦 M002	瓦当面 鳥紋と蓮瓣文七瓣。中房 圓錐なし。蓮子1個。分 間に文字。 周縁内眞ナデ 瓦當裏 ナデ布目なし。丸瓦との 接合部へべら子ナデ。突筋 なし	瓦当厚 2.1/1.7	瓦當面 黄褐色 瓦當裏 灰色 凸 灰白色	・黒褐色微粒大粒 ・赤褐色粘土粒 ・素地鉄 粗	・弁先から端縁まで滑落あり ・A枝法 ・秋間澤
Ⅲ87-427 — 0793	10-2T S11	軒丸瓦 A106	瓦当面 二重輪車四瓣。子瓣な し。 界線1本。周縁内眞ナデ 中房圓錐1本、蓮 子1-4 瓦當裏 ナデ布目。突筋あり 下子ナデヨコナデ、上半分 タケナデ 凸 タケナデ	接合部厚 16.5	瓦當面 底深吸着 瓦當裏 底深吸着 凸 底深吸着	・白圓微粒大粒 ・赤褐色粘土粒 ・素地鉄 密	・瓦当面直径 17.0cm ・界縁直径 11.2cm ・中房直径 3.8~4.1cm ・周縁幅 2.5~2.8cm ・全体に凹凸アレあり ・弁は丸いをもつ ・突筋鋭く細い
Ⅲ87-428 — 0791	10-2T S11	平瓦	圓 布目なし。ヨコナデ 凸 タケナデ=ヨコナデ	厚 1.5/1.3	圓 灰色 凸 灰色	・白色微粒大粒 ・黒褐色微粒多量 ・灰白色粘土マーブ ル状	・混条盛施技法
Ⅲ87-429 — 0792	10-2T S11	丸瓦	圓 布目中 凸 蓮鈴ヨコナデ(ヘラ)	厚 2.0/1.6	圓 淡褐色 凸 淡褐色	・白色微粒大粒 ・素地鉄 粗 ・均質	
Ⅲ87-430 — 0795	10-2T S11	平瓦	圓 布目中 凸 漢文	厚 2.0/1.7	圓 淡褐色 凸 淡褐色	・白圓微粒大量、細 粒多量 ・都アリ ・灰白色粘土粒状 ・ノバ皮状	凸 ヘラ書き型「人」
Ⅲ87-431 — 0794	10-2T S11	平瓦	圓 布目中。タテナデ。 金切切痕 凸 長方形格子中。魚切 り底	厚 2.1/1.8	圓 黄褐色 凸 黄褐色	・白色微粒大量 ・素地鉄 粗 ・均質 ・滑次	
Ⅲ88-432 PL 40-95 0787	10-2T S11	平瓦	圓 布目中。頭面近くヨ コナデと捺押印。斜切り 底 凸 縦目密、一方向タケ 所看、捲長押圧か。隠れ 砂	厚 2.6/2.3	圓 灰白色 凸 灰白色	・黒褐色微粒大粒 ・灰白色粘土粒間に 入る ・素地鉄 密	
Ⅲ88-433 — 0798	10-2T S12	平瓦	圓 亂かに布目中。圓紙 ヨコナデ	厚 1.3/1.2	圓 淡褐色 凸 淡褐色	・白色微粒大量 ・均質 ・滑次 ・素地鉄 密	
Ⅲ88-434 — 0804	10-2T SD1	丸瓦	圓 布目中。赤切り痕 凸 滑次に跳目痕。回転 ヨコナデ	厚 2.3/2.1	圓 にぶ~黄褐色 凸 にぶ~黄褐色 側面淡褐色	・灰褐色大粒 ・白圓微粒大量 ・灰白色粘土マーブ ル状 ・ノバ皮状	
Ⅲ88-435 — 0802	10-2T SD1	平瓦	圓 布目中 凸 方形格子中。糸切 り底	厚 1.3	圓 黄褐色 凸 黄褐色	・白色微粒大量 ・素地鉄 密 ・均質	・屈曲が大きい

器物名 考古学的 分類等	出土地	瓦種	成形 部位	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦88-436 — 0601	10-2T SD1	平瓦	面 微かに布目中。 タナデ 凸 長方形格子中。微か に余切り底	厚 3.0	面 増灰黄色 凸 增灰黄色	・白色微粒大量 ・素地板 粗 ・均質	
瓦88-437 — 0799	10-2T SD1	丸瓦	面 布目中。余切り底 色 淡かに褐色斑、一方 向タグ、施瓦。コヨナデ	厚 1.5	面 灰色 凸 灰色	・白面微粒多量 ・黑色微粒大量 ・素地板 細	
瓦88-438 — 0786	10-2T 10N6 — 10-2T 10N18 表土	平瓦	面 布目中。タナデ。 余切り底 凸 平打四邊形格子中。 タナデ。余切り底	厚 1.5 / 1.3	面 増灰黄色 凸 增灰黄色	・白色微粒大量 ・均質	
瓦89-439 — 0788	10-3T 10N7B	平瓦	面 僅かに布目中。ヨコ ナデ 凸 余切り底	厚 1.3	面 灰黄色 凸 灰黄色	・白色微粒大量 ・素地板 細 ・接縫	
瓦89-440 — 0789	10-3T 10N7B	平瓦	面 布目中。タナデ。 面から割り落した粘土 に有目痕あり 凸 ヨコナデ	厚 1.7 / 1.6	面 灰色 凸 灰色	灰粒物大量 ・白色微粒大量・細 粒多量・深あり	
瓦89-441 — 1084	12T 10P90	丸瓦	面 布目中 底で押疊か。ヨコナ デ	厚 1.2	面 にぶい黄褐色 凸 棕色	・白面微粒大量 ・同質粘土層状 ・素地板 粗	
瓦89-442 — 1083	12T 10P100	丸瓦	面 布目密 凸 微かに側面あり。折 転ヨコナデ	厚 3.0 / 2.3	面 にぶい黄褐色 凸 增灰褐色	・白面微粒微量 ・赤褐色微粒微量 ・灰白色土粒あり ・黒褐色粘土尾を引 く ・素地物 粗	
瓦89-443 — 0195	3T 8093	軽平瓦 NIS系	面 タナデ 凸 領縫合部ナメ→ヨ コナデ	瓦当高 3.5	面 灰色 凸 灰色	・白面微粒多量・細 粒・小端微粒・粗 あり	
瓦89-444 — 0201	3T 8093	平瓦	面 布目中 凸 タナデ	厚 1.3	面 にぶい黄褐色 凸 增灰褐色	灰粒物わずか ・白面微粒微量 ・素地板 細	面 ヘラ書き型「中」
瓦89-445 — 0199	3T 8093	軽丸瓦 8101	瓦表面 二重花弁。長い子葉あり。 界縫1本。塵らみの ない先縫りの花弁。 斜縫 底、中間縫1本。裏 子口14枚 瓦裏裏 外から約2.0cmほど中心 部分が約1mm低い。この 部分は無縫り布目が2重 になる。	瓦当厚 1.8	瓦当面 瓦黃褐色 瓦當裏 黃褐色	・白色微粒多量	・逆張山東窯
瓦89-446 — 0204	3T 8093	平瓦	面 布目なし。タナデ。 連続したヒビ押さえ の跡 凸 ヨコナデ	厚 1.9 / 1.6	面 增灰褐色 凸 增灰褐色	・白面微粒少量 ・1.5cm幅あり	・泥条壓接技法
瓦89-447 — 0203	3T 8093	丸瓦	面 布目中 凸 平打四邊形。ナナメ 一部交差か	厚 2.6 / 2.3	面 灰褐色 凸 黑褐色	・白色微粒微量 ・白面微粒・細粒・ 小端微粒	・回のみ灰付着
瓦90-448 — 0207	3T 8093	軽丸瓦 8105	瓦表面 先縫の丸い二重花弁。太 い子葉あり。界縫1本。 瓦裏ナデ 瓦裏側面 瓦裏裏 無縫り布目。実接なし	瓦当厚 2.2 / 2.1	瓦当面 灰色 瓦當裏 灰色	・白面微粒大量 ・白色微粒多量 ・深あり ・層次	
瓦90-449 — 0673	3T 7059	平瓦	面 布目なし。ヨコナデ —タナデ 凸 雜目中。二方向文字 狀、縫長か	厚 1.5 / 1.2	面 増灰褐色 凸 增灰褐色	・白色微粒まぶした よう ・均質	面 ヘラ書き型「二」
瓦90-450 — 0215	3T 8093	軽丸瓦 刺別不 規	瓦表面 界縫1本。中筋・子葉不 規 瓦裏裏 無縫り布目。実接あり	瓦当厚 1.8	瓦当面 灰色 瓦當裏 灰色	・白色微粒多量 ・黑色微粒細少量 ・層狀 ・素地板 粗	・界縫から周縁にかけて范傷 ・芯弁先端界縫に付く ・圓錐底から1.5cm幅で円錐 方向ケリ

登録号 実物番号	出土地	瓦種	成形 跡部	法量 (cm)	色調	胎土	備考
瓦90-451 — 0674	3T 8051	平瓦	凹 布目中 凸 長方形格子	厚 1.5	凹 灰色 凸 灰色	・白色微粒多量 ・均質 ・精選	凸 格子一体型「窪田」 ・文字部范傷（窪と田が焼が る） ・笠懸山脚露
瓦90-452 — 0681	3T 8053	平瓦	凹 布目密 凸 綾目密、一方尚タ チ、密着。隠れ砂	厚 1.7	凹 灰色 凸 灰色	・表面微粒・細粒多 量 ・灰白色粘土粒あり ・素地粒 粗 ・均質	
瓦90-453 — 0805	3T 7069	平瓦	凹 布目中 凸 平行四辺形格子中 タチナデ	厚 2.0／1.9	凹 暗灰黄色 凸 暗灰黄色	・白色微粒多量 ・均質 ・素地粒 密	
瓦90-454 — 0208	3T 8056	軒丸瓦 B002	瓦当面 鳥居前 落葉文七集。 弁間 に朱点。 瓦当裏 ナゲ。 密着なし 瓦当側面 接せ	瓦当厚 2.1／1.8	瓦当面 灰白色 瓦当裏 灰白色	・黒褐色微粒多量・ 細粒少數 ・均質 ・素地粒 粗	・瓦当側面に沿縁から0.6cm のところに沿神のあたり疵か ・A-2技法 ・状況室
瓦90-455 — 0684	3T 7068	軒丸瓦 B201	正当面 二端内側が反る花弁二重 子葉入り。系附1本。加 い石目造。周縁内側ナ ガ縫外 タチナデ 正當裏 ナゲ。 密着なし 瓦当側面 接せ	瓦当厚 2.4／2.0	瓦当面 暗灰色 瓦当裏 暗灰色 凹 灰白色	・白色微粒まぶした よう ・精選	・周縁幅 1.5～1.8cm ・周縁部角張る ・笠懸庵 川原
瓦91-456 — 0807	3T 8051	平瓦	凹 布目中。 未切り底 凸 ヨコナデ。系附り底	厚 1.2	凹 灰白色 凸 灰白色	・白面微粒多量 ・素地粒 稀 ・均質 ・精選	
瓦91-457 — 0809	3T 8052	平瓦	凹 布目中。 微に糸切 り底 凸 綾目密、一方尚タ チ、密着。タチナデ	厚 2.7／2.0	凹 にじみ黄褐色 凸 一部灰褐色	・白面微粒多量・稀 あり ・片岩あり	
瓦91-458 PL-41-96 0810	3T 7070	軒丸瓦 B102b	瓦当面 二端花弁。 子葉あり中房 圓筒1本。運子14。弁間 に竹管状珠文 瓦当裏 一端ナゲ消し無段なり布 目。周縁部ナメに凹凸 ケメリ。密着無不明	瓦当厚 1.4／1.3	瓦当面 にじみ黄褐色 瓦当裏 暗灰色	・白色微粒少量 ・層状	・中房直径 4.0cm ・弁区の中位を強く押したた めか弁先端が削れる ・上植木原中房 ・笠懸山原室
瓦91-459 — 0808	3T 8051	丸瓦	凹 布目中 凸 圓筒ヨコナデ	厚 1.7／1.5	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・白色微粒多量 ・素地粒 稀 ・均質 ・精選	
瓦91-460 — 0885	3T 7099 表土	軒丸瓦 B205カ 表土	瓦当面 瓦当裏 五葉か。子葉あ り。界線1本 瓦当裏 無段り布目。密着不明瞭	瓦当厚 2.2	瓦当面 暗灰色 瓦当裏 暗灰色	・白面微粒多量 ・白色微粒多量 ・灰白色粘土マーブ ル状 ・均質	・周縁部は丸みを持って外に 広がる ・No20と胎土、弁形が似る
瓦91-461 — 0677	3T 7099 表土	軒丸瓦 E202	瓦当面 隠れ花弁 瓦当裏 布目無紋り	瓦当厚 2.0	瓦当面 浅黃褐色 瓦当裏 浅黃褐色	・白面微粒多量・細 粒少量 ・層状	・周縁幅 7mm ・周縁部は丸みを持って外に 広がる
瓦91-462 PL-41-97 0679	3T 7099 表土	軒平瓦 P004	瓦当面 右端行磨草。界線2本 凹 布目中 凸 被かな緑目直跡 隠れ付ヨコナデ 微傾	瓦当高 4.5	瓦当面 にじみ黄褐色 凹 灰白色 凸 灰褐色	・白面微粒多量	凸 ヘラ書き型「馬」カ ・右界線は直れにより消失 ・頬は胎土貼付け ・頬近辺に赤色塗彩 ・一部剥れ口に二次的焼付有 ・朝向室山2号空

地番号 年月日 管理番号	出土地	瓦種	成形 箇所	法量 (cm)	色調	施土	備考
瓦92-463 PL_41-98 1085	4T 8059 8102カ 表土	軒丸瓦 B103	瓦当面 二重花弁五葉。子葉あり。 界線1本。中房頭縫1本。底子1+4。范筋。周縁内周ナギ。一部画歌入り。范律の瓦底。肩は角張る。瓦表面無模り右目。突帯なし	瓦当中央厚 1.2	瓦当面 にぶい黄褐色 瓦當裏 褐灰色	・白色微粒多量 ・赤褐色 ・均質 ・精選	・瓦当直徑 19.1cm ・界線径 13.5cm ・底筋直徑 3.8cm ・周縁幅 1.3~2.7cm ・子葉の高さが選より高い ・瓦当裏 下半の突帯を削り落したのが2.5cm幅で円周方向ケツメイ ・S102.2と思われるが本品には突帯がない ・笠巻山隠窓
瓦92-464 PL_41-99 0847	11-1ET 8020	軒丸瓦 B103	瓦当面 二重花弁五葉。子葉あり。 界線1本。中房頭縫1本。底子1+4。 瓦当裏 無模り右目中。突帯あり。 側かに赤切り底 凸 平行条目太、丸瓦ナメ方向、瓦当頭部ナメ及びヨコ方向。抜筋部は交差して中房頭縫1本の筋幅及び底子1+4の筋幅はナデで見える。ダテ方向に筋がある	瓦当厚 1.7~/1.2 瓦当裏 2.0~/1.2 底筋幅 35.0 底筋間隔 15.4 底筋間隔 12.8	瓦当面 にぶい黄褐色 瓦當裏 にぶい黄褐色 底筋 にぶい黄褐色 凸 にぶい黄褐色	・白微粒少量 ・瓦の表面灰白色點状	・粘土巣合 Z ・周縫幅 0.7~1.2cm ・瓦当直徑14.0cm ・界線径 10.5cm ・底筋直徑 4.0cm ・英帶幅 1.1~2.0cm ・丸瓦筋のほか瓦当裏ナメ方向に平行条目を有する ・瓦当裏上部が押されて丸瓦側に入る ・吉瓦研63 ・山王庵寺跡(この項目は以下で説明) ・中房が瓦当面に比して小さい
瓦93-465 PL_41-100 0857	11-1ET 8010 11-1ET 8020	平瓦	面 僅かに布目中。微かに赤切り底。粘土合せ目をニビナデで消す。 凸 僅かに赤切り底、一方向ナメ底筋、側瓦、タチナデ	厚 2.2~/1.8 底 38.8	凹 灰白色 凸 にぶい黄褐色	・白色微粒大量 ・赤褐色 ・均質	・粘土巣合 Z
瓦93-466 — 0858	11-1ET 8020	平瓦	面 布目中。僅かに赤切り底。粘土合せ目をニビナデで消す。 凸 僅かに赤切り底、一方向ナメ底筋、側瓦、タチナデ	厚 2.8~/1.3 底 41.5	凹 灰白色 凸 灰白色	・白微粒大量 ・均質 ・肩筋	・広場に向けて窓くなる
瓦94-467 PL_41-101 0860	11-1ET 8020	平瓦	面 布目中。タチナデ赤切り底。金剛自然積付 凸 タチナデ、赤面及び底筋から約1.2cm自然積付	厚 3.6~/2.6 底 43.5	凹 灰褐色 凸 褐灰色	・黒褐色微粒大量 ・灰白色粘土マーブル状	・4,510g ・赤褐色成時の燃焼底か、 底筋を下にして焼成か
瓦94-468 0862	11-1ET 8020	平瓦	面 布目中。僅かに赤切り底。布引揚げ緋筋底か 凸 タチナデ。別瓦の布 —一部粘土	厚 2.5~/1.9	凹 灰褐色 凸 褐灰色	・夾雜物大粒 ・白微粒大量 ・墨褐色微粒多量 ・片岩あり ・灰白色粘土結狀 ・ハイ皮状	凸 ハラ書き型「平」
瓦95-469 0863	11-1ET 8020	丸瓦	面 布目中。僅かに赤切り底。石ハゼ 凸 タチナデ。石ハゼ	厚 2.3~/2.0	凹 墨褐色 凸 褐灰色	・夾雜物大粒 ・白微粒大量 ・墨褐色微粒多量 ・片岩あり ・灰白色粘土結狀 ・ハイ皮状	凸 ハラ書き型「山」
瓦95-470 — 0870	11-1ET 8020	平瓦	面 布目中。赤切り底 凸 タチナデ	厚 1.3~/1.0	凹 灰褐色 凸 灰褐色	・墨褐色微粒大量 ・墨褐色 ・精選	・調切り瓦カ
瓦95-471 0884	11-1ET 8020	丸瓦	面 布目中。赤切り底 凸 タチナデ	厚 3.6~/2.3 底 39.8	凹 褐灰色 凸 褐灰色	・夾雜物大粒 ・白微粒大量 ・細 ・均質 ・灰白色粘土結狀 ・高達粒 ・粗	凸 ハラ書き型「井」 ・粘土巣合 S
瓦95-472 — 0885	11-1ET 8020	丸瓦	面 布目中。赤切り底 凸 タチナデ	厚 3.8~/2.9	凹 灰褐色 凸 灰褐色 側面 側面に墨褐色 粘土が底を引く	・夾雜物大粒 ・白微粒大量 ・灰白色粘土結狀 ・片岩あり ・ハイ皮状 ・両面に穂が露出	凸 削開型「口に當」 ・粘土巣合 S
瓦95-473 PL_42-102 0886	11-1ET 8020	平瓦	面 なし。ヨコナデ — タチナデ 凸 その他の他子中2。叩き3段~2段で2例	厚 3.8~/3.3 底 41.6 底筋幅 24.0	凹 灰褐色 凸 灰褐色	・白色微粒多量 ・均質 ・精選	凸 「田」ではなく格子の一部 ・粘土巣合 Z ・6,750g

試験番号 実験番号 実験用番号	出土地	直種	断面 形状	法量 (cm)	色調	粘土	備考
瓦97-474 — 0867	11-IET 8020	丸瓦	凹 布目中。タテナデ 凸 平行条目組、広焰端 ヨコ方向二ヨコナ。側面 面に平行条目模様が頭部 はナデで消え。底切り 底	厚 3.0/1.9 長 41.5 幅 21.2	凹 灰色 凸 灰色	・白褐色粒大量 ・黒褐色微粒少量 ・素地粒 灰	・5,405g
瓦97-475 — 0936	11-IET 8020	軒平瓦 Z008か	瓦当面 平坦 段階 凸 布目中	瓦当高 3.9	瓦当面 灰褐色 瓦当裏 淡褐色 間にひび赤褐色 凸 灰褐色	・白褐色粒多粒 ・灰白色粘土粒状 ・パイ皮状	
瓦97-476 — 0874	11-IET 8020	平瓦	凹 布目中。木葉状正直 あり 凸 ヨコナデ。微かに糸 切り底	厚 2.6/1.1 長 20.4	凹 灰黃褐色 凸 灰黃褐色	・白褐色粒大量・細 粒少粒 ・パイ皮状	・側面の茎状疣あり
瓦99-477 — 0875	11-IET 8020	平瓦	凹 布目中 凸 平行条目一ナデ	厚 2.1/1.3 長 38.4 広焰端 24.3	凹 にびい黄褐色 凸 灰白色	・白褐色粒大量 ・灰白色、褐灰色粘 土粒状	
瓦99-478 FL-42-103 0876	11-IET 8020	平瓦	凹 布目中。強いニビナ デ模様あり 凸 微かに側面、一方向 タテ密着、長焰。ヨコナ データテナデ	厚 3.0/1.8 長 42.0	凹 にびい橙色。海 底色 凸 褐灰色	・灰褐色粒大量 ・白褐色粒大量 ・灰白色粘土マーブ ル状	
瓦99-479 FL-43-104 0882	11-IET 8020	平瓦	凹 布目中 凸 平行条目、一方向タテ 密着、長焰。押鉢(ロー ラー)か。離れ砂	厚 2.2/1.8 長 38.8 広焰端 29.4 狭焰端 26.2	凹 灰白色 凸 淡褐色	・赤褐色粒多量 ・品田色粒少粒 ・灰白色粘土粒 ・精選 ・均質	・凸面斜端際に側目T字状 ・3,965g
瓦99-480 FL-43-105 0907	11-IET 8020	丸瓦	凹 布目組 凸 平行条目。縦叩きの 跡が左側面は直立、中 央寄りは左下斜、右側面 則は左上斜。タテナデ	厚 2.1/1.8 長 16.0	凹 にびい黄褐色 凸 にびい黄褐色	・白褐色粒大量	
瓦100-481 — 0881	11-IET 8020	平瓦	凹 布目面 凸 平行条目、一方向タテ 密着、長焰。押鉢(ロー ラー)か。離れ砂	厚 2.0/1.8 長 27.4	凹 灰白色 凸 にびい黄褐色	・黒褐色微粒大量 ・灰白色粘土断面及 び側面に網状 ・均質 ・精選 ・溶出粒 粗	・凸面斜端際に側目T字状
瓦100-482 — 0909	11-IET 8020	丸瓦	凹 布目中。糸切り底 凸 平行条目。ナナメ向 一方向に瘤もね打 ち。底面に糸切り痕	厚 2.7/2.2	凹 灰黃褐色 凸 淡黃褐色 側面 黑褐色、灰白色 粘土を引く	・灰褐色粒大粒 ・白褐色粒大量・細 粒多量 ・灰白色粘土マーブ ル状	
瓦100-483 — 0913	11-IET 8020	丸瓦	凹 布目中。ナナメナデ 凸 薄文。ヨコナデ	厚 2.7/2.3 長 32.7	凹 黑褐色 凸 淡褐色	・白色粒大量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・長さの短い丸瓦
瓦101-484 FL-43-106 0908	11-IET 8020	丸瓦	凹 布目中。袋締め。布 袋上げ粗粒 凸 織紋ヨコナデ	厚 1.9/1.1 長 35.8 広焰端 22.7	凹 細密接着 凸 細密接着	・白色粒少量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・筋凸面二次的突付着
瓦101-485 — 0918	11-IET 8020	丸瓦	凹 布目中。糸切り底 凸 織紋ヨコナデ(ヘラ)	厚 2.1/1.0 長 19.9	凹 淡褐色 凸 灰黃褐色	・白色粒少量 ・素地粒 粗 ・均質 ・精選	・粘土巻合せ Z ・底面は凸面から
瓦102-486 — 0919	11-IET 8020	丸瓦	凹 布目中 凸 長方形折子中、全面 底ね打ち一帯ヨコナ デ。側面に対し弓なりに 打つ	厚 2.2/2.0 長 40.9 広焰端 40.9	凹 にびい黄褐色 凸 灰白色	・白褐色粒大量 ・灰白色粘土粒	・粘土巻合せ S
瓦102-487 — 0915	11-IET 8020	丸瓦	凹 布目中。自然捲付骨 凸 タテナデ。自然捲付 着	厚 2.4/1.6 長 39.7	凹 暗灰色 凸 淡褐色	・黒褐色微粒大量 ・白褐色微粒多量	・粘土巻合せ Z ・広焰端右側部斜めに切落 し右側部内側に歪む
瓦103-488 — 0822	11-IET 8020	軒丸瓦 a108	瓦当面 一筋单脊四乳。子孫あ り。界隈本。中房園鏡2 本。寛享14 正直裏 ナデ。丸瓦後合部ティ本 イナナデ。突張なし ナデ。布目中 凸 布目中、長焰—タテ ケズリ	瓦当厚 1.9/1.6 瓦裏厚 2.2/1.3	瓦当面 灰黃褐色 瓦裏面 淡褐色 間にひび 凸 淡褐色	・黒褐色微粒多量 ・赤褐色微粒多量 ・雪が灰白色粘土 ・精選 ・均質 ・精選	・A系抜法 花井は御い抜法 ・瓦当はほぼ二等辺三角形 ・瓦当厚 1.9 cm, 5.0 cm ・T字の側面 ・底に土をつめたときのつ ざれが見える ・瓦当芯墨。沿キズあり ・同法、界隈と同じ太さ(3 mm) ・開分寸縁辺

器物名 部品名 部品番号	出土地	直種	成形 整形	測量 (cm)	色調	胎土	備考	
瓦103-489 — 0924	II-ET 8020	平瓦	回 布目中 凸 微かに糸切り痕→タ チナダ	厚 1.6/1.4	回 灰黄褐色 凸 灰褐色	・白陶微粒大量 ・素地粗 粗	凸 ヘラ書き型「十」	
瓦103-490 — 0929	II-ET 8020	丸瓦	回 布目中。微かに糸切 り痕。自然釉付着 凸 自然釉付着	厚 2.7/1.9	回 灰色 凸 灰褐色	夾雜物多量 ・白陶微粒大量 ・灰白色粘土斑状 ・マーブル状	凸 底隠 ヘラ書き型記号	
瓦104-491 — 0925	II-ET 8020	平瓦	回 布目中 凸 文書。チテナダ	厚 2.7/2.4	回 灰黄褐色 凸 灰褐色	夾雜物多量 ・白陶微粒大量・銀 粒多量 ・灰白色粘土バイ皮 状	凸 ヘラ書き型「子友」	
瓦104-492 — 0927	II-ET 8020	平瓦	回 布目中。糸切り痕 凸 チテナダ。微かに糸 切り痕	厚 2.0/1.1	回 淡青吸着 凸 淡青吸着	・白陶微粒多量 ・灰白色粘土斑状 ・マーブル皮状 ・素地粗 粗	回 ヘラ書き型「子」 ・#493と胎土、文字が似る	
瓦104-493 PL 44-107 0928	II-ET 8020	平瓦	回 布目中。糸切り痕 凸 チテナダ	厚 1.6/1.4 長 42.3	回 ぶい桜色 凸 オーバーパロ色	夾雜物多量 ・白陶微粒大量 ・灰白色粘土斑状 ・マーブル皮状 ・素地粗 粗	回 ヘラ書き型「子子」 ・#492と胎土、文字が似る	
瓦104-494 — 0941	II-ET 8020	軒平瓦 新 P002	瓦当面 軒側文 段頭	瓦当面 による二重の 瓦當 范による二重の 瓦當	—	瓦当面 ぶい桜色 瓦當裏 灰褐色	夾雜物多量 ・白陶微粒微量 ・赤褐色微粒微量 ・灰白色粘土斑状 ・均質	・泥芯暗紅。住コレ
瓦105-495 PL 44-108 0930	II-ET 8020	軒丸瓦 B103	瓦表面 二重瓦舟各2個。子雀あ り。中附圓錐1本、露子 14+、表鉢1本 瓦裏裏 突起あり 凸 平行条目縫、瓦当周 縫に平行、瓦当側面に斜 め	瓦当面 1.6/1.2	瓦当面 ぶい桜色 瓦當裏 ぶい桜色	・墨褐色微粒・細粒 少 ・灰白色と抛光色沾 上が瓦面 ・瓦当面に灰白色沾 土粒あり	・瓦当面直徑 15.2cm ・界線直徑 10.4cm ・中附直徑 2.3cm ・露子直徑 2.2cm ・瓦当裏中央膨らむ。丸真横 合部に窓が入る ・瓦当と丸瓦接合部にスキ間 あり	
瓦105-496 PL 44-109 0931	II-ET 8020	軒平瓦 P010	瓦当面 右側行唐草だが一部逆向 き。界線2本 船と瓦の付根ヨコナダ 回 帽目中 段頭と三角形頭の中間形	瓦当面 2.1/2.0	瓦当面 灰白色 凸 灰白色 凸 灰白色	・墨褐色微粒大量 ・白陶微粒多量 ・灰白色粘土斑状	・途中で范が割れたか、文様 面の高さが異なる ・軒部點付け	
瓦105-497 — 0932	II-ET 8020	丸瓦	回 布目中。胎土縫合部 奥を引上げ根 中央に分岐床底か 凸 チテナダ。一部自然 釉付着	厚 1.8/1.5 高 床底 19.2	回 増淡色 凸 増淡色	・白色微粒多量 ・素地粗 粗 ・均質 ・粗造	・絞作り、模倣作り ・胎土合せ S2不明	
瓦106-498 PL 44-110 0933	II-ET 8020 瓦壠	丸瓦	回 布目中。糸切り痕 凸 文書。チテナダ	厚 2.3/1.5 長 42.6	回 灰黄褐色 凸 灰黄褐色	・白陶微粒多量 ・灰褐色微粒多量 ・素地粗 粗	・途中で范が割れたか、文様 面の高さが異なる ・軒部點付け	
瓦106-499 — 0934	II-ET 8020	丸瓦	回 チテナダ。凹はあ るがイニシャルで結 合部接合部を留す 凸 ヨコナダ→チテナダ	厚 1.9/1.3 長 37.2	回 灰色 凸 灰褐色	・白陶微粒大量 ・黒褐色微粒多量 ・素地粗 粗	・泥条壓接法 ・広幅中心部にV字状の溝 ・表面兩面とも肩に丸味はない	
瓦107-500 PL 44-111 0937	II-ET 8020	軒平瓦 P002	瓦表面 右側行唐草。界線1本。 外区窓文小さなもの1個 回 ヨコナダ 三角形頭 回 布目中。糸切り痕。 胎土合せ口。瓦当面上 ヨコナダ 凸 長方形格子中。タグ ナダ	瓦当面 5.3 平瓦裏 3.2/2.6 高 滲径 29.1	瓦当面 灰色 回 灰色 凸 灰色	・白陶微粒大量 ・墨褐色微粒多量 ・均質 ・素地粗 粗	・頭赤色透影 ・瓦当裏溝は胎土を貼り足 したの小修理が散れる ・笠懸山原窯	
瓦107-501 PL 45-112 0923	II-ET 8020	平瓦	回 布目中。糸切り痕 凸 ヨコナダ→部チテナ ダ。印き3段×2列。羽状	厚 1.8/0.9 長 41.7	回 灰黄褐色 凸 灰褐色	・白色微粒多量 ・1cmを越える角縦複 数あり	凸 梵字一体型不明文字 ・胎土合せ S ・石ハゼ ・紀のない遡化した落子が 文字を覆んでいる。 ・元紀主蓋海(116)	

地番 年月日 取扱い 管理番号	出土地	瓦種	成形 整形	法量 (cm)	色調	地土	備考
瓦108-502 — 1386	II-1ET BN100	平瓦	面 布目中。側板直底 (不明瞭) 凸、側板に開口部中、一方 向きタテ垂若、高長。ヨコ ナダ	厚 2.2./1.9	面 にふい黄褐色。 一部灰青色 凸 にふい青褐色 一部灰青色 底面、外方に底部 周辺5.5cmは灰青板 若せず	・白面微粒多様・緑 微粒 ・1.8cm大徑あり ・素地位 粗 ・均質	
瓦108-503 — 1388	II-1ET BN100	丸瓦	面 斜面直 凸 ヨコナダ	厚 1.7./1.5	面 灰黄色 凸 灰黄色	微小尖端物大量 ・白面微粒大量 ・白色微粒少量 ・素地位 粗	
瓦108-504 — 1388	II-1ET BN100	軒平瓦 P001	瓦当面 右側面行草葉。界線1本。 外区側面。縫い右目 底面、内側面 ヨコナダ 瓦当上面ヨコナダ 物端上部ヨコナダ	—	面 黄灰色 凸 黄灰色	・墨褐色微粒多量 ・白色微粒大量 ・均質 ・精選	・右下隅と右から2番目の株 文は界線と側面つながる ・墨赤色塗形 ・一回二次的な灰付着 ・笠懸瓦ノ川窓
瓦108-505 — 0950	II-1WT 9001	有段式 丸瓦	面 布目中、底付直 凸 侧板に開口部中、一方 向きタテ垂若、高長。ヨコ ナダ	丸瓦厚 2.8./1.7 丸瓦底付端径 19.3 玉頭長 8.1	面 素面吸着 凸 素面吸着	尖端物大粒 ・白面微粒多量 ・墨褐色微粒多量 ・2.9cm徑あり	C2a
瓦108-506 — 0956	II-1WT 9N81	軒丸瓦 判別不 能	瓦当面 二段階定形。子面ナダ 縫1本。界線なし。 瓦当裏 布目なし。ヨコナダ。丸 瓦接合部凹ヨコナダ	瓦當厚 3.7	瓦当面 にふい褐色 瓦當裏 灰褐色	・墨褐色微粒多量 ・白面微粒多量 ・均質	・黄緑幅 1.0~1.5cm
瓦108-507 — 0960	II-1WT 9N81	平瓦	面 ヨコナダ—タテナダ 凸 楊子ヘラ擦	厚 2.5./2.2	面 灰青吸着 凸 灰青吸着	・白色微粒多量 ・帶地粒 粗 ・均質	
瓦108-508 — 1003	II-1WT 9001 地盤内	丸瓦	面 布目直。底付に余切 り底 凸 微かに開長—ヨコナ ダ。自然剥離物	厚 1.5./1.4	面 灰色 凸 灰色	・白面微粒多粒 ・灰白色粘土マーブル状	・端部寄り重む
瓦108-509 PL-45-113 1388	II-1ET PL-45-113 BN20 表土	軒平瓦 P003	瓦当面 波水紋 底付直 布目中。瓦当上面ヨ コナダ 凸 底付と付根部分平瓦 ヨコナダ	瓦当高 3.2 平瓦厚 1.9	瓦当面 灰色 凹 灰色 凸 オリーブ黒色	・白面微粒多量 ・底付に灰白色粘土 構造	・削、平瓦表面塗形 ・瓦当面の高さが低いため底 の上部は切れている
瓦108-510 PL-45-114 1403	B-1ST 7W10 表土	丸瓦 新	表面 曲線的に立ち上がる。周 縁(幅1.5cm高さ0.6cm)の 内側に竹管状突文。ティ ネーなどナダ 裏面 布目上の上をナダ 側面 直線的ではなく下半分が 内側に入れる。ナダ。	高 3.7	表面 灰青吸着 裏面 灰青吸着	・墨褐色微粒少粒 ・赤褐色微粒微量 ・底付に灰白色粘土 構造 ・断面に粘土貼り合 せ(重ね)底	
瓦108-511 PL-45-115 0959	II-1WT 9N81	丸瓦 新	表面 型を川字げ手作り。周縁 の内側に高さ0.6cm以上 (伴う底付内側から2.5cm 以上)の強密な一部 を造る。底付部ヨコナダ 裏面 底付直接合底 凸 平滑な上げはなく指觸 頂の込みと陸土接合底を 残してヨコナダ	周縁高 4.5	表面 棕色 裏面 棕色	微粒尖端物大量 ・白面微粒大量 ・均質 ・素地位 粗	
瓦108-512 — 1169	I3-1T 7029 表土	丸瓦 新	表面 幅1.6cmの凹縁。その内 側に斜面で区画された非 対称。底付部側面で 斜面、底付、底付は1.5cm 以上。周縁側面に余切 り底 裏面 布目中。余切り底。平坦 側面 周縁に小さな丸み。中 位の内側へめりに入る。 底面縁を幅0.6cmで面 取り	厚 3.3	表面 黄褐色 裏面 黄灰色	尖端物大量 ・白面微粒大量・細 粒多量 ・灰白色粘土構造 ・片岩	・帶C類に似るが、C類は株 文基部をへら書きしている点 が異なる

測量号 可測査号 空査査号	出土地	直径	成形 施形	法量 (cm)	色調	触土	備考
瓦109-513 PL-45-116 1170	13-IT 7029 表土	丸瓦	側面内側に珠文帯。珠文 径2.0cm。基部周邊をナ デ。裏面 布目中 側面 高さ3.7cm。ヨコナダ	表面 周縁幅1.0、高さ0.8 厚 2.5	表面 裏面 痕跡吸着 裏面 痕跡吸着	・黒褐色粒多量 ・白褐色微粒多量 ・均質 ・精選性 植	
瓦109-514 PL-45-117 1120	13-IT 7029 表土	丸瓦 ASR	珠文帯の幅は2.7cm。珠 文は直径1.5cm高さ0.4 cm。周縁はティエイナ デ。正面による 痕跡 裏面 布目中。側面に赤茶り 紙。高さ0.8cmで面取 り方にケズリ 側面 裏面 去面帶では直立するケ ズリ。裏面内側に向って斜 めケズリ	表面 周縁幅は頂部寄り広 <(2.5cm)肩から細く 厚 3.1	表面 裏面 裏面 裏面	火拂物大量 ・白褐色微粒大量・細 粒多量、1.2cm大の塊 あり ・いくつかの粘土塊 を使用したためか側 面の部位によって 異なるが、灰白色粘 土がマーブル状、バ ンド状となる部分あ り	・尾寺和田で中門跡と想定さ れた7トレンチ出土ヒ同
瓦109-515 — 1171	13-IT 7029 表土	丸瓦 新	表面 珠帶の側面底底あり。ナデ 裏面 木水平ではなく途中から小 さく斜めに上がる。ナデ	厚 2.8/2.6	表面 裏面 痕跡吸着 裏面 痕跡吸着	・黒褐色粒多量 ・白褐色微粒少 ・灰白色粘土層状	
瓦109-516 — 1042	11-27 9N21 表土	丸瓦 新	表面 近く均曲した凸面(底)か ら周縁(底)まで直線的に 穿孔。裏の目か、穿孔径 は表面が薄側より大きい 漏斗状 裏面 底かに布目中。ナデ	厚 2.1/1.9	表面 裏面 裏面 裏面	・白色微粒多量 ・均質 ・精選 ・素地粒 植	
瓦110-517 — 0777	8ST 7037 表土	丸瓦 新	表面 裏面まで焼成済直径 1.5cmの打火穴を穿孔す る。ナデ 裏面 裏面に布目中。ナデ	厚 4.3	表面 裏面 裏面 裏面	微火拂物大量 ・白褐色微粒大粒 ・灰白色粘土層状 ・層状	・御藏地北邊垣内側
瓦110-518 PL-45-118 0526	8-3NT 7M53	不明 瓦製品	片面が削離しているため 残存部を上面とする 上部 タテナデ。幅約0~3.0cm の帶状の凹み52個あ り。側面際も底となって 側面に縦く 側面に曲がり、下面に向 つて斜めに入る 下面 側面と思われるが面は平 坦	厚 2.5/2.3	表面 裏面 裏面 裏面	・白褐色粒多量 ・白褐色微粒少 ・素地粒 密 ・均質 ・精選	
瓦110-519 — 0694	3T 8091	瓦製品	残存面ナデ調整。焼成後 円形に穿孔	残存部 厚 1.6	残存部 灰色 側面 淡黄色	火拂物 植 ・白色微粒少 ・均質	・刻印により片面のみ残存
瓦111-520 PL-45-119 0304	5-2NT 5028	瓦製品 (鳥 盒)	裏面 布目中 側面 ヨコナデ	残存 厚 3.3	裏面 裏面 裏面 裏面	・白褐色微粒少 ・黒褐色微粒少 ・均質	・側面の側面に於て裏面の 方向は斜め ・円形側面と右目のある裏面 の一部のみ残存
瓦111-521 — 1178	13-IT 7038 表土	圓戸瓦	裏面 布目中 凸 タテケズリ	厚 2.8cm	裏面 裏面 裏面 裏面	・白褐色微粒多量・細 粒少 ・黒褐色微粒・細 粒少 ・素地粒 植 ・均質 ・層状	・焼成後に成形
瓦111-522 PL-45-120 1172	13-IT 7029 表土	瓦磧	裏面 平滑なナデ。ヘラ状工具 を使用か。 裏面 底かに布目中。ナデ。底 かに赤茶り紙。平坦だが 表面に比べると重い仕上 げ。粘土合せ目との危険が 残る。 裏面 ナデ調整。粗い仕上げで 凹面を残す	厚 4.7/4.5	表面 裏面 裏面 裏面	火拂物大量 ・白褐色微粒大 ・細粒多量	・型外に粘土を詰めて成形し たため裏面際は斜めに粘土 の流れがはっきりしている

回収号 写真番号 登録番号	出土地	瓦種	観 察
瓦112-523 PL 46-121 1004	11-1WT 9H74	瓦塔 初期輪 部	二重基壇、方三間の造り 初層軸部の板片2片からなり、A片は基壇・柱・壁、B片は二層目受け部・柱・壁が残っている。A・B片の胎土・焼成・縮形の状況から同一個体と認められる。復元にあたっては東村山瓦塔(下註)を基に復元した。 高さ30.1cm、上基壇 長さ21.6cm、高さ1.4cm(奥)、下基壇 長さ23.6cm、高さ0.9cm(奥)。柱間 5.5cm(奥)×6.9cm(入口)×6.5cm(壁)。軸ずり 0.4cm×0.5cmの隅丸長方形、深さ0.5cm。壁厚さ 0.8~1.2cm 色調 裏面 にぶい橙色、表面 にぶい橙色 胎土 白色微粒多量・細粒少量、白褐微粒多量、黒褐色微粒少量、赤褐色微粒少量 A片 入口脇に幅0.8cm、厚さ0.6cmの角柱を貼り付ける。基壇の後ろに底面から壁を貼り付ける。内壁は底面から2.5cmまでヨコケズリ、ナデを施し、それより上はヨコナダニとユビ押さえ。 B片 二層軸受け下に斗供の剥離板あり。上面から下3.5cmまでヨコヘラケズリ、ナデを施し、それより下はタテナデとユビ押さえ。 A・B片に共通 円柱に近づいた側の内壁は強く押された跡があり、壁と一緒に作られた円柱のところで他方の壁を接合する。柱・基礎正面に赤色塗形、外壁に白色塗形を施す。 註『瓦塔調査報告書』東京都東村山市教育委員会 1997
瓦113-524 — 0032	2T 5H80 表土	瓦塔 屋蓋	墨蓋 半截竹管状工具により丸瓦のみ表現。丸瓦は上幅0.67cm、下幅0.79cm、高さ0.48cmで組目は1筋で、上段より下段が低くなる。 軒裏 底木は一軒。断面逆台形で上幅1.14cm、下幅1.34cm、高さ0.48cm。垂木は切り出しと思われるが明確な切り出しが見られない。軒先は先端から内側に向って斜めに下る。 色調 裏面 にぶい橙色、表面 にぶい橙色 胎土 微粒火燒物を多量に含む。白褐微粒微量、白色微粒微量、赤褐色微粒微量、黒褐色微粒微量、小繊あり、素地粒粗
瓦113-525 — 0118	3T 6P36 表土	瓦塔 屋蓋	墨蓋 半截竹管状工具により丸瓦のみ表現。丸瓦頂部やや平坦。上幅0.66cm、下幅0.86cm、高さ0.4cm。丸瓦組目は不明。 軒裏 剥離のため底木は不明。 色調 裏蓋 炭素吸着、軒裏 にぶい橙色 胎土 白褐微粒微量、赤褐色微粒微量、黒褐色微粒微量
瓦113-526 — 0695	3T 8P91 表土	瓦塔 輪部の 柱カ	法壇 厚1.5cm。柱部 幅1.5cm、厚0.6cm 色調 表面 橙色、裏面 橙色 胎土 白褐微粒多量、黒褐色微粒多量、赤褐色微粒多量、素地粒粗 備考 柱部(凸部)點付け後、裏面をヘラケズリ。柱の一部としたが、斗供の可能性もある。
瓦113-527 PL 47-122 0693	3T 7058	瓦塔 屋蓋	墨蓋 半截竹管状工具により丸瓦と隅丸椎を表現。平瓦は無し。丸瓦は長さ2.0~2.8cm、高さ0.4cm、下幅1.1cmの半円形で組目は4筋。並びの筋目はやや不規則で、特に段目から下の丸瓦は左方(隅降様)側に向いている。隅降様は下幅約2.9cm、高さ0.6cmだが、途中を高く削ることで2か所の突出部を持つ。椎見様を表したものか。天井は屋根側を幅約1.5cmで斜めに削り、内面は平坦だが中心孔は不明。 軒裏 削り出した底木が一軒と貼付けと思われる底木がある。底木は軒先から1.8cm内側に切り出し用目印があり、そこから上幅1.5cm、下幅1.7cm、高さ0.3cmの底木が軒先と同じく切り出し用目印に沿って削り出されている。底木の削離は椎木とほぼ同じ1.8cmで、碌椎木。底木は断面台形で軒先に向って幅が太くなる。軒裏は天井に向って緩い傾斜。 色調 軒裏 にぶい黄橙色、屋蓋表 にぶい黄橙色 胎土 白色微粒多量、白褐微粒少量、赤褐色微粒微量、均質、素地粒粗

土器類							( ):復元値、[ ]:残存値
No	出土場所	器種	法長(cm)	①既存 ②色調 ③船上、焼成の特徴	成・整形技法の特徴		※出土レベルは豊穴建物跡床面からの高さ
1	IT	土師器 杯	口径 11.0 底径 - 器高 [3.6]	①1/5残 ②橙色 ③船上、焼成の特徴	外面 体部削り、口縁部横擴で。 内面 体部丸削りで、口縁部横擴で、/体部と口縁部を画す接線から口縁部に向けて外傾気味に立ち上がる。		5O-16
2	IT	須恵器 蓋	口径 13.3 縫み 3.1 器高 2.4	①2/3残 ②灰白色 ③	外面 天井部削り、体部輪郭形、口縁部横擴で。 内面 天井部から口縁部輪郭形、/水平な天井部から縫やかに滴出する口縁部に至り、つづみ出した短い返りが付く。		5O-14
3	IT	須恵器 杯	口径 - 底径 - 器高 [3.6]	①口縁部破片 ②にぶい褐色 ③酸化焰焼成	外面 体部輪郭形、口縁部横擴で。 内面 体部輪郭形、口縁部横擴で。 墨書き(文字不明)。		5N-96
4	2T	須恵器 椀	口径 9.8 底径 5.1 器高 3.2	①光形 ②橙色 ③酸化焰焼成	外面 体部輪郭形後削で調整、口縁部横擴で、底部回転系切り。 内面 体部輪郭形、口縁部横擴で。 小型で体部が直線的で外反。		5N-88
5	3T (679)	土師器 杯	口径 (14.5) 底径 - 器高 [3.4]	①1/6残 ②橙色 ③	外面 体部削り、口縁部横擴で。 内面 体部削りで、口縁部横擴で。 内溝する体部から外反気味の口縁部に至る。		8P-3
6	3T (679)	土師器 杯	口径 14.3 底径 3.6	①3/4残 ②褐色 ③	外面 底部から体部削り、口縁部横擴で。 内面 底部から体部削りで、口縁部横擴で。/体部と口縁部を画す接線から外傾気味に立上がる。		-
7	3T (679)	須恵器 碗	口径 (12.0) 底径 (5.3) 器高 [3.6]	①1/2残 ②にぶい褐色 ③酸化焰焼成	外面 体部輪郭形後削で、口縁部横擴で。底部回転系切り。 内面 底部から体部輪郭形後削で、口縁部横擴で。 底部径小さく、体部が直線的に外反。内面に付着。		8O-93
8	3T (679)	須恵器 碗	口径 (15.6) 底径 (5.5) 器高 [5.5]	①1/4残 ②灰色 ③	外面 体部輪郭形、口縁部横擴で、底部回転系切り。 内面 底部から体部輪郭形、口縁部横擴で。 直線的な体部で、断面台形の低い高台を付す。		8P-71
9	3T (679)	須恵器 碗	口径 (16.55) 底径 (6.7) 器高 [4.6]	①1/4残 ②暗灰色 ③浦し焼成 ④	外面 体部輪郭形、口縁部横擴で、底部回転系切り。 内面 底部から体部輪郭形、口縁部横擴で。/体部値かなえみを持って大きく外反する。断面台形の低い高台を付す。		8P-21
10	4T	須恵器 蓋	口径 - 底径 - 器高 [2.6]	①体部破片摘み仰欠損 ②灰色 ③	外面 天井部輪郭形。 内面 天井部輪郭形。/深い浅い線的な体部から一旦下方に曲がり括れる口縁部による。大型。		8P-40
11	4T	須恵器 杯	口径 13.7 底径 7.1 器高 3.4	①3/4残 ②灰白色 ③	外面 体部輪郭形、口縁部横擴で、底部回転系切り。 内面 底部から体部輪郭形、口縁部横擴で。 体部中位に膨らみを持ち、口縁部が反り気味に開く。		8P-78
12	4T	灰釉陶器 皿	口径 - 底径 (7.7) 器高 [1.4]	①底部破片 ②灰白色 ③	外面 輪轂形、底部に回転旋削で調整。 内面 輪轂形。		9P-21
13	4T	灰釉陶器 皿	口径 - 底径 (8.1) 器高 [1.3]	①底部破片 ②灰白色 ③	外面 体部削り、底部に回転旋削で調整。 内面 輪轂形。 崩れた三日月状の高台を付す。内面に重ね施脂痕あり。		9P-42
14	4T	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 - 器高 [18.5]	①口縁部～胴部破片 ②にぶい褐色 ③	外面 胸部削り、口縁部横擴で。 内面 胸部削り、口縁部横擴で。 胸部に膨らみがなく、口縁部外反。		9P-61
15	5-1T	土師器 杯	口径 (11.2) 底径 - 器高 [3.1]	①1/3残 ②橙色 ③	外面 底部から体部削り、口縁部横擴で。 内面 底部から体部削りで、口縁部横擴で。 底部から体部後削で、口縁部直立。		6Q-32
16	5-1T	土師器 杯	口径 (11.0) 底径 - 器高 [2.9]	①口縁部～体部破片 ②橙色 ③	外面 底部から体部削り、口縁部横擴で。 内面 底部から体部削りで、口縁部横擴で。 体部と口縁部を削る接線を付す。		6Q-32
17	5-1T	須恵器 杯	口径 8.45 底径 4.5 器高 2.55	①光形 ②灰白色 ③	外面 体部輪郭形後削で調整、口縁部横擴で、底部回転系切り。 内面 底部から体部輪郭形、口縁部横擴で。/小折れ。内側に膨らみ紅付色。底部厚く、切削。		6Q-22
18	5-1T	土師器 杯	口径 (12.0) 底径 - 器高 [3.3]	①1/5残 ②橙色 ③	外面 底部から体部削り、口縁部横擴で。 内面 底部から体部削りで、口縁部横擴で。 底部から体部後削で、口縁部直立。		6Q-22
19	5-1T	須恵器 碗	口径 (12.4) 底径 4.9 器高 [4.6]	①2/3残 ②灰白色 ③	外面 体部輪郭形、口縁部横擴で、底部回転系切り。 内面 底部から体部輪郭形、口縁部横擴で。 平底。直線的な深い体部で口縁部外斜。		6Q-22
20	5-1T	須恵器 碗	口径 (14.0) 底径 6.1 器高 [5.6]	①2/3残 ②にぶい黄褐色 ③小石を多く含む。 ④	外面 体部輪郭形、口縁部横擴で、底部回転系切り。 内面 底部から体部輪郭形、口縁部横擴で。/僅かな膨らみを持つ深い体部で口縁部外斜。内面底部に重ね焼き痕あり。		6Q-22
21	5-1T	須恵器 碗	口径 - 底径 - 器高 [2.1]	①底部のみ残高台部欠損 ②にぶい黄褐色 ③	外面 体部輪郭形、底部回転系切り後削調整。 内面 底部から体部輪郭形。		6Q-62
22	5-1T	土師器 杯	口径 (13.2) 底径 (8.0) 器高 [2.9]	①1/4残 ②にぶい褐色 ③	外面 体部削り、口縁部横擴で。 内面 底部から体部削りで、口縁部横擴で。/平底の底部から体部下位に膨らみを持ち、口縁部横擴で、横擴で。		5Q-28
23	5-2T	須恵器 杯	口径 9.8 底径 4.6 器高 2.1	①光形 ②浅黄褐色 ③酸化焰焼成 ④	外面 体部輪郭形、口縁部横擴で、底部回転系切り。 内面 底部から体部輪郭形、口縁部横擴で。 上げ底。底部突出気味、体部陥く厚みがあり外反。		28.7cm

## 土器類

( ):復元値、( ):現存値

No	出土場所	器種	法量(cm)	①現存 ②色調 ③胎土、施成の特徴	成・兼形技法の特徴	出土位置 出土レベル
24	5-2T	須恵器 杯	口径 (9.0) 底径 4.2 器高 [1.6]	①1/3残 ②浅黄橙色	外面 体部輪健整形、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形、口縁部横擴で。 平底。体部浅く継ぎやかに外反。	34.6cm
25	5-2T	須恵器 杯	口径 (8.6) 底径 4.2 器高 [1.7]	①2/3残 ②橙色 ③酸化焰焼成	外面 体部輪健整形、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形、口縁部横擴で、平底。底部突出 気味、体部浅く直状、下位は水平で線縫を持ち外反。	35.6cm
26	5-2T	須恵器 盖	口径 - 横み 4.1 器高 [2.2]	①摘み部～体部破片 ②灰白色	外面 摘みボンクラ状、天井部から体部回転施削り。 内面 天井部から体部輪健整形。	55.6cm
27	5-2T	須恵器 杯	口径 (13.2) 底径 (7.0) 器高 [4.5]	①1/3残 ②外-灰色、内-灰白色	外面 体部輪健整形、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形、口縁部横擴で。 平底の底部から体部直線的に外反。	5Q-38
28	5-2T	灰釉陶器 瓢	口径 - 底径 (7.0) 器高 [1.35]	①底部破片 ②灰白色	外面 底部回転施削。 内面 体部直線。 高台断面台形。	5Q-38
29	5-2T	須恵器 大甕	口径 (37.8) 底径 [2.5]	①口縁部～胴部破片 ②灰白色	外面 胴部平行切目、口縁部輪健整形後旋調整。 内面 脇部き目、口縁部輪健整形後旋調整、指頭彫れ？ 脇部大きく開き状、口縁部斜し口唇部二段口唇。	5Q-39
30	6-1T	須恵器 杯	口径 (12.5) 底径 (8.0) 器高 [3.1]	①1/2残 ②灰黄色	外面 体部輪健整形、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形、口縁部横擴で。 平底の底部から体部直線的に外反。	5P-28
31	6-2T	須恵器 瓢	口径 11.1 底径 5.8 器高 4.8	①壳形 ②灰白色	外面 体部輪健整形、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形、口縁部横擴で。 体部歪み強く、丸く済み、口縁部外傾。煤付着。	10.8cm
32	6-2T	須恵器 瓢	口径 (16.9) 底径 (9.0) 器高 [9.0]	①底部～胴部破片 ②灰白色	外面 脣頭彫りき目、底部回転糸切り。 内面 脣部輪健整形。	床面上
33	6-2T	羽釜	口径 (21.0) 底径 [8.0] 器高 [8.0]	①口縁部～胴部破片 ②にぶい赤褐色 ③酸化焰焼成	外面 脣頭回転施削、口縁部横擴で。 内面 脣頭彫刻部、口縁部横擴で、/優やかな膨らみを持つ胴部から 断面三角形の特徴を持て緩やかに内湾する口縁部に至る。口唇部平坦。	6.2cm
34	6-2T	須恵器 盖	口径 (14.0) 横み - 器高 [2.2]	①口縁部～体部破片 ②灰白色	外面 天井部から体部輪健整形後旋調整、口縁部横擴で。 内面 天井部から体部輪健整形、口縁部横擴で、/平な天井部から 緩やかに済みて口縁部に至り、まつみ出した短い返りが付く。	5O-68
35	6-2T	須恵器 杯	口径 (12.7) 底径 6.9 器高 4.5	①口縁部～一部欠損 ②外-灰白色、内-灰白色	外面 体部輪健整形、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形、口縁部横擴で。 平底から体部直線的に外反。	5O-68
36	6-2T	須恵器 杯	口径 (14.4) 底径 7.0 器高 [2.8]	①2/3残 ②灰白色	外面 体部輪健整形、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形、口縁部横擴で。 上げ底の底部から脇やかに内湾し、口縁部にかけて外反。	5O-67
37	6-2T	羽釜	口径 28.0 底径 - 器高 [5.6]	①口縁部～胴部破片 ②灰白色 ③酸化焰焼成	外面 脣頭回転施削、口縁部横擴で。 内面 脣頭回転施削、/やや上向きの崩れた台形の脚を経て、 内傾する口縁部に至る。口唇部平坦。	5O-66
38	6-2T	須恵器 杯	口径 (10.8) 底径 5.6 器高 [3.6]	①1/2残 ②淡黄色 ③酸化焰焼成	外面 体部輪健整形、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形、口縁部横擴で。 上げ底の底部から脇直線的に外反/口縁部外傾。	5O-70
39	6-2T	灰釉陶器 瓢	口径 (16.9) 底径 (9.0) 器高 [6.6]	①1/3残 ②灰白色	外面 体部輪健整形、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形、口縁部横擴で、/断面V字形の開いた 高台から丸みを持った緩やかに外反する体部に至る。口縁部外傾。	5O-70
40	6-2T	灰釉陶器 瓢	口径 (7.7) 底径 (7.7) 器高 [4.2]	①1/3残 ②灰白色	外面 体部輪健整形、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形、口縁部横擴で。 断面三日月状の高台から体部緩やかに済曲し外反。	5O-70
41	7-3T	須恵器 杯	口径 (11.3) 底径 6.1 器高 [4.5]	①2/3残 ②灰白色	外面 体部輪健整形、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形、口縁部横擴で、/平底気味の底部から 体部緩やかに外反し/口縁部一層張んで外傾。	7L-70
42	7-3T	須恵器 杯	口径 5.6 底径 [1.9]	①底部～体部破片 ②橙色 ③ 酸化焰焼成	外面 体部輪健整形、底部回転糸切り。 内面 底部から体部直線的に外反。	7L-70
43	7-3T	須恵器 杯	口径 - 底径 6.8 器高 [2.4]	①底部～体部破片 ②灰色	外面 体部輪健整形、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪健整形。 平底気味の底部から体部緩やかに済曲。	7L-69
44	8-2T	土器器 杯	口径 12.2 底径 6.3 器高 4.0	①口縁部～一部欠損 ②明赤褐色	外面 体部輪削り、指擦で、口縁部横擴で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪削り、口縁部横擴で。 平底の底部から体部丸く済曲。	7M-56
45	8-2T	灰釉陶器 瓢	口径 (7.0) 底径 [1.8]	①底部～体部破片 ②浅黄色	外面 体部輪健整形、底部回転施削。 内面 底部から体部輪健整形。 断面三日月状の高台に付す。	7M-36
46	8-3T	須恵器 盖	口径 - 横み 7.2 器高 [1.8]	①破片 ②灰白色	外面 脣頭輪健整形、天井部回転調整。 内面 天井部から体部輪健整形。 脣み部ボンクラ状で大きい。	7M-53

土器類 ( ):復元値、〔 〕:残存値

No	出土場所	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③始上、焼成の特徴	成・笠形技法の特徴	出土位置 出土レベル
47	8-3T	須恵器 高台付杯	口径 - 底径(12.0) 器高[3.4]	①底部～体部破片 ②灰白色	外面 体部輪郭整形後回転調整、底部回転調整。 内面 底部から体部輪郭整形。 削り出し高台。	-
48	8-3T	須恵器 杯	口径 - 底径 6.2 器高 [1.5]	①底部破片 ②灰白色	外面 体部輪郭整形、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪郭整形、 平底の底部から体部直線的に外反。	7M-43
49	8-3T	須恵器 碗	口径 - 底径(5.0) 器高 [2.8]	①底部～体部破片 ②灰白色	外面 体部輪郭整形、底部回転調整。 内面 底部から体部輪郭整形。 底部広く平坦、体部丸く凸曲し、高台削り出しか。	7M-43
50	9T SI1	土師器 杯	口径(17.2) 底径 - 器高 [4.5]	①口縁部～体部破片 ②橙色	外面 体部笠形、口縁部横擦で。 内面 体部笠形で、口縁部横擦で。 底部から体部縦やかに凸曲し、口縁部近くに内傾する。	6.7cm
51	9T SI1	土師器 杯	口径(17.0) 底径 - 器高 [2.8]	①口縁部～体部破片 ②橙色	外面 体部笠形、口縁部横擦で。 内面 体部笠形で、口縁部横擦で。 底部から体部浅くやかに凸曲し、口縁部近く直立する。	14.6cm
52	9T SI1	須恵器 甕	口径 - 底径 9.9 器高 [3.6]	①底部残～体部破片 ②灰白色	外面 体部輪郭整形、底部切り出し後回転調整。 内面 底部から体部輪郭整形、(延底)が大きく、下位に丸みを持つ 体部で、開いた高い高台を付す。	53.5cm
53	9T SI1	須恵器 甕	口径(14.0) 底径 - 器高 [18.7]	①1/2残 ②灰白色	外面 脊部輪郭形後余弦状カキ目で調整、口縁部二段口縁で横擦 内面 脊部輪郭形後余弦状カキ目で調整、口縁部横擦で。 肩部上位で最大径となり口縁部外反。	床面上 上
54	9T SI1	須恵器 甕	口径 - 底径(11.0) 器高 [9.9]	①底部～肩部破片 ②外-灰色、内-灰黄褐色	外面 軸輪條形、肩部下位平行叩き、中位回転横擦で、底部笠形調整。 内面 軸輪條形。 平底の底部から肩部が僅かな膨らみを持つ。	18.3cm
55	9T SI2	須恵器 甕	口径 13.0 底径 - 器高 [4.0]	①4/5残 ②灰黄色 ③小石が多く含む	外面 体部輪郭形、口縁部横擦で、底部回転糸切り。 内面 底部から体部輪郭形、口縁部横擦で。 丸みを持つ体部から外反する口縁部に至る。高台部欠損。	7.6cm
56	10-1T	磁器 甕	口径 - 底径 - 器高 -	①体部破片 ②明オリーブ灰色	外面 軸輪條形、青磁釉。 内面 軸輪條形、青磁釉。	100-6
57	10-2T SI1	土師器 杯	口径 12.6 底径 7.9 器高 3.6	①ほぼ完形 ②にぶい橙色	外面 底部から体部窓削り、口縁部横擦で。 内面 窓削りから体部輪郭形で、口縁部横擦で、/平底の底部からやや 膨らみを持て外反する体部へ至り、内底底部に一本の沈線跡。	11.9cm
58	10-2T SI1	須恵器 甕	口径 14.6 底径 7.8 器高 4.8	①光形 ②黄灰色 ③小石を多く 含む	外面 軸輪條形、口縁部横擦で、底部回転糸切り。 内面 軸輪條形、口縁部横擦で。 直線的な体部で断面台形の高台を神に付す。	19.0cm
59	10-2T SI1	須恵器 甕	口径 15.4 底径 7.25 器高 5.4	①口縁部一部欠損 ②にぶい橙色 ③暗紅燒成、小石を多く含む	外面 軸輪條形、口縁部横擦で、底部回転糸切り。 内面 軸輪條形、口縁部横擦で。 体部が丸みを持って、輪郭底が頗る。	11.6cm
60	10-2T SI1	須恵器 甕	口径 14.3 底径 7.1 器高 5.05	①4/5残 ②にぶい橙色	外面 軸輪條形、口縁部横擦で、底部回転糸切り。 内面 軸輪條形、口縁部横擦で。/体部が丸みを持って大きく外反し、 断面台形の低い高台が付く。	16.8cm
61	10-2T SI1	須恵器 甕	口径 14.0 底径 6.8 器高 5.5	①口縁部一部欠損 ②にぶい黄褐色	外面 軸輪條形、口縁部横擦で、底部回転糸切り後笠形調整。 内面 軸輪條形、口縁部横擦で。 体部が直角的に輪郭底が頗る、断面台形の低い高台を付す。	11.6cm
62	10-2T SI1	須恵器 甕	口径 14.7 底径 6.9 器高 5.3	①5/6残 ②にぶい赤褐色	外面 軸輪條形、口縁部横擦で、底部回転糸切り。 内面 軸輪條形、口縁部横擦で。/体部が丸みを持って輪郭底が頗る、 断面台形の低い高台を付す。	床面上 上
63	10-2T SI1	須恵器 甕	口径 14.1 底径 6.5 器高 5.2	①5/6残 ②灰黄褐色	外面 軸輪條形、口縁部横擦で、底部回転糸切り後笠形調整。 内面 軸輪條形、口縁部横擦で。/体部が丸みを持って輪郭底が頗る、 断面台形の低い高台を付す。	2.3cm
64	10-2T SI1	須恵器 甕	口径(14.3) 底径 7.0 器高 4.9	①1/2残 ②にぶい黄褐色	外面 軸輪條形、口縁部横擦で、底部回転糸切り。 内面 軸輪條形、口縁部横擦で。 体部が丸みを持って外反し、断面台形の高台を付す。	床面上 上
65	10-2T SI1	須恵器 甕	口径 16.55 底径 7.5 器高 7.2	①2/3残 ②灰黄褐色	外面 轮郭條形、口縁部横擦で、底部回転糸切り。 内面 轮郭條形、口縁部横擦で。/僅かな膨らみを持つ深い体部で、 断面が台形の低い高台を付し、体部に輪郭底が頗る。	19.4cm
66	10-2T SI1	土師器 甕	口径(19.9) 底径 - 器高 [8.8]	①口縁部～肩部上位破片 ②にぶい橙色	外面 肩部窓削り、口縁部横擦で。 内面 肩部窓削り、口縁部横擦で。 球状の肩部から口縁部が頗る外反する。	4.2cm
67	10-2T SI1	土師器 甕	口径(17.0) 底径 - 器高 [5.5]	①口縁部～肩部上位破片 ②にぶい橙色	外面 肩部窓削り、口縁部横擦で。 内面 肩部窓削り、口縁部横擦で。/丸みを持つ肩部上位から直立 して上位が頗る外反する「コ」の字状の口縁部に至る。	11.9cm
68	10-2T	須恵器 甕	口径(12.0) 底径 - 器高 [3.4]	①底部～肩部破片 ②泥灰白色	外面 機械型形、併行叩き、龍尾で、底部笠形調整。 内面 轮郭條形。	-
69	10-2T SI2	土師器 杯	口径(12.0) 底径 - 器高 [3.4]	①1/2残 ②橙色	外面 底部から体部窓削り、口縁部横擦で。 内面 底部から体部窓削り、口縁部横擦で。 底部から体部が凸曲して口縁部が頗る内傾する。	23.0cm

## 土器類

( ):復元値、〔 〕:残存値

No	出土場所	器種	法量(cm)	①残存 ②色調 ③始上、焼成の特徴	成・整形技術の特徴	出土位置 出土レベル
70	10-2T SI2	土師器 杯	口径(13.25) 底径 - 器高 [4.1]	①1/2段 ②橙色	外面 底部窓削り、口縁部横擴で。 内部 体部から口縁部横擴で。 丸底から複数の体部を持ち、口縁部直立する。	23.8cm
71	10-2T SI2	土師器 杯	口径(18.0) 底径 - 器高 [4.0]	①1/5段 ②にぶい橙色	外面 底部から体部窓削り、口縁部横擴で。 内部 底部から体部窓削り、口縁部横擴で。 底部から体部が内凹して短く直立する口縁部に至る。	15.2cm
72	10-2T SI2	土師器 杯	口径(17.0) 底径 - 器高 [2.9]	①1/6段 ②橙色	外面 体部窓削り、口縁部横擴で。 内部 体部窓削り、口縁部横擴で。 体部と口縁部を区画する棱線を持つ、口縁部外流する。	-
73	10-2T SI2	須恵器 蓋	口径(18.2) 底径 (4.0) 器高 3.4	①4/5段 ②外-灰色、内-灰白色	外面 緩傾斜形、天井部窓削で、口縁部横擴で。 内部 緩傾斜形、水平な天井部から緩やかに内凹して口縁部寄りに強かななりが付く。	19.8cm
74	10-2T SI2	須恵器 蓋	口径(16.0) 底径 - 器高 [3.0]	①1/4段 ②灰色	外面 缓傾斜形、天井部窓削で、口縁部横擴で。 内部 缓傾斜形、天井部から緩やかに内凹して口縁部に至り、つまみ出した短い反りが付く。	24.6cm
75	10-2T SI2	土師器 甕	口径(22.0) 底径 - 器高 [25.3]	①口縁部～胴部破片 ②橙色	外面 胴部窓削り、口縁部横擴で。 内部 胴部窓削り、口縁部横擴で。 胴部中に捻らみを持ち、口縁部強く屈曲する。	床面上直上
76	10-2T グリッド	須恵器 蓋	口径(17.6) 横幅 [2.1]	①口縁部～体部破片 ②褐灰色	外面 缓傾斜形、天井部窓削で、口縁部横擴で。 内部 缓傾斜形、浅い直線的な体部から口縁部に至り、つまみ出した短い反りが付く。	10N-19
77	10-1T	軟質陶器 鉢	口径 36.0 底径 - 器高 [7.8]	①口縁部～胴部破片 ②にぶい橙色	外面 胴部窓削り、口縁部横擴で。 内部 胴部窓削り、口縁部横擴で。 胴部直線的に外反、口唇部平坦、内側に丸み。	10O-29
78	10-6T	須恵器 甕	口径 - 底径 (8.0) 器高 [2.1]	①底部1/2段 ②灰白色	外面 底部回転条切り。 内部 底部軸縮形。 細く高い高台を付す。	11O-1
79	11-2T	かわらけ	口径 (7.7) 底径 5.4 器高 2.1	①2/3段 ②灰白色 ③酸化焰焼成	外面 体部軸縮形、口縁部横擴で、底部回転条切り後鋸調整。 内部 底部から体部軸縮形、口縁部横擴で。 底盤深く、緩やかに外反、口縫部外傾。	9N-21 B泥土中
80	11-2T	須恵器 甕	口径(14.6) 底径 - 器高 [6.0]	①口縁部～体部破片 ②灰白色	外面 体部軸縮形、口縁部横擴で。 内部 底部から体部軸縮形、口縁部横擴で。 体部深く、緩やかに外反、口縫部外傾。	8N-20
81	11-2T	須恵器 蓋	口径 - 底径 10.4 器高 [4.3]	①底部～胴部破片 ②灰白色	外面 胴部窓削り、底部回転条切り。 内部 底部から胴部軸縮形。 底部から胴部厚みがあり、胴部直線的に外反。	8N-20
82	12T SI1	羽盆	口径(16.0) 底径 - 器高 7.5	①口縁部～胴部破片 ②にぶい橙色	外面 体部窓削り、口縁部横擴で、齊三角形。 内部 胴部窓削り形、口縁部横擴で。直線的な胴部から、やや上向きの断面三三角形の持続で、内傾する口縁部に至る。口唇部平坦。	SI1
83	13-3T	土師器 杯	口径 10.0 底径 - 器高 [2.9]	①口縁部～体部破片 ②橙色	外面 体部窓削り、口縁部横擴で。 内部 体部窓削りで、口縁部横擴で。 内傾する体部から外傾気味の口縁部に至る。	8N-63
84	13-3T	須恵器 杯	口径 11.2 底径 5.7 器高 3.1	①5/6段 ②にぶい黄褐色 ③酸化焰焼成	外面 体部軸縮形後窓調整、口縁部横擴で。 内部 底部から体部軸縮形、口縁部横擴で。平底。突き出した底部から体部内窓し、丸みを帯びながら外傾。	8N-33
85	13-3T	須恵器 杯	口径(11.3) 底径 5.4 器高 [3.35]	①1/2段 ②にぶい黄褐色 ③酸化焰焼成	外面 体部軸縮形後窓調整、口縁部横擴で。 内部 底部から体部軸縮形、口縁部横擴で。平底。突き出した底部から体部内窓し、丸みを帯びた口縁部外傾。	8N-33
86	13-3T	須恵器 杯	口径 - 底径 5.4 器高 [2.1]	①1/2段 ②にぶい黄褐色	外面 体部軸縮形後窓調整、底部回転条切り。 内部 底部から体部軸縮形、口縁部横擴で。平底。突出気味の底盤から体部窓削り。	8N-33
87	13-3T	須恵器 杯	口径(12.8) 底径 6.0 器高 [4.15]	①1/2段 ②灰白色	外面 体部軸縮形、口縁部横擴で、底部回転条切り。 内部 底部から体部軸縮形、口縁部横擴で。平底の底部から体部直線的に外反、底部突出、削り出し高台。	8N-53
88	13-3T	須恵器 蓋	口径(13.7) 底径 (7.0) 器高 [4.15]	①底部～体部破片 ②灰白色	外面 体部軸縮形、口縁部横擴で、底部回転条切り。 内部 底部から体部軸縮形、口縁部横擴で。平底の底部から体部直線的に外反、底部突出、削り出し高台。	8N-55
89	13-3T	須恵器 甕	口径 - 底径 6.1 器高 [2.0]	①底部破片 ②淡黄色	外面 体部軸縮形、底部回転条切り。 内部 底部から体部軸縮形、開いた細い高台を付す。	8N-53

## 円窓

90	8-3T	須恵器 円窓	口径 - 底径(16.0) 器高 [2.7]	①胴部破片 ②灰白色	外面 脚部軸縮形。 内部 脚部軸縮形後窓調整。 透かしの數未確定、線刻数不明。	-
----	------	-----------	------------------------------	------------	---	---

## 土製品

( ):復元値、〔 〕:残存値

No	出土場所	素材	器種 種類	寸法(cm)、重量、特徴	出土位置 出土レベル
91	6-2T	土製品	纺錘車?	最大幅(3.6) 最小幅(2.1) 孔径 0.6 厚 0.75 重 5.27g	5O-67
92	6-2T	土製品	羽口	最大幅(10.0) 最小幅 8.8 厚 2.8 重 485.10g	5O-67

## 鉄製品

93	3T (679)	鉄製品	釘	長 17.8 幅 2.2 厚 0.85 重 72.00g	8P-23
94	4T	鉄製品	釘	長 13.2 幅 1.2 厚 0.4 重 15.25g	8P-60
95	5-1T	鉄製品	鉄鍼	長 16.2 幅 2.0 厚 0.3 重 22.10g	6Q-62
96	5-2T	鉄製品	釘	長(4.6) 幅(1.0) 厚 0.5 重 3.75g	5Q-39
97	8-3T	鉄製品	釘	長 22.0 幅 1.5 厚 0.75 重 100.21g	7M-64
98	3T (735)	鉄製品	釘	長(6.3) 幅(1.5) 厚 0.4 重 6.36g	7P-19
99	11-1ET	鉄製品	釘	長(6.8) 幅(1.6) 厚 0.8 重 32.58g	8N-90
100	15T	鉄製品	釘	長 18.0 幅 6.2 厚 1.2 重 204.0g	7N-44

## 銭貨

101	10-1T	銅製品	銭貨	外輪径 2.35×2.35 内輪径 1.9×1.85 邪径 0.7 厚 0.1 重 2.48g 治平元寶	10O-7
-----	-------	-----	----	--	-------

## 石製品

102	5-1T	石製品	石製模造品	最大幅 2.9 最小幅 1.15 厚 0.3 重 3.0g 滑石製	5Q-62
103	10-1T	石製品	環状加工品	最大幅 12.3 最小幅 11.0 厚 6.1 重 668g	10N-97
104	13-2T	石製品	凝灰岩 切石	最大幅(25.3) 最小幅(15.2) 厚 11.9 基壇外装の一部か	7N-69 擾乱内
105	13-2T	石製品	凝灰岩 切石	最大幅(18.1) 最小幅(17.9) 厚 12.1 基壇外装の一部か	7N-69 擾乱内
106	13-2T	石製品	凝灰岩 劈石	最大幅(16.1) 最小幅(12.8) 厚(10.5) 重 1407g 基壇外装の一部か	7N-69 擾乱内

## 巻頭カラー写真図版

1	3T (679)	石製品	碁石	最大幅 1.5 最小幅 1.3 最大厚 0.65 重 1.71g 5Y8/1灰白色	8P-25
2	3T (679)	石製品	碁石	最大幅 1.2 最小幅 1.05 最大厚 0.55 重 1.02g 10YR1.7/1黒色	8P-53
3	4T (679)	石製品	碁石	最大幅 1.7 最小幅 1.55 最大厚 0.35 重 1.63g N3/0暗灰色	8P-29
4	11-1ET	被熱粘土 塊	壁材	最大幅 10.1 最小幅 5.8 最大厚(4.5) 重 121g	8N-100
5	13-1T	被熱粘土 塊	壁材	最大幅 9.9 最小幅 5.87.9 最大厚(4.6) 重 135g	8O-24